

2024年度
学修ガイド

薬学部

Faculty
of
Pharmaceutical Sciences

P



福岡大学

2024年度新入生(24台)の皆さんへ

この学修ガイドは、卒業まで
使用します。大切に保管してください。

※学修ガイドの内容は、FU ポータルでも閲覧できます。

この学修ガイドには、履修登録、授業、試験など、学修をすすめるうえでの重要事項や情報を掲載しています。よく読み、理解するようにしてください。

なお、掲載内容に変更が発生した場合は、FU ポータル等でお知らせします。

<注意>

入学後の各種ガイダンスでこの学修ガイドを使用しますので、必ず持参して参加してください。

2024年度
学修ガイド

薬学部

Faculty
of
Pharmaceutical Sciences

P



福岡大学

目次

I 学部教育の理念と目標

003 | 学部教育の理念と目標

II 学年ごよみ・事務窓口

007 | 2024年度学年ごよみ
009 | 2024年度年間カレンダー
011 | 事務窓口案内
 ◎教務関係事務部署について
 ◎各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口
 ◎窓口事務時間
 ◎事務休業日

III 授業・試験

015 | 大学からの連絡
017 | 単位と授業時間
018 | 休講および補講
018 | 振替授業日および休日授業日
019 | 出席の確認
019 | 欠席届
020 | 教室の表示等
020 | テキスト（教科書）の購入
021 | 試験
024 | 成績・進級
026 | 在学の年限
026 | 卒業
026 | 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
027 | 前期・後期 試験時間割

IV 履修の手引

033 | 諸規程と履修登録
034 | シラバス
035 | FU プラスアップ授業
036 | 履修登録上の注意事項
044 | 履修登録等の日程
046 | 全学部共通留意事項
073 | 各学部留意事項
082 | クリニカルファーマシスト養成プログラム
085 | 薬学部実習時間割
086 | 薬学部教員教室一覧表
087 | 履修登録ガイダンス
088 | Web 履修登録スケジュール（新入生）
089 | 履修登録流れ図（新入生）
090 | Web 履修登録スケジュール（在学生）
091 | 履修登録流れ図（在学生）
093 | 外国語科目クラス別担当者一覧

V その他

- 105 大学院受験（飛び級制度）
 - 105 特待生制度
 - 106 国際交流・海外留学支援
-

VI 諸規程

- 113 福岡大学学則〔新入生（令和6年度入学生）適用〕
 - 133 授業科目及び単位・時間数（学則第31条（表））〔新入生（令和6年度入学生）適用〕
 - 134 福岡大学学科履修規程
 - 年次別授業科目表（学科履修規程 第4条別表）
 - 206 福岡大学成績考査規程
 - 209 その他諸規程
-

VII 薬学部参考資料

- 227 六年制で学ぶこと（カリキュラム・マップ／カリキュラム・ツリー）
 - 247 薬剤師国家試験出題基準
 - 269 モデル・コア・カリキュラム対応表
-

VIII オフィス・アワー

- 389 オフィス・アワー
-

IX 学籍について

- 421 学籍について
 - ◎学籍とは
 - ◎休学
 - ◎復学
 - ◎退学
 - ◎除籍
 - ◎再入学
 - ◎転部・転科
 - ◎氏名・性別・国籍等の学籍情報変更
 - ◎住所変更・保証人変更
-

I

学部教育の理念と目標

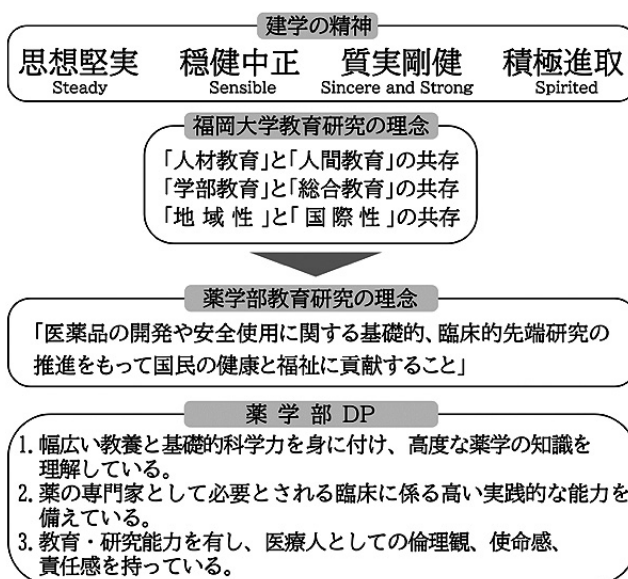
- 学部教育の理念と目標

学部教育の理念と目標

薬学部教育研究の理念と目的

薬学部長 ● 松 末 公 彦

近年の社会状況の変化、全人的医療への転換など21世紀の新しい医療のあり方を背景に、薬学部は平成18年度より4年制学部に加え、6年制学部が導入されました。これを機に、福岡大学薬学部は6年制薬学科に一本化し、本学の「建学の精神と三つの共存（教育研究の理念）」のもと、「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念としました。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究上の目的としています。この目的を達成するための本学部のディプロマポリシー(DP 学位授与の方針)は、3項目(右図薬学部 DP 参照)からなり、これらの能力を修得した者に学士(薬学)の学位を授与しています。



令和4年度、全国6年制薬学部に通な教育指針である薬学教育モデル・コア・カリキュラムが改定され、本学部ではこの新たな指針に準拠するため大幅な教育カリキュラムの改正を実施しました。この新しいカリキュラムでは、全科目を基礎薬学・医療薬学・衛生薬学・臨床薬学・薬学研究に分類し、実践的な薬物療法や感染制御を学ぶための臨床系演習科目、医療倫理やコミュニケーション能力の強化のためのアクティブラーニング科目を増やし、急速なAI・デジタル化が進む医療業界に適応するためのICT関連科目を新設しました。更に、新たにながん薬物療法に特化した「がん薬物治療学コース」を設置しました。このコースは薬剤師国家試験の受験に必要な科目に加えて、付加的にながん薬物療法に必要な知識・技能を、講義・演習・実習形式で体系的に学ぶことができます。また低学年のリメディアル教育にも力を入れており、薬学教育支援センターの専任教員によるリメディアル授業や専門科目の確認試験に基づく補講授業などを実施します。更に、薬学共用試験や薬剤師国家試験の対策のための模擬試験や対策講義などを実施し、高い合格率の維持に努めます。学業のみならず、4年次からは研究室配属を行い、基礎及び臨床研究に直接携わることで、専門的かつ高度な知識と技能を修得しながら問題解決能力を涵養します。あわせて、研究室では他の学生や指導教員とのコミュニケーションを通じて、高い人間性と倫理観を身につけます。

福岡大学は、薬学部と同じキャンパス内に医学部及び大学病院を有しており、互いに連携し、実務実習など総合医療(チーム医療)教育の実践の場として優れた教育環境を有しています。加えて、多様な理系・文系学部が共存しており、全人教育、教養教育の場としてもふさわしい環境を備えています。

薬学部は、今後とも、医療人としての確固たる倫理観と研究マインドをもって、国民の健康と福祉に貢献する薬剤師ならびに教育・研究者を育成していきます。

II

学年ごよみ・事務窓口

- 2024年度 学年ごよみ
- 2024年度 年間カレンダー
- 事務窓口案内

2024年度 学年ごよみ

前 期		後 期	
期 日	事 項	期 日	事 項
6. 3. 21 (木)	在学生履修登録開始	6. 9. 2 (月)	後期集中講義開始
3. 29 (金)	在学生履修登録終了	9. 4 (水)	後期履修登録変更開始 (12時)
		9. 6 (金)	後期履修登録変更終了 (16時)
		〃	後期集中講義終了
4. 1 (月)	学年開始・前期開始	9. 9 (月)	FU プラスアップ視聴開始
〃	入学式	9. 13 (金)	FU プラスアップ視聴終了
4. 2 (火)	新入生ガイダンス	9. 14 (土)	後期開始
	FU プラスアップ視聴開始	9. 16 (月)	後期授業開始
4. 3 (水)	新入生履修登録開始	〃	「敬老の日」(授業日)
4. 5 (金)	新入生履修登録終了	11. 5 (火)	学園祭に伴う休講日
4. 10 (水)	FU プラスアップ視聴終了	12. 26 (木)	月曜日の振替授業日
4. 11 (木)	前期授業開始	12. 27 (金)	冬季休業開始
4. 29 (月)	「昭和の日」(授業日)		
5. 21 (火)	創立記念日	7. 1. 4 (土)	冬季休業終了
7. 18 (木)	月曜日の振替授業日	1. 6 (月)	後期授業再開
7. 23 (火)	前期授業終了 (全体補講日)	1. 14 (火)	後期授業終了 (全体補講日)
7. 24 (水)	前期試験開始	1. 15 (水)	後期試験開始
8. 2 (金)	前期試験終了 (予備日含む)	1. 28 (火)	後期試験終了 (予備日含む)
8. 4 (日)	夏季休業開始	2. 13 (木)	4年次生等成績発表開始
8. 5 (月)	前期集中講義開始	〃	医学部医学科第1学年成績発表予定
8. 9 (金)	前期集中講義終了	2. 21 (金)	追・再試験開始
8. 28 (水)	前期追試験開始	2. 28 (金)	追・再試験終了
9. 1 (日)	前期追試験終了 (予備日含む)	3. 14 (金)	1～3年次生成績発表開始
9. 2 (月)	前期成績発表開始	3. 19 (水)	卒業式
9. 4 (水)	前期成績 (追試含む) 発表開始	3. 21 (金)	在学生履修登録開始
9. 13 (金)	夏季休業終了	3. 28 (金)	在学生履修登録終了
9. 28 (土)	前期卒業式	3. 31 (月)	学年終了

【試 験】 前期試験期間中の土曜日は、試験を実施する。

【補 講 日】

	指定する土曜日 (1～5時限)	指定する(補講可能な)週 (6時限のみ) ※1	前・後期試験前の 指定する日 ※2	その他指定する日 (1～5時限)
前期	5月25日(土) 6月22日(土) 7月13日(土)	5月20日(月)～24日(金) 6月17日(月)～21日(金) 7月8日(月)～12日(金)	7月23日(火)	
後期	11月9日(土) 12月21日(土)	10月21日(月)～25日(金) 11月11日(月)～15日(金) 12月16日(月)～20日(金)	1月10日(金) 1月14日(火)	12月25日(水) 1月7日(火) 1月8日(水) 1月9日(木)

※1 商学部第二部は、指定する週の6時限目の補講は実施しない。

※2 昼間部は1～5時限、商学部第二部は夜1,2時限に補講を実施する。

【振替授業日】 振替前と同じ時限・教室で実施

前期	月曜日の振替授業日 7月18日(木)
後期	月曜日の振替授業日 12月26日(木)

【休日授業日】 通常の曜日の授業を実施

前期	4月29日(月)「昭和の日」
後期	9月16日(月)「敬老の日」

※医学部医学科(第2学年以上)については、学年暦が異なる場合がある。

2024年度 年間カレンダー

日	曜	4月	日	曜	5月	日	曜	6月	日	曜	7月	日	曜	8月	日	曜	9月	日	曜	10月	日	曜	11月	日	曜	12月	日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月
1	月	学年開始・前期開始 入学式	1	水	③	1	土		1	月	⑪	1	木	定期試験	1	日	①	1	火	③	1	金	⑦	1	日	1	水	元日	1	土		1	土		
2	火	新入生 ガイダンス	2	木	④	2	日		2	火	⑫	2	金		2	月	後期集中講義開始 前期成績発表開始 (追試験分9/4~)	2	水	③	2	土		2	月	⑨	2	木		2	日	2	日		
3	水	新入生 履修登録開始	3	金	憲法記念日	3	月	⑦	3	水	⑫	3	土		3	火		3	木	③	3	日	文化の日	3	火	⑪	3	金		3	月	3	月		
4	木		4	土	みどりの日	4	火	⑧	4	木	⑬	4	日	夏季休業開始	4	水	後期履修登録変更開始 (12時~)	4	金	③	4	月	振替休日	4	水	⑫	4	土	冬季休業終了	4	火	4	火		
5	金	新入生 履修登録終了	5	日	こどもの日	5	水	⑧	5	金	⑫	5	月	前期集中講義開始	5	木		5	土		5	火	学園祭に伴う 休講日	5	木	⑫	5	日	5	水	5	水			
6	土		6	月	振替休日	6	木	⑨	6	土		6	火		6	金	後期集中講義終了 後期履修登録変更終了 (~16時)	6	日		6	水	⑧	6	金	⑫	6	月	⑭	6	木	6	木		
7	日		7	火	④	7	金	⑧	7	日		7	水		7	土		7	月	③	7	木	⑧	7	土		7	火	全体補講日 (1~5限)	7	金	7	金		
8	月		8	水	④	8	土		8	月	⑫	8	木		8	日		8	火	④	8	金	⑧	8	日		8	水	全体補講日 (1~5限)	8	土	8	土		
9	火		9	木	⑤	9	日		9	火	⑬	9	金	前期集中講義終了	9	月		9	水	④	9	土	全体補講日 (1~5限)	9	月	⑩	9	木	全体補講日 (1~5限)	9	日	9	日		
10	水	教室割公開	10	金	④	10	月	⑧	10	水	⑬	10	土		10	火		10	木	④	10	日		10	火	⑫	10	金	全体補講日	10	月	10	月		
11	木	前期授業開始	11	土		11	火	⑨	11	木	⑭	11	水	山の日	11	金		11	土	④	11	月	⑥	11	水	⑬	11	土		11	火	建国記念の日	11	火	
12	金	①	12	日		12	水	⑨	12	金	⑬	12	月	振替休日	12	木		12	土		12	日		12	火	⑧	12	日		12	水	12	水		
13	土		13	月	④	13	木	⑩	13	土	全体補講日 (1~5限)	13	火		13	金	夏季休業終了 教室割公開	13	日		13	水	⑨	13	月	⑬	13	木	成人の日	13	木	成績発表開始 (4年次生他)	13	木	
14	日		14	火	⑤	14	金	⑨	14	日		14	水		14	土	後期開始	14	月	スポーツの日	14	木	⑨	14	土		14	火	全体補講日	14	金		14	金	成績発表開始 (在学生)
15	月	①	15	水	⑤	15	土		15	月	「海の日」	15	木		15	日		15	火	⑤	15	金	⑨	15	日		15	水		15	土		15	土	
16	火	①	16	木	⑥	16	日		16	火	⑭	16	金		16	月	①	16	水	⑤	16	土		16	月	⑪	16	木		16	日	16	日		
17	水	①	17	金	⑤	17	月	⑨	17	水	⑭	17	土		17	火	①	17	木	⑤	17	日		17	火	⑬	17	金		17	月	17	月		
18	木	②	18	土		18	火	⑩	18	木	月曜日の振替授業日 (月⑬)	18	日		18	水	①	18	金	⑤	18	月	⑦	18	水	⑭	18	土		18	火	18	火		
19	金	②	19	日		19	水	⑩	19	金	⑭	19	月		19	木	①	19	土		19	日		19	火	⑨	19	木	⑭	19	水	19	水	卒業式	
20	土		20	月	⑤	20	木	⑪	20	土		20	火		20	金	①	20	日		20	水	⑩	20	金	⑭	20	月		20	木	20	木	春分の日	
21	日		21	火	⑥	21	金	⑩	21	日		21	水		21	土		21	月	④	21	土	⑩	21	土	全体補講日 (1~5限)	21	火		21	金		21	金	在学生 履修登録開始
22	月	②	22	水	⑥	22	土	全体補講日 (1~5限)	22	月	⑭	22	木		22	日	秋分の日	22	火	⑥	22	金	⑩	22	日		22	水		22	土	22	土		
23	火	②	23	木	⑦	23	日		23	火	全体補講日 前期授業終了	23	金		23	月	振替休日	23	水	⑥	23	土	勤労感謝の日	23	月	⑫	23	木		23	日	天皇誕生日	23	日	
24	水	②	24	金	⑥	24	月	⑩	24	水		24	土		24	火	②	24	木	⑥	24	日		24	火	⑭	24	金		24	月	振替休日	24	月	
25	木	③	25	土	全体補講日 (1~5限)	25	火	⑪	25	木		25	日		25	水	②	25	金	⑥	25	月	⑧	25	水	全体補講日 (1~5限)	25	土		25	火		25	火	
26	金	③	26	日		26	水	⑪	26	金		26	月		26	木	②	26	土		26	日		26	木	月曜日の振替授業日 (月⑬)	26	日		26	水		26	水	
27	土		27	月	⑥	27	木	⑫	27	土		27	火		27	金	②	27	日		27	月	⑪	27	金	冬季休業開始	27	月		27	木		27	木	
28	日		28	火	⑦	28	金	⑪	28	日		28	水		28	土	前期卒業式	28	月	⑤	28	日		28	土		28	火		28	金		28	金	在学生 履修登録終了
29	月	③	29	水	⑦	29	土		29	月		29	木		29	日		29	火	⑦	29	金	⑪	29	日		29	水		29	土		29	土	
30	火	③	30	木	⑧	30	日		30	火		30	金		30	月	②	30	水	⑦	30	土		30	日		30	月		30	木		30	日	
			31	金	⑦				31	水		31	土		31	木	⑦				31	火						31	金				31	月	学年終了

(注1) ①~⑨は講義回数
 (注2) この期間は新入生が履修登録から第1週目の授業までに視聴する期間を示しています(2年生以上は3月のシラバス公開時から視聴可能)。FU プラスアップ授業は、履修登録時の科目選びの参考、登録科目の初回授業部分の視聴のほか、年間を通した予習・復習での利用など、様々な活用が可能です。詳細はp.35をご覧ください。

事務窓口案内

1 教務関係事務部署について

所属する学部学科	事務部署	業務内容
	教務一課	休学、退学、転部・転科、再入学、科目等履修生、研究生に関すること
人文学部 法学部 経済学部 商学部	教務二課	履修登録、授業、試験、成績、授業の欠席などの学部事務に関すること
商学部第二部	商学部第二部事務課	
理学部 工学部 薬学部 スポーツ科学部	教務三課	
医学部医学科	医学部事務課	
医学部看護学科	医学部看護学科事務室	

2 各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口

	こんな時は	事務窓口
各種証明書等の発行	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書等が必要なとき	教務二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	学生証を紛失・破損したとき	学 生 課
	通学定期券を購入したいとき	
	学割を利用して帰省や旅行をしたいとき	
	健康診断証明書が必要なとき	保健センター事務室
諸届・諸願	学費の納入などについて	会 計 課
	氏名などが変わったとき (p. 424参照)	教 務 一 課
	休学、復学、退学、再入学をしたいとき (p. 421～424参照)	教務一・二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	1週間以上欠席するとき (p. 19参照)	教務二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	再試験を受験したいとき (p. 23参照)	
追試験を受験したいとき (p. 22参照)	学 生 課	

※商学部第二部関係の事務は商学部第二部事務課（2号館）で対応します。

※各種証明書は、次ページの場所に設置した証明書自動発行機より出力できます。

II. 学年ごよみ・事務窓口

設置場所		稼働時間
文系センター棟	1階 高層棟ロビー「プラザ50」	8:50~22:00
学生部事務室棟	1階 学生課ロビー	下記窓口事務時間参照
2号館	1階 エントランス	
9号館	1階	
11号館	1階 ロビー	
医学部研究棟本館	1階 医学部事務課内	
16号館	1階 ロビー	
第二記念会堂	3階	

※証明書自動発行機は、各種証明書等発行申込書および証紙の発行も取り扱います。

※下記の事務休業日は、証明書自動発行機の利用はできません。

3 窓口事務時間

平日 8:50~16:50

(商学部第二部事務課は13:20~21:20)

※休暇期間中は一部時間を変更することがあります。

4 事務休業日

- ・土曜日（定期試験実施日等を除く）
- ・日曜日
- ・国民の祝日に関する法律に規定する日（休日授業日等を除く）
- ・盆休業 8月13日（火）~21日（水）
- ・年末年始休業 12月28日（土）~1月4日（土）

※日程は変更になることがありますので、FUポータル等で確認をしてください。

III

授業・試験

- 大学からの連絡
- 単位と授業時間
- 休講および補講
- 振替授業日および休日授業日
- 出席の確認
- 欠 席 届
- 教室の表示等
- テキスト(教科書)の購入
- 試 験
- 成績・進級
- 在学の年限
- 卒 業
- 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
- 前期・後期 試験時間割

大学からの連絡

大学からの連絡事項は、「FU ポータル」「大学が付与するメールアドレス」「掲示板」を通じてお知らせします。

これらの告示、通知、呼び出し等を見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。
常に最新の情報を確認する習慣を身につけ、責任を持って行動してください。

(1) FU ポータル

FU ポータルとは、Web 上で提供される福岡大学の様々なサービスの入口となるページです。学生一人ひとりが持つ自分専用のポータルページで、必要な情報やシステムにアクセスすることができます。

◆FU ポータル画面



(例)
 学生の皆さん
 成績発表に関するスケジュールを
 公開します。
 不明な点は窓口にお尋ねください。



○ FU ポータル

◆FU ポータルで確認できること

内 容	参照メニュー
最新のお知らせを見たい	お知らせ
シラバスを閲覧したい	授業関連 ➤ WEB シラバス
履修登録をしたい	授業関連 ➤ Web 履修登録 ➤ 履修申請
教室を確認したい	授業関連 ➤ Web 履修登録 ➤ 時間割表(教室割)照会
休講・補講情報を見たい	授業関連 ➤ 休講・補講
成績を見たい	授業関連 ➤ 教務 ➤ 成績発表
履修科目の担当教員からの連絡を見たい	授業関連 ➤ 授業支援 ➤ 授業管理 (学生)
FU_box を使いたい	共 通 ➤ 福岡大学公認クラウドストレージサービス
メールを確認したい	共 通 ➤ Web メール

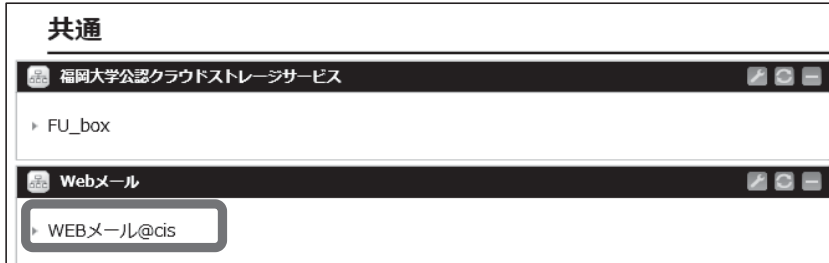
※主な機能を示しています。これら以外にも各種機能があります。

(2) 大学が付与するメールアドレス (@cis メール)

入学の際、学生の皆さんへ次のようなメールアドレスを付与します。大学からの様々な連絡が届きますので、毎日確認してください。

学籍番号@cis.fukuoka-u.ac.jp (例: ee123456@cis.fukuoka-u.ac.jp)

◆FU ポータル画面



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンにインストールし、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインせずに確認することができます。



○教育用メール (@cis)

(3) 掲示板

大学から学生へお知らせするにあたり、紙による掲示を併用する場合があります。掲示板は、全学部共通の中央掲示板 (A棟前) のほか、理系の各学部を設置しています。

FU ポータルとメールは必ず 1 日 1 回確認すること！

●無線 LAN (Wi-Fi) の利用



学内各所に無線 LAN (Wi-Fi) を設置しています。
ノート PC・タブレット端末・スマートフォンなどを接続して
検索や学習に活用しましょう。



○Wi-Fi 接続について

●授業、試験、成績等の問い合わせ先

対象窓口	メールアドレス	対象窓口	メールアドレス
教務二課(人文学部)	jinbun@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課	ijimu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(法学部)	hogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課看護学科事務室	nurse@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(経済学部)	keizai@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課(薬学部)	yaku@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(商学部)	sho@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課(スポーツ科学部)	sport@adm.fukuoka-u.ac.jp
商学部第二部事務課	sho2@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(教務担当)	kyomu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課(理学部)	rigaku2@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(共通教育担当)	kyotu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課(工学部)	kogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(教職担当)	kyosyoku@adm.fukuoka-u.ac.jp

単位と授業時間

1 単位制

〔単位制〕

単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、その授業科目を履修して、合格の評価を得ることによって、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

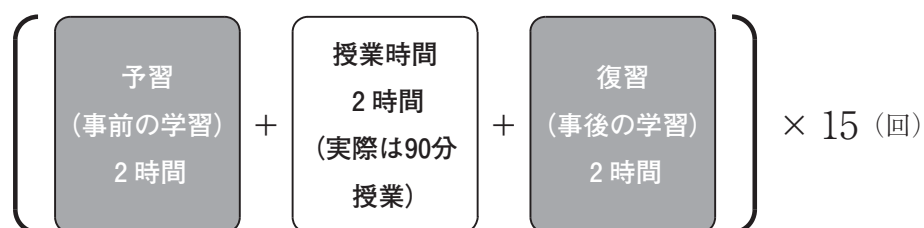
〔単位について〕

単位とは、授業科目を修得するために必要な学修の量を数値で表すものであり、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。この45時間には、教室で行う授業時間だけではなく、予習復習等の自主学習も含まれます。

〈例〉

半期2単位の講義科目の場合

(1単位45時間のため、単位修得には90時間が必要)



※実際の授業時間は90分間です。単位計算上は1つの授業90分を2時間として計算します。

※半期2単位の講義科目の場合、本学では毎週1回の90分授業を15回実施し、それに自主学習として行う各2時間相当の予習・復習の時間を加えて単位を認めています。授業を受講するだけでなく、自主学習として、予習・復習等を行うことが重要となるため、必ず各授業科目のシラバスを確認してください。

2 授業形態

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行われます。

また、各学部が教育上有益と認めるときは、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修することのできる授業が実施される場合があります。(学則第32条の2および第32条の2第2項参照)

3 授業時間

●全学部（商学部第二部を除く）

1 時 限	9 : 00	～	10 : 30
2 時 限	10 : 40	～	12 : 10
3 時 限	13 : 00	～	14 : 30
4 時 限	14 : 40	～	16 : 10
5 時 限	16 : 20	～	17 : 50
6 時 限	18 : 00	～	19 : 30

●商学部第二部

1 時 限	18 : 00	～	19 : 30
2 時 限	19 : 40	～	21 : 10

休講および補講

授業が休講となる場合、FU ポータルでお知らせします。なお、休講の掲示が出ていないにもかかわらず授業が始まらない場合は、所属学部の事務部署の窓口まで申し出てください。

また、休講に伴い補講を実施する場合は、原則として、補講日の一週間前にFU ポータルで日時・教室等をお知らせします。詳細は本書巻末の「履修登録の手引」付録④を参照してください。

※補講は、指定する土曜日、試験前の指定する日および指定する週の6時限目に実施します。

補講日については、「Ⅱ 学年ごよみ・事務窓口」の2024年度学年ごよみを参照してください。

※交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による授業の休講や授業時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータルでお知らせします。

振替授業日および休日授業日

各曜日の授業回数を確保するため、振替授業日および休日授業日を設定しています。

[2024年度振替授業日] 振替前と同じ時限・教室で実施

前期	月曜日の振替授業日 7月18日(木)
後期	月曜日の振替授業日 12月26日(木)

[2024年度休日授業日] 通常（暦上）の曜日の授業を実施

前期	4月29日(月)「昭和の日」
後期	9月16日(月)「敬老の日」

※医学部医学科（第2学年以上）については、学年暦が異なる場合がある。

出席の確認

学生証を使い、センサーを設置した教室等で授業の出席状況を記録します。

この出席管理システムは、学生の皆さんが自ら生活管理を行い、着実に修学を進めていくためのものです。必ずしも成績評価に利用することを目的としたものではありませんが、担当教員によってはこの情報を成績評価に利用することもあります。また、皆さんの修学や生活指導のデータとしても活用します。本学開催の父母懇談会などでの相談の際にも、皆さんの大学での生活状況の一端としてご父母にお知らせします。

出席確認は受講時に、教室内のセンサーに学生証をかざすだけです。

【注意点】

- ・ 授業開始時刻の10分前～授業開始時刻まで ⇨ 「出席」と記録されます。
（1時限目および3時限目は授業開始の20分前～授業開始時刻まで）
- ・ 授業開始時刻以降 ⇨ 5分刻みで、開始時刻からの経過時間が記録されます。

欠席届

欠席に関する取扱いについては、担当教員の判断となります。授業を欠席する（した）場合は、各自で担当教員に速やかに報告して指示に従ってください。

なお、本学に公欠の制度はなく、欠席できる日数について特段の定めはありませんが、1週間以上欠席する場合は、福岡大学学生規程に基づき、次のような手続きをしてください。

- ① FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「欠席届ダウンロード」から出力した「欠席届」に必要事項を記入のうえ捺印します。
- ② 記入・捺印した「欠席届」および欠席を証明する書類を添え、各自で各担当教員に報告した後、所属学部の事務部署に提出します。

証明する書類の例……診断書、医証（病気・怪我の場合）等

※詳細は、FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「授業等の欠席の取扱いについて」を確認してください。

▶医学部の学生については、前記諸届・諸願に関する相談・取次ぎを医学部事務課または看護学科事務室で行います。

教室の表示等

●教室は、A棟・2号館から18号館までと、文系センター低層棟、医学部看護学科棟、人文学部教育・臨床心理学科棟にあります。

〔A棟・2～18号館の教室表示〕

例	A 7 13 (教室番号)	8 2 3 (教室番号)	2 3 A (教室番号)
	⋮	⋮	⋮
	A 7 番号	8 2 番号	2 3 記号
	棟 階 号	号 階 号	号 階 号
		館	館

○例外的な教室表示

A棟地下1階……〔A B 01、A B 02〕 2号館地下1階…〔2 B 1〕

〔情報処理教育の教室（文系センター低層棟3階）〕

文系センター棟PC教室A～D

※授業の教室割は、開講日までにFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web履修登録」の「時間割表(教室割)照会」でお知らせします。

※理系学部の教室変更・未定分については学部の掲示板に掲示します。

※教室等の配置については、FUポータルに掲載します。

テキスト(教科書)の購入

授業で使用するテキスト(教科書)は、学修ガイド、シラバス(医学部医学科の専門科目は「学修要項」)等を参照し、履修する科目のテキスト名を確認した上で、購入してください。

なお、科目によってはテキスト不要の場合や、後期完結科目で後期開講前に販売される場合もあります。

※購入したテキスト(教科書)は、購入時に破損、欠損しているもの以外は返品はできません。

※4月11日の前期授業開始日前後は大変混み合いますので、ネット注文を利用されるか早めに購入するようにしてください。

1 販売日時及び販売場所

販売期間：2024年4月2日(火)～4月19日(金) 【土曜日、日曜日を除く】

販売時間：9：00～19：00(4月8日～4月12日)

9：00～18：00(4月2日～4月5日、4月15日～4月19日)

販売場所：福岡大学 ^{ゆうほう}有朋会館2階ラウンジ

※4月22日(月)以降は、第一売店で販売します。(休日授業日以外の土曜日・日曜日・祝日を除く。)

※4月20日(土)・21日(日)は販売しません。

※後期の共通教育科目(英語・ドイツ語)で使用するテキストは、9月開講時に販売します。

※医学部の専門教育科目については、神陵文庫(医学部研究棟別館地階)にて販売します。期間と時間については書店に確認してください。

2 インターネット注文について

インターネットを利用して注文することで、宅配サービスを利用することが可能です。

〔福岡大学教科書販売サイト <https://fukudai-text.net>〕

〔インターネット注文における注意点〕

- ・『宅配サービス』の受付期間は、4月2日(火)から4月11日(木)までとなっています。なお、宅配サービスは前期のみのサービスです。
- ・宅配サービスの送料及び代引き手数料は別途必要となりますので、詳細については上記の福岡大学教科書販売サイトで確認してください。
- ・申込みから配達まで約3～4日かかります。特に開講日前日は申込みが集中し、配達日が遅くなることもありますので、開講日までに揃うように早めに申し込んでください。

試 験

履修登録した授業科目については、試験に合格（60点以上）しなければ「単位」として認定されません。試験は定期試験・追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）・再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）の三種類があります。

※定期試験を実施しない授業科目があります。シラバスを必ず確認し、評価方法をよく理解したうえで履修登録を行ってください。なお、上記の授業科目について、履修の手引（p. 71～72、p. 74～75）を参照してください。

1 定期試験

本学では、学期を前期（4月1日～9月13日）と後期（9月14日～3月31日）に分けており、前期・後期それぞれ試験を実施します。

通年の授業科目は、前期・後期共に受験する必要があるため、一方だけ受験しても「単位」は与えられません。また、前期または後期完結の授業科目は、授業が開講された学期だけ受験すればよいことになります。

なお、授業科目の試験時間が重複していると受験できません。履修登録の際は、試験時間割表（p. 27～30）で試験が重複しないように注意して、授業時間割を作成してください。詳しくは、履修の手引「試験の重複」（p. 38）を参照してください。

- 前期試験（7月24日～8月2日〔予備日を含む〕）
- 後期試験（1月15日～1月28日〔予備日を含む〕）
- 交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による試験の取扱い

試験日あるいは試験時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータル等でお知らせします。

2 定期試験についての心得

- ・試験についての注意事項、教室割、試験時限などは、試験前に掲示や FU ポータルでお知らせしますので、事前に確認してください。
- ・試験では、各人の座席をすべて指定します。試験は必ず自分の学籍番号の座席で受験してください。座席表は、教室入口近くの掲示板に掲示します。座席がない場合は試験事務室（A棟地下1階）に行ってください。
- ・成績考査規程を十分心得ておいてください。
- ・学生証は常に携帯し、受験中は必ず写真面を上にして机の座席番号側の見やすいところに置いてください。学生証を所持していない場合は受験することができません。忘れた場合は直ちに証明書自動発行機より仮学生証を出力してください。
- ・試験開始後20分を経過した遅刻者は受験をすることができません。試験開始後20分経過時に合図のチャイムが鳴りますが、チャイムが鳴り始めると一切入室できません。
- ・試験開始後30分を経過しなければ退室を許可しません。
- ・試験中、学生相互の物品の貸借は禁止します。
- ・監督者の指示があるまで次の時限の受験者は教室に入ることはできません。
- ・不正行為者については成績考査規程第5条により、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目の評価を「放棄」とします。
- ・答案はいかなる理由でも持ち出してはなりません。答案を持ち出した者に対しては、成績考査規程第5条の2により、その受験科目の評価を「放棄」とします。
- ・その他、試験場では監督者の指示に従わなければなりません。

3 定期試験時間表

●全学部（商学部第二部を除く）

1 時 限	9 : 30	～	10 : 30
2 時 限	10 : 50	～	11 : 50
3 時 限	12 : 30	～	13 : 30
4 時 限	13 : 50	～	14 : 50
5 時 限	15 : 10	～	16 : 10
6 時 限	16 : 30	～	17 : 30

●商学部第二部

1 時 限	18 : 20	～	19 : 20
2 時 限	19 : 50	～	20 : 50

▶医学部医学科については、別に示されます。

4 追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）

追試験は、定期試験を、病気その他やむを得ない事情によって受験できなかった者に所定の手続と審議を経て許可される試験です。これには、

- ・事前の願い出を原則とします。
- ・受験料を必要とします。（1科目2,000円）
- ・願い出た者全員が許可されるとは限りません。
- ・欠試の理由によって、得点が制限されます。

以上の制約があり、皆さんにとって不利益ともなります。したがって、万難を排して定期試験を受けるようにしてください。

手続及び不明な点の問い合わせは学生課（医学部医学科専門教育科目は医学部事務課、看護学科専門基礎科目・専門教育科目は看護学科事務室）で取り扱っています。手続の際は必ず欠試の理由を証明する書類（例：病気の場合は医師の診断書）、および印鑑を持参してください。

追試験の申込期間・実施日等の日程については、定期試験前にFUポータル等でお知らせしますので、見落とさないように注意してください。

また追試験については、成績考査規程第6・7・8・11条を参照してください。

- 前期追試験（8月28日～9月1日に実施予定〔予備日を含む〕）
- 後期追試験（2月21日～2月28日に実施予定）
- 定期試験を実施しない授業科目は、追試験を実施しません。

5 再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）

定期試験で不合格となった者については、願い出により再試験を行うことがあります。しかし、次のような制限があります。

- ・人文・法・経済・商・商二・工・スポーツ科の各学部は4年次生以上に対して実施します。
- ・理学部は2・4年次生に対して実施します。
- ・医学部医学科は全学年の学生に対して実施します。
- ・医学部看護学科は1年次生および2年次生については、試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込みのある者、3年次生については、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目（ただし2020年以前の入学者については前期に開講する選択必修科目の外国語科目、専門基礎科目及び専門教育科目）について不合格の成績評価を得た者で、再試験により3年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者および4年次生に対して実施します。
- ・薬学部は1年次生から5年次生に対して試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込みのある者および6年次生に対して実施します。ただし、3年次生に対しては共通教育科目の再試験は実施しません。
なお、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とします。
- ・医学部医学科以外の学生は後期の追試験の結果、不合格となった者を除きます。
- ・受験資格や受験することができる単位数は成績考査規程第12条、第13条を参照してください。
- ・前期に履修した授業科目が不合格となり、後期登録変更を行うことで同一科目を後期に再履修した場合の再試験の取り扱いは次のとおりです。
 - (1) 前期および後期の成績がともに欠点による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみを再試験受験の対象科目とする。
 - (2) 前期の成績が欠点による不合格で、後期の成績が放棄による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみが再試験の対象となるが、当該授業科目を放棄しているため再試験の受験資格を与えない。
- ・合格した場合の評点は60点となります。
- ・受験料（1単位1,000円）を必要とします。
- ・医学部医学科の時間制の専門教育科目は1科目4,000円を必要とします。

2月中旬に上記の学生を対象に成績発表を行い、その結果願い出た者について再試験を実施します。必ず成績発表の日にFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「教務」の「成績発表」で自分の成績を確認してください。手続は成績考査規程第13条を参照してください。

- 再試験（2月21日～2月28日に実施予定）
 - 医学部看護学科の3年次の再試験は前期開講科目について実施するため、手続や期間が異なります。
 - 卒業要件と課程修了要件を満たすために必要な科目が重複した場合、その再試験科目を申請する際には、再試験の科目として申請できない場合がありますので注意してください。
- ※詳細については、教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程を履修する場合は教職課程教育センター、日本語教員課程を履修する場合は教務二課（人文学部）に確認してください。
- 定期試験を実施しない授業科目は、再試験は実施しません。

成績・進級

前・後期それぞれの定期試験の成績発表日以降、FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある教務（学生メニュー）の「成績発表」より各自で「成績通知書」を確認することができます。

1 成績評価

- ・成績は100点法によって評価され、60点以上が合格となり所定の単位が与えられます。
 - ・成績通知書には科目ごとに点数が表示されます。
 - ・不合格者（59点以下）の場合は、点数の末尾に「F」が表示されます。
 - ・放棄の場合は、「H」が表示されます。
- ※放棄「H」とは、「試験放棄又は成績評価不能」を示しています。（福岡大学成績考査規程第4条第2項第6抜粋）
- ※「試験放棄」とは、定期試験・追試験および再試験を受験しなかった場合であり、「成績評価不能」とは、試験によらず成績を評価する科目について、学生の課題等の提出状況、受講状況その他の成績評価の前提条件を満たしておらず、点数を付けることができないと担当教員が認めた場合となります。

素点範囲	成績評語
100～90	秀
89～80	優
79～70	良
69～60	可
59点以下	不可
試験放棄又は成績評価不能	放棄

2 成績・進級

学年末には「成績通知書」を確認の上、次年度の履修登録を行うこととなります。誤った履修登録を行うと、修業年限（4年間。医学部医学科および薬学部は6年間。）内で卒業できない事態を招きかねません。自分の修得科目や単位数を十分に把握し、学則や学科履修規程を熟読して慎重に履修登録をするよう心がけてください。

また、修得単位数が少ない場合、理系学部では規定により登録できる科目が制限されたり、進級できずに「留年」となる場合があります。不断の努力を重ね、修業年限内での卒業をめざしてください。

3 GPA 制度

成績通知書に、成績評価指標としての GPA を付記します。

GPA (Grade Point Average) は、次に示した算出基準・計算式で計算される履修科目の評点に単位数を加味した加重平均値です。大学での学修が、単に卒業単位を取得するのみではなく、より真剣に学ぶことにより大学教育を実質化し、大学の教育の質を保証するためのシステムの一環でもあります。途中で受講をやめたり、試験を放棄したりすると GPA が低下します。したがって、学生の皆さんには履修責任が求められることになります。

●GPA の算出基準

履修した科目の成績評価は100点満点で行います。点数に応じて科目毎に GP 評点を算出します（下表参照）。

素点範囲	成績評語	GP 評点
100～90	秀	4.0
89～80	優	3.0
79～70	良	2.0
69～60	可	1.0
59点以下	不可	0.0
試験放棄又は成績評価不能	放棄	0.0

●GPA の計算式と対象

$$\text{GPA} = \frac{\text{【秀の修得単位数} \times 4 \text{】} + \text{【優の修得単位数} \times 3 \text{】} + \dots + \text{【不可・放棄の単位数の和} \times 0 \text{】}}{\text{秀} + \text{優} + \text{良} + \text{可} + \text{不可} + \text{放棄の総履修単位数}}$$

- ・ GPA は「卒業要件に関わる履修科目」および「課程科目を含む全履修科目」について、それぞれ「当該セメスターに履修した科目」および「当該セメスターまでに履修した全科目」の括りで算出します。
- ・ 不合格となった科目を後に再履修して合格となった場合、セメスター毎の GPA は元の成績で算出しますが、通算の GPA は合格した際の成績のみを対象として算出します。
- ・ 他大学等で履修した科目の単位で、本学の履修科目として修得が認められた単位（認定単位）については GPA の対象とはなりません。

●GPA の利用

学部・学科により、特待生の選考やゼミの選考などに利用されます。なお、成績証明書には記載されません。

4 成績評価に関する問合せ制度について

成績評価は厳格かつ正確に行われるよう留意していますが、万一成績評価に疑問がある場合には、所属学部の事務部署に申し出れば、皆さんに代わって授業担当者に問合せを行います。受付期間は、成績発表開始日から3日間としています。詳細については、FU ポータル等により皆さんにお知らせします。

なお、この制度は成績評価の厳格さと正確さを担保するためのものです。授業担当者との評点の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するものではありません。

在学の年限

学生は、8年を超えて在学することができません。

なお、医学部医学科および薬学部の学生については、12年を超えて在学することができず、同一学年・年次に在学できる年数は2年が限度です。

上記在学期間が満了した場合は除籍になりますので、十分留意の上勉学に励んでください。

卒業

1 卒業の認定

修業年限および「福岡大学学科履修規程」に定められた各学部の卒業に必要な科目・単位数を満たした者には3月に卒業の認定を行います。

2 前期卒業

修業年限を満たし、前期完結科目の合格によって前期で卒業要件科目および単位を修得した場合、本人の希望により前期終了日付で卒業の認定を受けることができます。

※前期卒業については、本人による事前の手続が必要です。2月に実施する4年次生以上の成績発表後に成績を確認した上で、必ず3月の履修登録前に所属学部の事務部署の窓口で相談してください。

交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等

交通機関の大きな乱れや台風・積雪等により、授業や試験の予定に変更が生じる場合は、福岡大学公式Webサイト、FUポータル等でお知らせします。

福岡大学公式 Web サイト：<https://www.fukuoka-u.ac.jp/>

2024年度 前期・後期 試験時間割(共通教育科目：薬学部用)

1. 授業時間割、試験時間割をよく見て、授業においても試験においても重複しないように注意して登録してください。
試験日が重複した科目の登録は認められません。
4. 定期試験期間中の土曜日（前期・後期）は通常どおり試験が行われますので注意してください。
2. 専門教育科目の試験時間割は、各定期試験前に掲示します。
5. 会話科目およびLL 授業科目は試験前の掲示等に注意してください。
3. 試験時間割を変更する場合はFUポータル・学部掲示板(16号館1階)に掲示するので特に注意してください。
6. 試験時間割に記載されていない授業科目は平常の授業時に試験が行われることがあります。
7. 通年科目は前期・後期とも受験しなければ単位は認定されません。

	前期 7月24日(水)		前期 7月25日(木)		前期 7月26日(金)		前期 7月27日(土)	
	後期 1月15日(水)		後期 1月16日(木)		後期 1月20日(月)		後期 1月21日(火)	
I 9:30 ┌ 10:30	教	統計入門 [後]	教 教 教 教	芸術A [前] 芸術B [後] 地理学A [前] 地理学B [後]	教	物理の世界 [後]		
II 10:50 ┌ 11:50		第2外国語II A [通年]		インターミディエイト・イングリッシュI [前](再含む) インターミディエイト・イングリッシュII [後](再含む)		第2外国語I A [通年]		フレッシュマン・イングリッシュI [前] (再含む) フレッシュマン・イングリッシュII [後] (再含む)
III 12:30 ┌ 13:30	教 教 教 教	法学A [前] 法学B [後] 地球環境 [後] 福岡大学で考える現代社会(山本) [後]						
IV 13:50 ┌ 14:50			教 教 教 教	商学A [前] 商学B [後] 社会学A [前] 社会学B [後]			教 教 教 教 教 教	日本文学A [前] 日本文学B [後] 西洋文学A [前] 西洋文学B [後] アジアの文学A [前] アジアの文学B [後]
V 15:10 ┌ 16:10								
VI 16:30 ┌ 17:30					教 教	日本国憲法 [前] 日本国憲法 [後]		
二部 I 18:20 ┌ 19:20				インターミディエイト・イングリッシュII [前](再のみ)				フレッシュマン・イングリッシュII [前] (再のみ)

	前期 7月29日(月)		前期 7月30日(火)		前期 7月31日(水)		前期 8月1日(木)	
	後期 1月22日(水)		後期 1月23日(木)		後期 1月24日(金)		後期 1月27日(月)	
I 9:30 } 10:30	教 教 教 教 教 教 教	倫理学A [前] 倫理学B [後] 論理学A [前] 論理学B [後] 心理学A [前] 心理学B [後] 哲学A [前] 哲学B [後]						
II 10:50 } 11:50				フレッシュマン・イングリッシュⅢ [前] (再含む) フレッシュマン・イングリッシュⅣ [後] (再含む)		第2外国語ⅠB [通年]		インターミディエイト・イングリッシュⅢ [前] (再含む) インターミディエイト・イングリッシュⅣ [後] (再含む)
III 12:30 } 13:30							教 教 教 教	経済学A [前] 経済学B [後] 政治学A [前] 政治学B [後]
IV 13:50 } 14:50			教 教 教 教 教 教 教	日本史A [前] 日本史B [後] 東洋史A [前] 東洋史B [後] 西洋史A [前] 西洋史B [後] 宗教学A [前] 宗教学B [後]				
V 15:10 } 16:10	教 教 教	国際化と日本 [後] 現代を生きる [後] 福岡大学で考える現代社会 (重松・鈴木(孝)・辻部・飛田・三島・山崎・渡邊) [後] 第2外国語ⅡB [通年]						
VI 16:30 } 17:30							教 教	文化人類学A [前] 文化人類学B [後]
二部 I 18:20 } 19:20				フレッシュマン・イングリッシュⅣ [前] (再のみ)				インターミディエイト・イングリッシュⅣ [前] (再のみ)

IV

履修の手引


- 諸規程と履修登録
- シラバス
- FU プラスアップ授業
- 履修登録上の注意事項
- 履修登録等の日程
- 全学部共通留意事項
- 各学部留意事項
- クリニカルファーマシスト養成プログラム
- 薬学部実習時間割
- 薬学部教員研究室一覧
- 履修登録ガイダンス
- Web 履修登録スケジュール
- 履修登録流れ図
- 外国語科目クラス別担当者一覧

諸規程と履修登録

大学において単位を修得し卒業するためには、学則・学科履修規程ならびにそれらに準じて取り扱われる規程に従って学習を進めていかなければなりません。


履修方法を誤ったり、多くの授業科目で不合格になると、進級できなかつたり、4年間（医学部医学科および薬学部は6年間）で卒業できないようなことになりかねません。

授業内容を考慮することはもちろん、規程をよく理解したうえで、履修する授業科目を選択し、学習計画を立てるようにしてください。

 分からないことがあれば、所属学部の事務部署へ気軽に尋ねてください。規程の内容を確認したり、学習計画を立てるうえでの相談やアドバイスを受けたりすることができます。

1 諸規程の適用

学則・学科履修規程など履修に関する諸規程は、在学中に改正される場合もありますが、卒業のための要件は原則として入学時の規程が適用されます。

 「学則」をはじめとする諸規程の中には、入学時に配付する印刷物にしか掲載していないものがあります。入学した年度の「学修ガイド」を卒業するまで大切に保管してください。

2 諸規程の改正

入学から卒業までの間に改正された学則・学科履修規程などが在學生に適用されることがあります。

この場合は、改正された内容が毎年度配付する『学修ガイド』に掲載されますので、入学時の規程と対比してどのように改正されたかを把握し、間違った履修をしないようにしてください。

3 履修登録とは

履修登録とは、各自が年間の履修計画を立て、その計画に基づき授業科目を申請する手続きのことです。

そのために、『学修ガイド』あるいは学部から配付される履修登録に関する資料などをよく読み、「授業時間割」「試験時間割」「シラバス」をもとに自分の履修計画に沿って、FUポータルより履修登録を行ってください。

履修登録を正しく行わなかった場合、その授業科目の受講・受験は認められず、単位も修得できません。履修登録は、各自の責任において行うことを自覚してください。

シラバス

1 シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。次のように活用してください。

●履修計画を立てる時の参考とする。

大学の学修は、自分で必要な科目を選択します。関心をもった科目は、まずシラバスをよく読んで履修するかどうかが決めましょう。

シラバスには、各授業科目の概要や到達目標、成績評価基準および方法等が掲載されていますので、どのような授業を受けたいのか、また授業を通してどのような知識・理解を深めたいのかを考える時の参考にしてください。

●日々の授業の予習・復習に役立てる。

シラバスには、各授業科目の授業計画やテキスト等が掲載されていますので、予習・復習等に役立ててください。

2 シラバスの項目

主な項目	内 容
科目名	履修申請をする際に表示される科目名が記載されています。
授業形態	授業が以下のどの形態で行われるかが記載されています。 【①講義、②講義（外国語による）、③演習、④実験、⑤実習、⑥実技、⑦講義及び演習、⑧講義及び実習】
担当教員	担当教員名が記載されています。
実務経験	「有り」と表記されている場合は、担当教員が授業科目に関連する実務経験を有しており、その経験を活かした授業を行います。また、どのような実務経験を有し、どのような授業を行うのか、「概要」欄に記載されます。
科目水準	科目が以下のどの水準であるかが記載されています。 【①入門、②初級、③中級、④上級】
授業の種類	科目が「対面授業科目」であるか「遠隔授業科目」であるかが記載されています。
概要	授業内容に加えて、本科目の位置づけ、科目のねらい、授業概要等が記載されています。
授業の進行・方法	授業の具体的な進め方、学習の方法などわかりやすく記載されています。
アクティブ・ラーニング	1回でもとりいれている授業の場合は、「あり/Yes」と記載されています。
到達目標	授業を全て受けることで、みなさんが到達することのできる目標が記載されています。授業終了後には、各到達目標をどの程度達成できたかを「授業アンケート（FURIKA）」にて振り返ります。
授業時間外の学習（予習・復習）	授業の事前・事後に行う自主学習について記載されています。 ☞本書「授業・試験」→「単位と授業時間」参照（p.17）
成績評価基準および方法	「到達目標」に対するみなさんの達成度をどういった基準で評価するのか、また、どのような方法（定期試験、平常点（小テスト、課題等）、レポート等）で評価するのかが記載されています。
テキスト、参考書	授業で使用するテキストが記載されています。テキストは授業開始日までに購入しておくようにしましょう。 ☞本書「授業・試験」→「テキストの購入」参照（p.20）
履修上の留意点	履修するにあたっての留意点や前提となる知識・能力などが記載されています。
授業計画	15回の授業計画がわかりやすく記載されています。

※項目名は、授業科目により異なる場合があります。

※アクティブ・ラーニングとは、次のような要素を取り入れた授業方法を指します。

・PBL（課題解決型学習） ・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・学習、フィールドワーク

出典：令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1-4アクティブ・ラーニング）

3 シラバスの閲覧

● 閲覧方法

シラバスは、FU ポータルから閲覧することが可能です。FU ポータルにログインし、「授業関連」タブ⇒「WEB シラバス」⇒「シラバス閲覧 (学部)」にアクセスしてください。教員名、科目名、学部・学科等から検索し、閲覧することができます。詳細は本書巻末の「履修登録の手引」付録③を参照してください。

☞FU ポータルとは？

福岡大学生のためのポータルサイトで、Web 上で提供される様々なサービスの入口となります。詳細は、本書「授業・試験」→「大学からの連絡 ((1)「FU ポータル」)」を参照してください。

(p. 15)

● 公開日

履修登録に先立ち、3月上旬に公開します。

FU プラスアップ授業

本学の授業は、原則として半期に15回で構成されています。前期・後期ともに15回の授業のうち、授業週として14週を設定し、残り1回分は動画配信による遠隔授業で実施します。この遠隔授業のことを「FU プラスアップ授業」と称します。

「FU プラスアップ授業」は、実施時期、内容により、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」に二分され、どちらの授業で実施されるかは科目によって異なります。自身の履修する科目がどちらの授業で実施されるかについては、各科目のシラバス内の「授業計画」で確認してください。

スタートアップ授業を行う科目では、第1回目の授業はスタートアップ授業で行われます。前期・後期ともに、第1週の授業(第2回授業)開始前までに自身が受講する科目のスタートアップ授業を必ず視聴するようにしてください(前期は3月上旬～第1週の授業まで、後期は8月下旬～第1週の授業までに受講してください)。

※「FU プラスアップ授業」は、学期開始前に、自分がどの科目を履修するかを決めるための情報源として活用したり、自分が所属する学部以外のさまざまな学部の授業動画を見て関心を広げたりできるなど、活用の仕方はさまざまです。

〈例：新入生の場合〉

視聴目的	期 間
履修登録前に参考として視聴する場合	令和6年4月2日～令和6年4月5日
第1回目の授業として視聴する場合	令和6年4月2日～第1回授業日まで
復習や自身の関心を広げるために視聴する場合	令和6年4月2日～令和7年3月31日

※在学生はシラバス公開時から、翌年3月末日まで視聴可能です。自身の目的に合わせて視聴してください。

●スタートアップ授業

<概要>

第1回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生はすべてスタートアップ授業を3月上旬から1年間、いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、より主体的な履修選択ができます。

また、科目の狙いや到達目標、成績評価の基準などを学期期間中にいつでも参照できることで、より計画的、自律的な学習や授業期間中の振り返りを促すことを目的としています。

<視聴方法>

シラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたURLから授業動画を確認できます。

※第1週目の授業に係る内容が含まれている場合があるため、必ず第1週目の授業開始までに視聴してください。

<スタートアップ授業の主な流れ>

- ①履修登録開始前、履修する科目選びの参考にするため視聴します。
(関心を持った科目のスタートアップ授業の「イントロダクション部分」を視聴してください。)
- ②履修登録後、第1回授業の内容を学ぶため、第1週の授業(第2回授業)前までに視聴します。
(履修登録した科目の「授業内容紹介」を視聴してください。なお、課題が課される場合もあります。)

●中間フォローアップ授業

<概要>

第6回目から第9回目を目安に行われる中間振り返り授業です。

学期の中間地点で学修を振り返り、自身の到達度を確認することで、学習内容の定着を図ることを目的としています。

※中間フォローアップ授業では、その時点までにおいて自身がその授業の到達目標にどの程度到達したか、確認するための課題が課されます。

<視聴方法>

シラバスからは視聴できません。各科目担当教員の指示に従ってください。

<中間フォローアップ授業の主な流れ>

- ①主に6～9回目、中間フォローアップ授業を視聴し、課された課題に取り組みます。
 - ②課題提出後、自身の到達状況を確認し、授業後半の学習計画を見直します。
- ※通年授業や半期30回授業等で、学期中に中間フォローアップ授業を2回行う場合があります。
担当教員から、中間フォローアップ授業の回数や時期を聞いて確認してください。

※FU プラスアップ授業の詳細については、『「FU プラスアップ授業」学生用マニュアル』を参照ください。

履修登録上の注意事項

1 履修登録の方法

FU ポータルで履修科目の登録手続きを行います。

インターネット環境があれば、自宅など学外から登録手続きを行えます。

2 準備するもの

履修登録を行うにあたり、次の書類・資料を準備してください。

- ・学修ガイド（特に「履修の手引」「試験時間割」「諸規程」「履修登録の手引」）
 - ・授業時間割
 - ・「学科基本クラス分け一覧表」（新入生のみ配付。在生は学修ガイド（p. 41～43）に記載）
 - ・その他、各学部が作成した履修登録に関する資料
- ※シラバスは、FU ポータルから参照できます。（シラバスについては、学修ガイド p. 34参照）

3 授業時間割の見方

- ① 曜日・時限別に区分された枠内に、そこで開講される授業の科目名・担当者・開講期別・クラスなどが表示されています。
時間割上で学部・学科あるいはクラスが指定されている授業科目は、それにしたがって履修登録してください。
 - ② 学部記号が○で囲まれている授業科目は、その学部の全学科の学生が登録できることを示しています。
〔例〕①（法学部）……JJ（法律学科）、JB（経営法学科）とも登録可能。
②（スポーツ科学部）……GS（スポーツ科学科）、GH（健康運動科学科）とも登録可能。
 - ③ 学部や学科が指定されている授業科目は、指定の学部や学科の学生のみ登録することができます。
〔例〕③・CC……経済学部全学科および商学部商学科のみ登録可能
 - ④ 前期または後期で完結する4単位の授業科目については、週2回の授業が行われます。
 - ⑤ 履修登録では、自分が登録することができる授業科目のみ表示されます。
- ※授業時間割表は、FU ポータルから参照できます。

4 クラス表示

授業時間のクラス表示については、下表に従い履修登録してください。

対象者	英 語	英語以外の科目	備 考
1年次生(24台) 2024年度入学生	FEとIE(注1)は事前に登録していますので、p. 63 4 外国語科目「1 外国語科目の履修登録について」の「●英語の履修登録について」を参照の上クラスを確認してください。 (再履修者は除く)	「学科基本クラス分け一覧表」で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。	「学科基本クラス分け一覧表」は履修登録関係書類として配布します。
2年次生(23台) 2023年度入学生		「学科基本クラス分け一覧」(p. 41～43参照)で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。	—
3年次生(22台) 2022年度入学生			
4年次生(21台以前) 2021年度入学生	—		

(注1) FE……フレッシュマン・イングリッシュ
IE……インターミディエイト・イングリッシュ

※東アジア地域言語学科のFEⅢ・ⅣとIEⅢ・Ⅳについては事前登録されていないので、履修する場合は各自で履修登録してください。

☺ 「フレッシュマン・イングリッシュ」「インターミディエイト・イングリッシュ」の再履修については、4 外国語科目「2 英語の履修について」の「●再履修について (FE・IE)」(p. 65～) を参照してください。

〔クラス表示の例〕

	ク ラ ス 名 称		
英 語 ク ラ ス	<u>J</u> (学部)	<u>ESP—1</u> (クラス)	「英語」の登録用クラス
学 科 基 本 ク ラ ス	<u>J J</u> (学部・学科)	<u>5</u> (クラス)	「英語」以外の履修登録用クラス ※学科基本クラス分け一覧表参照

5 授業の重複

開講する期別・曜日・時限が同じ授業科目については、ひとつの授業科目しか登録することができません。通年で開講する授業科目と前期または後期のみ開講する授業科目についても、曜日・時限が同一であれば、どちらかの授業科目しか登録できません。

6 試験の重複

履修登録しようとする授業科目が定期試験の同じ期日・時限で重複しないよう、試験時間割 (p. 27～30) をよく見て登録してください。授業科目の開講曜日・時限が異なっても試験が重複している科目はいずれか1つしか登録できません。

7 履修登録上の注意

- ① 履修登録を行う日程は学部・学科・学籍年台により異なります。詳しくは巻末の「履修登録の手引き」p. 2を参照してください。
- ② 履修登録の日時や期限は厳守してください。後述する「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。
- ③ 履修登録の方法については、学修ガイド「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
- ④ 登録が正しく行われていない場合、卒業や進級ができなくなる場合も考えられます。必ず「**授業科目確認表**」を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。
- ⑤ 集中講義で開講される科目や商学部第二部で受講する教職課程科目等も履修登録が必要です。
- ⑥ 教職課程科目・博物館学芸員課程科目・社会教育主事課程科目を登録する場合は、学部の授業科目と重複しないよう授業時間割および定期試験時間割上で確認してください。

☺ 『履修登録の手引』の中にある「履修登録用紙 (下書き用)」および「Web プロフィール (下書き用)」について必ず事前に記入して履修登録を行ってください。シラバスを事前に参照することも可能です。

8 履修登録の流れ

年度始めに皆さんが行う履修登録作業は概ね次のとおりです。学部によっては、この他にも必要なことがありますので、学修ガイドや配付物、掲示物等を確認してください。

☞事前に確認すること

<p>1. 1年間に登録できる単位数の上限 ○学部、学科、年次などにより、1年間に登録できる単位数が異なります。 ○ただし、教職課程等の課程科目を登録するときの単位数は、上限の単位数に含みません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程」 (p. 136～194参照)</p>
<p>2. 卒業（進級）要件単位数 ○学部、学科、年次などにより、卒業に必要な単位数が異なります。また、理系学部では上位年次への進級に必要な単位数が決められている場合があります。 ○卒業（進級）要件単位数を考慮して履修計画を立ててください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程」 (p. 134～135参照)</p>
<p>3. クラス ○クラス指定がある授業科目は、自分のクラスで登録を行う必要があります。あらかじめ自分のクラスを確認してください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科基本クラス分け一覧」 (p. 41～43参照)</p>



☞登録科目の選択

<p>4. 登録することができる科目 ○「年次別授業科目表」を開き、自分が登録することができる科目を把握してください。2年次生以上の場合、既に単位を修得した科目は登録できません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程（年次別授業科目表）」 (p. 196～205参照)</p>
<p>5. 上位年次に開講される授業科目は登録できない ○例えば、1年次生は1年次設置科目のみ、2年次生は1・2年次に開講される科目が登録できます。</p>	
<p>6. 必修科目、選択必修科目を優先して登録 ○総合教養科目はできるだけ下位年次で履修するようにしてください。</p>	
<p>7. シラバスを参考に ○シラバスには、各授業科目の概要や評価基準および方法、授業計画等が掲載されています。また、スタートアップ授業を実施する科目については、授業動画を視聴することもできます。よく読んで、登録する科目を決めてください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「シラバス」 (p. 34参照)</p>
<p>8. 定期試験の時間割が重複していないか ○受講が可能であっても、試験日時が重複していれば登録できません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「試験時間割」 (p. 27～30参照)</p>
<p>9. 登録制限科目を登録する場合 ○科目によっては登録人数を制限するものがあります。「履修の手引」などの指示に従って事前に登録手続きを行ってください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「履修の手引」 (p. 47～58、p. 76)</p>
<p>10. 授業時間割への記入 ○登録しようとする授業科目にマーカーなどで印を付けてください。</p>	



<p>11. 下書き用紙への記入 ○学修ガイド「履修登録の手引」に入っている「履修登録用紙（下書き用）」に登録する授業科目を記入してください。 ○また、同じく「Webプロフィール（下書き用）」に必要事項を記入してください。（履修登録の際、同時に入力します。） ※履修登録を効率的に行うために、必ず下書きした用紙を履修登録当日に参照しながら履修登録を行ってください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「履修登録の手引」</p>
--	---------------------------------------



履修登録

<p>12. 履修登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修登録の操作方法等は学修ガイド「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。 ○登録作業が済んだら、必ず「授業科目確認表」を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。 	<p>学修ガイド 「履修登録の手引」</p>
<p>13. 履修登録の日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修登録を行う日程等は学部・学科・学籍年台により異なります。 ○履修登録の日時や期限は厳守してください。「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。 	<p>学修ガイド 「履修登録の手引」 「履修登録等の日程」 (p. 44～45参照)</p>



前期授業の開始

<p>14. 授業教室割の通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開講日までにFUポータル「時間割表(教室割)照会」で、授業教室をお知らせしますので、あらかじめ確認して登学してください。 ○理・工・医・薬・スポーツ科学部で開講する科目については、掲示等で教室をお知らせする場合があります。
<p>15. FUプラスアップ授業の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各科目のシラバス内の「授業計画」で「FUプラスアップ授業」の種類を確認してください。 ○「スタートアップ授業」の場合、第1週の授業までにシラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたURLから授業動画を視聴してください。 ※後期開講科目については、8月下旬～後期第1回授業までに授業動画を視聴してください。 ○「中間フォローアップ授業」の場合、授業期間中に教員の指示に従い、授業動画を視聴してください。

9 前期成績発表と後期開講科目の登録変更

1年間に履修する科目については、あらかじめ前期授業開始前に通年、前・後期完結科目を全て登録しますが、後期の科目については、前期の成績を確認して、既に登録している履修科目を変更(削除・追加)することができます。前期成績発表および後期開講科目の登録変更日程については、p. 44～45「履修登録等の日程」を参照してください。

●注意

通年開講科目については登録を変更することができません。また、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、登録変更をすることができない場合があります。

なお、変更にあたっては、1年間あるいは前期・後期に履修することができる単位数(登録上限単位)の範囲内であることが必要です。

10 履修登録の撤回

「履修登録した授業の内容が想定したものと違っていた」「このまま履修を続けるより他の科目に集中して取り組みたい」などと判断した場合、その学期の開講から3週間以内に申し出れば、前後期それぞれ2科目以内かつ8単位以内に限り履修登録を撤回(削除)できます。撤回した科目の単位数は当該年度の履修登録単位数から除外されます。ただし、撤回した科目の代わりに他の科目を追加登録することはできません。

むやみに撤回すると卒業や進級に必要な単位数が不足する可能性もあるため、慎重な対応が必要です。

なお、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、撤回することができない場合があります。また、後期については、通年開講科目を撤回することはできません。さらに後期開講の集中講義科目のうち、夏季休業中に開講されるものは、前期の撤回期間中のみ撤回することができます。(夏季休業中に開講される後期集中講義科目は、講義開始後に撤回することはできません。)

履修登録撤回の手続き・日程等については p. 44～45「履修登録等の日程」を参照してください。

11 学科基本クラス分け一覧

2023年度入学生 (23台)

学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 230001～L C 230050
	2	L C 230051～L C 230100
L H	1	L H 230301～L H 230335
	2	L H 230336～L H 230370
L J	1	L J 230501～L J 230536
	2	L J 230537～L J 230571
L P	1	L P 231501～L P 231562
	2	L P 231563～L P 231623
L E	1	L E 230701～L E 230746
	2	L E 230747～L E 230791
L G	1	L G 全員
L F	1	L F 全員
L A	1	L A 231301～L A 231332
	2	L A 231333～L A 231364
J J	1	J J 230001～J J 230044
	2	J J 230045～J J 230088
	3	J J 230089～J J 230132
	4	J J 230133～J J 230175
	5	J J 230176～J J 230218
	6	J J 230219～J J 230261
	7	J J 230262～J J 230304
	8	J J 230305～J J 230347
	9	J J 230348～J J 230390
	10	J J 230391～J J 230433
J B	1	J B 232001～J B 232044
	2	J B 232045～J B 232088
	3	J B 232089～J B 232132
	4	J B 232133～J B 232175
	5	J B 232176～J B 232218
E E	1	E E 230001～E E 230040
	2	E E 230041～E E 230080
	3	E E 230081～E E 230120
	4	E E 230121～E E 230160
	5	E E 230161～E E 230200
	6	E E 230201～E E 230240
	7	E E 230241～E E 230280
	8	E E 230281～E E 230320
	9	E E 230321～E E 230360
	10	E E 230361～E E 230400
	11	E E 230401～E E 230440
	12	E E 230441～E E 230479
E I	1	E I 232001～E I 232052
	2	E I 232053～E I 232104
	3	E I 232105～E I 232156
	4	E I 232157～E I 232207
C C	1	C C 230001～C C 230044
	2	C C 230045～C C 230087
	3	C C 230088～C C 230130
	4	C C 230131～C C 230173
	5	C C 230174～C C 230216
	6	C C 230217～C C 230259

※2024年度入学生 (24台) については履修登録関係書類として配付します。

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 231001～C B 231041
	2	C B 231042～C B 231082
	3	C B 231083～C B 231123
	4	C B 231124～C B 231164
	5	C B 231165～C B 231205
	6	C B 231206～C B 231245
C F	1	C F 232001～C F 232045
	2	C F 232046～C F 232090
	3	C F 232091～C F 232135
	4	C F 232136～C F 232179
B B	1	B B 230001～B B 230027
	2	B B 230028～B B 230053
	3	B B 230054～B B 230079
	4	B B 230080～B B 230105
	5	B B 230106～B B 230131
	6	B B 230132～B B 230157
S M	1	S M 230001～S M 230033
	2	S M 230034～S M 230047 S M 231001～S M 231019
S P	1	S P 230201～S P 230226
	2	S P 230227～S P 230247 S P 231201～S P 231205
S C	1	S C 230401～S C 230433
	2	S C 230434～S C 230458
		S C 231401～S C 231407
S E	1	S E 230601～S E 230637
	2	S E 230638～S E 230674
T M	1	T M 230001～T M 230056
	2	T M 230057～T M 230112
T E	1	T E 230301～T E 230359
	2	T E 230360～T E 230417
T L	1	T L 231201～T L 231238
	2	T L 231239～T L 231275
	3	T L 231276～T L 231312
	4	T L 231313～T L 231349
T K	1	T K 231501～T K 231550
	2	T K 231551～T K 231599
T C	1	T C 230601～T C 230657
	2	T C 230658～T C 230714
T A	1	T A 230901～T A 230955
	2	T A 230956～T A 231009
M M	1	M M 230001～M M 230055
	2	M M 230056～M M 230110
M N	1	M N 232001～M N 232055
	2	M N 232056～M N 232110
P P	1	P P 230001～P P 230041
	2	P P 230042～P P 230082
	3	P P 230083～P P 230123
	4	P P 230124～P P 230164
	5	P P 230165～P P 230205
	6	P P 230206～P P 230245
G S	1	G S 230001～G S 230039
	2	G S 230040～G S 230078
	3	G S 230079～G S 230117
	4	G S 230118～G S 230156
	5	G S 230157～G S 230194
	6	G S 230195～G S 230232
G H	1	G H 230301～G H 230338
	2	G H 230339～G H 230375

2022年度入学生 (22台)

学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 220001～L C 220050
	2	L C 220051～L C 220103
L H	1	L H 220301～L H 220335
	2	L H 220336～L H 220371
L J	1	L J 220501～L J 220536
	2	L J 220537～L J 220572
L P	1	L P 221501～L P 221555
	2	L P 221556～L P 221610
L E	1	L E 220701～L E 220746
	2	L E 220747～L E 220791
L G	1	L G 220901～L G 220951
L F	1	L F 221101～L F 221148
L A	1	L A 221301～L A 221335
	2	L A 221336～L A 221370
J J	1	J J 220001～J J 220043
	2	J J 220044～J J 220086
	3	J J 220087～J J 220129
	4	J J 220130～J J 220172
	5	J J 220173～J J 220215
	6	J J 220216～J J 220258
	7	J J 220259～J J 220301
	8	J J 220302～J J 220344
	9	J J 220345～J J 220387
	10	J J 220388～J J 220429
J B	1	J B 222001～J B 222041
	2	J B 222042～J B 222081
	3	J B 222082～J B 222121
	4	J B 222122～J B 222161
	5	J B 222162～J B 222201
E E	1	E E 220001～E E 220039
	2	E E 220040～E E 220078
	3	E E 220079～E E 220117
	4	E E 220118～E E 220155
	5	E E 220156～E E 220193
	6	E E 220194～E E 220231
	7	E E 220232～E E 220269
	8	E E 220270～E E 220307
	9	E E 220308～E E 220345
	10	E E 220346～E E 220383
	11	E E 220384～E E 220421
	12	E E 220422～E E 220460
E I	1	E I 222001～E I 222051
	2	E I 222052～E I 222102
	3	E I 222103～E I 222153
	4	E I 222154～E I 222207
C C	1	C C 220001～C C 220042
	2	C C 220043～C C 220084
	3	C C 220085～C C 220126
	4	C C 220127～C C 220168
	5	C C 220169～C C 220209
	6	C C 220210～C C 220252

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 221001～C B 221042
	2	C B 221043～C B 221084
	3	C B 221085～C B 221126
	4	C B 221127～C B 221168
	5	C B 221169～C B 221210
	6	C B 221211～C B 221254
C F	1	C F 222001～C F 222047
	2	C F 222048～C F 222093
	3	C F 222094～C F 222139
	4	C F 222140～C F 222186
B B	1	B B 220001～B B 220028
	2	B B 220029～B B 220055
	3	B B 220056～B B 220082
	4	B B 220083～B B 220109
	5	B B 220110～B B 220136
	6	B B 220137～B B 220165
S M	1	S M 220001～S M 220033
	2	S M 220034～S M 220048 S M 221001～S M 221020
S P	1	S P 220201～S P 220228
	2	S P 220229～S P 220247 S P 221201～S P 221209
S C	1	S C 220401～S C 220433
	2	S C 220434～S C 220455 S C 221401～S C 221410
S E	1	S E 220601～S E 220631
	2	S E 220632～S E 220661
T M	1	T M 220001～T M 220055
	2	T M 220056～T M 220111
T E	1	T E 220301～T E 220353
	2	T E 220354～T E 220406
T L	1	T L 221201～T L 221238
	2	T L 221239～T L 221276
	3	T L 221277～T L 221314
	4	T L 221315～T L 221353
T K	1	T K 221501～T K 221552
	2	T K 221553～T K 221604
T C	1	T C 220601～T C 220649
	2	T C 220650～T C 220698
T A	1	T A 220901～T A 220959
	2	T A 220960～T A 221020
M M	1	M M 220001～M M 220055
	2	M M 220056～M M 220110
M N	1	M N 222001～M N 222053
	2	M N 222054～M N 222105
P P	1	P P 220001～P P 220040
	2	P P 220041～P P 220079
	3	P P 220080～P P 220118
	4	P P 220119～P P 220157
	5	P P 220158～P P 220196
	6	P P 220197～P P 220235
G S	1	G S 220001～G S 220038
	2	G S 220039～G S 220076
	3	G S 220077～G S 220114
	4	G S 220115～G S 220151
	5	G S 220152～G S 220188
	6	G S 220189～G S 220225
G H	1	G H 220301～G H 220337
	2	G H 220338～G H 220375

2021年度入学生 (21台)

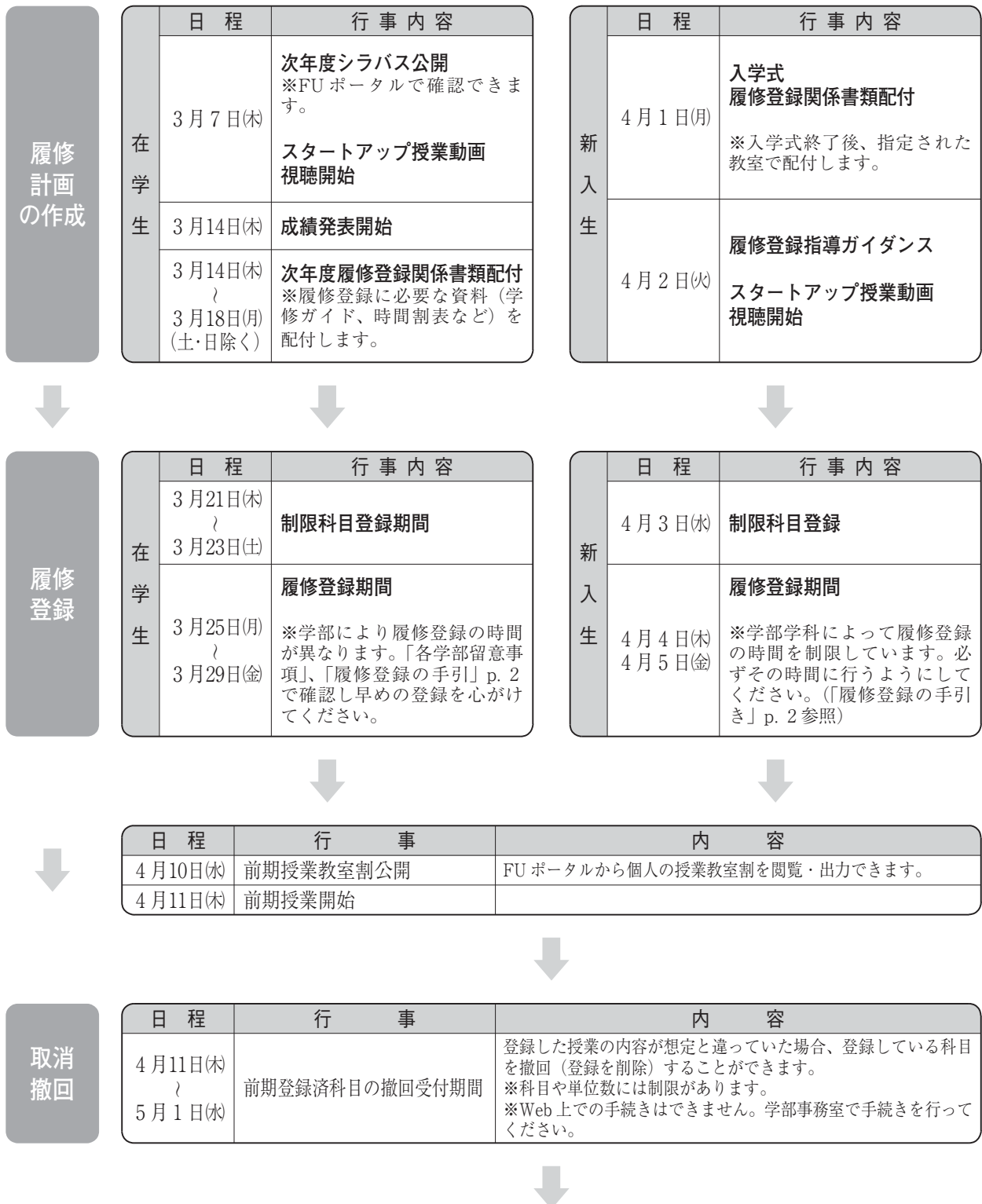
学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 210001～L C 210049
	2	L C 210050～L C 210098
L H	1	L H 210301～L H 210333
	2	L H 210334～L H 210368
L J	1	L J 210501～L J 210535
	2	L J 210536～L J 210569
L P	1	L P 211501～L P 211567
	2	L P 211568～L P 211633
L E	1	L E 210701～L E 210744
	2	L E 210745～L E 210789
L G	1	L G 210901～L G 210948
L F	1	L F 211101～L F 211149
L A	1	L A 211301～L A 211331
	2	L A 211332～L A 211364
J J	1	J J 210001～J J 210041
	2	J J 210042～J J 210082
	3	J J 210083～J J 210123
	4	J J 210124～J J 210164
	5	J J 210165～J J 210205
	6	J J 210206～J J 210246
	7	J J 210247～J J 210287
	8	J J 210288～J J 210328
	9	J J 210329～J J 210368
	10	J J 210369～J J 210410
J B	1	J B 212001～J B 212039
	2	J B 212040～J B 212077
	3	J B 212078～J B 212115
	4	J B 212116～J B 212153
	5	J B 212154～J B 212191
E E	1	E E 210001～E E 210038
	2	E E 210039～E E 210076
	3	E E 210077～E E 210114
	4	E E 210115～E E 210152
	5	E E 210153～E E 210190
	6	E E 210191～E E 210227
	7	E E 210228～E E 210264
	8	E E 210265～E E 210301
	9	E E 210302～E E 210338
	10	E E 210339～E E 210375
	11	E E 210376～E E 210412
	12	E E 210413～E E 210450
E I	1	E I 212001～E I 212049
	2	E I 212050～E I 212098
	3	E I 212099～E I 212147
	4	E I 212148～E I 212203
C C	1	C C 210001～C C 210039
	2	C C 210040～C C 210078
	3	C C 210079～C C 210117
	4	C C 210118～C C 210156
	5	C C 210157～C C 210195
	6	C C 210196～C C 210242

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 211001～C B 211039
	2	C B 211040～C B 211078
	3	C B 211079～C B 211117
	4	C B 211118～C B 211156
	5	C B 211157～C B 211194
	6	C B 211195～C B 211234
C F	1	C F 212001～C F 212047
	2	C F 212048～C F 212094
	3	C F 212095～C F 212140
	4	C F 212141～C F 212186
B B	1	B B 210001～B B 210027
	2	B B 210028～B B 210053
	3	B B 210054～B B 210079
	4	B B 210080～B B 210105
	5	B B 210106～B B 210131
	6	B B 210132～B B 210160
S M	1	S M 210001～S M 210033
	2	S M 210034～S M 210049 S M 211001～S M 211017
S P	1	S P 210201～S P 210226
	2	S P 210227～S P 210244 S P 211201～S P 211208
S C	1	S C 210401～S C 210430
	2	S C 210431～S C 210454 S C 211401～S C 211406
S E	1	S E 210601～S E 210629
	2	S E 210630～S E 210657
T M	1	T M 210001～T M 210057
	2	T M 210058～T M 210114
T E	1	T E 210301～T E 210355
	2	T E 210356～T E 210409
T L	1	T L 211201～T L 211237
	2	T L 211238～T L 211274
	3	T L 211275～T L 211310
	4	T L 211311～T L 211346
T K	1	T K 211501～T K 211548
	2	T K 211549～T K 211596
T C	1	T C 210601～T C 210662
	2	T C 210663～T C 210724
T A	1	T A 210901～T A 210953
	2	T A 210954～T A 211007
M M	1	M M 210001～M M 210055
	2	M M 210056～M M 210110
M N	1	M N 212001～M N 212053
	2	M N 212054～M N 212106
P P	1	P P 210001～P P 210038
	2	P P 210039～P P 210076
	3	P P 210077～P P 210114
	4	P P 210115～P P 210152
	5	P P 210153～P P 210189
	6	P P 210190～P P 210226
G S	1	G S 210001～G S 210040
	2	G S 210041～G S 210080
	3	G S 210081～G S 210119
	4	G S 210120～G S 210158
	5	G S 210159～G S 210197
	6	G S 210198～G S 210236
G H	1	G H 210301～G H 210337
	2	G H 210338～G H 210373

履修登録等の日程

シラバスや履修登録関係書類で事前に履修計画を立てられます。また、巻末の『履修登録の手引(p. 3)』の「履修登録用紙(下書き用)」を事前に記入し、履修登録に臨んでください。

1 履修登録スケジュール



前期 成績 発表	日 程	行 事	内 容
	9月2日(月))	前期成績発表開始	FUポータルにて各自参照 ※成績評価に疑問がある場合には、学部事務室を窓口として、科目担当者に問合せることができる制度を設けています。なお、受付期間は、成績発表から3日間となっています。詳細については、FUポータル等よりお知らせします。
後期開 講科目 の登録 変更	日 程	行 事	内 容
	9月4日(水)12時) 9月6日(金)16時	後期開講科目の登録変更	FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web履修登録」にて申請。
	日 程	行 事	内 容
	9月13日(金) 9月16日(月)	後期授業教室割公開 後期授業開始	FUポータルから個人の授業教室割を閲覧・出力できます。
取消 撤回	日 程	行 事	内 容
	9月16日(月)) 10月7日(月)	後期登録済科目の撤回受付期間	登録した授業の内容が想定と違っていた場合、登録している科目を撤回（登録を削除）することができます。 ※科目や単位数には制限があります。 ※Web上での手続きはできません。学部事務室で手続きを行ってください。

全学部共通留意事項

学部別、分野毎に、設置科目および開講科目が決められています。

設置科目とは、学則の教育課程に設置している科目であり、開講科目とは、その年度に開講される科目のことです。学部によっては、年度により開講しない科目がありますので、学修ガイドを参照し、学科履修規程を正しく理解し、履修していく必要があります。

1 共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更について

総合教養科目・外国語科目・保健体育科目における履修登録の撤回と後期開講科目の登録変更は、下表のように取り扱います。「○」印は可能、「×」印は不可を示しています。

	授業科目の区分、学部、年次、科目名等		登録撤回 (p. 40参照)		登録変更 (p. 40参照)	
			前期	後期	追加	削除
総合教養科目	登録制限科目 (注1参照)	登録制限科目①	○	○	×	○
		登録制限科目②(注2参照)	×	×	○	×
	学修基盤科目	データサイエンス・AI入門	×	×	×	×
	それ以外の科目(注3参照)		○	○	○	○
外国語科目	アドバンスト・イングリッシュⅡ ※所定の登録人数に達しない場合に限る(注4参照)		×	×	○	×
	それ以外の科目 ※学部留学生対象の日本語を含む		×	×	×	×
保健体育科目 (注5参照)	選択科目	生涯スポーツ演習Ⅱ、生涯スポーツ演習Ⅲ、 生涯スポーツ演習Ⅳ、生涯スポーツ論	○	○	○	○
	必修科目 ※商学部第二部 を除く学部	1年次生(24台) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ演習Ⅱ	×	×	×	×
		2年次生以上(23台以前) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ演習Ⅱ、 生涯スポーツ演習Ⅲ、生涯スポーツ演習Ⅳ、 生涯スポーツ論	×	×	○	○
	必修科目 ※商学部第二部	1年次生(24台) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論	×	×	×	×
2年次生以上(23台以前) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論		×	×	○	○	

(注1) 登録制限科目の種類や対象科目等は、p. 47～54の「2 登録制限科目について」を参照してください。

(注2) 登録制限科目②の科目(p. 51～52の表3、およびp. 53～54の表4を参照)の中で、定員に達していない後期開講科目に限り、登録変更期間に定員の範囲内で「先着順」による追加募集を行います。詳細は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加募集で登録が許可された科目も、履修登録の撤回はできません。

(注3) 登録変更期間は登録定員を300人とし、「先着順」による登録制限を行います。前期に登録完了した科目でも、登録エラーの状態のままであれば、エラーを解消するまでの間に当該科目が満員となり登録できなくなることがあります。登録変更時はエラーにならないよう気をつけてください。

(注4) 追加登録を行う場合は、登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。

(注5) 保健体育科目は、学科基本クラスや履修年次等によってあらかじめ時間割が指定されており、指定外の時間割は履修登録できません(p. 59～61の「3 保健体育科目について」を参照)。

2 総合教養科目関係

1 授業科目の学部・学科等指定について

総合教養科目には、1クラス当たりの登録者数を適正な規模にするため、履修登録を認める学部・学科・学科基本クラスをあらかじめ指定する授業科目があります。これらの科目は指定以外の学部・学科等の学生は登録できませんので注意してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

2 登録制限科目について

総合教養科目には、あらかじめ登録者数を制限する授業科目（登録制限科目）があります。登録制限科目は制限理由により、以下の2種類に分かれます。履修希望者は各科目の注意事項および要領等に従い、「履修登録の手引」p.12～13を参照のうえ、申し込んでください。

登録制限科目①…登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目
登録制限科目②…ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目

2-1 登録制限科目①（登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目）

対象学生の年次により、登録者の選考方法が異なります。

【対象学生：2年次生以上】

2年次生以上は「抽選」で登録者を決定します。表1（p.48）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から申し込んでください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出た場合は、科目の選択をやり直し、エラーがない状態にしてください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合はその科目を削除してください。

表1の科目の登録が許可された場合は、登録の取り消しはできません。授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表1 【対象学生：2年次生以上】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間および結果発表
1	倫理学A	中村 未来	前期	木	2	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 14:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
2	倫理学A	広川 明	前期	火	3	150		
3	倫理学A	広川 明	前期	火	4	150		
4	倫理学B	中村 未来	後期	木	2	150		
5	倫理学B	広川 明	後期	月	4	150		
6	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	2	150		
7	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	3	150		
8	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	2	150		
9	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	3	150		
10	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	3	150		
11	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	4	150		
12	宗教学B	岸根 敏幸	後期	月	2	150		
13	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	3	150		
14	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	4	150		
15	日本史A	松木 俊暁	前期	水	4	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 15:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
16	東洋史A	久芳 崇	前期	月	4	150		
17	日本文学B	須藤 圭	後期	金	2	150		
18	芸術A	浦上 雅司	前期	火	2	150		
19	芸術A	落合 桃子	前期	木	4	150		
20	芸術A	川浪 千鶴	前期	金	4	150		
21	芸術B	浦上 雅司	後期	火	2	150		
22	芸術B	落合 桃子	後期	木	4	150		
23	日本国憲法	守谷 賢輔	後期	金	2	150		
24	日本国憲法	守谷 賢輔	前期	金	2	150		
25	政治学A	東原 正明	前期	木	3	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 16:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
26	経済学A	主計 浩	前期	水	3	150		
27	社会学A	井手 靖子	前期	木	2	150		
28	社会学A	高岡 弘幸	前期	月	3	150		
29	社会学A	花野 裕康	前期	金	3	150		
30	社会学B	井手 靖子	後期	木	2	150		
31	社会学B	花野 裕康	後期	金	3	150		
32	地理学A	藤村 健一	前期	木	4	150		
33	心理学A	佐藤 基治	前期	月	4	150		
34	心理学A	古川 善也	前期	水	3	150		
35	心理学A	古川 善也	前期	木	4	150		
36	地球圏科学入門	上原誠一郎	前期	月	2	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 17:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
37	地球圏科学入門	赤木 右	前期	金	2	150		
38	新しい地球観	上原誠一郎	後期	月	2	150		
39	新しい地球観	田上 響	後期	火	2	150		
40	ミクロの生物科学	中川 裕之	前期	木	1	150		
41	ミクロの生物科学	中川 緑	前期	火	2	150		
42	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	1	150		
43	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	2	150		
44	自然科学入門	林 辰弥	前期	月	2	150		
45	自然科学入門	西園 幸久	前期	火	4	150		
46	自然科学入門	中川 緑	前期	木	3	150		
47	自然科学と人間	中川 緑	後期	木	3	150		

【対象学生：1年次生】

1年次生は「先着順」で登録者を決定します。表2（下記および次ページ）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から登録してください。履修登録画面には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。なお、2年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、不足分を1年次生の登録定員に追加して受け付けます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。登録エラーの表示が出た場合は、科目の選択をやり直し、エラーがない状態にしてください。

表2の科目の登録が許可された場合は、登録の取り消しはできません。授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表2 【対象学生：1年次生】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間および結果発表
1	倫理学A	中村 未来	前期	木	2	150	先着順	4月3月（水）12：00～23：59
2	倫理学A	広川 明	前期	火	3	150		
3	倫理学A	広川 明	前期	火	4	150		
4	倫理学B	中村 未来	後期	木	2	150		
5	倫理学B	広川 明	後期	月	4	150		
6	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	2	150		
7	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	3	150		
8	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	2	150		
9	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	3	150		
10	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	3	150		
11	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	4	150		
12	宗教学B	岸根 敏幸	後期	月	2	150		
13	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	3	150		
14	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	4	150		
15	日本史A	松木 俊暁	前期	水	4	150	先着順	4月3月（水）12：30～23：59
16	東洋史A	久芳 崇	前期	月	4	150		
17	日本文学B	須藤 圭	後期	金	2	150		
18	芸術A	浦上 雅司	前期	火	2	150		
19	芸術A	落合 桃子	前期	木	4	150		
20	芸術A	川浪 千鶴	前期	金	4	150		
21	芸術B	浦上 雅司	後期	火	2	150		
22	芸術B	落合 桃子	後期	木	4	150		
23	日本国憲法	守谷 賢輔	後期	金	2	150	先着順	4月3月（水）13：00～23：59
24	日本国憲法	守谷 賢輔	前期	金	2	150		
25	政治学A	東原 正明	前期	木	3	150		
26	経済学A	主計 浩	前期	水	3	150		
27	社会学A	井手 靖子	前期	木	2	150		
28	社会学A	高岡 弘幸	前期	月	3	150		
29	社会学A	花野 裕康	前期	金	3	150		
30	社会学B	井手 靖子	後期	木	2	150		
31	社会学B	花野 裕康	後期	金	3	150		
32	地理学A	藤村 健一	前期	木	4	150		
33	心理学A	佐藤 基治	前期	月	4	150		
34	心理学A	古川 善也	前期	水	3	150		
35	心理学A	古川 善也	前期	木	4	150		

次のページへ続く

表 2 【対象学生：1年次生】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	登録受付日時
36	地球圏科学入門	上原誠一郎	前期	月	2	150	先着順	4月3日(水) 13:30~23:59
37	地球圏科学入門	赤木 右	前期	金	2	150		
38	新しい地球観	上原誠一郎	後期	月	2	150		
39	新しい地球観	田上 響	後期	火	2	150		
40	ミクロの生物科学	中川 裕之	前期	木	1	150		
41	ミクロの生物科学	中川 緑	前期	火	2	150		
42	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	1	150		
43	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	2	150		
44	自然科学入門	林 辰弥	前期	月	2	150		
45	自然科学入門	西園 幸久	前期	火	4	150		
46	自然科学入門	中川 緑	前期	木	3	150		
47	自然科学と人間	中川 緑	後期	木	3	150		

2 - 2 登録制限科目②

(ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目)

対象科目の種類や対象学生の年次により登録者の選考方法が異なりますので注意してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。登録エラーの表示が出た場合は、科目の選択をやり直しエラーがない状態にしてください。

【対象科目：教養ゼミを除く科目】

「先着順」で登録者を決定します。表3の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から登録してください。登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

●表3の科目に関する注意事項

- ①「登録定員」欄に示した人数は2年次生以上と1年次生の合計定員です。
- ②表3の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表3 授業形態に合わせて登録者数を制限する科目（教養ゼミの科目を除く）

No.	科目名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
1	哲学A	大西 克智	前期	木	2	80	全学年	<p>●【2年次生以上】 先着順 3月21日(木)12:00~ 3月23日(土)23:59</p> <p>●【1年次生】 先着順 4月3日(水) 9:30~23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木)9:00~</p> <p>(1年次生のみを対象に先着順で追加募集を実施)</p>
2	哲学A	大西 克智	前期	木	3	80	全学年	
3	哲学B	大西 克智	後期	木	2	80	全学年	
4	哲学B	大西 克智	後期	木	3	80	全学年	
5	論理学A	林 誓雄	前期	火	4	150	全学年	
6	論理学A	林 誓雄	前期	水	2	150	全学年	
7	論理学A	林 誓雄	前期	金	3	150	全学年	
8	論理学A	林 誓雄	前期	金	2	150	全学年	
9	論理学B	林 誓雄	後期	火	4	150	全学年	
10	論理学B	林 誓雄	後期	水	2	150	全学年	
11	論理学B	林 誓雄	後期	金	3	150	全学年	
12	論理学B	林 誓雄	後期	金	2	150	全学年	
13	宗教学B	飯嶋 秀治	後期	木	1	100	全学年	
14	人文地理学	近藤 祐磨	後期	火	1	200	全学年	
15	アジアの文学A	間 ふさ子	前期	金	1	60	全学年	
16	アジアの文学A	何 憶鶴	前期	水	1	80	全学年	
17	アジアの文学B	何 憶鶴	後期	水	1	80	全学年	
18	経済学A	楊 光洙	前期	火	4	40	全学年	
19	経済学A	楊 光洙	前期	火	5	40	全学年	
20	経済学B	楊 光洙	後期	火	4	40	全学年	
21	経済学B	楊 光洙	後期	火	5	40	全学年	
22	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	2	200	全学年	
23	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	4	200	全学年	
24	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	3	200	全学年	
25	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	5	200	全学年	
26	心理学A	大上 渉	前期	火	3	200	全学年	
27	心理学A	大上 渉	前期	火	4	200	全学年	

次のページへ続く

表3 授業形態に合わせて登録者数を制限する科目（教養ゼミの科目を除く）

No.	科目名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
28	心理学 B	大上 渉	後期	火	3	200	全学年	<p>●【2年次生以上】 先着順 3月21日(木)12:00～ 3月23日(土)23:59</p> <p>●【1年次生】 先着順 4月3日(水) 9:30～23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木)9:00～</p> <p>(1年次生のみを対象に先着順で追加募集を実施)</p>
29	心理学 B	大上 渉	後期	火	4	200	全学年	
30	地誌学	近藤 祐磨	前期	月	二部2	200	商二部全学年	
31	福岡大学で考える現代社会	岩山 隆寛	前期	木	5	100	24～23台のみ	
32	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	2	24	24～23台のみ	
33	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	3	24	24～23台のみ	
34	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	前期	金	2	24	24～23台のみ	
35	福岡大学で考える現代社会	飛田 努	後期	金	2	100	24～23台のみ	
36	福岡大学で考える現代社会	橋場 論	前期	水	5	40	24～23台のみ	
37	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	後期	月	5	40	24～23台のみ	
38	福岡大学で考える現代社会	熊丸 憲男	後期	火	4	12	24～23台のみ(文系)	
39	福岡大学で考える現代社会	熊丸 憲男	後期	火	4	13	24～23台のみ(理系)	
40	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	1	200	24台のみ	
41	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	2	200	24台のみ	
42	アカデミックスキルズゼミ I	紺田 広明	前期	火	5	40	24～23台のみ	
43	アカデミックスキルズゼミ I	道山 治延	前期	木	1	36	24～23台のみ	
44	アカデミックスキルズゼミ II	吉田 秀幸	後期	木	1	48	24～23台のみ	
45	アカデミックスキルズゼミ II	鈴木 学	後期	火	5	50	24～23台のみ	
46	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3	50	24台のみ	
47	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2	50	24台のみ	

【対象科目：教養ゼミの科目】

対象学生：2年次生以上

2年次生以上は「抽選」で登録者を決定します。表4（p.53～54）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「選択科目を選択」から申し込んでください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合はその科目を削除してください。

対象学生：1年次生

1年次生は「先着順」で登録者を決定します。表4（p.53～54）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「選択科目を選択」から登録してください。なお、2年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、不足分を1年次生の登録定員に追加して受け付けます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

●表4の科目に関する注意事項

- ①「教養ゼミ」の科目は前期1科目、後期1科目、前期と後期の合計で2科目までしか登録できません。前期または後期に2科目以上登録しようとする、登録エラーになります。
- ②「登録定員」欄に示した人数は2年次生以上と1年次生の合計定員です。
- ③「教養ゼミ」の科目は定期試験を実施しない授業科目であるため、再試験は実施しません。
- ④表4の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業時間割との重複等に十分に注意して申請してください。

表4 「教養ゼミ」の科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	備考	選考方法および登録受付日時
1	哲学A (哲学入門)	竹花 洋佑	前期	水	2	15		<p>【2年次生以上】 …抽選 ●申込期間 3月21日(木) 12:00～23:59</p> <p>●結果発表 3月22日(金) 16:00</p> <p>●登録定員に達しない場合 3月25日(月) 12:00～ 先着順で追加募集を実施</p> <p>【1年次生】 …先着順 ●登録期間 4月3日(水) 9:30～23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木) 12:00～ 先着順で追加募集を実施</p>
2	哲学B (政治哲学入門)	竹花 洋佑	後期	火	4	15		
3	倫理学A (中国古典に見る人間観)	中村 未来	前期	火	4	16		
4	倫理学B (無為自然を説く道家の世界)	中村 未来	後期	水	2	16		
5	宗教学A (生の教説①)	小笠原史樹	前期	金	5	15		
6	宗教学B (生の教説②)	小笠原史樹	後期	金	5	15		
7	日本史A (日本近代史を学び憲法改正問題を考える)	梶原 良則	前期	月	3	15	登録対象: 24台のみ	
8	日本史B (沖縄の歴史を学び基地問題を考える)	梶原 良則	後期	月	3	15	登録対象: 24台のみ	
9	東洋史A (現代中国・アジアについて語る)	山根 直生	前期	木	3	15		
10	東洋史B (現代中国・アジアについて語り、議論する)	山根 直生	後期	木	3	15		
11	西洋史A (疫病の歴史を考える)	渡邊 裕一	前期	火	4	16		
12	西洋史B (「私たち」から見る日米関係史)	森 丈夫	後期	水	2	20		
13	日本文学A (近現代文学の精読と分析)	畑中 佳恵	前期	火	2	20	登録対象: 24台のみ	
14	日本文学B (ミャークフツ入門)	衣畑 智秀	後期	月	3	30		
15	日本文学A (『徒然草』輪読)	大坪 亮介	前期	木	3	20		

次のページへ続く

表4 「教養ゼミ」の科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	登録 定員	備考	選考方法および 登録受付日時
16	日本文学B (日本近現代の短編小説を読む)	永井 太郎	後期	水	4	15		【2年次生以上】 …抽選 ●申込期間 3月21日(木) 12:00~23:59 ●結果発表 3月22日(金) 16:00 ●登録定員に達 しない場合 3月25日(月) 12:00~ 先着順で追加 募集を実施 【1年次生】 …先着順 ●登録期間 4月3日(水) 9:30~23:59 ●登録定員に達 しない場合 4月4日(木) 12:00~ 先着順で追加 募集を実施
17	西洋文学A (Speculative Japan 2)	クロス テイモシー	前期	月	4	16	授業は 英語で実施	
18	西洋文学B (Speculative Japan 3)	クロス テイモシー	後期	月	4	16	授業は 英語で実施	
19	経済学A (社会科学の基礎を学ぶ)	武井 敬亮	前期	金	2	15		
20	経済学B (アダム・スミス『道徳感情論』を読む)	武井 敬亮	後期	金	2	15		
21	教育論A (戦没学生の手記を読もう)	勝山 吉章	前期	木	2	15	登録対象: 24台のみ	
22	地理学A (現実世界の多様性を考えるI)	磯田 則彦	前期	水	3	15		
23	地理学B (現実世界の多様性を考えるII)	磯田 則彦	後期	水	3	15		
24	地理学A (地域の学術的探究I)	近藤 祐磨	前期	火	5	15		
25	地理学B (地域の学術的探究II)	近藤 祐磨	後期	火	4	15		
26	心理学A (犯罪者プロファイリングとは何か)	大上 渉	前期	水	4	14		
27	心理学B (「パワーハラスメントの理解と対策」)	大上 渉	後期	水	4	14		
28	心理学A (心の仕組みを学ぶ)	縄田 健悟	前期	木	3	15		
29	心理学B (心の働きを学ぶ)	縄田 健悟	後期	木	3	15		
30	文化人類学A (文化人類学の思考を学ぶ)	中村 亮	前期	月	2	15		
31	文化人類学B (身近な文化を調べ考える力を身に付ける)	宮岡真央子	後期	月	3	16		
32	物理科学入門 (ためして物理を理解する)	西 憲敬	前期	月	5	16		
33	生活と環境の化学 (衣食住の実験化学)	松原 公紀	後期	火	3	12		

3 総合系列科目について

総合系列科目は、現代の諸問題を考える科目です。授業はオムニバス（学部や専門分野の異なる複数の教員が授業を担当する）形式で行われます。

履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 47「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申し込んでください。

表 5 - 1 総合系列科目（22台以前）

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	地球環境 (資源循環と地球環境)	山本 俊浩	後期	水	5	有	
2	国際化と日本 (ヨーロッパを知る-その多様性と統一-)	辻部 大介	後期	月	5	有	
3	国際化と日本 (グローバルな平和論)	渡邊 裕一	後期	月	5	有	
4	国際化と日本 (東アジアと福岡)	三島 健司	後期	金	4	有	
5	国際化と日本 (Globalization of Japan)	鈴木 孝将	後期	金	5	有	
6	現代を生きる (災害から自分や家族を守る)	重松 幹二	後期	水	5	有	

表5-2 総合系列科目（23台以降）

科目名：「福岡大学で考える現代社会」

No.	サブタイトル	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	ものづくり体験から学ぶ企画・制作力	熊丸 憲男	後期	火	4	無	登録制限科目②
2	Innovation for a Sustainable Society (サステナビリティのためのイノベーション)	安井 英俊	前期	火	4	無	
3	貨幣の謎 -新型コロナウイルスから解明する	山崎 好裕	後期	火	4	有	
4	皆で考える地球温暖化とカーボンニュートラル	岩山 隆寛	前期	木	5	無	登録制限科目②
5	大学生のための現代社会論	鈴木 学	後期	火	2	無	登録制限科目②
6	大学生のための政治経済論	鈴木 学	後期	火	3	無	登録制限科目②
7	「言葉の力」を身につける	須長 一幸	前期	金	2	無	登録制限科目②
8	多職種連携で支える人生100年時代	安元 佐和	前期	木	5	無	
9	アントレプレナーシップを学ぶ	飛田 努	後期	金	2	有	登録制限科目②
10	資源循環と地球環境	山本 俊浩	後期	水	5	有	
11	グローバルな平和論	渡邊 裕一	後期	月	5	有	
12	ヨーロッパを知る -その多様性と統一-	辻部 大介	後期	月	5	有	
13	東アジアと福岡	三島 健司	後期	金	4	有	
14	Globalization of Japan	鈴木 孝将	後期	金	5	有	
15	災害から自分や家族を守る	重松 幹二	後期	水	5	有	
16	主体性・社会性・協働性を身につける	橋場 論	前期	水	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
17	主体性・社会性・協働性を身につける	須長 一幸	後期	月	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ

4 学修基盤科目について

学修基盤科目は、学問と向き合うための正しい姿勢や学問的技法、学ぶことの意義を理解するための科目です。なお、履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 47「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申し込んでください。

表 6 学修基盤科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	福大生のためのキャリアデザイン (大学生活を設計する)	植上 一希	前期	火	1	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
2	福大生のためのキャリアデザイン (大学生活を設計する)	植上 一希	前期	火	2	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
3	アカデミックスキルズゼミ I (読む・書く・話す・聞くことのレッスン)	紺田 広明	前期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
4	アカデミックスキルズゼミ I (読む・書く・話す・聞くことのレッスン)	道山 治延	前期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
5	アカデミックスキルズゼミ II (思考と発想のレッスン)	鈴木 学	後期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
6	アカデミックスキルズゼミ II (思考と発想のレッスン)	吉田 秀幸	後期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
7	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
8	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
9	データサイエンス・AI 入門	香野 淳	前期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
10	データサイエンス・AI 入門 BB	香野 淳	前期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
11	データサイエンス・AI 入門	香野 淳	後期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
12	データサイエンス・AI 入門 BB	香野 淳	後期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ

データサイエンス・AI 入門の詳細については、p. 58「学修基盤科目 データサイエンス・AI 入門について」を参照してください。

5. 履修登録の停止について

総合教養科目では、大学が定める登録者数の上限を超えた科目が発生した場合、履修登録の途中でであってもその科目の登録受付を停止することがあります。

登録停止となった科目については、FU ポータルのお知らせを確認してください。

学修基盤科目 データサイエンス・AI 入門について

●科目の概要

インターネットやニュースなどでよく見聞きするようになった「AI」とは何か知っていますか。現在、膨大なデータを収集して傾向などを分析し、社会やビジネスの課題解決につなげることを目指すデータサイエンスやAI（Artificial Intelligence：人工知能）の利活用が盛んになっています。これからはAIの時代とも言われ、文系・理系を問わず大学生のうちに、データサイエンス・AIの知識・技術を学び、素養（デジタル社会の読み・書き・そろばん）を身に付けておくことが求められています。

この科目は、データサイエンス・AIについて学び、そのリテラシー（適切に理解し、活用する力）を習得するための入門科目で、全学部の1年次生が履修できる共通教育科目として2022年度から新たに開講されています。e-Learningを活用し、オンデマンド型で学ぶことができるため、都合の良い時間に受講することができます（受講する曜日・時限は決まっておらず、自ら計画を立てて学んでいきます）。

科目の詳細については、シラバスを参照してください。

※文部科学省が推進する認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容となっています。

●身に付けることができる能力

- データサイエンス・AIの必要性を理解し、説明できるようになる
- 社会で活用されているデータ・AI活用の事例について説明できるようになる
- どのような思考方法でデータを扱うかを理解し、説明できるようになる
- データを読み、説明できるようになる
- Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱えるようになる
- データ・AIを扱う上での留意事項を説明できるようになる
- 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢を身に付ける

●e-Learning を活用したオンライン学習の科目

本科目は、オンライン上でe-Learningを使って自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。所定の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学習を進め、また各回の小テストや課題に取り組むことで理解を深めていきます。

●学びを深めるサポート体制

オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で質問を受け付け、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。

●対象学生

全学部1年次生

●開講学期

前期と後期に開講

●履修登録方法

4月4日(木)～4月5日(金)のweb履修登録期間中に、履修登録画面最下部の「集中講義科目等を選択」ボタンから前期または後期いずれかの科目を選択して登録します。

※履修登録の「撤回」、「後期登録変更」はできませんのでご注意ください。

3 保健体育科目について

本学の保健体育科目は、生涯スポーツ演習と生涯スポーツ論より構成されています。前者は実技と理論による演習形式で、後者は講義形式で実施されます。

生涯スポーツ演習は、学生が様々なスポーツ活動の体験・学習を通して、その楽しさを知るとともに、心身の健康を回復・保持・増進し、学生生活を豊かにすることを目的としています。また、学生が生涯にわたるスポーツ活動の必要性を、健康・体力のみならず、生きがいという面からも理解し、その実践に必要な技能・知識・態度を身につけることも目的としています。

生涯スポーツ論は、学生が本学スポーツ科学部編集のテキスト(『大学生のスポーツと健康生活』)によって、健康の増進に寄与する科学的知識を学ぶとともに、スポーツ活動に関わる自然・人文・社会科学的な理解を深めることで、スポーツ活動を生涯にわたって「行う」「観る」「支える」「調べる」ようになることを目的としています。

こうした保健体育科目での学修を通して、学生が在学期間のみならず、生涯にわたって様々なスポーツ活動に親しみ、健康で充実した生活を送れるようになることを目指しています。

1 登録手続等について

スポーツ科学部以外の学部

<p>生涯スポーツ演習Ⅰ (前期または後期) 生涯スポーツ演習Ⅱ (前期または後期)</p>	<p>1年次生(24台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください(但し、医学部医学科を除く)。</p> <p>2年次生以上(23台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>ただし、前・後期の火曜日2～4時限、前・後期の金曜日1時限、前・後期の金曜日3時限は再履修者は登録できません。</p> <p>[次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。] ※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。</p>
<p>生涯スポーツ演習Ⅲ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅳ(後期) ※理・薬学部のみ</p>	<p>授業時間割で決められた曜日・時限(理学部：火曜2限、薬学部：金曜4限)に登録してください。</p> <p>※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。</p>
<p>生涯スポーツ論 (前期または後期)</p>	<p>2年次生(23台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。生涯スポーツ論を必修科目としている人文学部、法学部、経済学部、商学部については、授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。なお、別科目の受講を優先する等の事情により2年次生での受講を希望しない場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>生涯スポーツ論を選択科目としている理学部、医学部看護学科、薬学部については、授業時間割で決められた曜日・時限に登録してください。</p> <p>3年次生以上(22台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>[次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。]</p>

スポーツ科学部

生涯スポーツ演習Ⅰ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅱ(後期) 生涯スポーツ演習Ⅲ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅳ(後期)	授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。詳しくは授業開始前に掲示にてお知らせします。
--	--

生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱクラス分け一覧

時 限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	I : CB 1-4 II : CB 5-6	I : CB 5-6 II : CB 1-4	I : JB 1-3 II : JB 4-5	I : JB 4-5 II : JB 1-3	I : JJ 4-6	II : JJ 4-6	I : JJ 1-3 I : MM(20名) I : 保健コース II : 保健コース	II : JJ 1-3 II : MM(20名) I : 保健コース II : 保健コース	II : EE 1-4	I : EE 1-4
2	I : CF 1-2 II : CF 3-4	I : CF 3-4 II : CF 1-2	II : EE 5-8	I : EE 5-8	I : JJ 7-9 I : MM(30名) II : LG・JJ10	I : LG・JJ10 II : JJ 7-9 II : MM(30名)	I : CC 1-3 II : CC 4-6	I : CC 4-6 II : CC 1-3	I : PP 1-2 II : PP 3-6	I : PP 3-6 II : PP 1-2
3	I : SM・SP II : SC・SE	I : SC・SE II : SM・SP	II : EE 9-12 II : MM(10名)	I : EE 9-12 I : MM(10名)	I : TM II : TE	I : TE II : TM	I : EI 1-2 II : EI 3-4 I : GS・GH	I : EI 3-4 II : EI 1-2 II : GS・GH	I : TL 1-2 I : MM(20名) II : TL 3-4	I : TL 3-4 II : TL 1-2 II : MM(20名)
4	I : TA・LP 1 II : TK・LP 2	I : TK・LP 2 II : TA・LP 1	I : LF・LA I : MM(30名) II : MN	I : MN II : LF・LA II : MM(30名)	II : TC	I : TC	I : LC II : LH I : 保健コース II : 保健コース	I : LH II : LC I : 保健コース II : 保健コース	I : LE・LJ	II : LE・LJ

(注1) 前・後期の火曜2～4時限、前・後期の金曜1時限、前・後期の金曜3時限は再履修者は登録できません。

(注2) 前・後期の木曜3限目のGS・GHクラスはスポーツ科学部の学生のみ履修可能。

(注3) 医学部医学科(MM)の新入生は、指定する複数クラス(火曜3時限、火曜4時限、水曜2時限、木曜1時限、金曜3時限)の中から先着順で登録者を決定します。なお、登録要領等については、履修登録ガイダンスの際にお知らせします。

生涯スポーツ論クラス分け一覧

時 限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	LC・LH	LJ・LE LP・P	EE 1-3	EE 4-6	EE 7-9	EE 10-12	EI 1-2	EI 3-4	CF 1-2	CF 3-4
2	JJ 1-3	JJ 4-6	CC 1-3 S	CC 4-6 S	JJ 7-8	JJ 9-10	CB 1-3	CB 4-6	JB 1-3	JB 4-5
3	LG・LF・LA MN・P									

2 保健コースについて

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱの履修者のうち、疾患および障がい等のため激しい運動ができない学生を対象とします。
- 保健コースの登録を希望する人は、まず時間割で指定されたクラスに出席してください。第1週目の授業(オリエンテーション)にて面談を行います。その結果、コースの変更が必要と判断された場合は、保健コース(木曜日1時限または4時限)への変更手続きを行います。なお、変更手続きの際に診断書の提出を求めることもあります。

3 その他

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび生涯スポーツ論における前期・後期の登録撤回、および後期の登録変更の取り扱いについては、「共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更につ

いて」(p. 46)を参照してください。

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業ではトレーニングウェア(水泳の場合には水着)を着用してください。また、体育館シューズも用意してください。詳しくは授業1週目のオリエンテーションで説明します。
- 令和6年度は、生涯スポーツ演習Ⅱのスキーを実施する予定です。生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択できるのは、医学部と薬学部を除く学部の3年次生までの学生です。

なお、生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択する人は実習費として100,000円程度必要になります(実習費は12月に徴収します)。但し、経済状況により実習費は変動することがあります。実習地は山形県蔵王スキー場を予定しています。

4 外国語科目

共通教育科目の外国語科目は、7つの外国語と学部留学生を対象とした日本語（注1）が設置されています。各学部・学科の外国語科目の開講は下表の通りです。

2024年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表

学部・学科		外国語科目			
		第1外国語		第2外国語（注5）	
人文学部	文化学科・歴史学科 日本語日本文学科 教育臨床心理学科 英語学科	英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	ドイツ語学科	ドイツ語	必修(8単位)	・英語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	フランス語学科	フランス語	必修(8単位)	・英語・ドイツ語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	東アジア地域言語学科 (注2)	中国語・朝鮮語・英語……必修(12単位) および選択必修(4単位) 英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語……選択			
法・経済・商学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
商学部第二部 (注3)		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
理工学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (4単位)
薬学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
医学部	医学科	英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
	看護学科 (注4)	英語……必修(8単位) ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語 ……選択必修(2単位)			
スポーツ科学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択

(注1) 学部留学生を対象とした日本語の取り扱いについては、P. 70「学部留学生のための授業科目「日本語」について」を参照してください。

(注2) 人文学部東アジア地域言語学科については、第1外国語・第2外国語の区別はありません。

(注3) 商学部第二部について、2023年度(23台)以前入学生は、ロシア語・スペイン語を除く4科目が開講されます。

(注4) 医学部看護学科については、第1外国語・第2外国語の区別はありません。

(注5) 第2外国語が、同一言語で4単位以上修得しない場合に、卒業要件単位として認められないことがあります。学部によって取扱いが異なりますので注意してください。

(注6) この他に選択科目として、アドバンスト・イングリッシュ(L(LH, LJ)・S・Mを除く学部)が開講されています。

1 外国語科目の履修登録について

●外国語科目の履修は、下位年次科目から順次登録しなければなりません。

●外国語科目は、履修登録の撤回・後期開講科目の登録変更を認めていません。

※アドバンスト・イングリッシュⅡ（後期科目）のみ、所定の登録人数に達しない場合に限り、登録変更期間に追加登録を行います。追加登録を行う場合は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加登録を行った場合も履修登録の撤回はできません。

●英語の履修登録について

英語には以下の3種類があり（カッコ内は略称）、アドバンスト・イングリッシュ以外は履修するクラスが決まっています。クラスは事前に登録してありますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。

フレッシュマン・イングリッシュ（FE）

インターミディエイト・イングリッシュ（IE）

アドバンスト・イングリッシュ（AE）

- ※1 アドバンスト・イングリッシュは開講される学部・学科・年台が決まっています。授業科目表を参照してください。履修希望者は各自で履修登録が必要です。
- 2 東アジア地域言語学科のFEⅢ・ⅣとIEⅢ・Ⅳは、事前登録を行いませんので各自で履修登録してください。
- 3 人文学部ドイツ語学科とフランス語学科は各自で英語の事前登録を取り消すことができます。
- 4 休学や留年等によりFE・IEの履修年度が遅れた場合は再履修と同様各自で履修登録が必要です。下の「●再履修の履修登録について（2年次生以上）」を読んでください。



履修登録画面の時間割表に事前登録されている英語の科目の④をクリックすると【履修科目の詳細情報】が表示され、クラスを確認することができます。

●その他の外国語の履修登録について

選択する外国語によって、登録するクラスが指定されている科目や、いくつかのクラスの中から選んで登録できる科目、登録できるクラスのペアが定められている科目などがあります。詳細は「3 英語以外の外国語について」（p. 69～）を読んでください。

●再履修の履修登録について（2年次生以上）

再履修の場合は、英語・その他の外国語ともに事前登録はしませんので各自で履修登録が必要です。

また、再履修クラスが開講されている科目と、開講されていない科目があります。再履修クラスが開講されていない場合、所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録することができます。その場合、自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。

詳細は各語学の説明（p. 65～67、p. 70）を読んでください。

●「海外英語研修」

全学部を対象に「海外英語研修」（2単位）を開設しています。応募方法など詳細はp. 107の「2 海外研修・海外語学研修」を参照してください。

なお、この科目は研修に参加した翌年度に単位を認定する科目です。

2 英語の履修について

●フレッシュマン・イングリッシュ I～IV（1年次生）

フレッシュマン・イングリッシュ（以下 FE）は前期・後期とも週2回の授業があります。事前に受講するクラスが決められていて、下表の [例1] または [例2] のどちらかのパターンで1年間に3種類の目的別クラスを受講します。

	科目名	例1	例2
前期	FE I	R&L	R&L
	FE III	IA	ESP
後期	FE II	R&L	R&L
	FE IV	ESP	IA

R&L：リーディング&リスニング（前期・後期とも）

ESP：検定対策英語（前期または後期どちらか）

I A：インタラクティブ英語（前期または後期どちらか）

- ※1 人文学部東アジア地域言語学科は FE I・II のみが必修科目ですが、選択科目として FE III・IV を履修することができます。
- 2 医学部医学科の FE I～IV は、すべて前期科目です。
- 3 アスリート特別選抜および留学生クラスの FE I～IV は目的別クラスではありません。

プレイズメントテストについて

インターミディエイト・イングリッシュで受講する目的別クラスを決めるために、授業時間外にプレイズメントテストを実施します。プレイズメントテストを受験しない場合は、受講クラスの希望を受け付けられませんので注意してください。実施については、FE II の授業内および FU ポータルのお知らせで通知します。

●インターミディエイト・イングリッシュ I～IV（2・3年次生）

インターミディエイト・イングリッシュ（以下 IE）I～IV は、学部・学科により履修年次が異なりますので、各学科の年次別授業科目表で履修年次を確認してください。

IE は「目的別クラス選択制」を導入しています。開講クラスは下記のとおりで、プレイズメントテスト受験の際に選択した希望順位をもとに受講クラスが決定され、事前登録されています。IE I～IV すべて同じ種類の目的別クラスを受講します。

R&W：リーディング&ライティング

ESP：検定対策英語

C&O：CALL & オーラル・コミュニケーション

- ※1 人文学部東アジア地域言語学科は IE I・II のみが必修科目ですが、選択科目として IE III・IV を履修することができます。
- 2 医学部医学科の IE I～IV は、すべて1年次の後期科目です。
- 3 アスリート特別選抜および留学生クラスの IE I～IV は目的別クラスではありません。

●アドバンスト・イングリッシュ I・II（3年次生以上、L（LH, LJ）・S・Mを除く学部）

アドバンスト・イングリッシュ（以下 AE）は、I あるいは II のみの受講も可能です。必修科目ではありませんので、履修希望者は履修登録が必要です。なお、AE は TOEIC[®] Listening & Reading Test のスコアが500点以上相当の英語運用能力を有する学生を想定した授業内容となっていますので、500点に満たない場合は、単位の取得が困難となる場合がありますので、注意してください。

●再履修について (FE・IE)

FE と IE を再履修する場合は、再履修者用のクラスを受講するか、下位年次生が受講するレギュラークラス (目的別クラス) で受講するかを選択することができます。

再履修クラスを受講する場合

下記《再履修クラス登録方法》を参照のうえ、自分で履修登録をしてください。

前期卒業する場合

「FE II・IV」および「IE II・IV」は本来後期科目ですが、前期にも各1クラス開講しています。

これらの科目の履修が必要な場合、このクラスに履修登録しなければなりません。

登録人数には定員を設けており、先着順に受け付けますので、早めに履修登録してください。

【注意】上記4クラスの定期試験は二部(夜間部)の時間帯で実施しますので、履修登録時に試験日・時限を必ず確認してください。

※ 医学部医学科の学生(再履修者)は、医学部事務課の窓口で指示を受けてください。

《再履修クラス登録方法》

[1] 下表で、再履修しようとする科目の講義形態を確認してください。

学部によって受講できる講義形態が決まっていますので注意してください。

【英語再履修クラスの講義形態】

学部・学科	科目	講義形態	定期試験日程	講義日程
人文学部 法学部 経済学部 商学部 スポーツ科学部	FE I・III	前期科目	定期試験期間中に実施。	p. 66 [2] へ
	FE II・IV	前期科目	定期試験期間中に 二部の時間帯 で実施。	
		後期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE I・III	前期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE II・IV	前期科目	定期試験期間中に 二部の時間帯 で実施。	
後期科目		定期試験期間中に実施。		
理・工・薬学部 医学部看護学科	FE I～IV	夏季集中講義	夏季集中講義期間中に実施。	p. 67 [3] へ
	IE I～IV			

※ 工学部社会デザイン工学科の3年次以上で、キャリアデザインを登録する学生は「前期科目」または「後期科目」で受講してください。

[2] 下表で受講するクラスの期別・日程を確認してください。

【再履修クラス】

フレッシュマン・イングリッシュ (FE)

科目	学部 学科	組	期別	曜日	時 限	担 当 者
FE I	L J E C G	再①	前期	火	5	石 垣 恵 一
		再②		水	5	津 村 早 紀
		再③		金	4	伊 藤 益 代
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		井 石 哲 也
FE II	L J E C G	再①	後期	火	5	今 川 京 子
		再②		水	5	毛 利 優 花
		再③		金	4	一 瀬 陽 子
		再④	前期	火	5	平 野 あかり
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		毛 利 史 生
FE III	L J E C G	再①	前期	水	4	高 木 留 美
		再②		木	4	坂 井 隆
		再③		金	5	石 垣 恵 一
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		ク ロ ス
FE IV	L J E C G	再①	後期	水	4	福 原 俊 平
		再②		木	4	津 村 早 紀
		再③		金	5	久 保 佑 輔
		再④	前期	金	5	久 保 佑 輔
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		秋 好 礼 子

インターミディエイト・イングリッシュ (IE)

科目	学部 学科	組	期別	曜日	時 限	担 当 者
IE I	L J E C G	再①	前期	月	4	大 村 孝 紀
		再②		火	4	川 村 真 央
		再③		木	5	渡 部 智 也
		再④		金	4	大 津 敦 史
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		光 富 省 吾
IE II	L J E C G	再①	後期	月	4	園 田 暁 子
		再②		火	4	岩 崎 雅 之
		再③		木	5	秋 好 礼 子
		再④		金	5	船 田 佐 央 子
		再⑤	前期	月	5	福 田 慎 司
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		古 賀 恵 介
IE III	L J E C G	再①	前期	月	5	高 橋 美 知 子
		再②		火	4	田 中 悠 介
		再③		水	4	福 原 俊 平
		再④		木	4	船 田 佐 央 子
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		毛 利 史 生
IE IV	L J E C G	再①	後期	月	5	樋 渡 真 理 子
		再②		火	5	迫 由 紀 子
		再③		水	4	高 木 留 美
		再④		木	4	光 富 省 吾
		再⑤	前期	月	4	園 田 暁 子
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		福 原 俊 平

3月21日(木)からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録から履修申請をしてください。半期完結の再履修クラスは1クラスあたりの登録人数に定員を設けていて、先着順に受け付けます。登録ができない場合は他の再履修クラスに履修申請してください。

[3] 夏季集中講義について

このクラスを受講できるのは、理・工・薬学部および医学部看護学科の学生のみです。それ以外の学部学生は受講できませんので注意してください。

【夏季集中講義日程】

期別	科目名	期 間	授業時間	試験日・時限
前期	FE I・III IE I・III	8月5日(月)～9日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	8月9日3限目 (13:00～14:00)
後期	FE II・IV IE II・IV	9月2日(月)～6日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	9月6日3限目 (13:00～14:00)

※ 授業時間 [1時限] 9:00～10:30 [2時限] 10:40～12:10 [3時限] 13:00～14:30

3月21日(木)からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録の履修申請画面で「集中講義科目等を選択」から受講するクラスを選択し、履修申請してください。各クラスとも登録人数に定員はありませんが、前期と後期1科目ずつしか登録できませんので、**複数の再履修がある場合**、夏季集中講義に登録できない再履修科目は前期科目または後期科目の再履修クラスに履修登録してください。また、履修登録期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きすれば、希望する曜日・時限のレギュラークラスに登録することも可能です。

レギュラークラスで受講する場合

自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。登録できるクラス・人数に定員がありますので、早めに申し出てください。

また、休学等により、当該年次の英語が受講できなかった場合も、レギュラークラスを受講することができます。

- ※1 商学部第二部の学生（再履修者）がレギュラークラスへの登録を希望する場合は、商学部第二部事務課に相談してください。
- 2 再履修者のレギュラークラスへの登録方法については、共通教育センターのホームページ(<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/>)に詳しい説明を掲載しています。

TOEIC® L&R の成績による単位認定について

1. 本学入学後に受験した TOEIC® Listening & Reading Test (以下 TOEIC® L&R) の成績により、2024年度履修登録科目の中から下表の通り 4 単位を上限として認定を申請することができます。

認定授業科目 (単位)	TOEIC® L&R 成績	認定上限 単位数	成績標語 評価
フレッシュマン・イングリッシュ I～IV (各 1 単位)	860点以上	4 単位	秀(A) 90点
	730点～859点	3 単位	
インターメディアイト・イングリッシュ I～IV (各 1 単位)	600点～729点	2 単位	
	550点～599点	1 単位	

- ※ 1 単位認定科目は、申請時に履修登録されている上表の認定授業科目の中から認定上限単位数の範囲内で申請者が選択することができます。
- 2 上表の科目を再履修する場合でも単位認定を申請できますが、履修登録をしていなければ申請できませんので、注意してください。なお、再履修は下位年次から順次登録しなければなりません。
- 3 申請後、休学等により登録科目が取り消される場合、TOEIC® により認定された科目がそこに含まれる時は、認定も取り消されます。
- 4 TOEIC® L&R の成績により単位認定された授業科目は、特待生の選考にあたって考慮されません。また、GPA 評価の対象にもなりません。

2. 単位認定の申請受けは、下表の要領で 4 月と 9 月に行います。大学入学後に受験した TOEIC® L&R の成績により単位認定しますので 1 年次生は 4 月に申請することはできませんが、9 月に後期科目の単位認定を申請することができます。

申請期間	2024年 4 月 11 日 (木)～ 4 月 17 日 (水)	2024年 9 月 16 日 (月)～ 9 月 20 日 (金)
認定科目	2024年度前・後期登録科目の FE と IE	2024年度後期登録科目の FE と IE (再履修の夏季集中講義を除く)
受付場所	文系センター棟 1 階 共通教育センター (受付時間 月～金曜日の中の授業日 8:50～16:50)	
提出物	(1) TOEIC® L&R の成績による単位認定申請書 (2) 公開テストのデジタル公式認定証を印刷したものと URL または IP テストのスコアレポート (原本)	
対象となる成績	申請日から過去 1 年以内に取得した TOEIC® L&R の成績 (入学前に受験したものは不可)	

- ※ 1 一度単位認定申請に使用した TOEIC® L&R の成績は、申請科目数が認定上限単位数に満たない場合でも再度認定申請に使用することはできません。
- 2 TOEIC® L&R 単位認定に使えるのは、公開テストおよび対面で実施された IP テストの成績です。IP テストは本学内でキャリアセンターが実施しており、団体価格で受験できます。なお、IP テスト (オンライン) のテスト結果は単位認定には使用できません。
- 3 共通教育外国語科目は、後期開講科目の履修登録を変更することはできませんので、9 月に単位認定を申請できる科目は、前期開講前に履修登録した後期登録科目に限り (夏季集中講義については、9 月に単位認定を申請することはできません)。
- 4 商学部第二部の学生に限り、申請期間中の受付時間内に申請ができない場合は、商学部第二部事務課の窓口事務時間内に提出物を提出してください。後日共通教育センターより申請の可否について連絡します。なお、申請期間以外の申請は受け付けません。
- 5 デジタル公式認定証を利用する申請には、スマートフォン等モバイル端末を窓口を持参してください。

3. TOEIC® L&R の成績による単位認定を受けた者が、その後更に上位の成績を取得した場合には再度単位認定を申請することができます。ただし、認定上限単位数から既に認定を受けた単位数を差し引いた単位数までしか申請できません。

4. IE III・IV が 3 年次科目の場合 (理学部・工学部・スポーツ科学部) は、2 年次に 730 点以上の成績で IE I・II を認定申請する場合に限り、認定上限単位数内で 3 年次の IE III・IV も同時に認定申請することができます。その場合 IE III・IV は 3 年次に履修登録 (事前登録) したうえで単位認定しますので、IE III・IV の開講曜日・時限に別の科目を登録することはできません。また、3 年次に進級できなかった場合は、IE III・IV の申請は取り消されます。

5. TOEIC® L&R の成績による単位認定の詳細および申請用紙は共通教育センターのホームページに掲載しています。

【共通教育センターのホームページ】 <http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/>

3 英語以外の外国語について

- 英語以外の外国語には、**1年次開講科目の「I A・I B」**（医学部看護学科は「I」のみ）と**2年次開講科目の「II A・II B」**があります。p. 62の「2024年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表」および以下の説明を参考に受講科目を決めて、履修申請してください。
- 商学部第二部の2023年度（23台）以前入学生については、夜間部で各外国語の「I」と「II」が開講されますが、夜間部での開講は2024年度が最後となりますので注意してください。
- 商学部第二部（23台以前）で開講される各外国語の「I・II」と医学部看護学科で開講される各外国語の「I」は、週1回授業が行われる通年科目です。
- クラス指定がある外国語で、指定のクラスに登録できない等英語以外の外国語の登録について不明な点があれば、当該学生の履修登録期間中の窓口が開いている時間に共通教育センター（文系センター棟1階）で相談してください。
- 制限科目登録日に履修登録が必要な科目はありません。**
所属する学部・学科の履修登録期間中に履修申請してください。なお、定員に達して履修申請を行うことができない場合は、他の外国語を履修申請してください。

(1) I A・I Bについて

- 各外国語の I A・I B は、**1年次に履修登録する場合は必ず両科目とも登録してください。片方だけの登録は認められません。**また、登録できるクラスは学科基本クラスにより指定されています。p. 93以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。
 - ※ 1 日本語は開講されているクラスが複数ある場合は、その中から登録するクラスを選択できます。ただし、I A・I Bは同じクラスの I A・I Bに登録しなければなりません。
 - 2 FUポータルで履修申請をする際に、I A・I Bのいずれか片方だけ選択して申請ボタンをクリックしても、エラーとなり登録できません。I A・I Bとも選択した状態で申請ボタンをクリックして登録してください。
- 英語以外の外国語科目は、同一外国語の I A（2単位）と I B（2単位）の計4単位を取得しなければ外国語科目として卒業要件単位に算入されません。なお、学部・学科によっては英語以外の外国語科目で2単位のみ取得した場合に自由履修単位として卒業要件に算入する場合があります。
- 英語以外の外国語科目は**通年科目**です。
 - ※ 人文学部ドイツ語学科の「ドイツ語 I A（前期）」・「ドイツ語 I B（後期）」、フランス語学科の「フランス語 I A（前期）」・「フランス語 I B（後期）」、東アジア地域言語学科の「中国語 I A（前期）」・「中国語 I B（後期）」と、「朝鮮語 I A（前期）」・「朝鮮語 I B（後期）」はそれぞれ週2回授業が行われ、前期または後期完結になります。

(2)Ⅱ A・Ⅱ Bについて

○「Ⅱ A・Ⅱ B」は、人文学部東アジア地域言語学科の中国語・朝鮮語を除き、それぞれ週1回授業が行われる通年科目で、登録するクラスが指定されています。p.93以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。

※1 理学部・工学部はⅡ AまたはⅡ Bのいずれか一方しか登録できません。

2 Ⅱ A・Ⅱ Bは、Ⅰ A・Ⅰ Bの内容を修得していることを前提に授業が行われます。

○東アジア地域言語学科の中国語と朝鮮語は、Ⅱ A・Ⅱ Bとも週2回授業が行われる前期または後期完結科目です。

○人文学部は、Ⅰ A・Ⅰ Bを修得した外国語のⅡ A・Ⅱ B両方の単位を修得しなければ第2外国語に関する卒業要件を満たすことができません。所属する学科の指定クラスで登録してください。ただし、時間割の都合上所属するクラスでの履修ができない場合は、他のクラスに登録できます(ただし同じクラスのⅡ A・Ⅱ Bに登録しなければなりません)。

※ ドイツ語のL Gクラス、フランス語のL Fクラス、中国語のL Aクラス、朝鮮語のL Aクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

○人文学部以外の学部は、Ⅱ A・Ⅱ Bのどちらか1つだけ履修することも可能です。時間割の都合で所属する学部のクラスに登録できない、または、所属する学部にクラスが開講されていない場合は、前項の※にあるクラス以外の人文学部のクラスに登録できます。

(3)再履修について

○再履修者は、各科目の所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録できます(p.93~102参照)。ただし、Ⅰ A・Ⅰ BまたはⅡ A・Ⅱ Bを同時に再履修する場合は、同じクラスのⅠ A・Ⅰ BまたはⅡ A・Ⅱ Bに登録してください。

※ ドイツ語のL Gクラス、フランス語のL Fクラス、中国語のL Aクラス、朝鮮語のL Aクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

学部留学生のための授業科目「日本語」について

学部留学生は、外国語科目(「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」、「スペイン語」、「ロシア語」)のうち、自らの母語である言語を外国語科目として履修することができません。母語である言語が必修科目に指定されている場合は下記の「日本語」を履修し、所定の単位を修得することで、8単位を限度として当該外国語科目の単位を修得したものとして取り扱います。

また、上記外国語科目に母語が含まれない学部留学生が「日本語」を履修し単位を修得した場合は、その単位を第2外国語の単位として取り扱います。

1年次 日本語Ⅰ A(通年2単位)、日本語Ⅰ B(通年2単位)

2年次 日本語Ⅱ A(通年2単位)、日本語Ⅱ B(通年2単位)

5 単位互換科目について

福岡市の西部地区に位置する五大学（九州大学、中村学園大学、西南学院大学、福岡歯科大学および本学）連携事業の一環として、各大学の授業を相互に開放し、単位を認定する「単位互換制度」を実施しています。これは、他大学のキャンパスで、他大学の開講科目を受講できる制度となっています。この制度に則った他大学の受講科目を「単位互換科目」と言います。

出願資格は、2年次生以上となっています。また、学部によって単位の認定についての詳細が異なりますので、履修希望者は、FUポータルあるいは窓口で配布する履修者募集要項を確認してください。詳しくは、3月中旬にFUポータルに掲示します。

※学修ガイド「福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程」(p. 211～212)を参照。

6 試験について

定期試験を実施しない授業科目

下記科目については、定期試験期間中に試験は実施しません。

各科目の成績評価方法については、シラバスで必ず確認したうえで履修申請を行ってください。

(1) 総合教養科目

- ①「教養ゼミ」の科目（※p. 53～54の表4を参照）
- ②化学実験・物理学実験・生物学実験
- ③データサイエンス・AI入門
- ④下表の科目

No.	科 目 名	担当者	開講期別	曜日	時限
1	図形情報	奈尾 信英	後期	木	4
2	哲学A	大西 克智	前期	木	2
3	哲学A	大西 克智	前期	木	3
4	哲学B	大西 克智	後期	木	2
5	哲学B	大西 克智	後期	木	3
6	論理学A	林 誓雄	前期	火	4
7	論理学A	林 誓雄	前期	水	2
8	論理学A	林 誓雄	前期	金	3
9	論理学A	林 誓雄	前期	金	2
10	論理学B	林 誓雄	後期	火	4
11	論理学B	林 誓雄	後期	水	2
12	論理学B	林 誓雄	後期	金	3
13	論理学B	林 誓雄	後期	金	2
14	宗教学B	飯嶋 秀治	後期	木	1
15	日本史通論A	久保 知里	前期	月	4
16	日本史通論B	久保 知里	後期	月	4
17	外国史通論A	森 丈夫	前期	水	5
18	外国史通論B	森 丈夫	後期	水	5
19	人文地理学	近藤 祐磨	後期	火	1
20	アジアの文学A	間 ふさ子	前期	金	1
21	アジアの文学A	何 憶鶴	前期	水	1
22	アジアの文学B	何 憶鶴	後期	水	1
23	経済学A	楊 光洙	前期	火	4
24	経済学A	楊 光洙	前期	火	5

IV. 履修の手引

No.	科 目 名	担当者	開講期別	曜日	時限
25	経済学B	楊 光洙	後期	火	4
26	経済学B	楊 光洙	後期	火	5
27	教育論A	中世古貴彦	前期	火	4
28	教育論B	中世古貴彦	後期	木	4
29	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	2
30	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	4
31	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	3
32	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	5
33	心理学A	大上 渉	前期	火	3
34	心理学A	大上 渉	前期	火	4
35	心理学B	大上 渉	後期	火	3
36	心理学B	大上 渉	後期	火	4
37	法律学概論	畑中 久彌	後期	金	5
38	地誌学	近藤 祐磨	前期	月	二部2
39	福岡大学で考える現代社会	岩山 隆寛	前期	木	5
40	福岡大学で考える現代社会 文系	熊丸 憲男	後期	火	4
41	福岡大学で考える現代社会 理系	熊丸 憲男	後期	火	4
42	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	2
43	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	3
44	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	前期	金	2
45	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	後期	月	5
46	福岡大学で考える現代社会	橋場 論	前期	水	5
47	福岡大学で考える現代社会	安井 英俊	前期	火	4
48	福岡大学で考える現代社会	安元 佐和	前期	木	5
49	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	1
50	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	2
51	アカデミックスキルズゼミⅠ	紺田 広明	前期	火	5
52	アカデミックスキルズゼミⅠ	道山 治延	前期	木	1
53	アカデミックスキルズゼミⅡ	吉田 秀幸	後期	木	1
54	アカデミックスキルズゼミⅡ	鈴木 学	後期	火	5
55	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3
56	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2

(2) 保健体育科目


生涯スポーツ演習Ⅰ 生涯スポーツ演習Ⅱ
生涯スポーツ演習Ⅲ 生涯スポーツ演習Ⅳ 生涯スポーツ論

(3) 課程科目

課程科目のうち定期試験を実施しない授業科目についての留意事項は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程 履修の手引』を参照してください。

(4) 外国語科目

- ①英語科目 (FEⅢ・ⅣのIAクラス、IEⅠ～ⅣのC&Oクラス、左記以外で授業シラバスの試験実施欄に「無し」と記載されているクラス)
- ②ドイツ語科目 (※LGクラスを除く ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB)
- ③フランス語科目 (※LFクラスを除く フランス語Ⅰ・Ⅱ、フランス語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅡA・ⅡB)
- ④中国語科目 (※LAクラスを除く 中国語Ⅰ・Ⅱ、中国語ⅠA・ⅠB、中国語ⅡA・ⅡB)
- ⑤スペイン語科目 (スペイン語Ⅰ、スペイン語ⅠA・ⅠB、スペイン語ⅡA・ⅡB)

 上記の「定期試験を実施しない授業科目」については、追試験・再試験を実施しません。

各学部留意事項

試験や履修登録に関するお知らせなど学修に関する重要な情報を、ガイダンスや掲示板、学生ポータルサイト（FUポータル）を通して通知していきますので、必ず確認してください。

また、FUポータルへのアクセスをはじめ、履修登録や修正、証明書の発行や各種申請などの手続きには、情報基盤センター発行の福大IDが必要です。パスワードの有効期限は変更後1年間となっていますので、1年に1回は必ずパスワードの確認と変更を行ってください。

薬学部

1 履修登録全般についての注意事項

- (1) 2024年度に登録できる単位数は次のとおりです。ただし、関門に該当した場合は、当該在学年次によります。

	登録上限単位数	
	24台	23台～15台
1年次生	49単位	49単位
2年次生	49単位	49単位
3年次生	49単位	40単位
4年次生	38単位	36単位
5年次生	37単位	34単位
6年次生	29単位	37単位

(注) GPA導入に伴う撤回および後期の登録修正の際には上限単位数、進級・卒業要件単位数に注意してください。

- (2) 全ての必修科目と実験・実習および下記の科目については、登録の撤回ならびに削除はできません。

	科目名	年次
24～15台	早期臨床体験Ⅰ	1
	早期臨床体験Ⅱ	2

- (3) カリキュラム改正に伴い、入学年台により学則、学科履修規程及び成績考査規程に異なる部分がありますので、「学修ガイド」の関係箇所を熟読して履修登録を行ってください。

- (4) 「学科履修規程第5条の3第1項」に基づいて、関門該当者が教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に上位年次の科目（実習科目は除く）を登録する場合、単位数や科目について制限があるので、Web履修登録を行う前に、必ず教務三課に届出し許可を得てください。
- (5) 原則として下位年次の専門教育科目を登録することはできません。(学科履修規程第5条の3第2項)
- (6) 登録は原則として自分の所属する学部が開講された時間割内で行ってください。学籍番号指定・クラス指定に注意してください。(指定の時限に登録できない場合は、Web履修登録を行う前に教務三課へ申し出て指示を受けてください。)
- (7) 専門教育科目については、原則として前半クラス（P-a）と後半クラス（P-b）の2クラスに分割して授業を実施します。(クラス分けの詳細については、別紙「1年次生学科基本クラス分け一覧表」を参照してください。)
- (8) 薬学部の専門教育科目の試験時間割は定期試験前に発表します。ただし、共通教育科目はあらかじめ試験時間割が決まっているので、試験が重複しないように注意して登録してください。(p.27~30試験時間割参照)

2 進級制限（関門）について

- (1) 薬学部には次のような進級制限が設けられています。修得単位が不足した場合、上位年次へ進級できずに「留年」となります。同一学年に在学できる年数は2年を限度としますので、不断の努力を重ね、修業年限（6年）で卒業できるように心がけてください。(学科履修規程第6条の8)

入学年台	適用される関門（年次）
24台~15台	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年関門（1→2年次） ・ 3年関門（2→3年次） ・ 4年関門（3→4年次） ・ 5年関門（4→5年次） ・ 6年関門（5→6年次）

- (2) 進級・卒業要件単位

学年	共通教育科目				専門教育科目																				合計					
	総合教養	第1外国語	保健体育	計	1年					2年					3年					4年						5年	6年	計		
					選択必修				計	選択必修				計	選択必修				計	必修	必修	選択								
					必修	基礎薬学	臨床薬学	計		必修	基礎薬学	衛生薬学	医療薬学		臨床薬学	計	必修	基礎薬学					衛生薬学	医療薬学		臨床薬学	計		必修	衛生薬学
1年→2年	10	2	2	20	1	9	3	15																			16	36		
2年→3年	12	6		26	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27														48	74	
3年→4年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25								80	108	
4年→5年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14			107	135	
5年→6年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32		139	167	
卒業要件	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32	14	5	158	186

学年	共通教育科目				専門教育科目																				合計															
	総合教養	第1外国語	保健体育	計	1年					2年					3年					4年						5年		6年			計									
					選択					選択					選択					選択						必修	必修	選択												
					物理分野	化学分野	生物分野	総合分野	計	必修	物理分野	化学分野	生物分野	衛生分野	薬理分野	薬剤分野	計	必修	物理分野	化学分野	生物分野	衛生分野	薬理分野	薬剤分野				実務分野	計	必修		化学分野	生物分野	衛生分野	薬理分野	薬剤分野	実務分野	計	必修	必修
1年→2年	10	2	2	18	2	6	4	1	20																														20	38
2年→3年	12	6		26	2	6	4	1	20	4	4	4	4	2	2	2	28																						52	78
3年→4年	12	8		28	2	6	4	1	20	4	4	4	4	2	2	2	28	7	3	1	1	1	2	4	1	19													78	106
4年→5年	12	8		28	2	6	4	1	20	4	4	4	4	2	2	2	28	7	3	1	1	1	2	4	1	19	12	1	1										99	127
5年→6年	12	8		28	2	6	4	1	20	4	4	4	4	2	2	2	28	7	3	1	1	1	2	4	1	19	12	1	1										131	159
卒業要件	12	8		28	2	6	4	1	20	4	4	4	4	2	2	2	28	7	3	1	1	1	2	4	1	19	12	1	1										158	186

3 共通教育科目について

- (1) 「フレッシュマン・イングリッシュⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と「インターミディエイト・イングリッシュⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は必修ですが、第2外国語は必修ではありません。
- (2) 第1外国語、第2外国語の履修については、p. 62~70を参照してください。再履修する場合は、p. 65~67、70を参照してください。
- (3) 保健体育科目の履修については、p. 59~61を参照してください。(科目によっては、別途手続きが必要な場合があるので注意してください。)
- (4) 保健体育科目の保健コースを希望する場合は、p. 60および授業時間割の下部欄外「履修登録上の注意」を参照してください。

4 専門教育科目について

- (1) 2~3年次の実習科目については、「2024年度薬学部実習時間割」(p. 85)を参照してください。
また、実習が行われる時限に他の科目を登録することはできません。外国語等の再履修のために実習時間と重複する場合は、Web履修登録を行う前までに教務三課へ申し出て指示を受けてください。
- (2) 実験及び実習科目は、成績考査規程第2条の2第2項の規程により、定期試験を実施せず、ルーブリック評価等により成績を評価します。また、再試験(再評価)も実施しません。
- (3) 「早期臨床体験Ⅰ・Ⅱ」は、成績考査規程第2条の2第2項の規程により、定期試験を実施せず、ルーブリック評価等により成績を評価します。また、再試験(再評価)も実施しません。

5 登録制限科目等について（専門教育科目）

次の「登録制限科目」等については、講義の教育効果を高めるために登録者数を制限します。希望者は、科目ごとの注意事項および要領等に従い申請してください。

● 6年生の制限科目について

・ 講義科目

曜日	時限	期別	科目名	担当教員	登録定員	選考方法	申込期間・発表期間	備考
火	2	前期	薬剤師職能論	山内 淳史	110	抽選	●申込期間 3月22日（金） 9：00～ 3月23日（土） 13：00 ●選考結果発表 3月24日（日） 13：00までに発表 （Web履修登録画面上）	登録の撤回および削除はできません
水	3	前期	医薬品開発論	今給黎 修	110			
水	4	前期	薬事行政論	林 稔展	110			

・ 演習・実習科目

曜日	時限	期別	科目名	担当教員	登録定員	選考方法	申込期間・発表期間	備考
金	1～3	前期	実務実習事後学習	江川 孝	24	GPAによる選考	●申込期間 3月22日（金） 9：00～ 3月23日（土） 13：00 ●選考結果発表 3月25日（月） 13：00 （FUポータルお知らせ）	登録の撤回および削除はできません
金	1～3	前期	薬学特別研究	右田 啓介	24			

6 試験について

成績考査規程を参照してください。

(1) 定期試験について

試験を受けなかった授業科目は無効とします。(試験放棄科目)

(注) 試験放棄者は次年度の特待生の選考から除外されます。

(2) 追試験について

追試験とは、病気その他やむを得ない事情で定期試験を受験できなかった学生が所定の手続きを取り審議を経て許可される試験です。場合によっては、受験料の納入や、試験を欠席した理由によって評点の点数が制限されることがありますので、注意してください。

(3) 再試験について

再試験とは、定期試験で不合格点を得た者に対して実施される試験です。本人が願い出てあらかじめ所定の手続きを行い、受験料を納入する必要があります。定期試験を放棄した場合、受験資格はありません。なお、定期試験を実施しない授業科目については再試験を実施しません。

また、再試験は、年次・科目・不足単位数などによって受験資格が制限され、誰でも受験できるわけではありませんので注意してください。

なお、関門該当者で上位年次科目の特例登録をしている場合は、その上位年次科目は再試験を受験できません。この他にも、再試験を受験するには受験料が必要となったり、合格した場合の評点が60点となるなど不利なことが多いので、定期試験で合格するよう努力してください。

《2024年度の薬学部再試験の取扱い》

	年次	受 験 資 格	受 験 条 件
24 ～ 15 台	1年次 2年次	試験の結果不合格点を得た者で、再試験の結果、進級の見込のある者。(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く)	進級に必要な最小限度の単位数 (8単位以内かつ4科目以内)
	3年次 4年次		専門教育科目についてのみ進級に必要な最小限度の単位数 (8単位以内かつ4科目以内)
	6年次 (卒見)	・卒業見込みの者 ・試験の結果不合格点を得た者 ・再試験の結果次第で卒業の見込がある者	卒業に必要な最小限度の単位数 (8単位以内)

専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とします。

なお、5年次では履修科目が「実務実習」および「薬学研究Ⅰ(特別実習)」のみのため定期試験(含再試験)は行いません。

(4) 卒業試験について

卒業試験の実施時期・形式・合否判定基準等については掲示により通知します。

7 薬学研究Ⅰ・薬学研究Ⅱについて

学生の希望を考慮し、教授会で認めた指導教員のもとで履修するものとし、研究室での実習に取り組む姿勢および研究室単位で行われる英語論文の抄読会やPower Pointでの発表会での態度と2月下旬～3月上旬に行う公開形式でのポスター発表で、評価をします。各学生はポスターによる発表会（公開形式）とは別に卒業論文を提出しなければいけません。

(1) 卒業研究および卒業論文の作成について

- (a) 論文は担当教員を通じて、指定された期日までに教務三課に提出してください。論文記載の用紙サイズはA4判を使用します。
- (b) 論文の作成にあたっては次の点に留意してください。
 - ① 表紙：論文作成年度、論文題名、分野名、指導教員名（研究室の責任者）、学籍番号、氏名を「記載例」のとおりに記載すること。
 - ② 目次：目次はページを改める。
 - ③ 記載：A4判の四周に2～3センチメートルの余白を作り、横書きとする。
 - ④ 図表：図表の向きは随意でよい。
 - ⑤ 頁づけ：目次から始め、図表も通しの頁をつけること。図表が原稿用紙2頁にわたるときは2頁分の頁づけとする。
 - ⑥ 字色：文字は原則として黒色とすること。

卒業論文表紙記載例

2024年度卒業研究	
.....に関する研究	
研 究 室 名	機器分析学
指 導 教 員	○○○○ 教授
薬学部薬学科	PP○○○○○○ 福大 花子

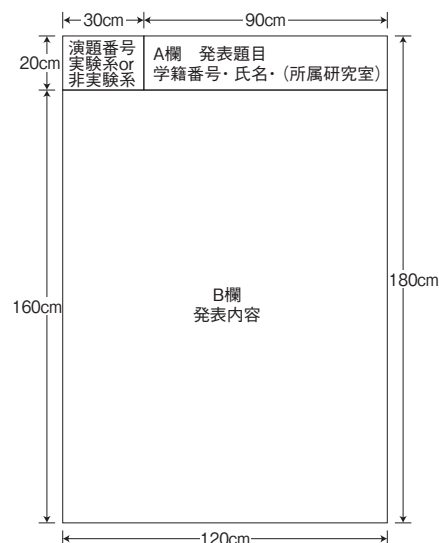
(2) 薬学研究 I における卒業研究のポスター発表について

(a) ポスター発表は、2月下旬から3月上旬の2日間で行います。次のように時間を設定しますので、ポスターの前で質疑に応じてください。

	第 1 日		第 2 日	
	AM	PM	AM	PM
演題番号	P 1 ~P60	P61~P120	P121~P180	P181~239
準備	8 : 45 ~ 9 : 00	12 : 45 ~ 13 : 00	8 : 45 ~ 9 : 00	12 : 45 ~ 13 : 00
審査	9 : 00 ~ 10 : 30	13 : 00 ~ 14 : 30	9 : 00 ~ 10 : 30	13 : 00 ~ 14 : 30
掲示	9 : 00 ~ 11 : 30	13 : 00 ~ 15 : 30	9 : 00 ~ 11 : 30	13 : 00 ~ 15 : 30
撤去	11 : 30 ~ 12 : 00	15 : 30 ~ 16 : 00	11 : 30 ~ 12 : 00	15 : 30 ~ 16 : 00

(b) ポスターボードの大きさは右図に示すとおりです。演題番号、実験系 or 非実験系 (MS ゴシック70P [原寸270P])、A 欄 (発表題目、学籍番号、氏名、所属)、B 欄 (発表内容) を掲示してください。

(c) 発表者は、押しピンを用いてポスターを掲示してください。
 (d) ポスターは掲示時間が終了後、速やかに撤去してください。ポスターの撤去時間が過ぎて取り外されていないポスターは処分しますのでご了承ください。



(e) 発表要旨の作成

- ① サイズ等：A 4判、1 ページ以内。文字のスタイル、大きさなどは右図見本に準じること。
- ② 内容：【目的】、【実験方法】、【結果】、【考察】、【引用文献】の順で簡潔に記載すること。
- ③ 図表：Table や Figure 等の題は、英文表記とすること。また、原則として、図の題は図の下に、表の題は表の上に置くこと。
- ④ 提出物：要旨を指定された期日までに所属研究室を通じて教務三課へ提出してください。提出後、下記内容を所属研究室の指示に従って提出してください。

- (ア) 発表題目
- (イ) 実験系 or 非実験系
- (ウ) 学籍番号
- (エ) 氏名
- (オ) 所属研究室

8 抗体検査の実施について【1年生（24台）】

薬学部では1年次生全員に次の要領で抗体検査を実施します。

(1) 実施日時と対象者

	時 間	場 所	対 象 者
4月2日（火）	午後1時～4時 （時間厳守）	A棟地下1階 試験事務室	[学科基本クラス] PP1クラス～PP2クラス
4月3日（水）	午後2時～4時 （時間厳守）		[学科基本クラス] PP3クラス～PP4クラス
4月6日（木）	午前10時30分 ～午後1時 （時間厳守）		[学科基本クラス] PP5クラス～PP6クラス

注意事項

- ① 過去にこれらの感染症にかかったことがある、あるいは予防接種を受けたことがある学生も、必ず検査を受けるようにしてください。
 - ② 指定の期日に検査を受けられない場合は、事前に教務三課へ申し出てください。
 - ③ 検査を受けなかった場合は、各自で医療機関に行き、費用自己負担で検査を受けることになります。
- (2) 検査の際に必要なもの
学生証
- (3) 検査項目
「麻疹（はしか）」「風疹」「ムンプス（おたふくかぜ）」「水痘（みずぼうそう）」の4種類
- (4) 結果の通知について
各自に抗体検査結果の「報告書」を配付します。この「報告書」は再発行できませんので、各自卒業時まで大切に保存してください。5年次の実務実習の際には提出が必要となります。
- (5) 予防接種について
検査の結果、予防接種が必要となった場合は7月末までに各自で予防接種を受けてください。なお、費用は自己負担とします。
予防接種を受けた際には、必ず医療機関から予防接種を受けたことを証明する書類（「予防接種証明書」あるいは「領収書」等でも可。ただし、「麻疹」「風疹」「ムンプス」「水痘」のうちどの項目の接種を受けたのか記載されたもの）を入手してください。
入手した書類のコピー（A4判）に学籍番号と氏名を記入して、後期開講日までに教務三課に提出ください。
- (6) 書類の保存について【重要】
「抗体検査結果の報告書」ならびに「予防接種を受けたことを証明する書類」は、5年次の実務実習の際に提出が必要となりますので、紛失・破損等しないように各自卒業するまで大切に保存してください。

9 合併講義について

留年や休学により2024年度に1年生となる23台以前の学生カリキュラムについては、以下のように合併講義で対応します。

旧カリキュラム (2023年度以前)		新カリキュラム (2024年度以降)		
科目名	単位	期別	科目名	単位
早期臨床体験 I	2	通年	早期臨床体験 I	1
薬学化学入門	2	前期	薬学化学入門	2
薬学概論	1	前期	薬剤師入門	2
薬学生物学入門	2	前期	薬学生物学入門	2
薬学物理学入門	2	前期	薬学物理化学入門	2
化学	2	後期	無機薬化学	2
機能形態学 I	2	後期	機能形態学	2
生体機能分子学 II	2	後期	薬物治療学入門	2
有機薬化学 I	2	後期	有機薬化学 I	2

10 その他

- (1) 教科書の購入は、FU ポータルの Web シラバスを参照してください。
- (2) Web 履修登録をする前に、授業科目履修表（履修登録用紙（下書き用）「履修登録の手引」p. 3 参照）にあらかじめ記入しておいてください。履修登録の際に参照しながら入力してください。

クリニカルファーマシスト養成プログラム

クリニカルファーマシスト養成プログラムは、薬学部薬学科の教育研究の理念に基づき、医療に関わる特定の専門領域において、高度な専門知識と臨床応用能力を有する人材を養成することを目的とする。

1 クリニカルファーマシスト養成プログラムについて

- ・クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生（以下、「プログラム学生」という。）となれる者は、薬学部の学生に限ります。
- ・プログラム学生となるためには、1年次の後期試験終了後の所定の期間内にプログラム履修願を提出する必要があります。プログラム履修願の提出期間等の詳細についてはFUポータルにて別途お知らせします。提出期間終了後、1年次の成績に基づく選抜が行われ、プログラム学生が決定します。
- ・プログラムには「がん薬物治療学コース」が設置され、定員は原則として各学年30人を上限とします。
- ・プログラム学生は、クリニカルファーマシスト養成プログラム独自の科目を履修することができます。
- ・いったんプログラム学生となっても、資格審査によりその資格を喪失することがあります。
- ・プログラム学生となるにあたり、特別な受講料を納入する必要はありません。

2 薬学部薬学科のクリニカルファーマシスト養成プログラムに関する内規と履修科目について

プログラム学生は、以下の内規および別表に則って科目を履修しなければなりません。プログラム学生・履修希望者は十分に注意し、学科履修規程及び年次別授業科目表を参照のうえ履修登録を行ってください。

【留意事項】

- ・6年次までストレートで進級する必要があります。進級制限（関門）に該当した場合、プログラム学生の資格を喪失します。（休学による留年は除く）
- ・別表に定める全ての科目の単位を修得する必要があります。1年次科目についてはプログラム学生選抜前の履修科目なので注意してください。
- ・当該科目の単位は通常の成績評価（定期試験、追試験、開講期間内評価）で修得する必要があります。再試験での単位修得点は認められません。

（趣旨）

第1条 福岡大学学科履修規程第6条の8第2項に規定する薬学部薬学科のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下「プログラム」という。）については、この内規の定めるところによる。

（目的）

第2条 プログラムは、薬学部薬学科の教育研究の理念に基づき、医療に関わる特定の専門領域において、高度な専門知識と臨床応用能力を有する人材を養成することを目的とする。

（コース）

第3条 前条の目的を達成するため、プログラムにコースを置くことができる。

2 各コースの定員は、原則として各学年につき30人を上限とする。

（願出）

第4条 プログラムの履修を希望する学生は、1年次の後期試験終了後の所定の期間内にプログラム履修願を薬学部長に提出しなければならない。

（選抜）

第5条 プログラムの履修を希望する学生は、1年次の成績に基づく選抜を経て、プログラム学生となる。

2 前項の選抜は、薬学部教授会がこれを行う。

(履修の撤回)

第6条 プログラム学生（1年次生を除く。）は、後期試験終了後の所定の期間内に届け出ることにより、プログラムの履修を撤回することができる。

(授業科目、単位等)

第7条 プログラムの授業科目、単位等については、別表に定める。

(資格審査)

第8条 プログラム学生の質を保ち、勉学意欲を維持するため、当該学生の資格審査を実施する。

2 資格審査は、学年末に薬学部教授会がこれを行う。

3 資格審査において、次の各号のいずれかに該当する者は、プログラム学生の資格を喪失する。

(1) 福岡大学学科履修規程第6条の8に規定する進級要件を満たさないことが確定した者

(2) 別表に定める各年次の所定の単位を修得できなかった者

(3) その他プログラム学生としてふさわしくないと認められる者

4 プログラム学生として修得した全ての単位は、その資格を喪失した後も卒業要件単位として認める。

(修了)

第9条 薬学部長は、福岡大学学則第34条第10項に定める必要な単位を修得し、かつ、卒業要件を満たすとともに、別表に定めるコースの修了要件を満たしたプログラム学生に対し、薬学部教授会の議を経て、当該コースのプログラムの修了証を授与する。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

別表

クリニカルファーマシスト養成プログラムの授業科目、単位等
がん薬物治療学コース

配当年次	授業科目	単位	備考
1	腫瘍感染症薬学入門	2	
1	解剖学演習	1	
2	生化学	2	
2	免疫学	2	
2	患者アセスメント薬学演習	1	
3	感染症薬学	2	
3	公衆衛生学	2	
3	薬毒物代謝学	2	
3	薬理・薬物治療学Ⅲ	2	
3	薬理・薬物治療学Ⅳ	2	
3	臨床検査学	2	
3	がん疫学演習	1	コース学生のみ履修可能
4	薬学臨床推論基礎	2	
4	薬理・薬物治療学Ⅴ	2	
4	腫瘍薬学	2	
4	薬理・薬物治療学Ⅵ	2	
4	感染制御学演習	1	
4	疫学研究演習	1	
4	個別化医療薬学演習	1	
5	がん緩和ケア演習	1	コース学生のみ履修可能
5	がん治療管理学演習	1	コース学生のみ履修可能
5	がん患者アセスメント演習	1	コース学生のみ履修可能
6	先端治療学	2	
6	薬物療法評価学	2	

- 1 プログラム学生は、学則第34条第10項に定める必要な単位を修得するとともに、別表に定める全ての科目の単位を修得しなければならない。
- 2 プログラム学生は、配当年次に当該科目の単位を修得しなければならない。
- 3 再試験により修得した別表の授業科目の単位は、プログラム学生としての資格審査を行う場合は、審査の対象外とする。

2024年度 薬学部実習時間割

・A～Hのグループ分けについては、掲示にてお知らせします。

また、実習場所やその他の注意事項について、掲示での連絡がありますので、16号館1階薬学部掲示板を注意して確認するようにしてください。

■前期

火・水・木		4/16 - 4/25	4/30 - 5/9	5/14 - 5/23	5/28 - 6/6
2年次	A	早期臨床体験Ⅱ 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学		生物系実習Ⅰ 微生物薬品化学 実習室3	
	B		早期臨床体験Ⅱ 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学		生物系実習Ⅰ 微生物薬品化学 実習室3
	C	生物系実習Ⅰ 微生物薬品化学 実習室3		早期臨床体験Ⅱ 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学	
	D		生物系実習Ⅰ 微生物薬品化学 実習室3		早期臨床体験Ⅱ 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学
火・水・木		4/16 - 4/25	4/30 - 5/9	5/14 - 5/23	5/28 - 6/6
3年次	E	化学系実習Ⅰ 薬化学 実習室1	生物系実習Ⅲ 衛生化学 実習室5	物理系実習Ⅱ 薬品物理化学 実習室4	化学系実習Ⅱ 生薬学 実習室2
	F	化学系実習Ⅱ 生薬学 実習室2	化学系実習Ⅰ 薬化学 実習室1	生物系実習Ⅲ 衛生化学 実習室5	物理系実習Ⅱ 薬品物理化学 実習室4
	G	物理系実習Ⅱ 薬品物理化学 実習室4	化学系実習Ⅱ 生薬学 実習室2	化学系実習Ⅰ 薬化学 実習室1	生物系実習Ⅲ 衛生化学 実習室5
	H	生物系実習Ⅲ 衛生化学 実習室5	物理系実習Ⅱ 薬品物理化学 実習室4	化学系実習Ⅱ 生薬学 実習室2	化学系実習Ⅰ 薬化学 実習室1

■後期

火・水・木		9/17 - 9/26	10/1 - 10/10	10/15 - 10/24	11/12 - 11/21
2年次	A		物理系実習Ⅰ 薬品分析学 実習室2		生物系実習Ⅱ 生化学 実習室5
	B	物理系実習Ⅰ 薬品分析学 実習室2		生物系実習Ⅱ 生化学 実習室5	
	C		生物系実習Ⅱ 生化学 実習室5		物理系実習Ⅰ 薬品分析学 実習室2
	D	生物系実習Ⅱ 生化学 実習室5		物理系実習Ⅰ 薬品分析学 実習室2	
火・水・木		9/17 - 9/26	10/1 - 10/10	10/15 - 10/24	11/12 - 11/21
3年次	E		生物系実習Ⅳ 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	物理系実習Ⅲ 臨床分析科学 機器分析学演習室2	化学系実習Ⅲ 医薬品化学 実習室1
	F	化学系実習Ⅲ 医薬品化学 実習室1		生物系実習Ⅳ 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	物理系実習Ⅲ 臨床分析科学 機器分析学演習室2
	G	物理系実習Ⅲ 臨床分析科学 機器分析学演習室2	化学系実習Ⅲ 医薬品化学 実習室1		生物系実習Ⅳ 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3
	H	生物系実習Ⅳ 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	物理系実習Ⅲ 臨床分析科学 機器分析学演習室2	化学系実習Ⅲ 医薬品化学 実習室1	

薬学部教員研究室一覧

学 系	研究室名	教 授	准 教 授	講 師	助教、教育技術職員
化 学 系	薬 化 学	丸岡 16号館 4階 404	益本 16号館 4階 429	中原 16号館 4階 402	藤田 16号館 4階 402
	医 薬 品 化 学		古館 16号館 4階 405		大田 田中(俊) 16号館 4階 406
	生 薬 学	金城 16号館 4階 426 大川 16号館 4階 415		土橋 16号館 4階 409	中野(大) 16号館 4階 433
物 理 学 系	薬 品 分 析 学	能田 16号館 5階 525 吉田 16号館 5階 522			古賀(鈴) 加藤 16号館 5階 521
	薬 品 物 理 化 学	池田 16号館 6階 631	堤 16号館 6階 607		大波多 16号館 6階 618 中島(梨) 16号館 6階 630
	臨 床 分 析 科 学	巴山 16号館 1階 105	高田 16号館 1階 104		富田 西條 16号館 1階 103
生 物 学 系 衛 生 学 系	生 化 学	本田(伸) 16号館 5階 531	小迫 16号館 5階 501		佐藤(陽) 16号館 5階 503 谷口 16号館 5階 532
	衛 生 化 学	松末 16号館 5階 528	藍原 16号館 5階 527		松尾(康) 坂口 16号館 5階 516
	微 生 物 薬 品 化 学	鹿志毛 16号館 4階 439 佐藤(朝) 16号館 4階 438			坂本 ハリンヤ・ウイライ 16号館 4階 440
薬 理 学 系	臨 床 疾 患 薬 理 学	岩崎 16号館 6階 636 桂林 16号館 6階 634		窪田 16号館 6階 612	渡辺 16号館 6階 611
	生 体 機 能 制 御 学		佐野 16号館 7階 736		入江 16号館 7階 735 牛尾 16号館 7階 732
	免 疫 ・ 分 子 治 療 学	石橋 16号館 6階 632	細川 16号館 6階 633		西中川 16号館 6階 623 盛田 16号館 6階 606
	臨 床 薬 物 治 療 学	遠城寺 17号館 7階 718 大江 17号館 7階 717		村田 17号館 7階 716	森 17号館 7階 716
薬 剤 学 系	応 用 薬 剤 学	道具 17号館 6階 614	高田(美) 17号館 6階 615		岩尾 田中(泰) 17号館 6階 616
	薬 学 疾 患 管 理 学	山内 17号館 6階 618	中川 17号館 6階 619		松本(純) 稲田 17号館 6階 617
	創 剤 学	松永 17号館 5階 518		瀬戸口 17号館 5階 519	後藤 17号館 5階 505
	薬 物 送 達 学		古賀(允) 17号館 5階 516 榎川 17号館 5階 517		渡瀬 山田 17号館 5階 507
	医 薬 品 情 報 学	右田 17号館 5階 514		今任 17号館 5階 509	大藪 17号館 5階 509
臨 床 薬 学 系	救 急 ・ 災 害 医 療 薬 学	江川 17号館 7階 714	林 17号館 7階 715		甲斐 17号館 7階 713
	腫 瘍 ・ 感 染 症 薬 学	松尾(宏) 17号館 3階 312	内山 17号館 3階 309 中野 17号館 3階 310		山科 17号館 7階 711
	地 域 医 療 薬 学		富永 17号館 3階 308	小野 17号館 3階 307	
	病 院 薬 学 ・ 福岡大学病院薬剤部	神村 17号館 4階 415 緒方 17号館 4階 416		安高 福岡大学病院薬剤部	大津 長郷 福岡大学病院薬剤部
	病 院 薬 学 ・ 福岡大学筑紫病院薬剤部	今給黎 17号館 4階 417			中島(章) 宮崎 福岡大学筑紫病院薬剤部
	薬 学 教 育 学	三島 16号館 6階 638			刀根 鮎川 16号館 3階 301
	実 務 実 習 支 援 室	江川 17号館 7階 714		小野 17号館 3階 307	本田(順) 17号館 3階 307
	薬 学 教 育 セ ン タ ー	三島 16号館 6階 638			刀根 鮎川 16号館 3階 301
	中 央 機 器 室	巴山 16号館 1階 105			本田(順) 花園 16号館 1階 108 16号館 1階 111

非常勤講師

氏 名	科 目	氏 名	科 目	氏 名	科 目
大河平謙二	医 薬 品 安 全 性 学	野田 美里	薬 剤 師 入 門	松元 俊博	薬 事 行 政 論
高町 晃司		平野 健二		山脇 一浩	
吉村 真吾		藤田 敏明		東 加奈子	
太田 美紀	薬 剤 師 入 門	吉川 哲也	漢 方 薬 学 概 論	組橋 由記	腫 瘍 感 染 症 薬 学 入 門
鬼塚 歩		井上 博喜		野村 久祥	
木原 太郎		高崎 紘臣	薬 事 行 政 論	日置 三紀	
玉田 慎二		鶴崎 泰史		吉村 知哲	

履修登録ガイダンス

薬学部では毎年、在學生は12月および3月中旬頃、新入生は4月に履修登録に関するガイダンスを行っています。今年度のガイダンスの日程は以下のとおりです。

ガイダンスでは出席の確認を行いますので、学生証を忘れず持参してください。

なお、4年次のガイダンスではCBTやOSCE等の共用試験や、後期の定期試験について、また、5年次のガイダンスでは実務実習、薬学研究Ⅰについて、6年次のガイダンスでは、国家試験対策、後期の定期試験についての詳しい説明がありますので必ず出席してください。

ガイダンス実施日程

在学年次	実施日	開始時間	場 所
新入生	4月2日（火）	10：00	1711教室 （対面）
2023年度に2年次に在籍する学生	3月18日（月）	9：30	Webex （遠隔）
2023年度に3年次に在籍する学生	3月18日（月）	11：00	Webex （遠隔）
2023年度に4年次に在籍する学生	3月15日（金）	14：00	Webex （遠隔）
2023年度に5年次に在籍する学生	2023年12月18日（月）	13：00	1711教室 （対面）※済
2023年度に6年次に在籍する学生	3月15日（金）	10：30	Webex （遠隔）

2024年度 Web 履修登録スケジュール【新入生】

薬学部新入生の Web 履修登録は学内または学外で登録することができますので、次のスケジュールで行ってください。

1 制限科目の登録受付

期 日	備 考
4月3日（水）	対象となる科目・受付日時・方法等は、「履修の手引」（p.46～58）あるいは各学部からの配付物等で確認してください。

学内の PC 教室の利用については、情報基盤センターウェブサイトの PC 教室空席状況等を確認してください。学外からは25：00までアクセス可能です。

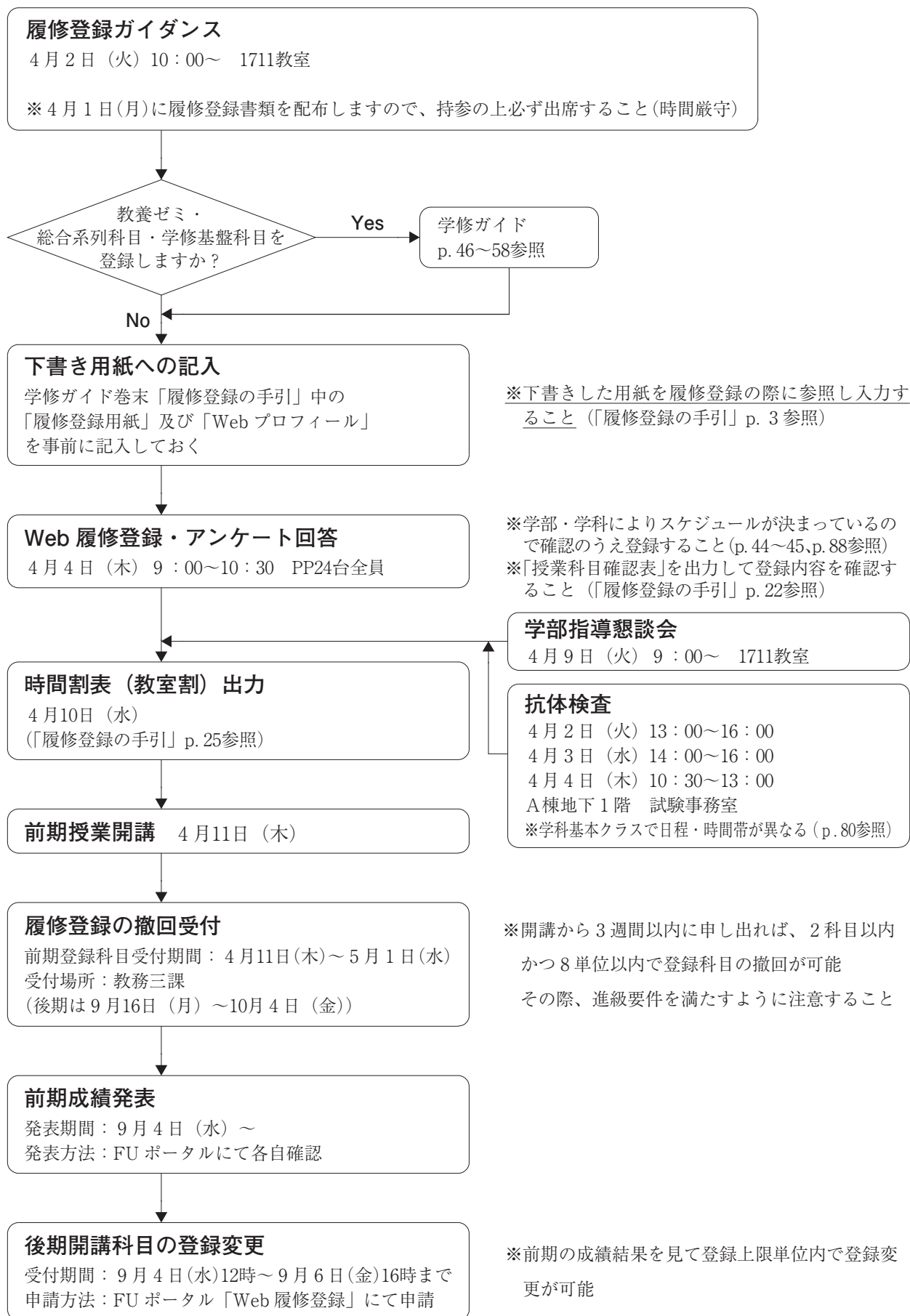
2 2024年度 Web 履修登録

薬学部登録指定日と登録方法等

期 日	時 間
4月4日（木）	9：00～10：30

- Web 履修登録には、4月2日（火）のガイダンスで配付された**福大 ID**と**学生証**が必要です。
- 上記で指定された期日・時間で Web 履修登録を行ってください。
- ※ 「全学部利用可能」な時間帯（学修ガイド巻末「履修登録の手引」履修登録スケジュール表を参照）については、学部・学科に関係なく、学内・学外いずれからも入力することが可能ですが、ログインできるアカウント数に制限があり、スムーズに履修登録できない場合もありますので、できるだけ指定された期日・時間帯で入力してください。
- 登録作業時間は30分～60分程度が見込まれます。
- 履修登録方法やカリキュラム等に関する質問や相談は、教務三課にてお尋ねください。
- Web 履修登録の操作方法等は、「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
- 「履修登録の手引」の中にある「履修登録用紙（下書き用）」にあらかじめ登録しようとする授業科目を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。
- Web 履修登録の際に、学生プロフィールの入力も行います。「履修登録の手引」の中にある「Web プロフィール（下書き用）」にあらかじめ必要事項を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。

2024年度 薬学部履修登録流れ図【新入生】



2024年度 Web 履修登録スケジュール【在学生】

薬学部在学生の Web 履修登録は学内または学外で登録することができますので、次のスケジュールで行ってください。

1 制限科目の登録受付

期 間	備 考
3月21日（木）～3月23日（土）	対象となる科目・受付日時・方法等は、「履修の手引」(p.46～58)あるいは各学部からの配付物等で確認してください。

※学内の PC 教室の利用については、情報基盤センターウェブサイトの PC 教室空席状況等を確認してください。学外からは25:00までアクセス可能です。

2 2024年度 Web 履修登録

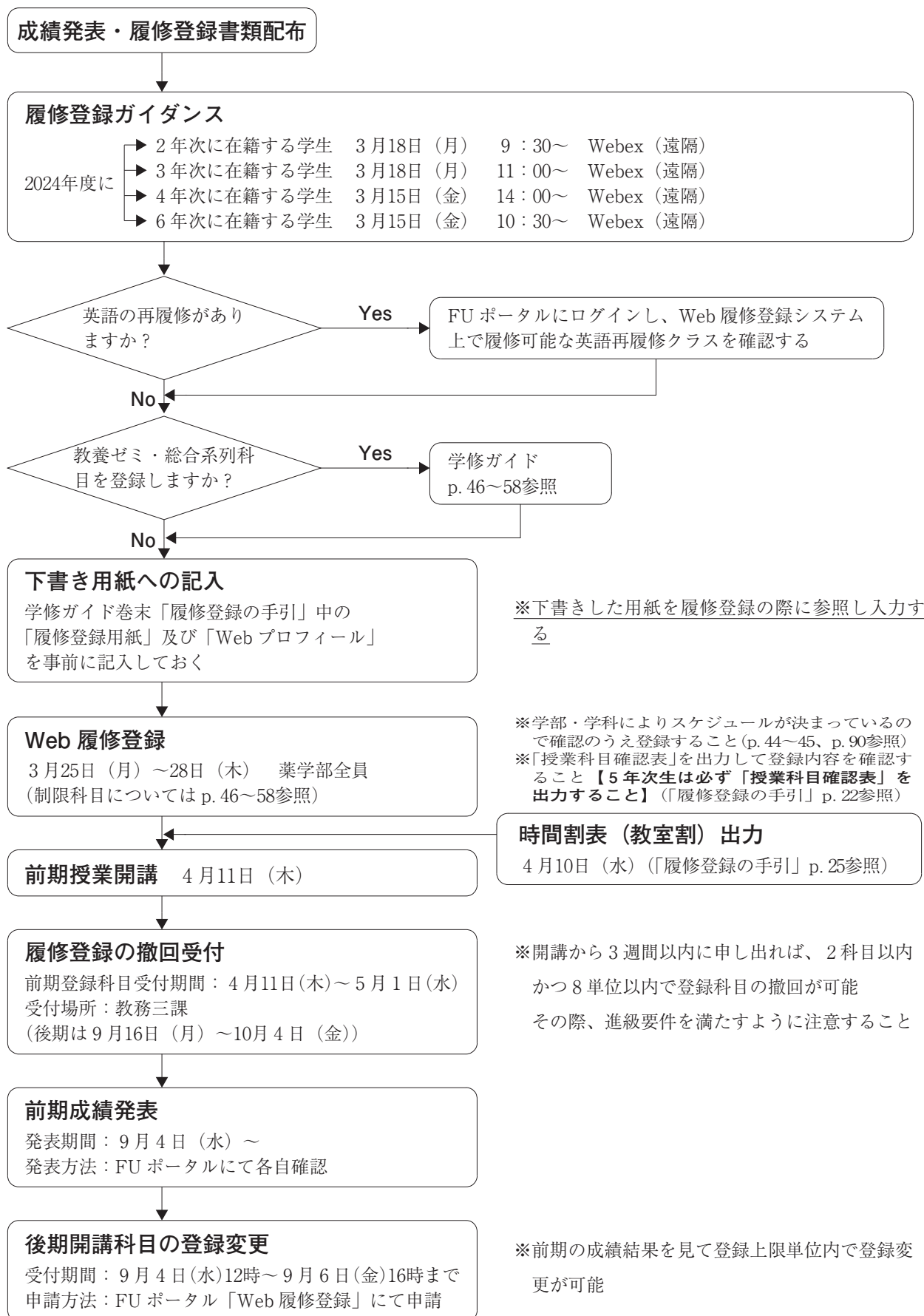
(1) 薬学部登録指定日と登録方法等

- 学修ガイド巻末「履修登録の手引」の履修登録スケジュール表で指定された期日・時間で Web 履修登録を行ってください。学内・学外いずれからも入力することが可能です。(登録作業時間は30分～60分程度が見込まれます)。
- 福大 ID が認証できない場合は、ただちに情報基盤センターまたは教務三課まで来てください。
- 履修登録方法やカリキュラム等に関する質問や相談は、教務三課にてお尋ねください。
- Web 履修登録の操作方法等は、「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
- 「履修登録の手引」の中にある「履修登録用紙（下書き用）」にあらかじめ登録しようとする授業科目を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。
- Web 履修登録の際に、学生プロフィールの更新(入力)も行います。「履修登録の手引」の中にある「Web プロフィール（下書き用）」にあらかじめ必要事項を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。
住所や電話番号等に変更がある人は必ず修正しておいてください。
- 5年次生は事前登録をしますので、各自必ず「授業科目確認表」を出力して登録内容を確認してください。

(2) 全学部利用可能な期日・時間

- 学修ガイド巻末「履修登録の手引」の履修登録スケジュール表を確認してください。
- ※学部・学科に関係なく、学内・学外いずれからも入力することが可能ですが、ログインできるアカウント数に制限があり、スムーズに履修登録できない場合もありますので、できるだけ指定された期日・時間帯で入力してください。

2024年度 薬学部履修登録流れ図【在学生】



外国語科目クラス別担当者一覧

※英語のレギュラークラス（目的別クラス）担当者については、Web履修登録画面または授業科目確認表を参照してください。

※英語の再履修クラス担当者については、「IV履修の手引き」（p.66）を参照してください。

ドイツ語

ドイツ語 I A およびドイツ語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH	全	I A	通年	火	3	堺 雅 志
		I B	通年	金	5	片 岡 宜 行
LJ LP LE LF LA	全	I A	通年	火	3	篠 崎 元
		I B	通年	金	5	永 田 善 久
LG	1(a)	I A	前期	月	2	富 重 純 子
		I B	後期	木	4	
	I A	前期	月	2	森 澤 万里子	
	I B	後期	木	4		
JJ	1-5	I A	通年	火	2	篠 崎 元
		I B	通年	金	2	篠 崎 元
JB	6-10	I A	通年	火	5	マ ン ケ
		I B	通年	木	3	堀 口 順 子
E	全	I A	通年	月	2	森 澤 万里子
		I B	通年	木	1	堀 口 順 子
CC	1-4	I A	通年	火	4	堀 口 順 子
		I B	通年	金	1	有 馬 良 之
	5-6	I A	通年	火	4	有 馬 良 之
		I B	通年	金	1	篠 崎 元
CB	全	I A	通年	月	3	富 重 純 子
		I B	通年	水	2	有 馬 良 之
CF	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト
		I B	通年	木	4	金 山 正 道
SM SP	全	I A	通年	火	4	堀 口 順 子
		I B	通年	金	1	有 馬 良 之
SC SE	全	I A	通年	火	4	有 馬 良 之
		I B	通年	金	1	篠 崎 元
TM TE	全	I A	通年	火	5	マ ン ケ
		I B	通年	木	3	堀 口 順 子
TL	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト
		I B	通年	木	4	金 山 正 道
TK	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト
		I B	通年	木	4	金 山 正 道
TC	全	I A	通年	月	1	田 口 武 史
		I B	通年	木	2	有 馬 良 之
TA	全	I A	通年	月	3	富 重 純 子
		I B	通年	水	2	有 馬 良 之

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
MM	全	I A	通年	火	2	篠 崎 元
		I B	通年	金	2	篠 崎 元
P	全	I A	通年	月	2	森 澤 万里子
		I B	通年	木	1	堀 口 順 子
G	全	I A	通年	火	3	堺 雅 志
		I B	通年	金	5	片 岡 宜 行

ドイツ語Ⅱ Aおよびドイツ語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH	全	Ⅱ A	通年	火	1	篠 崎 元
		Ⅱ B	通年	金	4	デル カステイヨ
LJ LP LE LF LA	全	Ⅱ A	通年	金	4	金 山 正 道
		Ⅱ B	通年	火	1	ライヒャルト
LG	1(a)	Ⅱ A	通年	水	2	富 重 純 子
		Ⅱ B	通年	金	2	ゴ ツ イ ッ ク
	1(b)	Ⅱ A	通年	金	2	片 岡 宜 行
		Ⅱ B	通年	水	2	デル カステイヨ

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、ドイツ語Ⅱ A・Ⅱ Bの履修を希望する場合は、ドイツ語Ⅱ A・Ⅱ BのLGクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、Ⅱ A・Ⅱ Bを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡ AかⅡ Bのいずれか片方を「ドイツ語Ⅱ」として履修します。

フランス語

フランス語Ⅰ Aおよびフランス語Ⅰ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ LG	全	I A	通年	火	3	甲斐春香
		I B	通年	金	5	山本崇代
LP LE LA	全	I A	通年	火	3	山下広一
		I B	通年	金	5	渡邊佳奈
LF	1(a)	I A	前期	月	2	村石麻子
				木	4	
	I B	後期	月	2	井関麻帆	
				木		4
1(b)	I A	前期	月	4	小池美穂	
			木	2		
JJ	1-5	I A	通年	火	2	甲斐春香
		I B	通年	金	2	
	6-10	I A	通年	火	5	山下広一
		I B	通年	木	3	
JB	全	I A	通年	月	1	鈴木隆美
		I B	通年	木	2	
E	全	I A	通年	月	2	渡邊佳奈
		I B	通年	木	1	
CC	全	I A	通年	火	4	山下広一
		I B	通年	金	1	
CB	全	I A	通年	月	3	渡邊佳奈
		I B	通年	水	2	
CF	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
SM SP SC	全	I A	通年	火	4	木下樹親
		I B	通年	金	1	
SE	全	I A	通年	火	4	山下広一
		I B	通年	金	1	
TM TE	全	I A	通年	火	5	山下広一
		I B	通年	木	3	
TL	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
TK	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
TC	全	I A	通年	月	1	鈴木隆美
		I B	通年	木	2	
TA	全	I A	通年	月	3	渡邊佳奈
		I B	通年	水	2	
MM	全	I A	通年	火	2	甲斐春香
		I B	通年	金	2	
P	全	I A	通年	月	2	渡邊佳奈
		I B	通年	木	1	
G	全	I A	通年	火	3	甲斐春香
		I B	通年	金	5	

フランス語Ⅱ Aおよびフランス語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ	全	Ⅱ A	通年	火	1	河野敦子
		Ⅱ B	通年	金	4	山本崇代
LE LP LG LA	全	Ⅱ A	通年	火	1	原田裕里
		Ⅱ B	通年	金	4	原田裕里
LF	1(a)	Ⅱ A	通年	水	2	村石麻子
		Ⅱ B	通年	金	2	アンティエ
	1(b)	Ⅱ A	通年	金	2	山本大地
		Ⅱ B	通年	水	2	アンティエ

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、フランス語Ⅱ A・Ⅱ Bの履修を希望する場合は、フランス語Ⅱ A・Ⅱ BのLFクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、Ⅱ A・Ⅱ Bを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡ AかⅡ Bのいずれか片方を「フランス語Ⅱ」として履修します。

中国語

中国語 I A および中国語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	全	I A	通年	火	3	王 雲 燕
		I B	通年	金	5	王 秀 珍
LH	全	I A	通年	火	3	龍 一 夫
		I B	通年	金	5	王 貞 月
LJ	全	I A	通年	火	3	何 憶 鶴
		I B	通年	金	5	岡 村 真寿美
LP	1	I A	通年	火	3	オウ イクブン
		I B	通年	金	5	荀 暁 崢
	2	I A	通年	火	3	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	5	武 継 平
LE LG LF	全	I A	通年	火	3	ア イ ネ ル
		I B	通年	金	5	宮 下 尚 子
LA	1	I A	前期	火	3	王 美 蘭
		I B	後期	火	3	王 一 萍
	2	I A	前期	火	3	王 一 萍
		I B	後期	火	3	王 美 蘭
JJ	1-5	I A	通年	火	2	中里見 敬 夫
		I B	通年	金	2	龍 一 夫
	6-10	I A	通年	火	5	田 村 和 彦
		I B	通年	木	3	有 働 彰 子
JB	全	I A	通年	月	1	王 美 蘭
		I B	通年	木	2	王 貞 月
EE	1-6	I A	通年	月	2	王 一 萍
		I B	通年	木	1	陳 青 鳳
	7-12	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
EI	全	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
CC	全	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
CB	全	I A	通年	月	3	オウ イクブン
		I B	通年	水	2	葛 目 至
CF	1-2	I A	通年	月	5	チ ヨ ウ ロ
		I B	通年	木	4	羽 田 ジェシカ
	3-4	I A	通年	月	5	オウ イクブン
		I B	通年	木	4	堤 和 幸

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
SM	1	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
	2	I A	通年	火	4	王 一 萍
		I B	通年	金	1	羅 明 坤
SP	1	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
	2	I A	通年	火	4	ホウ ラメイ
		I B	通年	金	1	オウ イクブン
SC	全	I A	通年	火	4	王 一 萍
		I B	通年	金	1	羅 明 坤
SE	1	I A	通年	火	4	ホウ ラメイ
		I B	通年	金	1	オウ イクブン
	2	I A	通年	火	4	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	1	王 美 蘭
S再	全	I A	通年	火	4	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	1	王 美 蘭
TM	1	I A	通年	火	5	王 秀 珍
		I B	通年	木	3	羽 田 ジェシカ
	2	I A	通年	火	5	ホウ ラメイ
		I B	通年	木	3	葛 目 至
TE	1	I A	通年	火	5	龍 一 夫
		I B	通年	木	3	王 雲 燕
	2	I A	通年	火	5	王 雲 燕
		I B	通年	木	3	堤 和 幸
TL	1-2	I A	通年	月	5	王 一 萍
		I B	通年	木	4	葛 目 至
	3-4	I A	通年	月	5	王 美 蘭
		I B	通年	木	4	大 澤 武 司
TK	1	I A	通年	月	5	中 村 昌 彦
		I B	通年	木	4	岡 村 真寿美
	2	I A	通年	月	5	伊 伏 啓 子
		I B	通年	木	4	有 働 彰 子
TC	1	I A	通年	月	1	朱 冰
		I B	通年	木	2	陳 青 鳳
	2	I A	通年	月	1	王 一 萍
		I B	通年	木	2	何 憶 鶴
TA	1	I A	通年	月	3	王 美 蘭
		I B	通年	水	2	岡 村 真寿美
	2	I A	通年	月	3	中 村 昌 彦
		I B	通年	水	2	河 本 美 紀
MM	全	I A	通年	火	2	中里見 敬
		I B	通年	金	2	龍 一 夫
PP	1-3	I A	通年	月	2	王 一 萍
		I B	通年	木	1	陳 青 鳳
	4-6	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
G	全	I A	通年	火	3	龍 一 夫
		I B	通年	金	5	王 貞 月

中国語ⅡAおよび中国語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC	全	ⅡA	通年	火	1	ア イ ネ ル
		ⅡB	通年	金	4	ホウ ラメイ
LH	1	ⅡA	通年	火	1	有 働 彰 子
		ⅡB	通年	金	4	オウ イクブン
	2	ⅡA	通年	火	1	王 美 蘭
		ⅡB	通年	金	4	王 一 萍
LJ	全	ⅡA	通年	火	1	中里見 敬
		ⅡB	通年	金	4	宮 下 尚 子
LP	1	ⅡA	通年	火	1	オウ イクブン
		ⅡB	通年	金	4	王 美 蘭
	2	ⅡA	通年	火	1	王 一 萍
		ⅡB	通年	金	4	武 継 平
LE LG LF	全	ⅡA	通年	火	1	宮 下 尚 子
		ⅡB	通年	金	4	王 秀 珍
LA	全	ⅡA	前期	火 金	4 3	オウ イクブン
		ⅡB	後期	火 金	4 3	オウ イクブン
J E C S T P G	全	ⅡA	通年	火	5	荀 曉 崢
		ⅡB	通年	木	4	宮 下 尚 子

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「中国語Ⅱ」として履修します。

スペイン語

スペイン語 I A およびスペイン語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH LE LF LA	全	I A	通年	火	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	5	辻 博 子
LJ LP LG	全	I A	通年	火	3	青 木 文 夫
		I B	通年	金	5	上 間 洋
JJ	1-5	I A	通年	火	2	青 木 文 夫
		I B	通年	金	2	上 間 洋
	6-8	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	9-10	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
JB	全	I A	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	1	デ ィ ア ス
E	全	I A	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	2	デ ィ ア ス
CC	1-3	I A	通年	火	4	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	1	上 間 洋
	4-6	I A	通年	金	1	鈴 木 美 香
		I B	通年	火	4	デ ィ ア ス
CB	全	I A	通年	月	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	水	2	辻 博 子
CF	1-2	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	3-4	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
SC SE	全	I A	通年	火	4	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	1	上 間 洋
SM SP	全	I A	通年	金	1	鈴 木 美 香
		I B	通年	火	4	デ ィ ア ス
TM	1	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
TE	1	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
TL	1-2	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	3-4	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TK	1	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TC	全	I A	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	1	デ ィ ア ス
TA	全	I A	通年	月	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	水	2	辻 博 子

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
MM	全	I A	通年	火	2	青 木 文 夫
		I B	通年	金	2	上 間 洋
P	全	I A	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	2	デ ィ ア ス
G	全	I A	通年	火	3	青 木 文 夫
		I B	通年	金	5	上 間 洋

スペイン語Ⅱ Aおよびスペイン語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH LE LF LA	全	Ⅱ A	通年	火	1	青 木 文 夫
		Ⅱ B	通年	金	4	辻 博 子
LJ LP LG	全	Ⅱ A	通年	火	1	鈴 木 美 香
		Ⅱ B	通年	金	4	上 間 洋

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、スペイン語Ⅱ A・Ⅱ Bの履修を希望する場合は、スペイン語Ⅱ A・Ⅱ BのLクラスで履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、Ⅱ A・Ⅱ Bを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡ AかⅡ Bのいずれか片方を「スペイン語Ⅱ」として履修します。

朝鮮語

朝鮮語ⅠAおよび朝鮮語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	1	ⅠA	通年	火	3	押川 信久
		ⅠB	通年	火	5	朴順 伊鎬
	2	ⅠA	通年	火	3	申鎬 十
		ⅠB	通年	火	5	鄭ハ 順ナ
LH	全	ⅠA	通年	火	3	押川 信久
		ⅠB	通年	火	5	朴順 伊久
LJ	1	ⅠA	通年	火	3	押川 信順
		ⅠB	通年	火	5	朴順 伊鎬
	2	ⅠA	通年	火	3	申鎬 十
		ⅠB	通年	火	5	鄭ハ 順ナ
LG LF	全	ⅠA	通年	火	3	申鎬 十
		ⅠB	通年	火	5	鄭ハ 順ナ
LE	全	ⅠA	通年	火	3	鄭美 京鎬
		ⅠB	通年	火	5	申鎬 十
LP	全	ⅠA	通年	火	3	白岩 美穂
		ⅠB	通年	火	5	趙賢 眞京
LA	1	ⅠA	前期	月	4	尹秀 美
		ⅠB	後期	月	4	羅義 圭
	2	ⅠA	前期	月	4	羅義 圭
		ⅠB	後期	月	4	尹秀 美
JJ	1-3	ⅠA	通年	火	2	押川 信久
		ⅠB	通年	火	2	黃聖 媛媛
	4-5	ⅠA	通年	火	2	高仁 淑淑
		ⅠB	通年	火	2	高仁 淑淑
	6-10	ⅠA	通年	火	5	高仁 淑淑
		ⅠB	通年	木	3	申鎬 十
JB	1	ⅠA	通年	月	1	羅義 圭
		ⅠB	通年	月	2	崔秀 蓮
	2	ⅠA	通年	月	1	大川 賢眞
		ⅠB	通年	月	2	趙賢 眞
	3-5	ⅠA	通年	月	1	趙賢 眞
		ⅠB	通年	月	2	朴順 伊
EE	1-6	ⅠA	通年	月	2	大川 大輔
		ⅠB	通年	月	1	趙賢 眞
	7-12	ⅠA	通年	月	2	羅義 圭
		ⅠB	通年	月	1	崔秀 蓮
EI	1-2	ⅠA	通年	月	2	大川 大輔
		ⅠB	通年	月	1	趙賢 眞
	3-4	ⅠA	通年	月	2	羅義 圭
		ⅠB	通年	月	1	崔秀 蓮
CC	1	ⅠA	通年	火	4	羅義 圭
		ⅠB	通年	火	1	高鄭 仁淑
	2	ⅠA	通年	火	4	鄭美 京
		ⅠB	通年	火	1	趙賢 眞
	3-4	ⅠA	通年	火	4	白岩 美穂
		ⅠB	通年	火	1	金慶 湖
	5-6	ⅠA	通年	火	4	申鎬 十
		ⅠB	通年	火	1	押川 信久
CB	1-3	ⅠA	通年	月	3	千受 獨珉
		ⅠB	通年	月	2	吳安 純子
	4-6	ⅠA	通年	月	3	安藤 純子
		ⅠB	通年	月	2	金京 眞
CF	1	ⅠA	通年	月	5	趙賢 眞
		ⅠB	通年	月	4	李廷 恩
	2	ⅠA	通年	月	5	千受 賢眞
		ⅠB	通年	月	4	趙賢 眞
	3	ⅠA	通年	月	5	吳獨 立
		ⅠB	通年	月	4	崔秀 蓮
	4	ⅠA	通年	月	5	金京 姫
		ⅠB	通年	月	4	金慶 湖

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
SM	1	ⅠA	通年	火	4	白岩 美穂
		ⅠB	通年	火	1	金慶 湖
	2	ⅠA	通年	火	4	高仁 淑
		ⅠB	通年	火	1	黃聖 媛
SC	1	ⅠA	通年	火	4	申鎬 十
		ⅠB	通年	火	1	押川 信久
	2	ⅠA	通年	火	4	高仁 淑
		ⅠB	通年	火	1	黃聖 媛
SP	1	ⅠA	通年	火	4	羅義 圭
		ⅠB	通年	火	1	高仁 淑
	2	ⅠA	通年	火	4	鄭美 京
		ⅠB	通年	火	1	趙賢 眞
SE	1	ⅠA	通年	火	4	羅義 圭
		ⅠB	通年	火	1	高仁 淑
	2	ⅠA	通年	火	4	鄭美 京
		ⅠB	通年	火	1	趙賢 眞
TM	1	ⅠA	通年	火	5	羅義 圭
		ⅠB	通年	火	3	李廷 恩
	2	ⅠA	通年	火	5	大川 大輔
		ⅠB	通年	火	3	朴順 伊
TE	1	ⅠA	通年	火	5	羅義 圭
		ⅠB	通年	火	3	李廷 恩
	2	ⅠA	通年	火	5	大川 大輔
		ⅠB	通年	火	3	朴順 伊
TL	1-2	ⅠA	通年	月	5	吳獨 立
		ⅠB	通年	月	4	崔秀 蓮
	3-4	ⅠA	通年	月	5	金京 姫
		ⅠB	通年	月	4	趙賢 眞
TK	1	ⅠA	通年	月	5	趙賢 眞
		ⅠB	通年	月	4	李廷 恩
	2	ⅠA	通年	月	5	千受 珉
		ⅠB	通年	月	4	趙賢 眞
TC	1	ⅠA	通年	月	1	羅義 圭
		ⅠB	通年	月	2	崔秀 蓮
	2	ⅠA	通年	月	1	大川 大輔
		ⅠB	通年	月	2	趙賢 眞
TA	1	ⅠA	通年	月	3	千受 珉
		ⅠB	通年	月	2	吳獨 立
	2	ⅠA	通年	月	3	安藤 純子
		ⅠB	通年	月	2	金京 眞
MM	全	ⅠA	通年	火	2	黃仁 淑
		ⅠB	通年	火	2	高仁 淑
PP	1-3	ⅠA	通年	月	2	大川 大輔
		ⅠB	通年	月	1	趙賢 眞
	4-6	ⅠA	通年	月	2	羅義 圭
		ⅠB	通年	月	1	崔秀 蓮
G	全	ⅠA	通年	火	3	鄭美 京
		ⅠB	通年	火	5	申鎬 十

朝鮮語Ⅱ Aおよび朝鮮語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC	1	Ⅱ A	通年	火	1	押 川 信 久
		Ⅱ B	通年	金	4	金 慶 湖
	2	Ⅱ A	通年	火	1	申 鎬
		Ⅱ B	通年	金	4	大 川 大 輔
LH	1	Ⅱ A	通年	火	1	押 川 信 久
		Ⅱ B	通年	金	4	金 慶 湖
	2	Ⅱ A	通年	火	1	申 鎬
		Ⅱ B	通年	金	4	大 川 大 輔
LJ LG LF	全	Ⅱ A	通年	火	1	緒 方 義 広
		Ⅱ B	通年	金	4	高 仁 淑
LE	全	Ⅱ A	通年	火	1	黄 聖 媛
		Ⅱ B	通年	金	4	趙 賢 眞
LP	全	Ⅱ A	通年	火	1	羅 義 圭
		Ⅱ B	通年	金	4	鄭 ハ ナ
LA	1	Ⅱ A	前期	水	2 5	金 慶 湖
		Ⅱ B	後期	水	2 5	羅 義 圭
	2	Ⅱ A	前期	水	2 5	羅 義 圭
		Ⅱ B	後期	水	2 5	金 慶 湖
J E C S T P G	全	Ⅱ A	通年	火	5	申 鎬
		Ⅱ B	通年	木	4	李 泰 勲

※ S、Tの学生はⅡ AかⅡ Bのいずれか片方を「朝鮮語Ⅱ」として履修します。

ロシア語

ロシア語 I A およびロシア語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
全学部	全	I A	通年	火	3	ヴ エ ラ
		I B	通年	金	5	ヴ エ ラ

ロシア語 II A およびロシア語 II B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
L J E C S T P G	全	II A	通年	火	1	ヴ エ ラ
		II B	通年	金	4	ヴ エ ラ

※S、Tの学生はII AかII Bのいずれか片方を「ロシア語II」として履修します。

日本語

日本語 I A および日本語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
留学生	①	I A	通年	火	2	清 水 りえ子
		I B	通年	金	1	川 邊 理 恵
	②	I A	通年	火	3	清 水 りえ子
		I B	通年	水	5	川 邊 理 恵

日本語 II A および日本語 II B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
留学生	全	II A	通年	火	1	清 水 りえ子
		II B	通年	金	4	清 水 りえ子



そ の 他

- 大学院受験(飛び級制度)
- 特待生制度
- 国際交流・海外留学支援

大学院受験（飛び級制度）

大学に3年以上在学している者で、「本学の大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの」は大学院を受験することができる。（大学院学則第30条第1項第9号）

1 研究科及び専攻

研 究 科	専 攻
理 学 研 究 科	応 用 数 学 専 攻（博士課程前期）
	応 用 物 理 学 専 攻（博士課程前期）
	化 学 専 攻（博士課程前期）
	地 球 圏 科 学 専 攻（博士課程前期）
工 学 研 究 科	機 械 工 学 専 攻（博士課程前期）
	電 気 工 学 専 攻（博士課程前期）
	電 子 情 報 工 学 専 攻（博士課程前期）
	化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻（博士課程前期）
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻（博士課程前期）

2 出 願 資 格

志願者は、所属する学科において、成績及び単位修得状況等に関する所定の要件を満たしていること。

3 出 願 手 続 等

出願手続・願書受付時期・入学試験等の詳細については、大学院事務課にお問い合わせください。

特待生制度

本学には、学業成績並びに品行の特に優秀な学生を「特待生」として表彰する制度があります。（学則第40条）。この制度は、優秀な成績を修めた学生の榮譽を称えるとともに、今後の学生生活や社会生活における自信に繋げ、更なる活躍を期待して設けられたものです。

前年度の学業成績や品行をもとに、学部ごとの選考基準により、学部学科、学年別に選考します。各学部の2年次以上の学生を対象に、全学で約200人が選ばれ、特待生には、規定された奨学金が授与されます。

国際交流・海外留学支援

世界には日本と大きく異なる文化、歴史、言語、宗教、習慣を持つ国や地域が存在しています。本学では、そうした価値観や文化を理解する広い視野を持ち、国際社会で大いに活躍できる人材の育成を目指し、海外協定校を中心とした学術交流を行っています。

同時に、学生が“海外で学ぶ”プログラムとして、交換留学や海外研修、海外語学研修、認定留学などの制度だけでなく、学部留学生、交換留学生をはじめとした外国人留学生の受入れも積極的に行っており、福岡大学生が“学内で学ぶ”環境も整備しています。

また、交換留学をめざす全学部生を対象とした「特別授業」や交換留学、海外研修に関するガイダンスを行う「留学フェア（2024年4月と9月の年2回実施）」など、国際交流・海外留学支援を促進する様々なプログラムを行っています。ぜひ参加してください。

1 交換留学

1. 交換留学制度について

交換留学とは、海外の大学との協定に基づいて協定校から学生を受け入れると同時に、本学の学生を学籍上「在学」の扱いで協定校に1年間派遣する制度です。留学先大学では主に専門科目の知識修得を目的とし、履修した科目は内容・時間数等により帰国後に本学の授業科目として単位認定されます。また、留学先大学での授業料は免除され、本学より留学援助金が助成されます。

出願年次は1～3年次です。交換留学実施大学、出願時期、派遣期間については下表を参照してください。選考は語学能力、学業成績および面接により総合的に評価し判定します。対象学部など交換留学についての必要な情報や留意事項は国際センターウェブサイトに掲載しています。また、わからないことがあれば、国際センター事務室に相談してください。

※この他に人文学部が独自に行っている交換留学があります。人文学部の交換留学については、教務二課（人文学部）にお問い合わせください。

交換留学実施校一覧（内容が変更となる場合がありますので、出願に際しては事前に国際センター事務室にお問い合わせください。）

大学名	国・地域	出願時期	派遣期間	対象学部	
仁川大学校	韓国	2024年5月下旬	2025年2月 ） 2026年1月	医・薬を除く学部	
蔚山大学校					
東義大学校					
釜山大学校					
慶熙大学校					
啓明大学校					
慶南大学校					
国民大学校				人文・法・経済・商・理・工	
釜慶大学校					
東国大学校					人文・経済・商・理・工・ スポーツ科
東亜大学校					
慶北大学校					人文・経済・工
釜山外国語大学校					人文・経済・商 (いずれの学部も1年次生の出願不可)
成均館大学校	中国	2024年5月下旬	2025年2月 ） 2026年1月	医・薬を除く学部	
華東師範大学					
煙台大学					
揚州大学				医・薬を除く学部	
広州大学					
黒龍江大学				人文・経済・商	
中央财经大学				人文・法・経済・商	
ハルビン理工大学				人文	
西安交通大学				人文・法・経済・商・理・工	
上海财经大学				人文	

大学名	国・地域	出願時期	派遣期間	対象学部
国立高雄大学	台湾	2024年5月下旬	2025年2月 ～ 2026年1月	人文・法・経済・商・理・工
輔仁大学				人文・法・経済・商 (いずれの学部も3年次生の出願不可)
ハノイ大学	ベトナム	2024年10月下旬	2025年8月 ～ 2026年7月	医・薬を除く学部
リーズ大学	イギリス			人文・法・経済・商
ニューカッスル大学				医・薬を除く学部 (いずれの学部も1年次生の出願不可)
セントラル・ランカシャー大学	フランス			人文・法・経済・商
リヨン政治学院				人文・法・経済・商・工
セルジー・パリ大学	ベルギー			人文・法・経済・商・理・工
パリ・シテ大学				人文・法・理・工
リエージュ大学	フィンランド			人文・商・理
タンペレ大学	スペイン			医・薬を除く学部
セビージャ大学	ブラジル			
連邦立サンタ・カタリナ大学				

2 海外研修・海外語学研修

1. 海外研修制度について

海外研修とは、海外の大学との協定に基づいて学生を短期間（1カ月間または約20日間）協定校に派遣する研修制度です。主に語学研修、文化研修、ホームステイ等を通じて語学力と国際感覚の養成を目的としています。全学部の学生を対象に募集を行い、選考試験（筆記試験および面接）によって各大学21人（予定）の学生を選抜します。本学から往復渡航旅費相当額が助成されます。蔚山大学校は1～4年次生まで、ウオッシュバン大学、グリフィス大学は1～3年次生（医学部医学科・薬学部は1～4年次生）まで出願可能です。

海外研修実施校一覧

大学名	国名	対象学部	募集時期	研修期間
蔚山大学校	韓国	全学部	4月上旬	8月初旬～8月下旬
※ウオッシュバン大学	アメリカ		9月中旬	2月中旬～3月中旬
※グリフィス大学	オーストラリア			

※海外英語研修2単位として認定されます（卒業要件単位としての取扱いは学則および学科履修規程によります）。

2. 海外語学研修について

海外語学研修は、選考試験は行われませんが、経費は全額自己負担となります。語学力を向上させたい、現地の文化や歴史に触れたいと考えている皆さんを対象としたプログラムです。受付は先着順で、定員になり次第、募集を締め切ります。1～4年次生まで出願可能です。

海外語学研修実施校一覧

大学名	国名	対象学部	定員	募集時期	研修期間
ニューカッスル大学	イギリス	全学部	25人	5月上旬	8月初旬～8月下旬
シアトル大学	アメリカ		20人		8月下旬～9月上旬
ハノイ大学	ベトナム		10人	10月上旬	2月下旬～3月中旬
揚州大学	中国		20人		

3 留学支援のためのプログラム

国際センターでは、全学部学生を対象に次のような授業を開講します（単位認定なし）。

交換留学をめざす学生を対象に朝鮮語、中国語、フランス語の語学力向上を目的とした授業や英語で何かを学びたい学生のために、様々な学習内容の英語授業を実施します。受講料は無料です。

前期申込受付は3月中旬～4月上旬、後期申込受付は7月上旬～9月上旬で、国際センター事務室が案内します。

2023年度実績（参考）

科 目 名	講 師	曜 日 ・ 時 限
Introduction to Global Career Design (初級)	新 田 よしみ	前期・木曜・5限
Japanese Subcultures (初級)	新 田 よしみ	前期・火曜・4限
To be a competent speaker (初級)	新 田 よしみ	後期・水曜・5限
Cartoons in America (初級)	新 田 よしみ	後期・火曜・5限
Overseas Training Program (初級)	S. A. ウェストン	前後期・月曜・4限
Global Issues Practicum (中級)	S. A. ウェストン	前後期・水曜・4限
Japanese History and Culture (中級)	クロス,ティモシー	前期・火曜・5限
朝鮮語をのぼそう！（中級以上）	申 鎬	前・後期・木曜・5限
步步高 中級中国語	王 雲 燕	前・後期・木曜・5限
実践フランス語	清 水 りえ子	前・後期・金曜・5限

また、受講者のニーズに合わせて国際センター所属の教員による目的別の短期集中講座を実施します。

2023年度実績（参考）

科 目 名	回 数	開 催 時 期
Interactive English	4回完結	前期（5月）／後期（10月）
グローバル育成能力講座	4回完結	前期（6月）／後期（11月）
IELTS Speaking 特講	10回コース	4月（その後随時対応）
将来海外で働きたい人向けの履歴書・カバーレター書き方講座	6回コース	4月（その後随時対応）

4 外国人留学生・海外研修生等の受入れ

本学では、海外の大学との協定に基づいて、イギリス、フランス、フィンランド、ベルギー、ドイツ、スペイン、中国、韓国、台湾等の協定校から1年間または5カ月間、交換留学生を受け入れています。交換留学生は、「日本語・日本文化講座」という交換留学生のための授業を受講する学生と、学部的一般科目を受講する学生に分かれます。また、課外活動にも積極的に参加し、本学学生との交流を深めています。

学士の学位取得を目的として学部留学生選抜に合格して入学した中国、韓国、ベトナム等からの学部留学生も日本人学生と共に勉学に励んでいます。彼らは外国人留学生会（愛好会）を組織して、学内外で交流活動を行っています。

5 認定留学

認定留学とは、本学が認定した外国の大学において、事前に本学の許可を得て特定の科目を履修することを目的とするものです。留学を希望する大学の資料等、必要書類を本学へ提出し許可を得れば認定留学生となります。留学先大学で履修した科目は本学の授業科目として単位認定されますが、留学先大学へも授業料を支払わなければなりません。なお、認定留学の詳細については所属する学部の事務部署にお問い合わせください。

交換留学、海外研修・海外語学研修、留学のための支援プログラムについては、国際センター事務室（中央図書館6階）にお問い合わせください。

なお、国際センターのウェブサイトにも本学の国際交流に関する情報を多く掲載していますので、こちらもご覧ください。



<https://www.kokusai.fukuoka-u.ac.jp/>

VI

諸 規 程

- 福岡大学学則
- 授業科目及び単位・時間数(学則第31条(表))
以上 新入生(令和6年度入学生)適用
- 福岡大学学科履修規程
- 年次別授業科目表(学科履修規程 第4条 別表)
- 福岡大学成績考査規程
- その他諸規程
 - 福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程
 - 福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程
 - 福岡大学転部・転科に関する規程
 - 福岡大学授業料その他諸納入金規程
 - 学費等納入金一覧表

福岡大学学則〔新入生(令和6年度入学生)適用〕

第1章 総 則

第1節 目 的

第1条 本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の規定に基づき、人文、法律、経済、商学、理学、工学、医学、薬学及びスポーツ科学に関する専門的研究及び教授を行い、学識深く教養高き人材を養成することを目的とする。

2 第2条第1項に定める各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) **人文学部**は、広範な一般教養を身に付けると同時に、すべての学問の基礎となる人文学諸分野の専門知識を修得し、他者との関係への配慮や自由と責任に基づく倫理観を備えた人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、社会人として人間の精神と社会のあり方を多様な価値観の中で総合的に捉え、高度技術社会において人間の原点に立って行動できる人材を養成すること、及び外国語学習を通して異文化を理解し、日本と世界を結ぶコミュニケーション能力を持った国際人を養成することを目的とする。

文化学科は、「文化の多角的、総合的理解」という学習・教育理念のもと、文化に広い関心を持つ人材を受け入れる。1年次の必修科目を通じて基本的な知識と研究方法とを修得させ、2年次以降は一つの専門領域に偏ることのない学際的なカリキュラムを通じて文化の多角的、総合的理解を身に付けた人材を育成する。文化学科は、多様な価値観が共存し、複雑化してゆく時代にあって、固定観念にとらわれない、広い視野と柔軟な発想力とを持つ有為な人材を社会に送り出すことを目的とする。

歴史学科は、古代以来国際交流の窓口であったという、本学が位置する地域の特性を生かして、九州から日本史、世界史を見直す地域に根ざす視点と、九州を東アジア史、世界史の中に位置づける国際的な視点を併せ持つ教育と研究の推進を理念とする。少人数教育を徹底して行い、導入教育において大学生としての基本的能力を涵養するとともに、専門教育では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性を身に付けた人材の育成を目指す。また、専門分野の枠を超えた横断的な科目履修を通じて歴史を総合的に理解する能力を涵養し、もって、専門的な知識・教養と複眼的な思考力を兼ね備えた人材の養成を目的とする。

日本語日本文学科は、日本の文化や社会の根幹をなす日本語と、その結実たる日本文学を広く深く学び、それらを国際的視点に立って捉え直すことにより、豊かな教養と深い洞察力を備え、日本語の高度なコミュニケーション能力を身に付けた広い視野を持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、日本語日本文学への深い理解を基盤として国際化社会で活躍し得る人材、及び専門的知識によって地域社会に貢献し得る人材の養成を目的とする。

教育・臨床心理学科は、教育と臨床心理の二つの分野の統合による人への支援や援助、人間形成とそのケアに貢献し得る総合的、実践的な力量を備えた人間を育むことを理念とする。この理念に基づき、具体的には、メンタルヘルスやストレスマネジメント、自己啓発や生涯学習、キャリア発達等の諸課題に対して、教育学と臨床心理学の知識や技法を用いてアプローチし得る能力を実社会の多様な場面で発揮できる人材を養成することを目的とする。

英語学科は、国際化や異文化との共生がますます進む状況下にあって、異文化を理解し、これに順応するとともに、国際社会、地域社会における諸問題を解決するために他者と協力しながら貢献できる人材を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、英語については、4技能（話す・聞く・書く・読む）をバランス良く身に付けるとともに、英語以外の言語とその文化に関する知識を修得している人材、及び学術的専門分野については、深い知識を持つとともに、情報の収集・分析・考察をし、その結果を発信する力を有する人材の養成を目的とする。

ドイツ語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、ドイツ語によるコミュニケーション能力を培うとともに、ドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側

面から理解するための充実した教育を実施することを目指す。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び深い学識を有し、異文化間の相互理解に貢献できる国際人を育成することを目的とする。

フランス語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、フランス語によるコミュニケーション能力を培うとともに、フランスをはじめとするフランス語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側面から理解することを教育研究の目的とする。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び異文化間の相互理解に貢献できる広い教養と深い学識をそなえた国際人を養成することを目的とする。

東アジア地域言語学科は、確実な言語運用能力の習得を基礎とし、東アジアの社会や伝統、文化、地域事情を深く洞察することで、日本を含めた東アジアを足場とした広い視野と洞察力を併せ持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、東アジアで有用な各種の語学力とそれを用いた地域事情の知識を通して問題の発見と解決ができる人材、地域のバランス感覚に富んだ人材、他者を尊重し様々な問題にも柔軟に対応できる人材、そして卒業後その更新が可能な人材の養成を目的とする。

- (2) **法学部**は、法学（政治学を含む。）の学修及び研究を通じて、現代社会の諸問題に積極的に取り組み、地域社会、企業活動、公共分野及び国際社会に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、広範な一般教養を身に付け、法学の専門的知識及び法的思考力を有する人材を養成することを目的とする。

法律学科は、憲法・民法・政治学などの科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、法律総合コース、公共法務コース又は総合政策コースのいずれか一つを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力及び政策的思考力を身に付け、法曹その他の法律専門職並びに公共分野、企業及び地域社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

経営法学科は、民法などの私法系科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、企業法コース又は国際コースのいずれかを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力並びに企業法制に関する専門的知識及び国際的視野を身に付け、企業、地域社会及び国際社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

- (3) **経済学部**は、経済学的知の伝承と創造により、社会の調和ある発展と人類の福祉の向上に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、経済学における論理的思考力と実証的分析能力及び歴史的理解力を向上させ、経済学的知性と豊かな人間性、国際的な視野、旺盛な行動力によって社会の進歩と繁栄に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経済学科は、伝統的な経済学の知識と経済学的思考方法の教育により、経済全般に対する理解力を有するゼネラリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、今日の経済情勢と経済学の理論と応用、経済の歴史的発展に関する学習を通して、現代社会とその背後にあるメカニズムとダイナミクスに対する理解力と洞察力を養い、近世代を担う総合力ある経済人を養成することを目的とする。

産業経済学科は、学際的実学教育により、現実社会における問題の発見と原因究明を行い、その解決策を立案し実行できるスペシャリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、経済学とその関連諸学の学習を通して論理的思考力と実証的分析力を高め、さらにフィールドスタディによって地域社会や企業経営に対する洞察力を養い、実践的な問題解決力を有する人材を養成することを目的とする。

- (4) **商学部**は、大きく変化する社会的・経済的環境のもとで、商学研究を深化させ、研究成果を社会に還元することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の知識及び理論を身に付け、これらを活用して問題の発見・解決に当たる能力を持ち、他者と協働して企業、地域等の発展を担う人材を

養成することを目的とする。

商学科は、商学、特に流通・マーケティング、情報・サービス、交通、金融・保険、商業史の広範な分野の理論を学ぶことを通して、時代の変化を多面的な視点から考察し、実務に対応できる基礎力を身に付けることで、地域や社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経営学科は、企業をはじめとする各種組織のマネジメントリーダー又は職業会計人として強い責任感を有し、問題発見及び問題解決の能力を持ち、協働して社会や組織の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

貿易学科は、世界情勢の変化に適応し、これを先取りできるビジネスマインドを持った国際教養人の養成を目指す。すなわち、様々な個人、団体、組織による国際的な活動の内容及びこれらのグローバルな関係を理解する能力を有するとともに、世界で活躍できる人材又は地域と世界をつなぐ能力を持った人材を養成することを目的とする。

(5) **商学部第二部商学科**は、勤労学生、社会人学生、シニア層等の多様な学生を教育の対象とすることから、商学部の教育研究の理念に加えて、リカレント教育や生涯教育の場を提供することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の広範な内容について学ぶことを通して、地域社会を動かすリーダーシップを備えた人材を養成することを目的とする。

(6) **理学部**は、自然科学と数理科学に関する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、既知の事実と理論を学びながら、自然現象や数理を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

応用数学科応用数学コース及び応用数学科社会数理・情報インスティテュートコースは、数学や情報数理の理論と応用を学ぶことを通して、論理的な分析力、思考力を養うことを教育の理念とする。この理念に基づき、探求心、向上心を持ち、柔軟な発想力、豊かな創造力のもと、数学を通して社会における諸問題を解決する力を備え、社会の健全な発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

物理科学科は、物理学とそれに関連する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、力学・電磁気学・波動・熱力学・量子力学などに代表される物理学と、それに関連する幅広い応用分野の既知の事実と理論を学びながら、物理現象を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

化学科は、化学の探求を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、新たな機能性物質の開発を目指す物質化学の分野及び分子レベルでの生命現象の解明を目指す生命化学の分野において、化学的現象の摂理や物質の機能性発現の原理を種々の観点から理解し、化学の知識と技術を実社会で活用し、21世紀に国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

地球圏科学科は、幅広い視野と知識から地球とそこに生息する生物に関する多様な現象・問題に対処できる能力を養い、健全な未来社会の発展に貢献することを教育研究の理念とする。その実現のために、自然科学の基礎となる数学、物理、化学、生物学及び地学を幅広く学び、さらに固体地球、大気、生物のいずれかを専門的に学ぶことにより、自然現象を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を発揮し、国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

(7) **工学部**は、良心に基づいた社会的責任感を有し、時代に即応した判断力と科学技術をもって社会の持続的発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、工学・技術に求められる豊かな創造性と実務に即した応用力を育成するために、十分な基礎学力に加えて深い専門の科学技術と、幅広い教養を修得させて調和のとれた人格の発達を促すことを目的とする。

機械工学科は、幅広い教養と高度な専門知識を備え、ものづくり（機械の創造）を通して、指導的立場から、実践的な応用力と豊かな創造性を発揮して、人類の幸福と社会の福祉に貢献できる技術者を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、確実な観察力を備え、幅広い知識により問題を的確に分析し、解決に向かって果敢に行動できる技術者を育てることを人材育成の目的とする。

る。

電気工学科は、日々進歩する技術レベルに対応できる創造性及び課題の探求能力に優れ、かつ、コミュニケーション能力を有する人材の育成を教育研究の理念とする。この理念を達成するため、科学及び工学全般にわたる問題の理解力、判断力、解決力を養うことにより、情報・制御・環境などの分野を含めた広範囲にわたる基礎知識を修得し、社会的責務を果たすことのできる技術者を育てることを教育の目的とする。

電子情報工学科は、時代の要求に応じた新しい電子情報システムを構築することのできる技術者を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えた技術者を養成することを目的とする。専門分野においては、電子工学と情報工学の基礎を理解し、それらを応用して電子・情報工学の技術開発に寄与できる技術者を養成することを目的とする。

化学システム工学科は、化学技術者としての幅広い教養と健全な倫理観を身に付けるとともに、化学工学分野の知識を修得し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、基礎及び専門知識を修得し、それを問題解決に応用する能力、技術者として社会に対する責任を自覚する能力及び社会の進展に伴って自己変革する能力を有し、国内外での化学技術・環境技術に関連する広い分野で活躍できる柔軟な思考力と総合力を兼ね備えたエンジニアを養成することを目的とする。

社会デザイン工学科は、自然環境と調和した生活環境の創造に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、地球及び地域の環境問題を直視して自然と調和しながら地震や洪水などの災害に強い社会資本整備を行う建設技術者を養成する。さらに、強い責任感と倫理感を持って次世代に豊かな生活や文化を継承し続けられる社会デザインに取り組める人材を養成することを目的とする。

建築学科は、美しく、快適で、安全で、豊かな建築空間・都市空間を創造できる人材の育成を教育研究の理念とする。この理念に基づき、建築分野に要求される社会的・技術的ニーズに適切に応えられる建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格を有し、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

- (8) **医学部**は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、社会のニーズや医療・福祉・地域に貢献できる人間性豊かな医療専門職者（医師・看護師・保健師・養護教諭・医学及び医療研究者）を養成することを目的とする。

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

看護学科は、生命の尊厳に基づいた心豊かで総合的な人間教育を基盤として、創造的で国際的・学際的視野に立った論理的・倫理的な看護実践能力を育成し、看護学の発展及び地域・国際社会に貢献できる高い能力を有する看護専門職者を養成することを目的とする。

- (9) **薬学部薬学科**は、医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成することを目的とする。

- (10) **スポーツ科学部**は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る

優秀な人材を養成することを目的とする。

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

第1条の2 本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

2 自己点検・評価に関する規程は、別に定める。

第1条の3 本学は、組織的かつ継続的な教育内容、教育方法等の改善を実施するものとする。

第2節 組 織 等

第2条 本学に人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部及びスポーツ科学部を置く。

2 人文学部に文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科、法学部に法律学科及び経営法学科、経済学部には経済学科及び産業経済学科、商学部には商学科、経営学科及び貿易学科、商学部第二部に商学科、理学部に応用数学科、物理科学科、化学科及び地球圏科学科、工学部に機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科及び建築学科、医学部に医学科及び看護学科、薬学部には薬学科、スポーツ科学部にスポーツ科学科及び健康運動科学科を置く。

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院学則は、別にこれを定める。

第4条 本学に次の附属学校を置く。

- (1) 福岡大学附属大濠高等学校
- (2) 福岡大学附属若葉高等学校
- (3) 福岡大学附属大濠中学校

2 附属学校に関する規程は、別にこれを定める。

第5条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法その他法令の定めあるもののほか、別に定めるところによる。

第6条 本学の各学部には教授会を置く。

2 教授会の構成員、審議事項その他教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第7条 本学に本学の運営及び教学に関する重要事項を審議するため、大学協議会を置く。

2 大学協議会の構成員、審議事項その他大学協議会に関し必要な事項は、別に定める。

第8条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別にこれを定める。

第9条 本学に研究推進部を置く。

2 研究推進部に関する規程は、別にこれを定める。

第10条 本学の医学部に附属病院を置く。

2 附属病院に関する規程は、別にこれを定める。

第11条 本学に留学生別科を置く。

2 留学生別科に関する規程は、別にこれを定める。

第11条の2 学長は、本学の教育研究に関する重要な事項について、教授会等の審議を経て、最終的な決定を行う。

第2章 履 修

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第12条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部については、6年とする。

2 学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、12年を超えて在学することができない。

3 前項の規定のほか、医学部医学科及び薬学部にあつては、同一学年に在学できる年数は2年を限度とする。ただし、医学部医学科にあつて、同一学年に2年在学した後に退学し又は除籍された者が、退学し又は除籍された学年への再入学を許可された場合には、再入学を許可された学年に限り、さらに1年を限度として在学することができる。

第12条の2 第49条に基づく科目等履修生が本学における授業科目の単位を修得し、その後に本学に入学した場合、教授会は、第34条の4の規定により本学における授業科目の単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認めるときに、その単位数等に応じて、相当期間を修業年限の2分の1を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

2 前項の規定は、第49条に基づく科目等履修生が本学において第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目を修了した場合に、これを準用する。

3 前2項の規定は、再入学の場合に、これを準用する。

第13条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第14条 学年を2期に分け、学年の始めから9月13日までを前期とし、9月14日から学年の終わりまでを後期とする。

第15条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春季休業 4月1日から4月7日まで

(4) 夏季休業 8月4日から9月13日まで

(5) 冬季休業 12月27日から翌年1月4日まで

2 学長は、教授会の議を経て前項に定める休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるほか、学長は特に必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

4 第1項に定める休業日であっても、教授会が教育上必要と認める場合には、学長は、教務委員会の議を経て、授業を行うことを決定することができる。

第2節 定員、入学、転入学、編入学、転部・転科、留学、休学、退学、除籍、復学及び再入学

第16条 入学を許可する時期は、学年の始めとする。

第17条 本学の学部及び学科の入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学 部	学 科	入学定員 (人)	収容定員 (人)
人 文 学 部	文 化 学 科	100	400
	歴 史 学 科	70	280
	日 本 語 日 本 文 学 科	70	280
	教 育 ・ 臨 床 心 理 学 科	110	440
	英 語 学 科	90	360
	ド イ ツ 語 学 科	50	200
	フ ラ ン ス 語 学 科	50	200
	東 ア ジ ア 地 域 言 語 学 科	65	260
	計	605	2,420
法 学 部	法 律 学 科	430	1,720
	経 営 法 学 科	200	800
	計	630	2,520
経 済 学 部	経 済 学 科	460	1,840
	産 業 経 済 学 科	200	800
	計	660	2,640
商 学 部	商 学 科	245	980
	経 営 学 科	240	960
	貿 易 学 科	180	720
	計	665	2,660
商学部第二部	商 学 科	165	660
理 学 部	応 用 数 学 科	65	260
	物 理 科 学 科	60	240
	化 学 科	65	260
	地 球 圏 科 学 科	60	240
	計	250	1,000
工 学 部	機 械 工 学 科	110	440
	電 気 工 学 科	110	440
	電 子 情 報 工 学 科	150	600
	化 学 シ ス テ ム 工 学 科	110	440
	社 会 デ ザ イン 工 学 科	110	440
	建 築 学 科	110	440
	計	700	2,800
医 学 部	医 学 科	110	660
	看 護 学 科	110	440
	計	220	1,100
薬 学 部	薬 学 科	230	1,380
スポーツ科学部	ス ポ ー ツ 科 学 科	225	900
	健 康 運 動 科 学 科	70	280
	計	295	1,180
合 計		4,420	18,360

第18条 本学に入學することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

2 入学願書提出の年の3月末日までに前項の資格を得る見込みの者は、当該学校長の提出する調査書又はその資格を証明する書類を添えて出願することができる。

第19条 入学を志願する者は、本学所定の入学願書及び入学試験に必要な提出書類に別表Iの(1)に定める入学検定料を添えて所定の期日までに学長に提出しなければならない。

2 既に納入した入学検定料は、これを返還しない。

第20条 入学志願者については、選考の上、合格者を決定する。

第21条 合格の通知を受けた者は、本学の承認する保証人連署の入学誓書及び所定の書類に授業料等納入金（新生にあつては入学金及び第1期分の納入金）を添えて、所定の期日までに学長に提出しなければならない。ただし、本学の留学生別科を修了し入学する者の入学金については、留学生別科入学時の入学金相当額を免除する。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 正当な理由なくして第1項の手続を怠る者は、入学を許可しない。

4 入学手続完了後において、やむを得ず入学を辞退する場合、別に定める期日までに入学辞退届を学長に提出し受理された者に限り、入学金以外の授業料等納入金を返還することができる。

第22条 本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転入学を許可することがある。

2 本学に転入学することができる者は、他の大学に2年以上在学し、本学の定める単位数を修得している者とする。

3 転入学の時期は、学年始又は学期始とし、本人の既修の授業科目及び単位・時間数並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目及び単位・時間数並びに在学年数を決定する。

第23条 本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、編入学を許可することがある。

2 本学に編入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士の学位を有する者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

3 編入学の時期並びに履修すべき授業科目、単位・時間数及び在学年限については、前条の規定に準ずる。

第23条の2 学生が他の学部転部を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転部を許可することがある。

2 学生が当該学部の他学科に転科を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転科を許可することがある。

3 転部・転科に関する規程は、別に定める。

第24条 学生が他の大学に転学又は受験しようとするときは、学長に届け出るものとする。

第24条の2 学生が外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは、学長は教授会の議を経てこれを許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、本学の修業年限に算入することができる。

3 留学に関し必要な事項については、別に定める。

第25条 学生が病気その他のやむを得ない理由で長期にわたり欠席しようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、休学することができる。ただし、入学年度の前期については、原則として休学することができない。

2 休学の1期間は、当該年度内の前期、後期又は1年間とする。ただし、医学部医学科及び薬学部は、原則として当該年度1年間とする。

3 休学の開始の時期は、前期又は後期の始めとする。

4 休学は、通算して4年を超えることができない。

5 休学期間は、在学期間に算入しない。

第26条 学生が結核性その他感染性の疾患により療養の必要ありと認められるときは、学長は、教授会の議を経て、これに休学を命ずることがある。

第27条 休学している者は、休学期間満了までに復学、休学又は退学のいずれかの所定の手続をしなければならない。

第27条の2 休学している者が復学をしようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、復学することができる。

2 復学の時期は、学期の始めとする。

第28条 学生が退学しようとするときは、その理由を具し、保証人連署をもって、学長に届け出るものとする。ただし、疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

第29条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して除籍を行う。

- (1) 第42条の定めるところにより、授業料等納入金を納入しない者
- (2) 成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく、出席が常でない者
- (4) 死亡した者
- (5) 休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続も行わない者

第30条 退学した者が再入学を願い出たときは、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

2 再入学を願い出た者には、必要に応じて学力検査、面接を行う。

3 前2項の規定は、除籍された者が再入学を願い出た場合に、これを準用する。

4 前3項に基づく再入学の取扱いについては、別にこれを定める。

第3節 教育課程

第31条 学部・学科の授業科目及び単位・時間数は、次の表に掲げるとおりとする。

(※印は必修科目、△印及び▲印は選択必修科目とする。)

学部・学科授業科目等については p. 133に掲載

2 前項に掲げる授業科目のほかに学部留学生の授業科目として日本語（8単位）を置く。

3 第1項のほかに自由履修単位として換算できる授業科目は、次のうちから学部が指定するものとする。

- (1) 共通教育科目又は専門教育科目のうち、卒業に必要な単位数を超えて修得した科目
- (2) 関連教育科目
- (3) その他、教授会が適当と認める科目

4 第1項及び第2項に掲げる授業科目のほかに随意科目を設けることができる。随意科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

5 第1項、第2項及び第4項に掲げる授業科目のほかに、人文学部、工学部及びスポーツ科学部にあっては大学院授業科目を、法学部にあっては法科大学院授業科目を設けることができる。大学院及び法科大学院授業科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

第32条 各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の各基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業演習、卒業計画等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

第32条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により

行うものとする。

- 2 各学部が教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第33条 学生は、福岡大学学科履修規程（以下「学科履修規程」という。）第4条の定めるところにより授業科目を履修し、次条に定める単位数を修得しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科において修得すべき専門教育科目の単位の修得については、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。
- 3 前2項の規定により修得すべき単位数のうち、前条第2項の授業の方法により修得する単位数は、60単位（教授会において、前項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目の授業時間数に相当すると認められた単位数を含む。）を超えないものとする。

第34条 **人文学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。

- (1) **文化学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計24単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計44単位以上、専門教育科目については、必修科目20単位、選択必修科目及び選択科目から計52単位以上（選択必修科目8単位以上及び選択科目36単位以上を含む。）、合計72単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (2) **歴史学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目16単位、選択必修科目40単位以上、選択科目20単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (3) **日本語日本文学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目28単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (4) **教育・臨床心理学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目24単位、選択必修科目12単位以上、選択科目30単位以上、計66単位以上、自由履修単位については22単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (5) **英語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目40単位、選択必修科目8単位以上、選択科目28単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (6) **ドイツ語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、ドイツ語圏コースの学生は必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目16単位以上、計64単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は必修科目32単位、選択必修科目22単位以上、選択科目14単位以上、計68単位以上、自由履

修単位については、ドイツ語圏コースの学生は20単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は16単位以上、総計124単位以上修得しなければならない。

- (7) **フランス語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、フランス語圏コースの学生は必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目16単位以上、計64単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は必修科目32単位、選択必修科目22単位以上、選択科目14単位以上、計68単位以上、自由履修単位については、フランス語圏コースの学生は20単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は16単位以上、総計124単位以上修得しなければならない。
- (8) **東アジア地域言語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目6単位、選択必修科目34単位、選択科目20単位以上、計60単位以上、自由履修単位については28単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- 2 **法学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として4単位、専門教育科目については、学科別の規定に従い72単位以上、自由履修単位については24単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。
- 3 **経済学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。
 - (1) **経済学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、自然科学分野から6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として4単位、専門教育科目については計76単位以上、自由履修単位については計20単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
 - (2) **産業経済学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、自然科学分野から6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として4単位、専門教育科目については計66単位以上、自由履修単位については計30単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- 4 **商学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として4単位、専門教育科目については、学科別の規定に従い72単位以上、自由履修単位については20単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- 5 **商学部第二部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として3単位以上、専門教育科目については、商学部第二部の規定に従い60単位以上、自由履修単位については29単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。
- 6 **理学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。
 - (1) **応用数学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い

応用数学コースの学生は必修科目31単位、選択必修科目31単位以上、合計82単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は必修科目33単位、選択必修科目28単位以上、合計82単位以上、自由履修単位については両コースとも12単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

- (2) **物理科学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、自然科学分野から4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目34単位、必修実験科目10単位、選択必修科目20単位以上、選択科目22単位以上、合計86単位以上、自由履修単位については、8単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- (3) **化学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目30単位、選択必修科目24単位以上、選択必修実験・実習科目18単位以上、選択科目12単位以上、合計84単位以上、自由履修単位については、10単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- (4) **地球圏科学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、自然科学分野から4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目16単位、選択必修科目(A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目)8単位以上、選択科目60単位以上、合計84単位以上、自由履修単位については10単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

7 **工学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。ただし、共通教育科目の単位互換科目については、その修得単位を卒業及び学科履修規程第6条の6に規定する必要な修得単位数に算入しない。

- (1) **機械工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計24単位以上（必修科目18単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計80単位以上（必修科目39単位、選択科目41単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (2) **電気工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計20単位以上（必修科目14単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計84単位以上（必修科目60単位、選択科目24単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (3) **電子情報工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目14単位、選択科目4単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目及びコース別必修科目として電子通信コース36単位、情報コース34単位、情報システムコース62単位、選択科目及びコース別選択科目として電子通信コース50単位以上、情報コース52単位以上、情報システムコース24単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。

- (4) **化学システム工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計20単位以上（必修科目14単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計84単位以上（必修科目及びコース別必修科目として化学工学コース75単位、分子工学コース75単位、選択科目及びコース別選択科目として化学工学コース9単位以上、分子工学コース9単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (5) **社会デザイン工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目16単位、選択科目2単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目73単位、選択科目13単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (6) **建築学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目4単位、選択科目14単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目63単位、選択科目23単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- 8 **医学部医学科**の学生は、次に掲げる要件を満たしていなければ進級し、卒業することができない。
- (1) 各学年においては、当該学年の専門教育科目の全授業科目の単位又は時間数を修得していること。
- (2) 第4学年及び第6学年においては、前号の要件に加え、全国共用試験において一定以上の成績を修めていること。
- 9 **医学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数、時間数は次のとおりとする。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業及び進級に必要な修得単位数に算入しない。
- (1) **医学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から6単位以上、計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として2単位、第2外国語を含め合計34単位以上、専門教育科目については18単位と4,261時間を修得しなければならない。
- (2) **看護学科**は、共通教育科目については、総合教養科目の人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、外国語科目より10単位以上、保健体育科目より2単位以上、計28単位以上、専門基礎科目については、必修科目27単位、専門教育科目については、必修科目68単位、選択必修科目2単位以上、計70単位以上、総計125単位以上を修得しなければならない。
- 10 **薬学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として2単位以上を含め合計28単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い、必修科目72単位、選択必修科目の1年次科目から計15単位以上、2年次科目から計27単位以上、3年次科目から計25単位以上、4年次科目から計14単位以上を含め計81単位以上、選択科目の6年次科目から5単位以上、合計158単位以上、総計186単位以上を修得しなければならない。
- 11 **スポーツ科学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として8単位、保健体育科目として4単位、合計32単位以上、専門教育科目については、スポーツ科学部の規定に従い、合計82単位以上「スポーツ科学科（必修科目34単位、選択必修科目6単位以上、選択科目42単位以上）、健康運動科学科（必修科目39単位、選択必修科目2単位以上、選択科目41単位以上）」、自由履修単位については、10単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業に必要な修得単位数に算入しない。

第34条の2 学部留学生が第31条第2項の規定により開設された授業科目の単位を修得したときは、別に

定めるところにより、これを卒業に必要な修得単位数に算入することができる。

第34条の3 学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、第34条の3の3の規定に従って60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、60単位に相当する授業時間数を超えない範囲において、これを準用する。

3 第1項に基づいて本学における授業科目の履修により単位を修得したものとみなす授業科目が共通教育科目であるときは、教授会に先立って教務委員会の議を経るものとする。

4 前3項の規定は、第24条の2の規定により学生が外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、これを準用する。

第34条の3の2 学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他別に定める学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、第34条の3の3の規定に従って60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。

2 前項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、60単位に相当する授業時間数を超えない範囲において、これを準用する。

3 第1項に基づいて本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる授業科目が共通教育科目である場合については、前条第3項の規定を準用する。

4 前3項の規定は、本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修について、これを準用する。

第34条の3の3 第34条の3第1項により修得したものとみなし、又は前条第1項により認定することのできる単位数は、合わせて60単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、第34条の3第2項により修了したものとみなし、又は前条第2項により修了を認定することのできる授業時間数は、合わせて60単位に相当する授業時間数を限度とする。

第34条の4 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準第31条又は短期大学設置基準第17条により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が本学に入学する前に行った第34条の3の2第1項に規定する学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。

3 前2項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、これを準用する。

4 第1項又は第2項により単位を修得したものとみなし、又は認定することのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、編入学及び転入学の場合を除き、合わせて30単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、前項により修了したものとみなし、又は修了を認定することのできる授業時間数は、本学において履修した授業時間以外のものについては、編入学及び転入学の場合を除き、合わせて30単位に相当する授業時間数を限度とする。

5 第1項又は第2項により単位を修得したものとみなし、又は単位を認定することのできる授業科目が共通教育科目である場合については、第34条の3第3項の規定を準用する。

6 前各項の規定は、外国の大学又は短期大学を卒業又は退学した場合及び本学に再入学した場合に、これを準用する。

第34条の4の2 第34条の3第1項若しくは第34条の4第1項により単位を修得したものとみなし、又は第34条の3の2第1項若しくは第34条の4第2項により単位を認定することができる単位数は、合わせて60単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、第34条の3第1項若しくは第34条の4第1項により修了したものとみなし、又は第34条の3の2第1項若しくは第34条の4第2項により修了を認定することのできる授業時間数は、合

わせて60単位に相当する授業時間数を限度とする。

2 前項の場合において、本学において修得した単位及び履修した授業時間については、これを算入しないものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、編入学及び転入学の場合については、別にこれを定める。

第34条の4の3 第34条の3から前条までの規定に基づき修得したものとみなし、又は認定することのできる単位（医学部医学科の専門科目にあっては授業時間）について必要な事項は、別に定める。

第34条の5 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第5条、別表第1及び別表第2に基づいて教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得を目的として、本学に教職課程を置く。

2 教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な授業科目（以下「教職課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、次の表に掲げる免許状の種類及び免許教科に応じ、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

教育職員免許法別表第1（第5条関係）

学部・学科の名称 (正規の課程)		免許状の種類及び免許教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
人文学部	文化学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆
	歴史学科		
	日本語日本文学科	国 語	国 語
	教育・臨床心理学科	社 会	公 民
	英語学科	外国語(英語)	外国語(英語)
	ドイツ語学科	外国語(ドイツ語)	外国語(ドイツ語)
	フランス語学科	外国語(フランス語)	外国語(フランス語)
	東アジア地域言語学科	外国語(中国語)	外国語(中国語)
		外国語(朝鮮語)	外国語(朝鮮語)
法学部	法律学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆
	経営法学科		
経済学部	経済学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆 報
	産業経済学科		
商学部	商学科	社 会	商 情 報 業 報
	経営学科		
	貿易学科		
商学部第二部	商学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆 報 業 報
理学部	応用数学科	数 学	数 情 報 学 報
	物理科学科	理 科	理 情 報 科 報
	化学科		理 科
	地球圏科学科		
工学部	機械工学科	社 会	工 業
	電気工学科		工 業 報
	電子情報工学科		工 業
	化学システム工学科		
	社会デザイン工学科		
	建築学科		
医学部	看護学科		看 護
スポーツ科学部	スポーツ科学科	保 健 体 育	保 健 体 育
	健康運動科学科		

教育職員免許法別表第2（第5条関係）

学部・学科の名称（正規の課程）		免許状の種類
医 学 部	看 護 学 科	養護教諭1種免許状

第34条の6 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項第1号に基づいて学芸員となる資格の取得を目的として、本学に博物館学芸員課程を置く。

2 学芸員となる資格の取得に必要な授業科目（以下「博物館学芸員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、博物館法及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

第34条の7 社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の4第1項第3号に基づいて社会教育主事となる資格の取得を目的として、本学に社会教育主事課程を置く。

2 社会教育主事となる資格の取得に必要な授業科目（以下「社会教育主事課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、社会教育法及び社会教育主事講習等規程（昭和26年文部省令第12号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

第34条の8 日本語教育施設の運営に関する基準（昭和63年文部省制定）第11項第2号に基づいて日本語教育施設における教員の資格の取得を目的として、本学に日本語教員課程を置く。

2 日本語教育施設における教員の資格の取得に必要な授業科目（以下「日本語教員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、日本語教育施設の運営に関する基準の定めるところに従い、別にこれを定める。

第4節 学習修了の認定及び卒業

第35条 各授業科目の学習修了の認定は、試験等によるものとし、成績の評価は60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

2 60点以上の成績の評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。

第36条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

第36条の2 定期試験は、各学期末にこれを行う。ただし、医学部医学科の時間制の授業科目について所定の期日に行う場合も同様に取り扱う。

第37条 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けることのできなかった者に対しては、成績考査規程の定めるところにより追試験を行うことがある。

第37条の2 第2年次生（理学部の学生に限る。）及び第4年次以上の卒業見込者に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第37条の3 医学部及び薬学部の学生に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第38条 学士の学位の授与は、本学の人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部看護学科及びスポーツ科学部にあつては4年以上、医学部医学科及び薬学部にあつては6年以上在学し、所定の授業科目を履修して、所定の課程を修め、卒業と認める者に対し、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。ただし、人文学部又は法学部の学生として3年以上在学した者が、卒業の要件として当該学部の定める単位を優秀な成績で修得したと認められ、かつ、本学大学院へ進学する場合には、その卒業を認めることができる。

2 前項の学位記の様式は別に定め、卒業証書を兼ねるものとする。

第39条 第36条に定める試験の実施及び成績の評価に関する規程は、別にこれを定める。

第5節 賞 罰

第40条 学業成績並びに品行の特に優秀な者、その他業績顕著な者は、これを表彰することがある。

第41条 本学の規則に違反し、学内の秩序を乱し、又は学生の本分に反する者は、学長が定める手続きに基づき、これを懲戒する。

2 前項の規定による懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当

する者に対してこれを行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第6節 授業料その他諸納入金

第42条 学生は、別に定める期日までに、別表Ⅰの(2)に定める授業料等納入金を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）の定めるところに従い、特に優れた者であって経済的理由により極めて修学に困難があると認められるものとして認定を受けた学生（以下「修学支援学生」という。）が所定の授業料等納入金を納入したときは、前項の納入を行ったものとみなす。

第43条 次の各号に掲げる授業科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目を履修する者は、別表Ⅱに定めるところに従い、受講料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程科目
- (2) 博物館学芸員課程科目
- (3) 社会教育主事課程科目
- (4) 日本語教員課程科目

2 前項の規定にかかわらず、博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科に関して学則第31条に掲げる表に定められている場合において、その受講料を免除する。

3 前2項の規定にかかわらず、科目等履修生として第1項の各号に掲げる授業科目を履修する者は、別表Ⅲに定めるところに従い、受講料を納入するものとする。

第43条の2 実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目を履修する者は、別に定めるところに従い、実習・研修費等としてこれら諸費用を納入しなければならない。

第44条 削除

第45条 削除

第46条 学生が所定の期日までに第42条に定める授業料等納入金を完納しなかったときは、除籍する。

第47条 授業料等納入金及び受講料に関する細部については、別に定める。

第48条 特殊の事情ある学生に対しては、その事情により授業料等納入金の減免を行うことがある。

2 前項に規定する学生及び修学支援学生に対する授業料等納入金の減免に関し必要な事項は、別に定める。

第7節 科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び外国人留学生

第49条 本学において、特定の授業科目を受講することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、科目等履修生として受入れを許可することができる。

第50条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、研究生として受入れを許可することができる。

第51条 他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として受け入れることができる。

第52条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、外国人留学生として受入れを許可することができる。

第53条 科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する取扱いについては、別にこれを定める。

2 科目等履修生及び研究生の受講料等については、別表Ⅲに掲げるとおりとする。

第8節 公開講座

第54条 本学における教育研究を広く社会に開放し、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

VI. 諸 規 程

- 2 公開講座に関し必要な事項については、別に定める。

第9節 厚 生 施 設

第55条 本学に厚生施設として学生寮その他の施設を置く。

- 2 前項の厚生施設に関する規程は、別にこれを定める。

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 第32条の2及び第33条の規定は、令和3年3月31日以前から引き続き在籍する学生にも適用する。
- 3 第42条第1項の規定は、令和3年3月31日以前から引き続き在籍する学生にも適用する。

別表Ⅰ 入学検定料及び授業料等納入金

- (1) 入学検定料（第19条第1項）
（略）
(2) 授業料等納入金（第21条第1項・第42条）
（平成31年度入学以降）

（単位 円）

学 部	区 分 (年額)	入 学 金	特別教育充実費	計	毎 年 納 付 金		計
					授 業 料	教 育 充 実 費	
人 文 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部		190,000		190,000	730,000	180,000	910,000
商学部第二部		60,000		60,000	310,000	80,000	390,000
理 学 部 工 学 部		240,000		240,000	1,000,000	380,000	1,380,000
医 学 部	医 学 科	1,000,000	3,000,000	4,000,000	3,912,000	688,000	4,600,000
	看 護 学 科	270,000		270,000	1,040,000	470,000	1,510,000
薬 学 部		400,000		400,000	1,350,000	290,000	1,640,000
スポーツ科学部		300,000		300,000	800,000	350,000	1,150,000

備考

- この表にかかわらず、平成31年3月31日以前に入学し引き続き在学する者にかかる授業料等納入金については、なお従前の例による。
- 入学金については、入学時に限り納入すべき額とする。ただし、第21条第1項ただし書の規定に該当し、その適用を受ける者については、この限りではない。
- 特別教育充実費については、入学初年度（1年次）から3年次までの各年次において納入すべき額とする。
- 薬学部の教育充実費については、入学初年度（1年次）に納入すべき額とし、2年次から6年次までの各学年において720,000円を納入しなければならない。
- 第42条第2項に定める修学支援学生の所定の授業料等納入金は、当該各学生につき、別に定める額とする。

別表Ⅱ その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料（第43条第1項）

- (1) 教職課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない教職課程科目	全科目につき 36,000円
-------	---------------------------------	----------------

※ ただし、当該授業科目を博物館学芸員課程科目又は社会教育主事課程科目としてのみ履修する場合については(2)を適用する。

- (2) 博物館学芸員課程科目及び社会教育主事課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない博物館学芸員課程科目	全科目につき 12,000円
	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない社会教育主事課程科目	全科目につき 16,000円

※ ただし、博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科に関して第31条に掲げる表に定められている場合において、その受講料を免除する。

- (3) 日本語教員課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない日本語教員課程科目	1単位につき 1,000円
-------	------------------------------------	---------------

VI. 諸 規 程

別表Ⅲ 科目等履修生及び研究生の受講料等（第43条第3項・第53条第2項）

(1) 単位又は授業時間の認定を必要とする科目等履修生

選 考 料		15,000円
受 講 料	第31条に掲げる表において、理学部、工学部、医学部看護学科又は薬学部の専門教育科目（工学部については、工学共通科目を、医学部看護学科については、専門基礎科目を含む。）としてのみ定められている授業科目	1単位につき 18,000円
	第31条に掲げる表において、医学部医学科の専門教育科目としてのみ定められている授業科目	1単位につき又は15時間につき 40,000円
	第31条に掲げる表に定められている上記以外の授業科目	1単位につき 12,000円
	第31条に掲げる表において、商学部第二部の専門教育科目のうち別に定められている授業科目	20単位まで 110,000円
	第31条に掲げる表に定められていない授業科目	本学の卒業生
その他		1単位につき 12,000円

(2) 単位の認定を必要としない科目等履修生

選 考 料		15,000円
受 講 料	第31条に掲げる表に定められている授業科目（医学部医学科を除く。）	1単位につき 9,000円

(3) 研究生

選 考 料	医学部医学科	20,000円
	その他の学部・学科	15,000円
研究指導料		月額 15,000円

授業科目及び単位・時間数 (学則第31条 (表))

令和6年度入学生 (24台)

薬学部 薬学科

※印は必修

科目分野		授業科目(単位)								
共通教育科目 (94単位)	人文科学	哲学A (2)	哲学B (2)	論理学A (2)	論理学B (2)	宗教学A (2)	宗教学B (2)	東洋史A (2)	東洋史B (2)	
		日本史A (2)	日本史B (2)	東洋史A (2)	東洋史B (2)	日本文学A (2)	日本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	
		西洋史A (2)	西洋史B (2)	日本文学A (2)	日本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	
		アジアの文学A (2)	アジアの文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	
		芸術A (2)	芸術B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	西本文学A (2)	西本文学B (2)	
	社会科学	法政治学A (2)	法政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	日本国憲法 (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	
		政治学B (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	
		政治学B (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	
	自然科学	統計入門 (2)	物理学の世界 (2)	化学実験 (1)	生物学実験 (1)					
	総合系科目	福岡大学で考える現代社会 (2)								
学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか (2)		データサイエンス・AI入門 (2)	アカデミックスキルズゼミⅠ (2)	アカデミックスキルズゼミⅡ (2)					
外国語科目 (60単位)	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ (4)		※インターメディアエイト・イングリッシュ (4)		アドバンスト・イングリッシュ (2)		海外英語研修 (2)		
	第2	ドイツ語Ⅰ (4)	ドイツ語Ⅱ (2-4)	フランス語Ⅰ (4)	フランス語Ⅱ (2-4)	ロシア語Ⅰ (4)	ロシア語Ⅱ (2-4)	スペイン語Ⅰ (4)		
保健体育科目 (6単位)	※生涯スポーツ演習 (2) 生涯スポーツ演習 (1-2) 生涯スポーツ論 (2)									
単位互換科目	他大学 (短期大学を含む。) の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目 (136単位)	1年次科目 (21単位)	必修科目	薬学情報処理リテラシー演習 (1)							
		濃修習	基礎薬学	薬学物理化学入門 (2)	薬学化学入門 (2)	無機薬化学 (2)	有機薬化学Ⅰ (2)	薬学生物学入門 (2)	機能形態学 (2)	解剖学演習 (1)
			臨床薬学	薬物治療学入門 (2)	腫瘍感染症薬学入門 (2)	薬剤師入門 (2)	早期臨床体験Ⅰ (1)	微生物学実習 (1)	生化学実習 (1)	薬品分析学実習 (1)
	2年次科目 (42単位)	必修科目	医療体験実習 (1)							
		選択必修科目	基礎薬学	薬学物理化学基礎 (2)	薬学物理化学応用 (2)	日本薬局方 (2)	分析化学Ⅰ (2)	生薬・漢方薬学Ⅰ (2)	生薬・漢方薬学Ⅱ (2)	有機薬化学Ⅱ (2)
			衛生薬学	医薬品化学Ⅰ (2)	生化学 (2)	免疫学 (2)	有機薬化学Ⅲ (2)	微生物学 (2)	疾患食品衛生学 (2)	
			医療薬学	薬理・薬物治療学Ⅰ (2)	放射線医薬品学 (2)	薬物動態学 (2)	医薬品情報学 (2)	臨床薬学	患者アセスメント薬学演習 (1)	薬学英語演習 (1)
			臨床薬学	機器分析学実習 (1)	薬化学実習 (1)	生薬・漢方薬学実習 (1)	医薬品化学実習 (1)	薬理学実習 (1)	薬学研究入門 (2)	
	3年次科目 (43単位)	必修科目	分析化学Ⅱ (2)							
		選択必修科目	基礎薬学	分析化学Ⅲ (2)	天然物化学 (2)	医薬品化学Ⅱ (2)	衛生薬学	公衆衛生学 (2)	薬毒物代謝学 (2)	感染症薬学 (2)
			医療薬学	薬理・薬物治療学Ⅱ (2)	薬理・薬物治療学Ⅲ (2)	薬理・薬物治療学Ⅳ (2)	物理薬剤学 (2)	臨床薬学	製剤学 (2)	薬物動態解析学 (2)
			臨床薬学	臨床検査学 (2)	医薬品開発・経済学 (2)	コミュニケーション学演習Ⅰ (1)				
			選択科目	がん疫学演習 (1)						
	4年次科目 (36単位)	必修科目	薬事医事関係法規総合論Ⅰ (2)		総合薬学特別講義Ⅰ (6)	薬学研究Ⅰ (1)	薬剤学実習 (1)			
		選択必修科目	衛生薬学	環境衛生学 (2)	感染制御学演習 (1)	疫学研究演習 (1)				
			医療薬学	バイオ医薬品学 (2)	薬理・薬物治療学Ⅴ (2)	薬理・薬物治療学Ⅵ (2)	薬物送達学 (2)			
臨床薬学			薬学臨床推論基礎 (2)	医薬品調剤・販売論 (2)	腫瘍薬学 (2)	個別化医療薬学演習 (1)				
5年次科目 (35単位)	必修科目	実務実習Ⅱ (2)								
	選択科目	がん緩和ケア演習 (1)		がん治療管理学演習 (1)	がん患者アセスメント演習 (1)					
6年次科目 (27単位)	必修科目	薬事医事関係法規総合論Ⅱ (2)		総合薬学特別講義Ⅱ (00)	総合薬学演習 (1)	薬学研究Ⅲ (1)				
	選択科目	先端治療学 (2)	薬事行政論 (2)	地域医療薬学 (2)	薬学臨床推論応用 (2)	薬物療法評価学 (2)	臨床漢方薬学演習 (1)	実務実習事後演習 (1)		

福岡大学学科履修規程

第1章 総 則

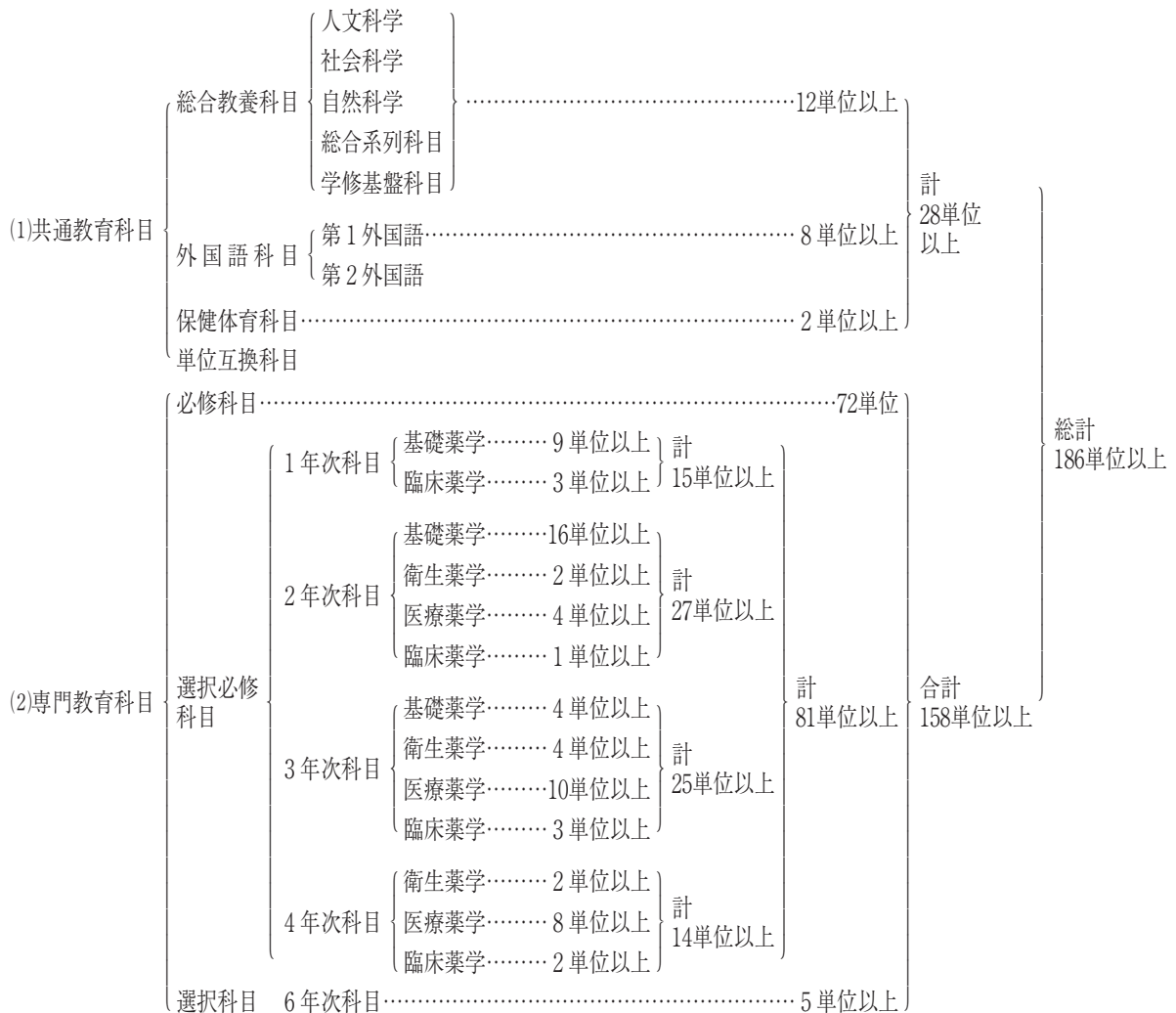
第1条 卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 (抜粋)

令和6年度入学生 (24台)

9 薬学部 (薬学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

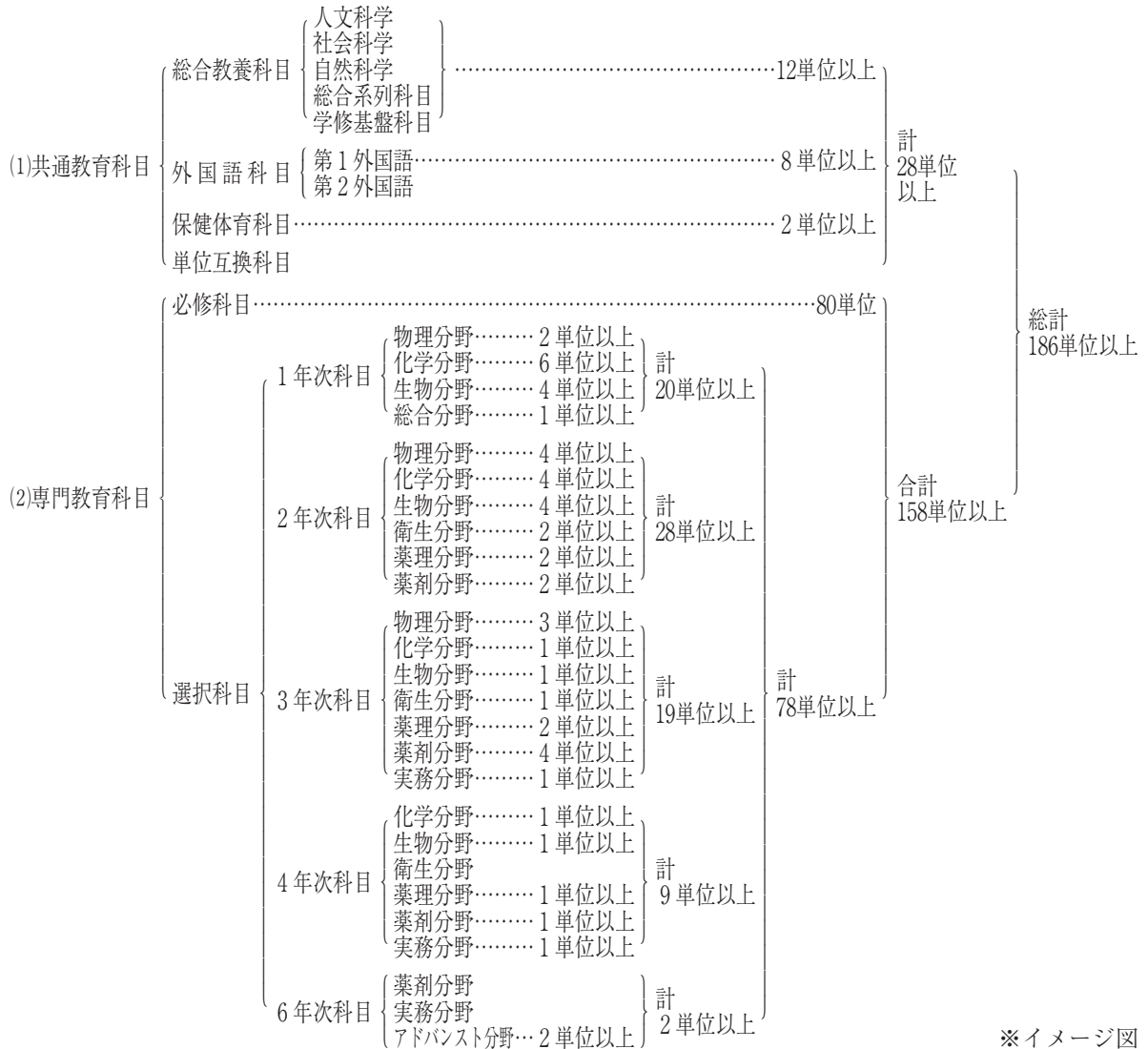


※イメージ図

(注) 1. 薬学部の学生は、学科において指定された科目を履修するものとする。(年次別授業科目表参照)
 2. 薬学部の学生は、所定の授業科目を履修し、卒業試験に合格しなければならない。また、この卒業試験の取り扱いについては、別にこれを定める。

平成27～31年度・令和2～5年度入学生（15～23台）

9 薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）



※イメージ図

- (注) 1. 薬学部の学生は、学科において指定された科目を履修するものとする。（年次別授業科目表参照）
 2. 薬学部の学生は、所定の授業科目を履修し、卒業試験に合格しなければならない。また、この卒業試験の取り扱いについては、別にこれを定める。

令和6年度入学生(24台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次49単位、第4年次38単位、第5年次37単位、第6年次29単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語ⅠA及びドイツ語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語ⅠA及びフランス語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
 - 3 多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理科学科の学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科の学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から6単位以上、計12単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計34単位以上、専門教育科目については18単位、総計52単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、50単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計20単位以上、専門教育科目について、1年次の必修科目1単位、1年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から9単位以上、臨床薬学から3単位以上を含め計15単位以上、合計36単位以上を修得していなければならない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次の必修科目5単位、2年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から16単位以上、衛生薬学から2単位以上、医療薬学から4単位以上、臨床薬学から1単位以上を含め計27単位以上、合計48単位以上、総計74単位以

上を修得していなければならない。

- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から4単位以上、衛生薬学から4単位以上、医療薬学から10単位以上、臨床薬学から3単位以上を含め計25単位以上、合計80単位以上、総計108単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目32単位以上、4年次の必修科目13単位、4年次の選択必修科目のうち、衛生薬学から2単位以上、医療薬学から8単位以上、臨床薬学から2単位以上を含め計14単位以上、合計107単位以上、総計135単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目32単位以上、4年次科目27単位以上、5年次の必修科目32単位、計139単位以上、合計167単位以上を修得していなければならない。

2 薬学部のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第9項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和5年度入学生(23台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語ⅠA及びドイツ語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語ⅠA及びフランス語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
 - 3 多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から7単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和4年度入学生(22台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語ⅠA及びドイツ語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語ⅠA及びフランス語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
 - 3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から7単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和3年度入学生 (21台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
 - 3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単

位及び共通教育科目の外国語科目 8 単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目） 8 単位及び共通教育科目の外国語科目 8 単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第 6 条の 6 工学部の学生は、2 年以上在学し、60 単位以上を修得していなければ、第 3 年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3 年以上在学し、第 1・2 年次必修の第 1 外国語科目 6 単位、選択必修の第 2 外国語科目 4 単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講科目の登録をすることはできない。

- 3 第 1 項の60単位・第 2 項の100単位に算入する総合教養科目、第 1 外国語科目、第 2 外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12 単位までとする。
(2) 第 1 項の60単位に算入するのは、第 1 外国語科目の必修科目 6 単位、第 2 外国語科目の選択必修科目 4 単位までとする。また、第 2 項の100単位に算入するのは、第 1 外国語科目の必修科目 8 単位、第 2 外国語科目の選択必修科目 4 単位までとする。
(3) 工学共通科目は、機械工学科は24 単位まで、電気工学科は20 単位まで、電子情報工学科は18 単位まで、化学システム工学科は20 単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18 単位までとする。

第 6 条の 7 医学部医学科の学生は、第 1 学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より 6 単位以上、自然科学より 15 単位以上、計 21 単位以上、外国語科目の第 1 外国語 8 単位、第 2 外国語 4 単位以上、計 12 単位以上、保健体育科目の 2 単位、専門教育科目については 18 単位、合計 53 単位以上を修得しなければ、第 2 学年に進級することができない。ただし、51 単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第 2 学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第 2 学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は 3 年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第 1 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 10 単位以上、自然科学より 2 単位以上、必修の外国語科目 4 単位、必修の保健体育科目 2 単位、計 18 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 17 単位、専門教育科目について必修科目の 8 単位、合計 43 単位以上を修得していなければ第 2 年次に進級することができない。

- (2) 第 2 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 12 単位以上、自然科学より 4 単位以上、必修の外国語科目 8 単位、選択必修の外国語科目より 2 単位以上、必修の保健体育科目 2 単位、計 28 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 26 単位、専門教育科目について必修科目の 34 単位、合計 88 単位以上を修得していなければ第 3 年次に進級することができない。

- (3) 第 3 年次前期終了時において、第 3 年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の 1 単位、専門教育科目について必修科目の 13 単位及び選択必修科目の 1 単位を修得していなければ、第 3 年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第 3 年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

- (4) 第 3 年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 12 単位以上、自然科学より 4 単位以上、必修の外国語科目 8 単位、選択必修の外国語科目より 2 単位以上、必修の保健体育科目 2 単位、計 28 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 27 単位、専門教育科目について必修科目の 60 単位及び選択必修科目の 1 単位、合計 116 単位以上を修得していなければ第 4 年次に進級することができない。

第 6 条の 8 薬学部の学生は、第 1 年次から第 5 年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。
- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和2年度入学生(20台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

- 3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。
(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。
(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。
(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成31年度入学生 (19台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含

め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成30年度入学生 (18台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科

目 4 単位、2 年次の選択科目のうち、物理分野から 4 単位以上、化学分野から 4 単位以上、生物分野から 4 単位以上、衛生分野から 2 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 2 単位以上を含め計 28 単位以上、合計 52 単位以上、総計 78 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 26 単位以上の修得をもって足りる。

- (3) 第 3 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次の必修科目 7 単位、3 年次の選択科目のうち、物理分野から 3 単位以上、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、衛生分野から 1 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 4 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 19 単位以上、合計 78 単位以上、総計 106 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (4) 第 4 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次の必修科目 12 単位、4 年次の選択科目のうち、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、薬理分野から 1 単位以上、薬剤分野から 1 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 9 単位以上、合計 99 単位以上、総計 127 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (5) 第 5 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次科目 21 単位以上、5 年次の必修科目 32 単位、計 131 単位以上、合計 159 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。

第 7 条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第 8 条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第 9 条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2 科目かつ 8 単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第 3 章 受 講

第 10 条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第 11 条 講義は、その開講期間によって、次の 5 種類とする。

- (1) 通年講義（1 年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第 12 条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が 10 人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第 13 条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第 14 条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員

は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成29年度入学生 (17台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
- (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
- (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、

3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

(1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

(2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成28年度入学生 (16台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。

ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、2年以上在学し、次の各号に定める授業科目の単位を修得していなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- 第6条の2 法学部法律学科の学生は、法律特修プログラムを履修することができる。
- 2 法律特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。法律特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

VI. 諸 規 程

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- 第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。
- 2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。
- 3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。
- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
 - (2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
 - (3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。
- 第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。

この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ、教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合。
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く）について、登録の変更、追加、削除をする場合。

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は、年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取止めることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成27年度入学生 (15台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第1号又は第6条の4第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第2号・3号又は第6条の4第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の4第1項第4号又は第6条の4第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て4単位までの登録を認めることがある。

第6条 人文学部ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、次に掲げる科目の単位を修得していなければ、以下の特定科目の登録を行うことはできない。

(1) ドイツ語学科の学科履修における条件

「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」及び各講読(3・4年次科目)を履修する者は、1年次の「ドイツ語ⅠA」(2単位)及び「ドイツ語ⅠB」(2単位)を修得していなければならない。

第6条の2 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この条において「プログラム」という。)を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科

目について64単位以上。

- (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の5 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。
- 3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
 - (2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
 - (3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の6 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については14単位、合計49単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、47単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。
 - (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列

科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の7 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単

位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

(1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

(2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の4、工学部は第5条と第6条の5、薬学部は第5条と第6条の7）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

年次別授業科目表 (学科履修規程 第4条 別表)

令和6年度入学生 (24台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
		理学B	2	理学A	2	論理学B	2						
		宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
		宗教学B	2	東洋史A	2	日本史B	2						
		西史A	2	西史B	2	日本文学A	2						
	社会科学	西史B	2	アジア文学A	2	日本文学B	2						
		西文学A	2	西文学B	2	芸術A	2						
		芸術B	2	法政学A	2	日本国憲法	2						
		法政学B	2	政治学B	2	経済学A	2						
		経済学A	2	商社学A	2	商学B	2						
自然科学	経済学B	2	社会心理学A	2	商地学A	2							
	社会学A	2	文化人類学B	2	心理学B	2							
	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1							
	生物学実験	1											
	総合系科目	2											
学修基盤科目	福岡大学で考える現代社会	2	データサイエンス・AI入門	2	アカデミックスキルズゼミ1	2							
	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2											
学修基盤科目	アカデミックスキルズゼミII	2											
外国語科目	第1	※フレイッシュマン・イングリッシュI	1	※インターメディア・イングリッシュI	1	アドバンスト・イングリッシュI	1						
	第2	※フレイッシュマン・イングリッシュII	1	※インターメディア・イングリッシュII	1	アドバンスト・イングリッシュII	1						
保健体育科目		※フレイッシュマン・イングリッシュIII	1	※インターメディア・イングリッシュIII	1								
		※フレイッシュマン・イングリッシュIV	1	※インターメディア・イングリッシュIV	1								
単位互換科目		ドイツ語IA	2	ドイツ語IIA	2								
		ドイツ語IB	2	ドイツ語IIB	2								
単位互換科目		フランス語IA	2	フランス語IIA	2								
		フランス語IB	2	フランス語IIB	2								
単位互換科目		中国語IA	2	中国語IIA	2								
		中国語IB	2	中国語IIB	2								
単位互換科目		ロシア語IA	2	ロシア語IIA	2								
		ロシア語IB	2	ロシア語IIB	2								
単位互換科目		スペイン語IA	2	スペイン語IIA	2								
		スペイン語IB	2	スペイン語IIB	2								
単位互換科目		朝鮮語IA	2	朝鮮語IIA	2								
		朝鮮語IB	2	朝鮮語IIB	2								
単位互換科目		※生涯スポーツ演習I	1	※生涯スポーツ演習II	1								
				生涯スポーツ演習III	1								
単位互換科目				生涯スポーツ演習IV	1								
				生涯スポーツ論	2								
単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	必修科目	薬学情報処理リテラシー演習	1									
		選択必修科目	薬学物理化学入門	2									
専門教育科目	2年次科目	必修科目	薬学化学入門	2									
			無機薬化学	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	有機薬化学I	2									
			有機薬化学II	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	有機薬化学III	2									
			有機薬化学IV	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	薬学物理化学基礎	2									
			薬学物理化学応用	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	日本薬局方	2									
			分析化学I	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	生薬・漢方薬学I	2									
			生薬・漢方薬学II	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	有機薬化学II	2									
			有機薬化学III	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	有機薬化学IV	2									
			医薬品化学I	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	医薬品化学II	2									
			生化学	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	免疫学	2									
			微生物学	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	疾患食品衛生学	2									
			薬理・薬物治療学I	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	放射線医薬品学	2									
			薬物動態学	2									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	医薬品情報学	2									
			患者アセスメント薬学演習	1									
専門教育科目	2年次科目	選択必修科目	薬学英語演習	1									
			早期臨床体験II	1									

(注) ○印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次				
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
専門	3年次科目	必修科目				機器分析学実習	1										
		選択必修科目	基礎薬学				薬化学実習	1									
			衛生薬学				生薬・漢方薬学実習	1									
			医療薬学	医薬品化学実習				医薬品化学実習	1								
				薬理学実習				薬理学実習	1								
		薬学研究入門				薬学研究入門	2										
		教育	4年次科目	必修科目				分析化学Ⅱ	2								
				選択必修科目	分析化学Ⅲ				分析化学Ⅲ	2							
					天然物化学				天然物化学	2							
					医薬品化学Ⅱ				医薬品化学Ⅱ	2							
内分泌薬学							内分泌薬学	2									
選択科目	公衆衛生学						公衆衛生学	2									
	薬毒物代謝学						薬毒物代謝学	2									
	感染症薬学						感染症薬学	2									
	薬理・薬物治療学Ⅱ						薬理・薬物治療学Ⅱ	2									
	薬理・薬物治療学Ⅲ						薬理・薬物治療学Ⅲ	2									
	薬理・薬物治療学Ⅳ				薬理・薬物治療学Ⅳ	2											
物理薬剤学				物理薬剤学	2												
製剤学				製剤学	2												
薬物動態解析学				薬物動態解析学	2												
医薬品安全性学				医薬品安全性学	2												
臨床検査学				臨床検査学	2												
医薬品開発・経済学				医薬品開発・経済学	2												
コミュニケーション学演習Ⅰ				コミュニケーション学演習Ⅰ	1												
選択科目					〇がん疫学演習	1											
専門	5年次科目	必修科目				薬事医事関係法規総合論Ⅰ	2										
		選択必修科目	総合薬学特別講義Ⅰ				総合薬学特別講義Ⅰ	6									
			薬学研究Ⅰ				薬学研究Ⅰ	1									
			薬剤学実習				薬剤学実習	1									
			実務実習事前学習				実務実習事前学習	3									
		選択科目	環境衛生学				環境衛生学	2									
			感染制御学演習				感染制御学演習	1									
			疫学研究演習				疫学研究演習	1									
			バイオ医薬品学				バイオ医薬品学	2									
			薬理・薬物治療学Ⅴ				薬理・薬物治療学Ⅴ	2									
薬理・薬物治療学Ⅵ					薬理・薬物治療学Ⅵ	2											
薬物送達学				薬物送達学	2												
臨床薬物動態学				臨床薬物動態学	2												
薬学疾患管理学				薬学疾患管理学	2												
薬学臨床推論基礎				薬学臨床推論基礎	2												
医薬品調剤・販売論				医薬品調剤・販売論	2												
腫瘍薬学				腫瘍薬学	2												
個別化医療薬学演習				個別化医療薬学演習	1												
専門	6年次科目	必修科目				実務実習	20				実務実習	20					
		選択必修科目	薬学研究Ⅱ				薬学研究Ⅱ	12				薬学研究Ⅱ	12				
			〇がん緩和ケア演習				〇がん緩和ケア演習	1				〇がん緩和ケア演習	1				
〇がん治療管理学演習				〇がん治療管理学演習	1				〇がん治療管理学演習	1							
〇がん患者アセスメント演習				〇がん患者アセスメント演習	1				〇がん患者アセスメント演習	1							
専門	6年次科目	必修科目				薬事医事関係法規総合論Ⅱ	2						薬事医事関係法規総合論Ⅱ	2			
		選択必修科目	総合薬学特別講義Ⅱ				総合薬学特別講義Ⅱ	10						総合薬学特別講義Ⅱ	10		
			総合薬学演習				総合薬学演習	1						総合薬学演習	1		
			薬学研究Ⅲ				薬学研究Ⅲ	1						薬学研究Ⅲ	1		
		選択科目	先端治療学				先端治療学	2							先端治療学	2	
			薬事行政論				薬事行政論	2							薬事行政論	2	
			地域医療薬学				地域医療薬学	2							地域医療薬学	2	
			薬学臨床推論応用				薬学臨床推論応用	2							薬学臨床推論応用	2	
			薬物療法評価学				薬物療法評価学	2							薬物療法評価学	2	
			臨床漢方薬学演習				臨床漢方薬学演習	1							臨床漢方薬学演習	1	
実務実習事後演習					実務実習事後演習	1							実務実習事後演習	1			
コミュニケーション学演習Ⅱ				コミュニケーション学演習Ⅱ	1							コミュニケーション学演習Ⅱ	1				

(注) 〇印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

令和5年度入学生(23台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
		倫理学A	2	倫理学B	2	倫理学A	2						
		宗教学A	2	宗教学B	2	東洋史A	2						
		日本史A	2	東洋史B	2	東洋史B	2						
		西日本文学A	2	西日本文学B	2	日本文学A	2						
	社会科学	政治学A	2	政治学B	2	日本国憲法	2						
		経済学A	2	経済学B	2	経済学A	2						
		社会学A	2	社会学B	2	社会学A	2						
		文化人類学A	2	文化人類学B	2	文化人類学A	2						
		統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
自然科学	生物学実験	1											
	総合科目	2											
教育科目	学修基盤科目	2	データサイエンス・A1入門	2	アカデミックスキルズゼミ1	2							
	単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュI	1	※インターメディア・イングリッシュI	1	アドバンス・イングリッシュI	1						
		※フレッシュマン・イングリッシュII	1	※インターメディア・イングリッシュII	1	アドバンス・イングリッシュII	1						
		※フレッシュマン・イングリッシュIII	1	※インターメディア・イングリッシュIII	1								
		※フレッシュマン・イングリッシュIV	1	※インターメディア・イングリッシュIV	1								
		海外英語研修	2										
	第2	ドイツ語IA	2	ドイツ語IIA	2								
		ドイツ語IB	2	ドイツ語IIB	2								
		フランス語IA	2	フランス語IIA	2								
		フランス語IB	2	フランス語IIB	2								
		中国語IA	2	中国語IIA	2								
保健体育科目	※生涯スポーツ演習I	1	※生涯スポーツ演習II	1									
			生涯スポーツ演習III	1									
			生涯スポーツ演習IV	1									
			生涯スポーツ論	2									
	単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	物理分野	2										
		化学分野	2										
		生物分野	2										
		総合分野	1										
		早期臨床体験I	2										
	2年次科目	必修科目		※物理系実習I	1								
				※生物系実習I	1								
				※生物系実習II	1								
				※早期臨床体験II	1								
		物理分野	2	薬学物理化学I	2								
選択科目	化学分野	2	薬学物理化学II	2									
	生物分野	2	生薬学I	2									
	衛生分野	2	生薬学II	2									
	薬理分野	2	有機薬化学I	2									
	薬剤分野	2	有機薬化学II	2									
2年次科目	物理分野	2	生薬学III	2									
	化学分野	2	有機薬化学III	2									
	生物分野	2	有機薬化学IV	2									
	衛生分野	2	人人体生化学I	2									
	薬理分野	2	人人体生化学II	2									
2年次科目	薬理分野	2	免疫学	2									
	衛生分野	2	食品栄養学	2									
	薬理分野	2	食品衛生学	2									
	薬剤分野	2	機能形態学II	2									
	薬理分野	2	疾患薬理学I	2									
2年次科目	薬理分野	2	疾患薬理学II	2									
	薬剤分野	2	同位体化学	2									
	薬理分野	2	同位体薬理学	2									
	薬剤分野	2											
	薬理分野	2											

VI. 諸規程

令和4年度入学生(22台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			倫理学A	2	倫理学B	2	倫理学A	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			宗教学B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西日本文学A	2	西日本文学B	2	日本文学A	2						
	社会科学	政治学A	2	政治学B	2	日本国憲法	2							
		経済学A	2	商学A	2	経済学A	2							
		社会学A	2	社会学B	2	商学B	2							
		社会学B	2	心理学A	2	商学A	2							
		文化人類学A	2	文化人類学B	2	心理学B	2							
自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1								
	生物学実験	1												
	地球環境	2	生命・健康と医療	2	国際化と日本	2								
	総合系科目 [科学・技術・情報と社会]	2	文化と教育	2	現代を生きる	2								
教育科目	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディア・イングリッシュⅠ	1	アドバンス・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディア・イングリッシュⅡ	1	アドバンス・イングリッシュⅡ	1						
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2									
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2									
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2									
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2									
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2									
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2									
		ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2									
		ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2									
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2											
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2											
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1										
			生涯スポーツ演習Ⅲ	1										
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目													
専門教育科目	1年次科目	選択科目	物理分野	薬学物理学入門	2									
			化学分野	薬学化学入門	2									
			有機薬化学Ⅰ	2										
			有機薬化学Ⅱ	2										
			天然医薬資源学	2										
	2年次科目	選択科目	生物分野	薬学生物学入門	2									
			機能形態学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅱ	2										
			総合分野	薬学概論	1									
必修科目	早期臨床体験Ⅰ	2												
2年次科目	必修科目	物理分野	※物理系実習Ⅰ	1										
		※生物系実習Ⅰ	1											
		※生物系実習Ⅱ	1											
		※早期臨床体験Ⅱ	1											
		化学分野	薬学物理化学Ⅰ	2										
		薬学物理化学Ⅱ	2											
		分析化学Ⅰ	2											
		分析化学Ⅱ	2											
		生物分野	生薬学Ⅰ	2										
		生薬学Ⅱ	2											
有機薬化学Ⅲ	2													
有機薬化学Ⅳ	2													
生物分野	人体生化学Ⅰ	2												
人体生化学Ⅱ	2													
微生物学	2													
免疫学	2													
衛生分野	食品栄養学	2												
食品衛生学	2													
薬理分野	機能形態学Ⅱ	2												
疾患薬理学Ⅰ	2													
薬剤分野	同位体化学	2												
同位体医療薬学	2													

(注) []内は今年度休講。

		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
専門	3年次科目	必修科目			※物理系実習Ⅱ	1									
					※物理系実習Ⅲ	1									
					※化学系実習Ⅰ	1									
					※化学系実習Ⅱ	1									
					※化学系実習Ⅲ	1									
					※生物系実習Ⅲ	1									
		選択科目	物理分野			薬学物理化学Ⅲ	1								
			化学分野			薬学物理化学Ⅳ	1								
			生物分野			日本薬局方Ⅰ	1								
			衛生分野			日本薬局方Ⅱ	1								
			薬理分野			分析化学Ⅲ	1								
			薬剤分野			分析化学Ⅳ	1								
教育	4年次科目	必修科目			天然物化学	1			※物理系薬学特別講義	1					
					創薬化学Ⅰ	1			※化学系薬学特別講義	1					
					創薬化学Ⅱ	1			※生物系薬学特別講義	1					
					感染症治療薬概論	1			※衛生薬学特別講義	1					
					人体機能調節学	1			※医療薬学特別講義Ⅰ	1					
					環境衛生学Ⅰ	1			※医療薬学特別講義Ⅱ	1					
		選択科目	薬理分野			環境衛生学Ⅱ	1			※薬学演習(含薬学研究基礎)	2				
			薬剤分野			公衆衛生学	1			※実務実習事前学習	4				
			実務分野			疾患薬理学Ⅱ	1								
					疾患薬理学Ⅲ	1									
					病態・薬物治療学Ⅰ	1									
					病態・薬物治療学Ⅱ	1									
専門	5年次科目	必修科目			物理薬剤学	1			漢方薬学概論	1					
					製剤学	1			創薬化学Ⅲ	1					
					薬物動態理論	1			遺伝子工学概論	1					
					臨床薬物動態解析学	1			臨床検査学	1					
					医薬品安全性学	1			環境衛生学Ⅱ	1					
					医療情報学	1			病態・薬物治療学Ⅲ	1					
		選択科目	実務分野			コミュニケーション学	1			病態・薬物治療学Ⅳ	1				
						医薬品開発・経済学	1			疾患薬理学Ⅳ	1				
										薬物送達学	1				
										臨床薬物動態学	1				
										薬学健康管理学	1				
										薬学疾患管理学	1				
専門	6年次科目	必修科目			調剤学総論	1			薬事関係法規論	1					
									調剤学総論	1					
											※実務実習	20			
											※薬学研究Ⅰ	12			
		選択科目	薬理分野											※薬学研究Ⅱ	1
			実務分野											※物理系薬学総合講義	2
														※化学系薬学総合講義	2
														※生物系薬学総合講義	2
														※衛生薬学総合講義	2
														※臨床薬学総合講義Ⅰ	2
選択科目	アドバンス分野											※臨床薬学総合講義Ⅱ	2		
												※医療薬学総合講義Ⅰ	2		
												※医療薬学総合講義Ⅱ	2		
												※医療薬学総合講義Ⅲ	2		
												※医療薬学総合講義Ⅳ	2		
												※薬事・医事関係法規総合講義	2		
											※総合薬学演習(含卒業試験)	2			
											薬科処方解析学	1			
											実務実習事後学習	1			
											臨床診療科概論	1			
											薬剤師職能論	1			
											今日の薬学研究	1			
											薬学特別研究	1			
											薬事行政論	1			
											医薬品開発論	1			

平成31年度・令和2～3年度入学生（19～21台）

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2	哲学B 2	論理学A 2								
			倫理学B 2	倫理学A 2	倫理学B 2								
			宗教学A 2	宗教学B 2	日本史A 2								
			宗教学B 2	東洋史A 2	東洋史B 2								
			西文学A 2	西文学B 2	日本文学A 2								
	社会科学		政治学A 2	政治学B 2	日本国憲法 2								
			社会学A 2	社会学B 2	経済学A 2								
			社会学B 2	社会学A 2	商学B 2								
			心理学A 2	心理学B 2	商学A 2								
			心理学B 2	心理学A 2	商学B 2								
自然科学		統計入門 2	物理の世界 2	化学実験 1									
		生物実験 1											
総合系科目		地球環境 2	生命・健康と医療 2	国際化と日本 2									
		【科学・技術・情報と社会 2】	文化と教育 2	現代を生きる 2									
学修基盤科目		福岡大学学修・福岡大学いかに学ぶか 2											
専門教育科目	1年次科目	選択科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1	※インターメディア・イングリッシュⅠ 1	アドバンス・イングリッシュⅠ 1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1	※インターメディア・イングリッシュⅡ 1	アドバンス・イングリッシュⅡ 1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ 1	※インターメディア・イングリッシュⅢ 1									
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ 1	※インターメディア・イングリッシュⅣ 1									
			海外英語研修 2										
	2年次科目	必修科目	ドイツ語ⅠA 2	ドイツ語ⅡA 2									
			ドイツ語ⅠB 2	ドイツ語ⅡB 2									
			フランス語ⅠA 2	フランス語ⅡA 2									
			フランス語ⅠB 2	フランス語ⅡB 2									
			中国語ⅠA 2	中国語ⅡA 2									
保健体育科目		中国語ⅠB 2	中国語ⅡB 2										
		ロシア語ⅠA 2	ロシア語ⅡA 2										
		ロシア語ⅠB 2	ロシア語ⅡB 2										
		スペイン語ⅠA 2	スペイン語ⅡA 2										
		スペイン語ⅠB 2	スペイン語ⅡB 2										
単位互換科目 他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目													
専門教育科目	1年次科目	物理分野	薬学物理学入門 2										
			薬学計算法 2										
		化学分野	薬学化学入門 2										
			有機薬化学Ⅰ 2										
			有機薬化学Ⅱ 2										
	2年次科目	生物分野	天然医薬資源学 2										
			薬学生物学入門 2										
			機能形態学Ⅰ 2										
			生体機能分子学Ⅰ 2										
			生体機能分子学Ⅱ 2										
必修科目		薬学概論 1											
		早期臨床体験Ⅰ 2											
		※物理系実習Ⅰ 1	※生物系実習Ⅰ 1										
		※生物系実習Ⅱ 1	※生物系実習Ⅱ 1										
		※早期臨床体験Ⅱ 1											
選択科目	物理分野	薬学物理学Ⅰ 2											
		薬学物理学Ⅱ 2											
	化学分野	分析化学Ⅰ 2											
		分析化学Ⅱ 2											
	生物分野	生薬学Ⅰ 2											
		生薬学Ⅱ 2											
	衛生分野	有機薬化学Ⅲ 2											
		有機薬化学Ⅳ 2											
	薬理分野	人体生化学Ⅰ 2											
	薬剤分野	人体生化学Ⅱ 2											
	微生物学 2												
	免疫学 2												
	食品栄養学 2												
	食品衛生学 2												
	機能形態学Ⅱ 2												
	疾患薬理学Ⅰ 2												
	同位体化学 2												
	同位体医療薬学 2												

(注) [] 内は今年度休講。

			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次			
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
専門	3年次科目	必修科目					※物理系実習Ⅱ	1								
							※物理系実習Ⅲ	1								
							※化学系実習Ⅰ	1								
							※化学系実習Ⅱ	1								
							※化学系実習Ⅲ	1								
							※生物系実習Ⅲ	1								
		選択科目	物理分野					薬学物理化学Ⅲ	1							
			化学分野					薬学物理化学Ⅳ	1							
			生物分野					日本薬局方Ⅰ	1							
			衛生分野					日本薬局方Ⅱ	1							
			薬理分野					分析化学Ⅲ	1							
			薬剤分野					分析化学Ⅳ	1							
教育	4年次科目	必修科目					天然物化学	1								
							創薬化学Ⅰ	1								
							創薬化学Ⅱ	1								
							感染症治療薬概論	1								
							人体機能調節学	1								
							環境衛生学Ⅰ	1								
	5年次科目	必修科目	必修科目					環境衛生学Ⅱ	1							
								公衆衛生学	1							
								疾患薬理学Ⅱ	1							
								疾患薬理学Ⅲ	1							
								病態・薬物治療学Ⅰ	1							
								病態・薬物治療学Ⅱ	1							
6年次科目	必修科目	必修科目					物理薬剤学	1								
							製剤学	1								
							薬物動態理論	1								
							臨床薬物動態解析学	1								
							医薬品安全性学	1								
							医療情報学	1								
専門	3年次科目	必修科目					コミュニケーション学	1								
							医薬品開発・経済学	1								
									※物理系薬学特別講義	1						
									※化学系薬学特別講義	1						
									※生物系薬学特別講義	1						
									※衛生薬学特別講義	1						
		5年次科目	必修科目	必修科目					※医療薬学特別講義Ⅰ	1						
									※医療薬学特別講義Ⅱ	1						
									※薬学演習(含薬学研究基礎)	2						
									※実務実習事前学習	4						
											漢方薬学概論	1				
											創薬化学Ⅲ	1				
専門	3年次科目	必修科目					遺伝子工学概論	1								
							臨床検査学	1								
							環境衛生学Ⅱ	1								
							病態・薬物治療学Ⅲ	1								
							病態・薬物治療学Ⅳ	1								
							疾患薬理学Ⅳ	1								
		5年次科目	必修科目	必修科目					薬物送達学	1						
									臨床薬物動態学	1						
									薬学健康管理学	1						
									薬学疾患管理学	1						
									薬事関係法規論	1						
									調剤学総論	1						
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												
専門	3年次科目	必修科目														
		5年次科目	必修科目	必修科目												

平成27～30年度入学生 (15～18台)

薬学部 薬学科

※印は必修

		第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2	哲学B 2	論理学A 2								
		倫理学A 2	倫理学B 2	倫理学A 2									
		宗教学A 2	宗教学B 2	宗教学A 2									
		日本史B 2	東洋史A 2	日本史A 2									
		西洋史A 2	西洋史B 2	東洋史B 2									
	社会科学	政治学A 2	政治学B 2	経済学A 2									
	社会学A 2	社会学B 2	商学A 2										
	心理学A 2	心理学B 2	社会学A 2										
	文化人類学A 2	文化人類学B 2	社会学B 2										
	自然科学	統計入門 2	物理の世界 2	化学実験 1									
総合科目	地球環境 [科学・技術・情報と社会] 2	生命・健康と医療 2	国際化と日本 2										
学修基盤科目	[福岡大学等・福岡大学で学ぶ] 2		文化と教育 2										
教育科目	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ 1	※インターメディア・イングリッシュⅠ 1	アドバンス・イングリッシュⅠ 1								
		第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅡ 1	※インターメディア・イングリッシュⅡ 1	アドバンス・イングリッシュⅡ 1								
	保健体育科目	単位互換科目	ドイツ語ⅠA 2	ドイツ語ⅡA 2									
			ドイツ語ⅠB 2	ドイツ語ⅡB 2									
			フランス語ⅠA 2	フランス語ⅡA 2									
			フランス語ⅠB 2	フランス語ⅡB 2									
			中国語ⅠA 2	中国語ⅡA 2									
			中国語ⅠB 2	中国語ⅡB 2									
			ロシア語ⅠA 2	ロシア語ⅡA 2									
			ロシア語ⅠB 2	ロシア語ⅡB 2									
スペイン語ⅠA 2	スペイン語ⅡA 2												
スペイン語ⅠB 2	スペイン語ⅡB 2												
朝鮮語ⅠA 2	朝鮮語ⅡA 2												
朝鮮語ⅠB 2	朝鮮語ⅡB 2												
※生涯スポーツ演習Ⅰ 1	※生涯スポーツ演習Ⅱ 1												
	生涯スポーツ演習Ⅲ 1												
	生涯スポーツ演習Ⅳ 1												
	生涯スポーツ論 2												
専門教育科目	1年次科目	物理分野	薬学物理学入門 2										
		化学分野	薬学化学入門 2										
		有機薬化学Ⅰ 2											
		有機薬化学Ⅱ 2											
		天然医薬資源学 2											
	生物分野	薬学生物学入門 2											
	機能形態学Ⅰ 2												
	生体機能分子学Ⅰ 2												
	生体機能分子学Ⅱ 2												
	総合分野	薬学概論 1											
早期臨床体験Ⅰ 2													
2年次科目	必修科目		※物理系実習Ⅰ 1										
			※生物系実習Ⅰ 1										
			※生物系実習Ⅱ 1										
			※早期臨床体験Ⅱ 1										
	物理分野	薬学物理化学Ⅰ 2											
薬学物理化学Ⅱ 2													
分析化学Ⅰ 2													
分析化学Ⅱ 2													
生物分野	生薬学Ⅰ 2												
生薬学Ⅱ 2													
有機薬化学Ⅲ 2													
有機薬化学Ⅳ 2													
人体生化学Ⅰ 2													
人体生化学Ⅱ 2													
微生物学 2													
免疫学 2													
食品栄養学 2													
食品衛生学 2													
機能形態学Ⅱ 2													
疾患薬理学Ⅰ 2													
同位体化学 2													
同位体医療薬学 2													

(注) [] 内は今年度休講。

			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次					
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
専門	3年次	科目	必修科目				※物理系実習Ⅱ	1										
							※物理系実習Ⅲ	1										
							※化学系実習Ⅰ	1										
							※化学系実習Ⅱ	1										
							※化学系実習Ⅲ	1										
							※生物系実習Ⅲ	1										
							※生物系実習Ⅳ	1										
					選択科目	物理分野				薬学物理化学Ⅲ	1							
									薬学物理化学Ⅳ	1								
									日本薬局方Ⅰ	1								
									日本薬局方Ⅱ	1								
									分析化学Ⅲ	1								
			分析化学Ⅳ	1														
		化学分野						天然物化学	1									
								創薬化学Ⅰ	1									
								創薬化学Ⅱ	1									
		生物分野						感染症治療薬概論	1									
								人体機能調節学	1									
		衛生分野						環境衛生学Ⅰ	1									
						公衆衛生学	1											
		薬理分野				疾患薬理学Ⅱ	1											
						疾患薬理学Ⅲ	1											
						病態・薬物治療学Ⅰ	1											
						病態・薬物治療学Ⅱ	1											
		薬剤分野				物理薬剤学	1											
						製剤学	1											
						薬物動態理論	1											
						臨床薬物動態解析学	1											
						医薬品安全性学	1											
						医療情報学	1											
		実務分野				コミュニケーション学	1											
						医薬品開発・経済学	1											
教	4年次	科目	必修科目						※物理系薬学特別講義	1								
									※化学系薬学特別講義	1								
									※生物系薬学特別講義	1								
									※衛生薬学特別講義	1								
									※医療薬学特別講義Ⅰ	1								
									※医療薬学特別講義Ⅱ	1								
									※薬学演習(含薬学研究基礎)	2								
									※実務実習事前学習	4								
					選択科目	化学分野				漢方薬学概論	1							
											創薬化学Ⅲ	1						
								生物分野				遺伝子工学概論	1					
												臨床検査学	1					
		衛生分野						環境衛生学Ⅱ	1									
								病態・薬物治療学Ⅲ	1									
		薬理分野						病態・薬物治療学Ⅳ	1									
								疾患薬理学Ⅳ	1									
		薬剤分野						薬物送達学	1									
								臨床薬物動態学	1									
								薬学健康管理学	1									
								薬学疾患管理学	1									
						薬事関係法規論	1											
						調剤学総論	1											
育	5年次	科目	必修科目								※実務実習	20						
											※薬学研究Ⅰ	12						
					必修科目										※薬学研究Ⅱ	1		
															※物理系薬学総合講義	2		
															※化学系薬学総合講義	2		
															※生物系薬学総合講義	2		
															※衛生薬学総合講義	2		
															※臨床薬学総合講義Ⅰ	2		
															※臨床薬学総合講義Ⅱ	2		
															※医療薬学総合講義Ⅰ	2		
															※医療薬学総合講義Ⅱ	2		
															※医療薬学総合講義Ⅲ	2		
											※医療薬学総合講義Ⅳ	2						
											※薬事・医事関係法規総合講義	2						
										※総合薬学演習(含卒業試験)	2							
	選択科目	薬剤分野											薬科処方解析学	1				
													実務実習事後学習	1				
				実務分野											臨床診療科概論	1		
															薬剤師職能論	1		
															今日の薬学研究	1		
															薬学特別研究	1		
													薬事行政論	1				
												医薬品開発論	1					

福岡大学成績考査規程

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）に定める試験の実施及び成績考査については、学則第35条から第39条までに定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

第2条 試験は、次の各号のいずれかの方法によるものとする。

- (1) 試験時に筆記により行うもの
- (2) 教務委員会が認めた方法により行うもの

第2条の2 各授業科目の成績の評価は、試験により行う。ただし、平素の学習状況を考慮することができる。

2 前項本文の規定にかかわらず、教授会等において、演習、演習及び論文、実習、実験、実技その他これに準ずるものと認められた授業科目又はその開講期間内に適正な成績評価を行うことが可能であると認められた授業科目の成績については、試験によらず、これを評価することができる。

3 開講期間が通年の授業科目の成績評価を行うときは、各学期の成績を考慮する。

4 授業科目を履修し、合格の成績評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。ただし、各学期の授業料等納入金又は各授業科目の受講料を納入していないときは、当該各学期又は当該各授業科目についての成績評価を行わない。

第3条 次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする授業科目をその学年において登録していないとき。
- (2) 受験中に学生証を所持していないとき。
- (3) 試験開始後20分以上遅刻したとき。

2 前項の規定により、試験を受けなかった授業科目は無効とする。

第3条の2 医学部医学科の時間制の授業科目については、出席時間数が授業を行った時間数の3分の2に満たない場合、原則として試験を受けることができない。

2 医学部看護学科の専門基礎科目及び専門教育科目の講義・演習科目については、出席回数が実施授業回数の3分の2に満たない場合、原則として試験を受けることができない。その場合、当該授業科目の成績評語は放棄とし、追試験の対象としない。また、専門教育科目の実習科目については、出席回数が実施授業回数の4分の3に満たない場合、原則として成績評価を受けることができない。その場合も当該科目の成績評語は放棄とする。

第4条 成績評価は評点をもって行い、成績通知は評点又は秀(A)、優(B)、良(C)、可(D)、不可(F)、放棄(H)の成績評語をもって行う。ただし、教務委員会が認める授業科目（評点による成績評価を行わない授業科目に限る。）については、評点及び成績評語によらず、合否のみにより成績評価及び成績通知を行うことができる。

2 次の各号に掲げる成績評語は、当該各号に定める評点等を基準に区分する。

- (1) 秀(A) 100点から90点まで
- (2) 優(B) 89点から80点まで
- (3) 良(C) 79点から70点まで
- (4) 可(D) 69点から60点まで
- (5) 不可(F) 59点以下
- (6) 放棄(H) 試験放棄又は成績評価不能

3 第1項本文の規定により成績評価を行う授業科目は、前項の成績標語が秀(A)、優(B)、良(C)及び可(D)であるものを合格とし、不可(F)であるものを不合格とする。

4 履修した授業科目のうち、第1項本文の規定により成績評価を行うものについては、評点等に応じ、次に掲げる GP 評点を与える。

- (1) 100点から90点まで=4.0
- (2) 89点から80点まで=3.0
- (3) 79点から70点まで=2.0

(4) 69点から60点まで=1.0

(5) 59点以下及び試験放棄又は成績評価不能=0.0

5 履修した評点により成績評価を行う各授業科目のGP評点に当該各授業科目の単位数を乗じて算出した値の総和を履修登録した授業科目の総単位数で除した値を、GPA評価とする。ただし、福岡大学(以下「本学」という。)における授業科目の履修により修得したものとみなして単位を認定した授業科目及び合否のみにより成績評価を行う授業科目については、GPA評価の対象としない。

第5条 受験中に不正行為を行った者に対しては、当該期間(前期又は後期)に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目を放棄とみなす。

2 前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第5条の2 受験中に答案を持ち出した者に対しては、その受験科目を放棄とみなす。

2 前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第6条 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受験することができなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。

2 追試験の願出は、所定の書式により、病気の場合には医師の診断書を、病気以外のやむを得ない理由の場合には証明書を添え、定期試験終了後5日以内に学生課に提出しなければならない。

第7条 追試験は、定期試験終了後本学が定める日に1回だけ行う。

第8条 追試験を受験した者の評価は、80点を限度とする。ただし、情状によりこの制限を免除し、又は緩和することがある。

第9条 合格点の成績評価を得た授業科目は、再履修することができない。

第10条 授業科目の再履修により合格点を得た場合は、その合格点をもって以前の不合格点に代える。

第11条 追試験の受験料は1科目につき2,000円とする。ただし、情状によりこれを減額又は免除することがある。

2 いったん納めた受験料は、これを返還しない。

第12条 次の者に対しては、本人の願出により当該年度に受験した定期試験の授業科目について、学年末に再試験を行うことがある。

(1) 第4年次以上(薬学部は第6年次以上)の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち8単位以内の不合格点を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)

(2) 教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程及び日本語教員課程資格取得を目的とする場合、第4年次以上の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が各課程の資格取得に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち各課程につき4単位以内の不合格点を得た者。(当該学科の卒業に必要な単位数に算入しない科目に限る。)ただし、後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。

(3) 理学部の第2年次生にして、不合格の成績評価を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)

(4) 医学部医学科の学生にして、不合格の成績評価を得た者。ただし、単位制の授業科目については、15単位以内とする。第3学年及び第4学年の専門教育科目については、その学年の授業科目数の60パーセント以内とする。(追試験の結果、不合格点を得た授業科目を含む。)

(5) 医学部看護学科の第1年次生から第3年次生については、次のとおりとする。

ア 第1年次生及び第2年次生にして、不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見込みのある者。ただし、各年次8単位以内とする。(各年次の後期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。)

イ 第3年次生にして、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目について不合格の成績評価を得た者で、再試験により、第3年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者。ただし、8単位以内(前期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。)とし、本項柱書きの規定にかかわらず再試験は前期末に実施する。

(6) 薬学部の第1年次生から第5年次生にして不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見

VI. 諸 規 程

込みのある者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）

- 第13条 再試験の願出は、前条第1号については、卒業に必要な最小限度の単位数（8単位以内）、同条第2号については、各課程の資格取得に必要な最小限度の単位数（4単位以内）とし、成績発表後所定の期日までに、願書を各学部等の教務担当事務課（室）に提出しなければならない。
- 2 理学部学生の再試験の願出は、前条第3号については、8単位以内とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。
- 3 医学部医学科学生の再試験の願出は、成績発表後所定の期日までに、願書を医学部事務課に提出しなければならない。
- 4 医学部看護学科学生の再試験の願出は、前条第5号アについては、成績発表後所定の期日までに、同号イについては、別途定める日までに願書を看護学科事務室に提出しなければならない。
- 5 薬学部学生の再試験の願出は、前条第1号については、卒業に必要な最小限度の単位数（8単位以内）、同条第6号については、進級に必要な最小限度の単位数（8単位以内かつ4科目以内）とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。ただし、同号の第3年次生については、共通教育科目の再試験は行わない。また、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とする。

第14条 再試験の得点は、60点を限度とする。

第15条 再試験の受験料は1単位につき1,000円とする。ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目は、1科目につき4,000円とする。

- 2 いったん納めた受験料は、これを返還しない。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により修得したものとみなすことのできる単位及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により認定することのできる単位の取扱いについては、学則第34条の3から第34条の4の2までに定めるほか、この規程による。

2 この規程は、学則第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、これを準用する。

第2条 学則第34条の3の2の規定により、本学において単位を認定することのできる学修は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 大学の専攻科における学修

(2) 高等専門学校課程における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(4) 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第6条別表第三備考第4号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学、短期大学等が行う講習又は公開講座における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(5) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学、短期大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(6) 図書館法（昭和25年法律第118号）第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(7) 学校図書館法（昭和28年法律第185号）第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(8) 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則（平成12年文部省令第25号）又は技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(9) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーショナル・テスト・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル及びブトニック又は次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であってこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

ア 審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。

イ 審査の内容が、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること。

ウ 審査が全国的な規模において、毎年1回以上行われるものであること。

エ 審査の実施方法が、適切かつ公正であること。

2 前項に基づいて当該学修をもって単位を認定する授業科目が共通教育科目である場合については、教授会に先立って、教務委員会の議を経るものとする。

第3条 学則第34条の3第1項又は第34条の3の2第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の3の2第4項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、各年度にお

いて1月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあつては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。ただし、本学との協定等により学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなす場合及び本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する場合については、この限りではない。

2 学則第34条の4第1項又は第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、入学した年度の4月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあつては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。

第4条 教務部長は、学則第34条の3第3項、第34条の3の2第3項及び第34条の4第5項に定める場合（学則第34条の3第4項、第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）には教務委員会の議を経たうえで、前条に基づく申請書を申請者である学生が所属する学部の教授会に回付するものとする。

第5条 学則第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなす場合及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を認定する場合に、教授会は、本学におけるいずれの授業科目について単位を取得したものとみなし、又は認定するのかを特定しなければならない。ただし、他の大学又は短期大学（以下この条において「他大学等」という。）との協定に基づき、学生が他大学等で開講された授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。）の修得単位の取扱いについては、この限りでない。

2 前項に基づいて本学におけるいずれの授業科目について単位を修得したものとみなし、又は認定するのかを特定するにあつては、学生が他の大学若しくは短期大学において修得した授業科目の授業時間数又は学生が行った短期大学若しくは高等専門学校の専攻科における学修又はその他別に定める学修（学則第34条の3の2第4項により準用される場合にあつては、本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修）の時間数を考慮すべきものとする。

第6条 学科履修規程第5条によって定められた当該年度において履修できる単位数を超えて、学則第34条の3第1項及び第34条の3の2第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の3の2第4項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は単位を認定することはできないものとする。

第7条 学則第34条の4第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位の認定を受けようとする者は、その対象となる学修が学則第34条の4第1項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）に規定する本学に入學する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位として認定されていないことの証明書等を提出しなければならない。

第8条 編入学及び転入学の場合に、学則第34条の4第1項及び第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は認定することのできる単位数については、教務委員会の申合せによって定めるものとする。

第9条 学則第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなされた本学における授業科目及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を認定された本学における授業科目は、特待生の選考にあつて考慮しない。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程

(趣 旨)

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の3に基づき、本学が他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協定により、本学及び他大学等で開講し、履修ができると認められた授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。以下「単位互換科目等」という。）を履修し、修得した単位を学生が所属する本学の学部及び他大学等において認定する単位互換の取扱い、並びに学則第53条に定める特別聴講学生の取扱いその他必要な事項について、別に定めある場合を除き、この規程による。

(定 義)

第2条 この規程における用語の定義は、次の各号に定める。

- (1) 単位互換科目履修生とは、本学に在籍する2年次以上の学部学生で、単位互換科目等の履修を志願し、他大学等においてその履修が許可された者をいう。
- (2) 特別聴講学生とは、他大学等に在籍する学生で、本学における単位互換科目等の履修を志願し、本学がその履修を許可した者をいう。

(他大学等における単位互換科目等の決定)

第3条 単位互換科目履修生が受講できる単位互換科目等は、教務委員会が適当と認める授業科目とする。

- 2 前項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目以外の科目である場合は、当該学部教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。
- 3 第1項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目である場合は、当該学部教授会のほか、教務委員会においても審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。

(履修登録単位数)

第4条 単位互換科目履修生の履修登録単位数については、各年度8単位以内、合計20単位（共通教育科目8単位、共通教育科目以外の科目12単位）以内を限度とし、別に定める。

- 2 前項の履修登録単位数は、1年間に履修する単位数に含めるものとする。

(手 続)

第5条 単位互換科目履修生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに科目履修願を教務部長に提出しなければならない。

(許 可)

第6条 教務部長は、前条の学生を他大学等に通知し、履修の許可を得なければならない。

- 2 学長は、他大学等から履修を許可された学生を単位互換科目履修生として許可する。

(履修の時期及び期間)

第7条 単位互換科目履修生として履修する時期及び期間は、協定で定めた時期及び期間とする。

(授 業 料)

第8条 単位互換科目履修生は協定に基づき、他大学等における授業料を免除する。

(単位の認定)

第9条 単位互換科目履修生が履修した単位互換科目等の単位については、教務委員会の議を経て、当該学部教授会で認定する。

- 2 前項の認定は、前期集中講義科目及び前期完結科目については後期に、後期集中講義科目、後期完結科目及び通年科目については翌年度の前期に行う。ただし、卒業する学期において履修した科目の単位は認定しない。
- 3 単位互換科目履修生が履修できる単位互換科目等の認定を実施する学部、学科その他必要な事項については、別に定める。

(単位互換科目履修生の責務)

第10条 単位互換科目履修生は、この規程のほか、履修が許可された他大学等の諸規則を遵守しなければならない。

ならない。

(履修許可の取消)

第11条 学長は、単位互換科目履修生が次の各号のいずれかに該当するときは、他大学等と協議した上で、教授会の議を経てその許可を取り消すことができる。

(1) 成績不振等で成業の見込みがないと認められるとき。

(2) 単位互換科目履修生としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(受入の時期)

第12条 特別聴講学生として受入れる時期及び期間は、協定で定めた学期又は学年の始めとする。

(本学における単位互換科目等の決定)

第13条 特別聴講学生が受講できる単位互換科目等は、これを開講する学部の教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定した科目とする。ただし、本学における共通教育科目を単位互換科目等とする場合は、教務委員会において審議し、決定する。

2 前項の単位互換科目等は、原則として講義科目に限るものとする。ただし、特別な事情がある場合は、この限りでない。

(受入の手続)

第14条 特別聴講学生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに在籍する他大学等を通じて所定の事項を記載した書類を教務部長に提出しなければならない。

(受講の許可)

第15条 前条の学生については、受講を希望する単位互換科目等の担当者及び開講する学部の教授会が了承し、本学の教育に支障のない範囲において、学長が特別聴講学生として許可し、学生が在籍する他大学等へ通知する。

(成績評価)

第16条 特別聴講学生の成績評価は、福岡大学の成績考査規程の定めるところにより行う。

(選考料等)

第17条 特別聴講学生は協定に基づき、本学における選考料及び授業料を免除する。ただし、本学の定めるところにより、教材費その他必要な費用は徴収することができる。

(特別聴講学生証)

第18条 特別聴講学生には、特別聴講学生証を交付する。

2 特別聴講学生が登校するときは、特別聴講学生証を常に携帯しなければならない。

(取 消)

第19条 特別聴講学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、履修の許可を取り消す。

(1) 他大学等に在籍しなくなったとき。

(2) 本学の学則等に違反したとき。

(規程の準用)

第20条 この規程に定めるもののほか、特別聴講学生の取扱いについて必要な場合は、学則その他学内規程を準用する。

(そ の 他)

第21条 この規程に定めのない事項については、本学と他大学等との協定に基づき協議する。

附 則

この規程は、令和3年12月1日から施行する。

福岡大学転部・転科に関する規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、福岡大学学則第23条の2第3項の規定に基づき、転部・転科に関して必要な事項を定める。

(転部・転科年次及び在学期間)

第2条 転部・転科は、原則として当該学部の第2年次又は第3年次として許可し、その時期は学年の始めとする。

2 転部・転科をした学生の在学期間は、本学入学後、原則として通算8年を超えることはできない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、原則として通算12年を超えることはできない。

(選 考)

第3条 転部・転科は、選考の上、決定する。

2 選考の方法は、別に定める。

(志願手続)

第4条 転部・転科を志願する者は、所定の期日までに必要な書類を学長に提出しなければならない。

(合否判定及び単位認定)

第5条 選考試験の合否の判定及び既に修得した授業科目の単位の認定は、教授会の議を経て、学長がこれを行う。

(許 可)

第6条 選考試験に合格した者は、別に定める納付金を予定の期日までに納付しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に転部・転科を許可する。

3 転部・転科を許可された者の授業料等納入金は、別に定める。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

福岡大学授業料その他諸納入金規程

第1条 福岡大学（以下「本学」という。）の学生から徴収する授業料等納入金及び受講料並びに本学の科目等履修生及び研究生から徴収する受講料等については、特に定めがある場合を除き、この規程による。

第2条 授業料等納入金の額は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによる。

2 前項の授業料等納入金の納入は、分割して行うものとし、納入期日は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日とする。ただし、第1期分納入時に全納することを妨げない。

(1) 第1期分 毎年5月31日まで（新入生は、別に定める。）

(2) 第2期分 毎年10月31日まで

第3条 教職課程科目、博物館学芸員課程科目、社会教育主事課程科目、日本語教員課程科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

2 科目等履修生及び研究生の受講料等は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

3 実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目などの実習・研修費等は、別表第1の定めるところによりこれを徴収する。

第4条 学生が退学届を受理され、又は退学を命じられたときは、その納期分の授業料等納入金について、これを徴収する。

2 停学を命ぜられたときは、停学中の授業料等納入金について、これを徴収する。

第5条 休学する場合は、別表第2に定めるところにより在籍料を徴収する。ただし、学長が特に必要と認めるときは、減額することがある。

2 前項ただし書に規定する在籍料の減額は、別に定めるところにより、所定の手続を経て、学長がこれを決定する。

3 休学する場合の授業料及び教育充実費については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 通年休学の場合は、授業料及び教育充実費の全額を徴収しない。

(2) 前期又は後期のみ休学の場合は、授業料及び教育充実費の年額の2分の1を徴収することとし、過納の場合は、その額を返還する。

（削 除）

第6条 前条に定めるもののほか、休学が学資の負担者の罹患、罹災その他やむを得ない事情による学資の調達困難を理由とするときは、在籍料、授業料及び教育充実費の額を減免することができる。

2 前項の減免を受けようとする者は、必要な証明書等を添えて、所定の減免願を学生課に提出しなければならない。

3 第1項の減免の許否は、学生部委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第7条 再入学の場合は、再入学年度の入学金を納入しなければならない。

第8条 除籍を受けた者が再入学を願い出るときは、除籍を受けた納期分の授業料等納入金等で未払いの分はこれを納入しなければならない。

第9条 学生が他の学部への転部、他の学科への転科又は他の研究科への転研究科により異動する場合の授業料等納入金については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 入学金は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額から入学時の学部、学科又は研究科の当該金額を減じた額を徴収する。ただし、過納の場合は、これを返還しない。

(2) 授業料及び教育充実費は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額を徴収する。

第10条 諸証明書の発行を受ける者は、領収書を各所管課（室）に提出しなければならない。

第11条 諸証明書の発行手数料等は、別表第3の定めるところによりこれを徴収する。

2 追試験、再試験及び補助試験の手数料は、別表第4の定めるところによりこれを徴収する。

第12条 授業料等納入金、受講料、在籍料、手数料等の金額及び納入期日は、経済情勢その他の変動により改めることがある。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1 実習・研修費等（第3条第3項）

種 別	金 額 (単位 円)	納 期
海 外 研 修 費	実 費	指 定 期 間 内
学 外 実 習 費	実 費	
病 院 実 習 費	40,000	
教育実習費・養護実習費	実 費	
博 物 館 実 習 費	6,000	
社 会 教 育 実 習 費	6,000	
介 護 等 体 験 費	10,000	
考 古 学 実 習 費	30,000	
臨 床 心 理 学 実 習 費	30,000	

別表第2 在籍料（第5条第1項）

(単位 円)

学 部		区 分	通年休学	前期又は後期休学
人 文 学 部	法 学 部		240,000	120,000
経 済 学 部	商 学 部			
商 学 部 第 二 部		60,000		
理 学 部	工 学 部		360,000	180,000
医 学 部	医 学 科		1,200,000	600,000
	看 護 学 科		360,000	180,000
薬 学 部			480,000	240,000
ス ポ ー ツ 科 学 部			300,000	150,000

令和6年度 学費等納入金表

人文・法・経済・商学部

納入期限	第1期	5月27日
	第2期	10月27日

学費等納入金一覧表

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教充費	育費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費		学生健康保険 互助組合入会金	学生健康保険 互助組合費
6年度 入学 (1年)	年額	190,000	730,000	180,000	1,100,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度 編・転 学士入学 (3年)	年額	190,000	730,000	180,000	1,100,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第1期	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度 編・転 学士入学 (4年)	年額		730,000	180,000	910,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第1期		365,000	90,000	455,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。
 3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

商学部第二部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教育充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度入学(1年)	472,370	60,000	310,000	80,000	450,000	7,500	7,500	300	2,970	100	3,000	1,000	22,370
	277,370	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	7,500	300	2,970	100	3,000	1,000	22,370
5年度入学(2年)	411,970		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
4年度入学(3年)	411,970		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
3年度入学(4年)	412,470		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,500	22,470
	217,470		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,500	22,470
6年度編・転学士入学(3年)	480,870	60,000	310,000	80,000	450,000	7,500	15,000	300	2,970	100	3,000	2,000	30,870
	285,870	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	15,000	300	2,970	100	3,000	2,000	30,870
5年度編・転学士入学(4年)	420,970		310,000	80,000	390,000	7,500	15,000		2,970		3,000	2,500	30,970
	225,970		155,000	40,000	195,000	7,500	15,000		2,970		3,000	2,500	30,970

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
 3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

理・工学部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教養充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	240,000	1,000,000	380,000	1,620,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度 編・転 学士入学 (3年)	年額	240,000	1,000,000	380,000	1,620,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第1期	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度 編・転 学士入学 (4年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
 3. 転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

医学部医学科

区分	合計	学生納付金				委託徴収金						小計	
		入学金	特別教育 充実費	授業料	教育 充実費	小計	父 母 後援会費	有 信 会 費	学 友 会 入 会 金	学 友 会 費	学 生 健 康 保 険 互 助 組 合 入 会 金		学 生 健 康 保 険 互 助 組 合 費
6年度 入学 (1年)	年額	1,000,000	3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	1,000,000	3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									
5年度 入学 (2年)	年額		3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									
4年度 入学 (3年)	年額		3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									
3年度 入学 (4年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									
2年度 入学 (5年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									
元年度 入学 (6年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
第2期	2,300,000		1,956,000	344,000									

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 7年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入期限	第1期	5月27日
	第2期	10月27日

- (注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

医学部看護学科

区分	合計	学生納付金			委託徴収金							小計	
		入学金	授業料	教育充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費		卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	270,000	1,040,000	470,000	1,780,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	270,000	520,000	235,000	1,025,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

薬学部

区 分	合計	学生納付金			委託徴収金						小 計		
		入学金	授業料	教育充実費	小 計	父 後援会費	母 有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険 互助組合入会金		学生健康保険 互助組合費	卒業記念 アルバム代
6年度 入学 (1年)	年 額	400,000	1,350,000	290,000	2,040,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	400,000	675,000	145,000	1,220,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年 額		1,350,000	720,000	2,070,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年 額		1,350,000	720,000	2,070,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年 額		1,350,000	720,000	2,070,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
2年度 入学 (5年)	年 額		1,350,000	720,000	2,070,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
元年度 入学 (6年)	年 額		1,350,000	720,000	2,070,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	年 額		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第2期		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
2. 7年次以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。
3. 転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

スポーツ科学部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金							小計	
		入学金	授業料	教養充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費		卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	300,000	800,000	350,000	1,450,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度 編・転 学士入学 (3年)	年額	300,000	800,000	350,000	1,450,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第1期	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度 編・転 学士入学 (4年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
 3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

VII

薬学部参考資料

- 六年制で学ぶこと
(カリキュラム・マップ／カリキュラム・ツリー)
- 薬剤師国家試験出題基準
- モデル・コア・カリキュラム対応表

DP・CP・履修系統図の定義

ディプロマ・ポリシー (DP)

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものをディプロマ・ポリシー（学位授与方針）という。

カリキュラム・ポリシー (CP)

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針をカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）という。

履修系統図

カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表であり、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかを示す。

カリキュラム・ツリー

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の対応関係や履修・学修における道筋を示したものをカリキュラム・ツリーという。

※共通教育科目のDP、CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについては、FUポータルに掲載しています。

【掲載場所】FUポータル▶授業関連▶履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ）▶履修系統図（令和6年度入学生）▶共通教育

福岡大学薬学部薬学科の理念及び目的

福岡大学の建学の精神及び教育研究の理念である三つの共存に則り、薬学部薬学科は「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床の先端研究の推進をもって、国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念とする。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究の目的とする。

薬学部ディプロマポリシー (卒業生が身に付けるべき資質・能力)

薬学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- A) 幅広い教養と基礎的科学的力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
- B) 薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
- C) 教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

薬学科ディプロマポリシー (卒業生が身に付けるべき資質・能力)

薬学科の学位(教育)プログラムでは、豊かな人間性、高い倫理観をもち、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学、薬学研究などの学問を修め、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに最先端の科学技術の開拓を担える教育・研究者を育成する。所定の単位を修得した者で、下記に示された資質・能力を有すると認められる者に、学士(薬学)の学位を授与する。

【知識・理解】

- A-1) 薬学に必要な物理・化学・生物に関する科学的知識を修得している。
- A-2) 薬物治療の実践に必要な知識を修得し、医療においてどのように実践されるか理解している。
- A-3) 公衆衛生的な考えに基づいた疾病予防や健康増進の知識を修得し、どのように応用されるか理解している。

【技能】

- B-1) 多様な病態を理論的に理解して、患者個々に対して最適な薬物療法を提案できる。
- B-2) 他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、他者と議論できる。
- B-3) 薬物や医療に関わる有益な情報を集め、それらを患者や多職種のために分析、活用できる。
- B-4) 医療人としての活動に必要な英語力を有し、英文資料や論文の理解に活用することで最適な医療を選択できる。

【態度・志向性】

- C-1) 医療人として必要な倫理観、使命感、責任感を理解し、患者や医療スタッフへ貢献できる態度を備えている。
- C-2) チーム医療を構成する多職種の役割を理解し、協働する態度を備えている。
- C-3) 地域社会における生活者の身体的、心理的、社会的背景を理解し、質の高い公衆衛生・医療・福祉を担う姿勢を備えている。
- C-4) 薬学研究に対して自ら到達すべき目標を定め、自己並びに他者と共に研鑽できる態度を備えている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学位(教育)プログラム DP を構成する。

薬学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

①教育内容

薬学部のカリキュラムは、高度な薬学専門知識を涵養するための基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学、薬物療法における臨床実践能力を養うための実務実習や問題解決能力やプレゼンテーション能力などを養うための薬学研究などから構成されている。

②教育方法

授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分け、それらを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。専門教育科目では、演習・実習科目において少人数制で実践的な技術や技能を習得させ、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うためにスモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを行う。講義や演習で学んだ基礎的な力を活用し、薬剤師としての実践力を身に着けることを目的に、病院や薬局において臨地実習を行う。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学部CPを構成する。

薬学の学位（教育）プログラム

①教育内容

薬学の学位（教育）プログラムにおけるカリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げた薬の専門家として必要とされる【知識・理解】、【技能】、【態度・志向性】を段階的、発展的に身に付けることができるように編成されている。

- 1) 基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に関する知識、技能を体系的に学べるような科目を配置する。
- 2) 薬剤師として必要とされる薬物療法や地域の保健・医療における実践的な知識、技能、態度を修得するために、実務実習を開講する。
- 3) 医療人である薬剤師としての意識を高め、倫理観、ヒューマニズム、コミュニケーション能力を養う科目を開講する。
- 4) 社会のグローバル化に対応するために、薬学に関する科学英語を学ぶための科目を開講する。
- 5) 医療に関わる有益な情報収集、分析、活用する能力を養う科目を開講する。
- 6) 研究課題を通して、問題解決能力・研究能力を養うことと人格形成のために、薬学研究を開講する。

②教育方法

- 1) 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学部独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。
- 2) 実習科目では、講義科目に対応した内容を少人数制で行うことにより、専門知識を高め、実践的な技術や技能を習得させる。
- 3) 薬剤師として必要とされる総合的かつ実践的な知識・技能・態度を修得するために、実務実習として病院と薬局において臨地実習を行う。
- 4) 医療倫理、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うための科目を、低・中・高学年次に継続的に開講し、スモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなど多様なアクティブラーニングを実践する。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力(薬学教育モデル・コア・カリキュラム)

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるように、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

1. プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害(薬害、医療事故、重篤な副作用等)を発生させることがないように最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。

2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。

3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。

4. 科学的探究

薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。

5. 専門知識に基づいた問題解決能力

医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。

6. 情報・科学技術を活かす能力

社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。

7. 薬物治療の実践的能力

薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。

8. コミュニケーション能力

患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。

9. 多職種連携能力

多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。

10. 社会における医療の役割の理解

地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・マップ

科目名	科目区分	必修区分	配当年次	A) 知識・理解			B) 技能				C) 態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
■ ■ ■ 専門教育科目 (158単位以上) ■ ■ ■														
【1年次科目 (16単位以上)】														
《必修科目 (1単位)》														
薬学情報処理リテラシー演習	専門	必修	1	○				○	○					○
《選択必修科目 (15単位以上)》														
〔基礎薬学 (9単位以上)〕														
薬学物理化学入門	専門	選択必修	1	○										
薬学化学入門	専門	選択必修	1	○										
無機薬化学	専門	選択必修	1	○										
有機薬化学Ⅰ	専門	選択必修	1	○										
薬学生物学入門	専門	選択必修	1	○										
機能形態学	専門	選択必修	1		○									
解剖学演習	専門	選択必修	1		○									
〔臨床薬学 (3単位以上)〕														
薬物治療学入門	専門	選択必修	1		○		○							
腫瘍感染症薬学入門	専門	選択必修	1		○		○				○			
薬剤師入門	専門	選択必修	1								○	○	○	
早期臨床体験Ⅰ	専門	選択必修	1					○			○	○	○	
【2年次科目 (32単位以上)】														
《必修科目 (5単位)》														
微生物学実習	専門	必修	2	○				○						○
生化学実習	専門	必修	2	○				○						○
薬品分析学実習	専門	必修	2	○				○						○
衛生化学実習	専門	必修	2			○		○						○
医療体験実習	専門	必修	2			○		○						○
《選択必修科目 (27単位以上)》														
〔基礎薬学 (16単位以上)〕														
薬学物理化学基礎	専門	選択必修	2	○										
薬学物理化学応用	専門	選択必修	2	○										
日本薬局方	専門	選択必修	2	○										
分析化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅲ	専門	選択必修	2	○										
医薬品化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生化学	専門	選択必修	2	○										
免疫学	専門	選択必修	2	○										
〔衛生薬学 (2単位以上)〕														
微生物学	専門	選択必修	2	○		○								
疾患食品衛生学	専門	選択必修	2			○							○	
〔医療薬学 (4単位以上)〕														
薬理・薬物治療学Ⅰ	専門	選択必修	2		○		○							
放射性医薬品学	専門	選択必修	2		○	○								
薬物動態学	専門	選択必修	2		○									
医薬品情報学	専門	選択必修	2		○				○					
〔臨床薬学 (1単位以上)〕														
患者アセスメント薬学演習	専門	選択必修	2		○		○		○					
薬学英語演習	専門	選択必修	2					○		○				
早期臨床体験Ⅱ	専門	選択必修	2					○			○	○	○	
【3年次科目 (31単位以上)】														
《必修科目 (7単位)》														
機器分析学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬化学実習	専門	必修	3	○				○						○
生薬・漢方薬学実習	専門	必修	3	○				○						○
医薬品化学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬理学実習	専門	必修	3		○			○						○
薬学研究入門	専門	必修	3						○					○
《選択必修科目 (25単位以上)》														
〔基礎薬学 (4単位以上)〕														
分析化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
分析化学Ⅲ	専門	選択必修	3	○										
天然物化学	専門	選択必修	3	○										
医薬品化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
内分泌薬学	専門	選択必修	3	○			○							

科目名	科目区分	必修区分	配当年次	A) 知識・理解			B) 技能				C) 態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
【衛生薬学 (4単位以上)】														
公衆衛生学	専門	選択必修	3			○							○	
薬毒物代謝学	専門	選択必修	3			○							○	
感染症薬学	専門	選択必修	3			○	○		○					
【医療薬学 (10単位以上)】														
薬理・薬物治療学Ⅱ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅲ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅳ	専門	選択必修	3		○		○							
物理薬剤学	専門	選択必修	3		○				○					
製剤学	専門	選択必修	3		○		○							
薬物動態解析学	専門	選択必修	3		○				○					
医薬品安全性学	専門	選択必修	3		○		○							
【臨床薬学 (3単位以上)】														
臨床検査学	専門	選択必修	3		○									
医薬品開発・経済学	専門	選択必修	3		○				○					
コミュニケーション学演習Ⅰ	専門	選択必修	3					○			○	○	○	
《選択科目》														
がん疫学演習	専門	選択	3						○					○
【4年次科目 (27単位以上)】														
《必修科目 (13単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅰ	専門	必修	4								○		○	
総合薬学特別講義Ⅰ	専門	必修	4	○	○	○								
薬学研究Ⅰ	専門	必修	4						○	○	○	○		○
薬剤学実習	専門	必修	4		○				○			○		○
実務実習事前学習	専門	必修	4				○	○	○		○	○		
《選択必修科目 (14単位以上)》														
【衛生薬学 (2単位以上)】														
環境衛生学	専門	選択必修	4			○							○	
感染制御学演習	専門	選択必修	4			○							○	
疫学研究演習	専門	選択必修	4			○			○					○
【医療薬学 (8単位以上)】														
バイオ医薬品学	専門	選択必修	4		○									
薬理・薬物治療学Ⅴ	専門	選択必修	4		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅵ	専門	選択必修	4		○		○							
薬物送達学	専門	選択必修	4		○		○							
臨床薬物動態学	専門	選択必修	4		○		○		○					
薬学疾患管理学	専門	選択必修	4		○				○					
【臨床薬学 (2単位以上)】														
薬学臨床推論基礎	専門	選択必修	4		○		○		○				○	
医薬品調剤・販売論	専門	選択必修	4		○				○				○	
腫瘍薬学	専門	選択必修	4		○		○		○				○	
個別化医療薬学演習	専門	選択必修	4	○	○		○		○					
【5年次科目 (32単位以上)】														
《必修科目 (32単位)》														
実務実習	専門	必修	5					○	○	○		○	○	
薬学研究Ⅱ	専門	必修	5						○	○	○	○	○	○
《選択科目》														
がん緩和ケア演習	専門	選択	5		○		○		○		○	○		
がん治療管理学演習	専門	選択	5		○		○		○			○		
がん患者アセスメント演習	専門	選択	5		○		○		○					
【6年次科目 (19単位以上)】														
《必修科目 (14単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅱ	専門	必修	6								○		○	
総合薬学特別講義Ⅱ	専門	必修	6	○	○	○								
総合薬学演習	専門	必修	6	○	○	○								
薬学研究Ⅲ	専門	必修	6						○	○	○	○		○
《選択科目 (5単位)》														
先端治療学	専門	選択	6		○		○		○					
薬事行政論	専門	選択	6		○								○	
地域医療薬学	専門	選択	6		○	○	○						○	
薬学臨床推論応用	専門	選択	6		○		○							
薬物療法評価学	専門	選択	6		○		○		○					
臨床漢方薬学演習	専門	選択	6		○		○							
実務実習事後演習	専門	選択	6				○	○			○	○		
コミュニケーション学演習Ⅱ	専門	選択	6						○		○	○	○	

※共通教育科目に関しては、共通教育科目に関するカリキュラム・マップで別に定める

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: A)

DP (対応する 10の資質)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>A-1)薬学に必要な物理・化学・生物に関する科学的知識を修得している (⑤専門知識に基づいた問題解決能力)</p>	<p>△薬学物理化学入門 ※薬学情報処理リテラシー演習</p> <p>△薬学化学入門 △有機薬化学Ⅰ △無機薬化学</p> <p>△薬学生物学入門</p>	<p>△薬学物理化学基礎 △薬学物理化学応用 △日本薬局方 △分析化学Ⅰ ※薬品分析学実習</p> <p>△有機薬化学Ⅱ △有機薬化学Ⅲ △医薬品化学Ⅰ △生薬・漢方薬学Ⅰ △生薬・漢方薬学Ⅱ</p> <p>△免疫学 △微生物学 ※微生物学実習 △生化学 ※生化学実習</p>	<p>△分析化学Ⅱ △分析化学Ⅲ ※機器分析学実習</p> <p>※薬化学実習 △医薬品化学Ⅱ ※医薬品化学実習 △天然物化学 ※生薬・漢方薬学実習</p> <p>△内分泌薬学</p>	<p>※総合薬学特別講義Ⅰ</p> <p>△個別化医療薬学演習</p>		<p>※総合薬学演習 ※総合薬学特別講義Ⅱ</p>	
	<p>A-2)薬物治療の実践に必要な知識を修得し、医療においてどのように実践されるか理解している (⑤専門知識に基づいた問題解決能力)</p>	<p>△薬物治療学入門</p> <p>△機能形態学 △解剖学演習</p> <p>△腫瘍感染症薬学入門</p>	<p>△医薬品情報学 △放射性医薬品学 △薬物動態学</p> <p>△薬理・薬物治療学Ⅰ</p> <p>△患者アセスメント薬学演習</p>	<p>△医薬品安全性学 △製剤学 △薬物動態解析学 △物理薬剤学</p> <p>△薬理・薬物治療学Ⅱ △薬理・薬物治療学Ⅲ △薬理・薬物治療学Ⅳ ※薬理学実習</p> <p>△臨床検査学</p>	<p>△臨床薬物動態学 △薬物送達学 △薬学疾患管理学 ※薬剤学実習</p> <p>△薬理・薬物治療学Ⅴ △薬理・薬物治療学Ⅵ △バイオ医薬品学</p> <p>※総合薬学特別講義Ⅰ</p> <p>△医薬品開発・経済学 △医薬品調剤・販売論</p> <p>△腫瘍薬学 △薬学臨床推論基礎 △個別化医療薬学演習</p>	<p>○がん緩和ケア演習 ○がん治療管理学演習 ○がん患者アセスメント演習</p>	<p>□臨床漢方薬学演習 ※総合薬学演習 ※総合薬学特別講義Ⅱ □地域医療薬学 □薬事行政論 □薬物療法評価学 □先端治療学 □薬学臨床推論応用</p>
		<p>A-3)公衆衛生的な考えに基づいた疾病予防や健康増進の知識を修得し、どのように応用されるか理解している (⑤専門知識に基づいた問題解決能力)</p>	<p>△疾患食品衛生学 ※衛生化学実習</p> <p>△微生物学 △放射性医薬品学</p> <p>※医療体験実習</p>	<p>△疾患食品衛生学 ※衛生化学実習</p> <p>△微生物学 △放射性医薬品学</p> <p>※医療体験実習</p>	<p>△公衆衛生学 △薬毒物代謝学 △感染症薬学</p>	<p>△感染制御学演習 △疫学研究演習 △環境衛生学</p> <p>※総合薬学特別講義Ⅰ</p>	

※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: B)

DP (対応する 10の資質)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
<p>B-1)多様な病態を理論的に理解して、患者個々に対して最適な薬物療法を提案できる (⑦薬物治療の実践能力)</p>	<p>△薬物治療学入門</p>	<p>△薬理・薬物治療学Ⅰ</p>	<p>△薬理・薬物治療学Ⅱ △薬理・薬物治療学Ⅲ △薬理・薬物治療学Ⅳ △内分泌薬学 △医薬品安全性学 △製剤学</p>	<p>△薬理・薬物治療学Ⅴ △薬理・薬物治療学Ⅵ ※実務実習事前学習 △臨床薬物動態学 △薬物送達学 △個別化医療薬学演習 △腫瘍薬学 △薬学臨床推論基礎</p>	<p>※実務実習 ○がん緩和ケア演習 ○がん治療管理学演習 ○がん患者アセスメント演習</p>	<p>□臨床漢方薬学演習 □実務実習事後演習 □地域医療薬学 □薬物療法評価学 □先端治療学 □薬学臨床推論応用</p>
	<p>△腫瘍感染症薬学入門</p>	<p>△患者アセスメント薬学演習</p>	<p>△感染症薬学</p>			
<p>B-2)他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、他者と議論できる (⑧コミュニケーション能力)</p>	<p>△早期臨床体験Ⅰ</p>	<p>△早期臨床体験Ⅱ △薬学英語演習</p>	<p>△コミュニケーション学演習Ⅰ</p>	<p>※薬剤学実習 ※実務実習事前学習</p>	<p>※実務実習</p>	<p>□コミュニケーション学演習Ⅱ □実務実習事後演習</p>
	<p>※薬学情報処理リテラシー演習</p>	<p>※衛生化学実習 ※医療体験実習 ※微生物学実習 ※薬品分析学実習 ※生化学実習</p>	<p>※機器分析学実習 ※医薬品化学実習 ※薬化学実習 ※薬理学実習 ※生薬・漢方薬学実習</p>	<p>※薬学研究Ⅰ</p>	<p>※薬学研究Ⅱ</p>	<p>※薬学研究Ⅲ</p>
<p>B-3)薬物や医療に関わる有益な情報を集め、それらを患者や多職種のために分析、活用できる (⑥情報科学技術を活かす能力)</p>	<p>※薬学情報処理リテラシー演習</p>	<p>△医薬品情報学 △患者アセスメント薬学演習</p>	<p>※薬学研究入門 △物理薬剤学 △薬物動態解析学 △医薬品開発・経済学 △感染症薬学 ○がん疫学演習</p>	<p>※薬学研究Ⅰ △臨床薬物動態学 △薬学疾患管理学 △医薬品調剤・販売論 ※実務実習事前学習 △疫学研究演習 △腫瘍薬学 △薬学臨床推論基礎 △個別化医療薬学演習</p>	<p>※実務実習 ○がん緩和ケア演習 ○がん治療管理学演習 ○がん患者アセスメント演習</p>	<p>□薬物療法評価学 □先端治療学</p>
<p>B-4)医療人としての活動に必要な英語力を有し、英文資料や論文の理解に活用することで最適な医療を選択できる (⑧コミュニケーション能力 ⑩社会における医療の役割)</p>	<p>共通教育科目</p>	<p>△薬学英語演習 共通教育科目</p>		<p>※薬学研究Ⅰ</p>	<p>※薬学研究Ⅱ</p>	<p>※薬学研究Ⅲ</p>

※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: C)

DP (対応する 10の資質)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-1)医療人として必要な倫理観、使命感、責任感を理解し、患者や医療スタッフへ貢献できる態度を備えている (①プロフェッショナリズム)	△早期臨床体験Ⅰ △薬剤師入門 △腫瘍感染症薬学入門	△早期臨床体験Ⅱ	△コミュニケーション学演習Ⅰ	※薬学研究Ⅰ ※薬剤学実習 ※実務実習事前学習 ※薬事医事関係法規総合論Ⅰ	※薬学研究Ⅱ ※実務実習 ○がん緩和ケア演習	※薬学研究Ⅲ □コミュニケーション学演習Ⅱ □実務実習事後演習 ※薬事医事関係法規総合論Ⅱ
C-2)チーム医療を構成する多職種役割を理解し、協働する態度を備えている (⑨多職種連携能力)	△早期臨床体験Ⅰ △薬剤師入門	△早期臨床体験Ⅱ	△コミュニケーション学演習Ⅰ	※薬学研究Ⅰ ※実務実習事前学習 △薬学臨床推論基礎 △腫瘍薬学	※薬学研究Ⅱ ※実務実習 ○がん緩和ケア演習 ○がん治療管理学演習	※薬学研究Ⅲ □コミュニケーション学演習Ⅱ □実務実習事後演習
C-3)地域社会における生活者の身体的、心理的、社会的背景を理解し、質の高い公衆衛生・医療・福祉を担う姿勢を備えている (②総合的に患者生活を見る姿勢⑩社会における医療の役割)	△早期臨床体験Ⅰ △薬剤師入門	△早期臨床体験Ⅱ	△公衆衛生学 △薬毒物代謝学 △コミュニケーション学演習Ⅰ	※薬事医事関係法規総合論Ⅰ △環境衛生学 △感染制御学演習 △医薬品調剤・販売論	※薬事医事関係法規総合論Ⅱ □コミュニケーション学演習Ⅱ □地域医療薬学 □薬事行政論	※薬事医事関係法規総合論Ⅱ
C-4)薬学研究に対して自ら到達すべき目標を定め、自己並びに他者と共に研鑽できる態度を備えている (③生涯にわたって学ぶ姿勢④科学的探究)	※薬学情報処理リテラシー演習	※衛生化学実習 ※医療体験実習 ※微生物学実習 ※薬品分析学実習 ※生化学実習	※薬学研究入門 ※機器分析学実習 ※医薬品化学実習 ※薬化学実習 ※薬理学実習 ※生薬・漢方薬学実習 ○がん疫学演習	※薬学研究Ⅰ ※薬剤学実習 △疫学研究演習	※薬学研究Ⅱ	※薬学研究Ⅲ

※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

福岡大学薬学部薬学科の理念及び目的

薬学部薬学科は、医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床の先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献することを教育研究の理念としている。この理念に基づき、医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用および医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成することを目的とする。

薬学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- A) 幅広い教養と基礎的科学的力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
- B) 薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
- C) 教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。共通教育に関するDPをもって学部DPを構成する。

薬学科ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学科は人材養成および教育研究の目的を達成するためのカリキュラムを策定している。開講科目に対して厳格な成績評価を行い、薬学部が設定した共通教育科目および専門教育科目に関して所定の単位を修得した者に対して学位を授与する。

卒業までに身につけるべき資質は以下の通りである。

【知識・理解】

- A-1) 物理・化学・生物に関する科学的知識を理解している。
- A-2) 薬剤師として必要とされる高度な薬学的知識を理解している。
- A-3) 人文科学・社会科学・自然科学についての基本的知識を理解している。
- A-4) 社会のグローバル化に対応するための外国語に加え、科学英語を理解している。

【技能】

- B-1) 他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を備えている。
- B-2) チーム医療における薬剤師としての基礎的な職能を備えている。
- B-3) 最適な薬物療法を提案する能力を備えている。
- B-4) 地域における人々の健康増進や公衆衛生を管理できる能力を備えている。

【態度・志向性】

- C-1) 医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。
- C-2) 教育・研究能力を有し、生涯にわたり自己研鑽する意欲を持っている。
- C-3) 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を持っている。
- C-4) スポーツや運動を通じて、心身の健康維持・増進を目指す姿勢を持っている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

薬学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

①教育内容

薬学部のカリキュラムは、広い視野と豊かな人間性・倫理観を養うための総合教養科目や保健体育科目、社会のグローバル化に対応するための外国語科目、基礎薬学、衛生薬学、医療・臨床薬学などの専門教育科目と実習、薬物療法における実践的能力を養うための実務実習、問題解決能力を養うための卒業研究、高度な薬学専門知識を涵養するための薬学アドバンスト科目から構成されている。

②教育方法

授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分け、それらを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。すべての科目に一般目標（GIO）、複数の到達目標（SBO）、授業計画を設定し、予習・復習による学修効果を高める。実習科目では、少人数制で実践的な技術や技能を習得させ、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力・研究能力を養うためにスモールグループディスカッション（SGD）、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを行う。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学部CPを構成する。

薬学の学位（教育）プログラム

①教育内容

薬学の学位（教育）プログラムにおけるカリキュラムは、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた薬の専門家として必要とされる【知識・理解】、【技能】、【態度・志向性】を段階的、発展的に身に付けることができるように編成されている。

- 1) 医療人である薬剤師としての意識を高め、コミュニケーション能力を養う科目を開講する。
- 2) 広い視野と豊かな人間性・倫理観を養うために幅広い共通教育科目を開講する。
- 3) 社会のグローバル化に対応するために、共通教育科目の外国語科目に加え、科学英語を学ぶための薬学演習や薬学研究を高学年次に開講する。
- 4) 基礎・創薬科学から衛生薬学および医療・臨床薬学に関する知識、技能を体系的に学べるような科目と実習を配置する。
- 5) 薬剤師として必要とされる薬物療法や地域の保健・医療における実践的な知識、技能、態度を修得するために、実務実習を開講する。
- 6) 研究課題を通して、問題解決能力・研究能力を養うことと人格形成のために、薬学研究を開講する。
- 7) 高度な薬学専門知識を涵養するために、薬学アドバンスト科目を開講する。

②教育方法

- 1) 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学部独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。
- 2) 講義、演習科目では、定期試験に加え、小テストやレポートなどの課題を課すことで予習・復習による学修効果を高め、知識の到達度を定期的に確認する。
- 3) 実習科目では、講義科目に対応した内容を少人数制で行うことにより、専門知識を高め、実践的な技術や技能を習得させる。
- 4) 自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力・研究能力を養うためにスモールグループディスカッション（SGD）、ロールプレイ、プレゼンテーションなどアクティブラーニングを多様な形で実践する。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

薬剤師として求められる基本的な資質（薬学教育モデル・コア・カリキュラム）

- ①（**薬剤師としての心構え**）医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。
- ②（**患者・生活者本位の視点**）患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。
- ③（**コミュニケーション能力**）患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。
- ④（**チーム医療への参画**）医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。
- ⑤（**基礎的な科学力**）生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。
- ⑥（**薬物療法における実践的能力**）薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。
- ⑦（**地域の保健・医療における実践的能力**）地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。
- ⑧（**研究能力**）薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。
- ⑨（**自己研鑽**）薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
- ⑩（**教育能力**）次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

薬学部カリキュラム一覧表

6年卒業時に必要とされる10の資質

薬学部DP (A-3, C-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
①薬剤師としての心構え 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	早期臨床体験Ⅰ 薬学概論 共通教育科目	※早期臨床体験Ⅱ 共通教育科目	医薬品安全性学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
薬学部DP (C-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
②患者・生活者本位の視点 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	早期臨床体験Ⅰ 薬学概論	※早期臨床体験Ⅱ	医薬品安全性学 医療情報学	薬学健康管理学 薬学疾患管理学 ※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
薬学部DP (A-4, B-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
③コミュニケーション能力 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するのためのコミュニケーション能力を有する。	早期臨床体験Ⅰ 共通教育科目	※早期臨床体験Ⅱ 共通教育科目	コミュニケーション学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
薬学部DP (B-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
④チーム医療への参画 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。				※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習 臨床診療科概論 薬剤師職能論
薬学部DP (A-1, A-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑤基礎的な科学力 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	薬学物理学入門 薬学計算法	薬学物理化学Ⅰ 薬学物理化学Ⅱ 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ	薬学物理化学Ⅲ 薬学物理化学Ⅳ 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ 日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ			
	薬学化学入門 化学 有機薬化学Ⅰ 有機薬化学Ⅱ 天然医薬資源学	有機薬化学Ⅲ 有機薬化学Ⅳ 生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ	創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ 天然物化学	創薬化学Ⅲ 漢方薬学概論		
	薬学生物学入門 機能形態学Ⅰ 生体機能分子学Ⅰ 生体機能分子学Ⅱ	機能形態学Ⅱ 人体生化学Ⅰ 人体生化学Ⅱ 免疫学 微生物学	人体機能調節学	遺伝子工学概論		
薬学部DP (B-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑥薬物療法における実践的能力 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ 感染症治療薬概論	疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 漢方薬学概論 臨床検査学	※実務実習	実務実習事後学習 薬科処方解析学 ※臨床薬学総合講義Ⅰ ※臨床薬学総合講義Ⅱ
		同位体化学 同位体医療薬学	物理薬理学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	調剤学総論 薬物送達学 臨床薬物動態学 ※実務実習事前学習		
薬学部DP (B-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑦地域の保健・医療における実践的能力 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	早期臨床体験Ⅰ 共通教育科目	食品栄養学 食品衛生学 共通教育科目	環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学 医薬品開発・経済学	環境衛生学Ⅱ 薬学健康管理学 薬学疾患管理学 薬事関係法規論	※実務実習	薬事行政論 ※臨床薬学総合講義Ⅰ ※臨床薬学総合講義Ⅱ
薬学部DP (C-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑧研究能力 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。		※物理系実習Ⅰ	※物理系実習Ⅱ ※物理系実習Ⅲ ※化学系実習Ⅰ ※化学系実習Ⅱ ※化学系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅰ ※生物系実習Ⅱ	※薬学演習(含薬学研究基礎)	※薬学研究Ⅰ	※薬学研究Ⅱ 今日の薬学研究 薬学特別研究 医薬品開発論
薬学部DP (C-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑨自己研鑽 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。				※物理系薬学特別講義 ※化学系薬学特別講義 ※生物系薬学特別講義 ※衛生薬学特別講義 ※医療薬学特別講義Ⅰ ※医療薬学特別講義Ⅱ		※物理系薬学総合講義 ※化学系薬学総合講義 ※生物系薬学総合講義 ※衛生薬学総合講義 ※医療薬学総合講義Ⅰ ※医療薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅲ ※医療薬学総合講義Ⅳ ※総合薬学演習(含卒業試験)
薬学部DP (C-4)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑩教育能力 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。				※薬学演習(含薬学研究基礎)	※薬学研究Ⅰ	※薬学研究Ⅱ

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・マップ

科目名	科目区分		配当年次	A) 知識・理解				B) 技能				C) 態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択 必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
■ ■ ■ 専門教育科目 (158単位以上) ■ ■ ■															
【1年次科目 (20単位以上)】															
〔物理分野 (2単位以上)〕															
薬学物理学入門	専門	選択	1	○	○										
薬学計算法	専門	選択	1	○	○										
〔化学分野 (6単位以上)〕															
薬学化学入門	専門	選択	1	○	○										
化学	専門	選択	1	○	○										
有機薬化学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
有機薬化学Ⅱ	専門	選択	1	○	○										
天然医薬資源学	専門	選択	1	○	○										
〔生物分野 (4単位以上)〕															
薬学生物学入門	専門	選択	1	○	○										
機能形態学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
生体機能分子学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
生体機能分子学Ⅱ	専門	選択	1	○	○										
〔総合分野 (1単位以上)〕															
薬学概論	専門	選択	1			○						○			
早期臨床体験Ⅰ	専門	選択	1			○	○	○			○	○			○
【2年次科目 (32単位以上)】															
《必修科目 (4単位)》															
※物理系実習Ⅰ	専門	必修	2											○	
※生物系実習Ⅰ	専門	必修	2											○	
※生物系実習Ⅱ	専門	必修	2											○	
※早期臨床体験Ⅱ	専門	必修	2			○	○	○				○			
《選択科目 (28単位以上)》															
〔物理分野 (4単位以上)〕															
薬学物理化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
薬学物理化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
分析化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
分析化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
〔化学分野 (4単位以上)〕															
生薬学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
生薬学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
有機薬化学Ⅲ	専門	選択	2	○	○										
有機薬化学Ⅳ	専門	選択	2	○	○										
〔生物分野 (4単位以上)〕															
人体生化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
人体生化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
微生物学	専門	選択	2	○	○										
免疫学	専門	選択	2	○	○										
〔衛生分野 (2単位以上)〕															
食品栄養学	専門	選択	2									○			○
食品衛生学	専門	選択	2									○			○
〔薬理分野 (2単位以上)〕															
機能形態学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
疾患薬理学Ⅰ	専門	選択	2								○				
〔薬剤分野 (2単位以上)〕															
同位体化学	専門	選択	2								○				
同位体医療薬学	専門	選択	2								○				
【3年次科目 (26単位以上)】															
《必修科目 (7単位)》															
※物理系実習Ⅱ	専門	必修	3											○	
※物理系実習Ⅲ	専門	必修	3											○	
※化学系実習Ⅰ	専門	必修	3											○	
※化学系実習Ⅱ	専門	必修	3											○	
※化学系実習Ⅲ	専門	必修	3											○	
※生物系実習Ⅲ	専門	必修	3											○	
※生物系実習Ⅳ	専門	必修	3											○	
《選択科目 (19単位以上)》															

科目名	科目区分		配当年次	A) 知識・理解				B) 技能				C) 態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択 必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
【物理分野 (3単位以上)】															
薬学物理化学Ⅲ	専門	選択	3	○	○										
薬学物理化学Ⅳ	専門	選択	3	○	○										
日本薬局方Ⅰ	専門	選択	3	○	○										
日本薬局方Ⅱ	専門	選択	3	○	○										
分析化学Ⅲ	専門	選択	3	○	○										
分析化学Ⅳ	専門	選択	3	○	○										
【化学分野 (1単位以上)】															
天然物化学	専門	選択	3	○	○										
創薬化学Ⅰ	専門	選択	3	○	○										
創薬化学Ⅱ	専門	選択	3	○	○										
【生物分野 (1単位以上)】															
感染症治療薬概論	専門	選択	3							○					
人体機能調節学	専門	選択	3	○	○										
【衛生分野 (1単位以上)】															
環境衛生学Ⅰ	専門	選択	3								○			○	
公衆衛生学	専門	選択	3								○			○	
【薬理分野 (2単位以上)】															
疾患薬理学Ⅱ	専門	選択	3							○					
疾患薬理学Ⅲ	専門	選択	3							○					
病態・薬物治療学Ⅰ	専門	選択	3							○					
病態・薬物治療学Ⅱ	専門	選択	3							○					
【薬剤分野 (4単位以上)】															
物理薬剤学	専門	選択	3							○					
製剤学	専門	選択	3							○					
薬物動態理論	専門	選択	3							○					
臨床薬物動態解析学	専門	選択	3							○					
医薬品安全性学	専門	選択	3			○						○			
医療情報学	専門	選択	3									○			
【実務分野 (1単位以上)】															
コミュニケーション学	専門	選択	3				○	○							
医薬品開発・経済学	専門	選択	3								○			○	
【4年次科目 (21単位以上)】															
《必修科目 (12単位)》															
※物理系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※化学系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※生物系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※衛生薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※医療薬学特別講義Ⅰ	専門	必修	4										○		
※医療薬学特別講義Ⅱ	専門	必修	4										○		
※薬学演習 (含薬学研究基礎)	専門	必修	4									○	○		
※実務実習事前学習	専門	必修	4			○	○	○	○	○		○			
《選択科目 (9単位以上)》															
【化学分野 (1単位以上)】															
漢方薬学概論	専門	選択	4	○	○						○				
創薬化学Ⅲ	専門	選択	4	○	○										
【生物分野 (1単位以上)】															
遺伝子工学概論	専門	選択	4	○	○										
臨床検査学	専門	選択	4								○				
【衛生分野】															
環境衛生学Ⅱ	専門	選択	4									○		○	
【薬理分野 (1単位以上)】															
病態・薬物治療学Ⅲ	専門	選択	4								○				
病態・薬物治療学Ⅳ	専門	選択	4								○				
疾患薬理学Ⅳ	専門	選択	4								○				
【薬剤分野 (1単位以上)】															
薬物送達学	専門	選択	4								○				
臨床薬物動態学	専門	選択	4								○				
薬学健康管理学	専門	選択	4									○	○	○	
薬学疾患管理学	専門	選択	4									○	○	○	
【実務分野 (1単位以上)】															
薬事関係法規論	専門	選択	4									○		○	
調剤学総論	専門	選択	4								○				

科目名	科目区分		配当年次	A) 知識・理解				B) 技能				C) 態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択 必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
【5年次科目 (32単位)】															
実務実習	専門	必修	5			○	○	○	○	○	○	○			○
薬学研究 I	専門	必修	5										○	○	
【6年次科目 (27単位以上)】															
《必修科目 (25単位)》															
※薬学研究 II	専門	必修	6										○	○	
※物理系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※化学系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※生物系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※衛生薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※臨床薬学総合講義 I	専門	必修	6							○					
※臨床薬学総合講義 II	専門	必修	6							○					
※医療薬学総合講義 I	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義 II	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義 III	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義 IV	専門	必修	6										○		
※薬事・医事関係法規総合講義	専門	必修	6								○				○
※総合薬学演習 (含卒業試験)	専門	必修	6										○		
《選択科目 (2単位以上)》															
【薬剤分野】															
薬科処方解析学	専門	選択	6								○				
【実務分野】															
実務実習事後学習	専門	選択	6			○	○	○	○	○			○		
【アドバンスト分野 (2単位以上)】															
臨床診療科概論	専門	選択	6							○	○				
薬剤師職能論	専門	選択	6							○					
今日の薬学研究	専門	選択	6										○		
薬学特別研究	専門	選択	6										○		
薬事行政論	専門	選択	6								○				○
医薬品開発論	専門	選択	6										○		

※共通教育科目に関しては、共通教育科目に関するカリキュラム・マップで別に定める

「薬学の学位(教育)プログラム」のカリキュラム・ツリー

薬学教育プログラム①～⑩ ディプロマ・プログラム A-1)～C-4)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
①薬剤師としての心構え A-3) 人文科学・社会科学・自然科学についての基本的知識を理解している。 C-1) 医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。	早期臨床体験Ⅰ 薬学概論	※早期臨床体験Ⅱ 共通教育科目 総合教養科目 人文科学 社会科学 自然科学	医薬品安全性学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
②患者・生活者本位の視点 C-1) 医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。	早期臨床体験Ⅰ 薬学概論	※早期臨床体験Ⅱ	医薬品安全性学 医療情報学	※実務実習事前学習 薬学疾患管理学 薬学健康管理学	※実務実習	実務実習事後学習
③コミュニケーション能力 A-4) 社会のグローバル化に対応するための外国語に加え、科学英語を理解している。 B-1) 他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を備えている。	早期臨床体験Ⅰ	※早期臨床体験Ⅱ 共通教育科目 ※外国語科目 ※保健体育科目	コミュニケーション学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
④チーム医療への参画 B-2) チーム医療における薬剤師としての基礎的な職能を備えている。				※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習 ○臨床診療科概論 ○薬剤師職能論
⑤基礎的な科学力 A-1) 物理・化学・生物に関する科学的知識を理解している。 A-2) 薬剤師として必要とされる高度な薬学的知識を理解している。	薬学物理学入門 薬学計算法 薬学化学入門 化学 有機薬化学Ⅰ 有機薬化学Ⅱ 天然医薬資源学 薬学生物学入門 生体機能分子学Ⅰ 生体機能分子学Ⅱ 機能形態学Ⅰ 共通教育科目 総合教養科目 自然科学	薬学物理化学Ⅰ 薬学物理化学Ⅱ 分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ 有機薬化学Ⅳ 生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ 人体生化学Ⅰ 人体生化学Ⅱ 免疫学 微生物学 機能形態学Ⅱ	薬学物理化学Ⅲ 薬学物理化学Ⅳ 日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ 創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ 天然物化学	創薬化学Ⅲ 漢方薬学概論		遺伝子工学概論

 ; 共通教育科目、 ; 専門科目 ※; 必修、それ以外の科目は選択、○; 7Pポイント科目
 番号①～⑩薬学教育プログラム①～⑩の「薬剤師として求められる基本的な資質」

* 共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

「薬学の学位(教育)プログラム」のキャリア・ツリー

薬学教育プログラム①～⑩ ディプロマポリシー(A-1)～(C-4)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑥薬物療法における実践的能力 B-3) 最適な薬物療法を提案する能力を備えている。		疾患薬理学 I 同位体化学 同位体医療薬学	疾患薬理学 II 疾患薬理学 III 感染症治療薬概論 病態・薬物治療学 I 病態・薬物治療学 II 物理薬理学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	疾患薬理学 IV 漢方薬学概論 臨床検査学 病態・薬物治療学 III 病態・薬物治療学 IV 調剤学総論 薬物送達学 臨床薬物動態学 ※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習 薬科処方解析学 ○臨床診療科概論 ※臨床薬学総合講義 I ※臨床薬学総合講義 II
⑦地域の保健・医療における実践的能力 B-4) 地域における人々の健康増進や公衆衛生を管理できる能力を備えている。 C-4) スポーツや運動を通じて、心身の健康維持・増進を目指す姿勢を持っている。	早期臨床体験 I	食品栄養学 食品衛生学 共通教育科目 ※保健体育科目	環境衛生学 I 公衆衛生学 医薬品開発・経済学	環境衛生学 II 薬学疾患管理学 薬学健康管理学 薬事関係法規論	※実務実習	○薬事行政論 ※薬事・医事関係法規総合講義
⑧研究能力 C-2) 教育・研究能力を有し、生涯にわたり自己研鑽する意欲を持っている。		※物理系実習 I ※生物系実習 I ※生物系実習 II	※物理系実習 II ※物理系実習 III ※化学系実習 I ※化学系実習 II ※化学系実習 III ※生物系実習 III ※生物系実習 IV	※薬学演習 (含薬学研究基礎)	※薬学研究 I	※薬学研究 II ○今日の薬学研究 ○薬学特別研究 ○医薬品開発論
⑨自己研鑽 C-2) 教育・研究能力を有し、生涯にわたり自己研鑽する意欲を持っている。				※物理系薬学特別講義 ※化学系薬学特別講義 ※生物系薬学特別講義 ※衛生薬学特別講義 ※医療薬学特別講義 I ※医療薬学特別講義 II		※物理系薬学総合講義 ※化学系薬学総合講義 ※生物系薬学総合講義 ※衛生薬学総合講義 ※医療薬学総合講義 I ※医療薬学総合講義 II ※医療薬学総合講義 III ※医療薬学総合講義 IV ※総合薬学演習 (含卒業試験)
⑩教育能力 C-3) 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を持っている。				※薬学演習 (含薬学研究基礎)	※薬学研究 I	※薬学研究 II

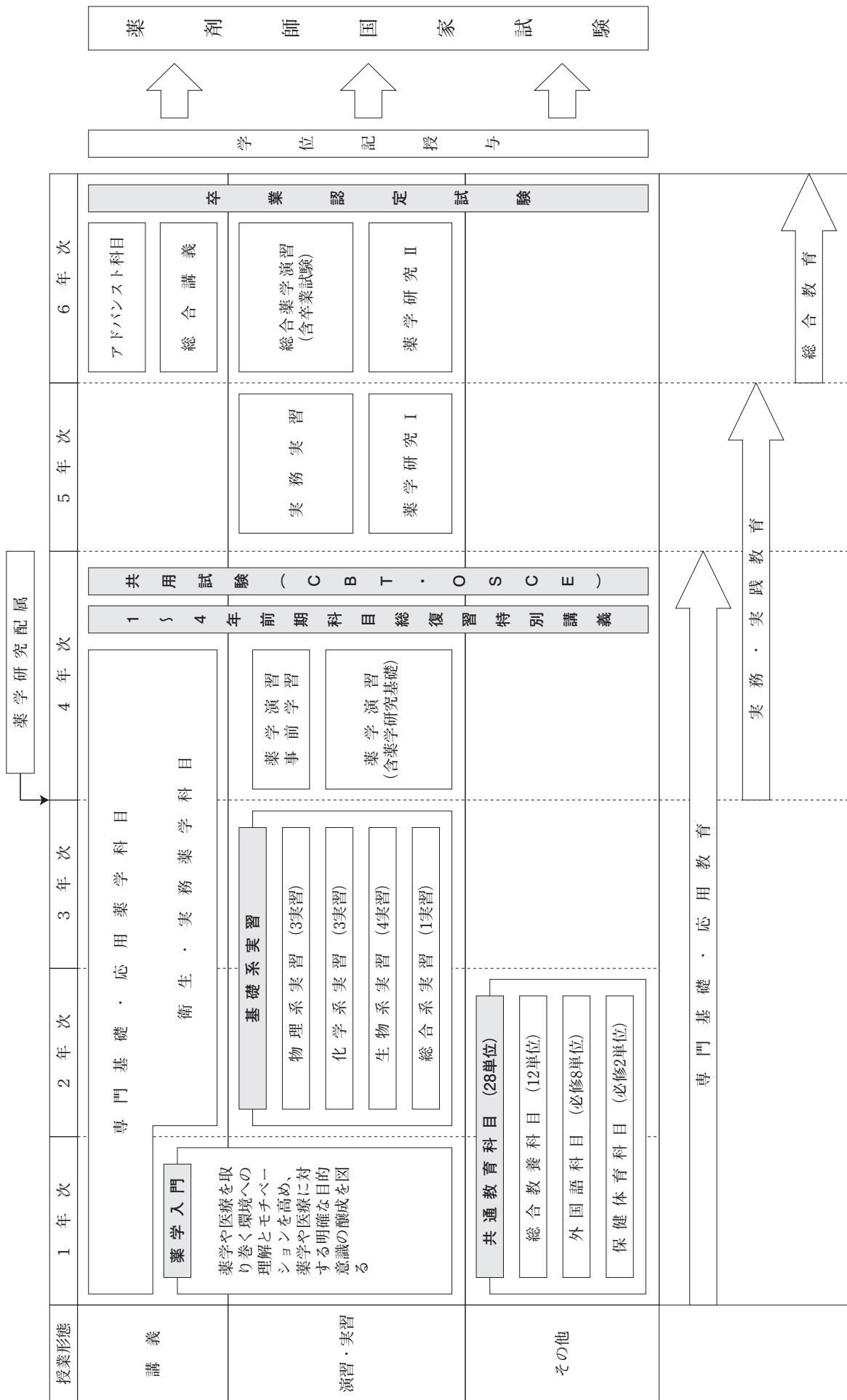
 ; 共通教育科目、 ; 専門科目 ※; 必修、それ以外の科目は選択、○; ドラッグ科目
 番号①～⑩薬学教育プログラム①～⑩の「薬剤師として求められる基本的な資質」

* 共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学部専門科目一覧表

1年次専門科目	科目番号	単位	2年次専門科目	科目番号	単位	3年次専門科目	科目番号	単位	4年次専門科目	科目番号	単位	5年次専門科目	科目番号	単位	6年次専門科目	科目番号	単位
薬学物理学入門	1P1	2	薬学物理化学 I	2P1	2	薬学物理化学 III	3P1	1	※薬学系薬学特別講義	4P1	1	※実務実習	5R1	20	※薬学系薬学総合講義	6P1	2
薬学計算法	1P2	2	薬学物理化学 II	2P2	2	薬学物理化学 IV	3P2	1	漢方薬学概論	4C1	1	※薬学研究 I	5S1	12	※薬学系薬学総合講義	6C1	2
薬学化学入門	1C1	2	分析化学 I	2P3	2	日本薬局方 I	3P3	1	創薬化学 III	4C2	1				※薬学系薬学総合講義	6B1	2
化学	1C2	2	分析化学 II	2P4	2	日本薬局方 II	3P4	1	※化学系薬学特別講義	4C3	1				※衛生薬学総合講義	6H1	2
有機薬化学 I	1C3	2	※薬学系実習 I	2P5	1	分析化学 III	3P5	1	遺伝子工学概論	4B1	1				※医療薬学総合講義 I	6M1	2
有機薬化学 II	1C4	2	生薬学 I	2C1	2	分析化学 IV	3P6	1	臨床検査学	4B2	1				※医療薬学総合講義 III	6M2	2
天然医薬資源学	1C5	2	生薬学 II	2C2	2	※薬学系実習 II	3P7	1	※生物系薬学特別講義	4B3	1				※医療薬学総合講義 IV	6M3	2
薬学生物学入門	1B1	2	有機薬化学 III	2C3	2	※薬学系実習 III	3P8	1	環境衛生学 II	4H1	1				薬科処方解析学	6Y1	1
機能形態学 I	1B2	2	有機薬化学 IV	2C4	2	※薬学系実習 I	3C1	1	※衛生薬学特別講義	4H2	1				※臨床薬学総合講義 I	6Y2	2
生体機能分子学 I	1B3	2	人体生化学 I	2B1	2	創薬化学 I	3C2	1	病態・薬物治療学 III	4M1	1				※医療薬学総合講義 II	6Y3	2
生体機能分子学 II	1B4	2	人体生化学 II	2B2	2	創薬化学 II	3C3	1	病態・薬物治療学 IV	4M2	1				実務実習事後学習	6R1	1
薬学概論	1S1	1	微生物学	2B3	2	※化学系実習 I	3C4	1	疾患薬理学 IV	4M3	1				※臨床薬学総合講義 II	6R2	2
早期臨床体験 I	1S2	2	免疫学	2B4	2	※化学系実習 II	3C5	1	※医療薬学特別講義 II	4M4	1				※薬事・医事関係法規総合講義	6R3	2
			※生物系実習 I	2B5	1	※化学系実習 III	3C6	1	薬物送達学	4Y1	1				※薬学研究 II	6S1	1
			※生物系実習 II	2B6	1	感染症治療薬概論	3B1	1	臨床薬物動態学	4Y2	1				※総合薬学演習 (含卒業試験)	6S2	2
			食品栄養学	2H1	2	人体機能調節学	3B2	1	薬学健康管理学	4Y3	1				臨床診療科概論	6A1	1
			食品衛生学	2H2	2	環境衛生学 I	3H1	1	薬学疾患管理学	4Y4	1				薬剤師職能論	6A2	1
			機能形態学 II	2M1	2	公衆衛生学	3H2	1	※医療薬学特別講義 I	4Y5	1				今日の薬学研究	6A3	1
			疾患薬理学 I	2M2	2	※生物系実習 III	3H3	1	※実務実習事前学習	4Y6	4				薬学特別研究	6A4	1
			同位体化学	2Y1	2	疾患薬理学 II	3M1	1	薬事関係法規論	4R1	1				薬事行政論	6A5	1
			同位体医療薬学	2Y2	2	疾患薬理学 III	3M2	1	調剤学総論	4R2	1				医薬品開発論	6A6	1
			※早期臨床体験 II	2S1	1	病態・薬物治療学 I	3M3	1	※薬学演習 (含薬学研究基礎)	4S1	2						
物理分野 P			病態・薬物治療学 II	3M4	1	病態・薬物治療学 II	3M4	1									
化学分野 C			※生物系実習 IV	3M5	1	※生物系実習 IV	3M5	1									
生物分野 B			物理薬理学	3Y1	1	物理薬理学	3Y1	1									
衛生分野 H			製剤学	3Y2	1	製剤学	3Y2	1									
薬理分野 M			薬物動態理論	3Y3	1	薬物動態理論	3Y3	1									
薬剤分野 Y			臨床薬物動態解析学	3Y4	1	臨床薬物動態解析学	3Y4	1									
実務分野 R			医薬品安全性学	3Y5	1	医薬品安全性学	3Y5	1									
総合分野 S			医療情報学	3Y6	1	医療情報学	3Y6	1									
アドバンスト A			コミュニケーション学	3R1	1	コミュニケーション学	3R1	1									
※は必修科目			医薬品開発・経済学	3R2	1	医薬品開発・経済学	3R2	1									

講義、実習、演習の相関



薬剤師国家試験出題基準

薬剤師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、薬剤師試験委員が試験問題を作成するうえで「妥当な出題範囲」と「ほぼ一定の問題水準」を保つために策定される基準であり、その内容については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね4年を目途に見直しを行い、薬剤師国家試験の改善を図っていくこととされている。

平成22年9月に策定された出題基準は、平成18年度に薬学教育の修業年限が6年間となり、平成23年度に、6年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することを前提としたものである。平成25年12月に薬学教育モデル・コアカリキュラムが6年制課程に特化した内容に改訂され（以下、「改訂モデル・コアカリキュラム」という。）、平成32年度には、改訂モデル・コアカリキュラムの下で6年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することから、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会において出題基準の改定に向けた検討を行った。

本出題基準は、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験制度改善検討部会において、平成28年2月にまとめられた「薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針」に基づき、改訂モデル・コアカリキュラムの内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定したものである。

(1) 試験科目

試験科目は、薬剤師法施行規則の規定により、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」とする。

(2) 出題項目

今回の出題基準見直しの基本的な考え方は、改訂モデル・コアカリキュラムを基本とし、医療や制度の現状を考慮し策定したものである。なお、各科目の出題項目は、現行の出題基準の体系を参考に、必要に応じて項目間の入れ替え等を適切に行った上で、「大項目」、「中項目」、「小項目」及び「小項目の例示」として整理したものであり、必ずしも改訂モデル・コアカリキュラムの記載順等に対応するものではない。また、出題項目は、あくまでも出題に際し、準拠すべき基準であって、出題がすべてこの範囲に拘束されるものではない。

各科目の出題項目は、別表Ⅰ～Ⅶに示すとおりである。

(3) 出題の考え方

① 全般的な出題の考え方

- ・薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能及び態度を評価する問題とする。
- ・高い倫理観、医療人としての教養及び医療現場で通用する実践力を確認することに配慮する。
- ・7科目の内容については、相互に関連していることから、具体的な問題の作成に当たっては、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要である。
- ・資格試験として過度に難解な問題は避ける。
- ・問題の文章構成や条件設定に留意し、解答すべき設問肢の数が1つではない場合には、正解数を明記することを基本とする。
- ・分野ごとに問題の難易度が偏らないことを基本とする。
- ・可能な限り、正しいもの（又は正しいものの組合せ）を問う問題とする。
- ・画像や写真等を利用した問題の出題も検討する。
- ・各種基準等の数値は、記憶することが必須又は極めて有用な数値である場合を除いて、数値そのものを問う出題はしないこととする。
- ・各試験法を問う出題については、保健衛生上の意義が大きく、かつ、当該科目において汎用されているもの、又は原理的に重要なもののみを出題し、その意義、測定原理等、試験又は測定実施のために必要とされる基礎知識を問うこととする。また、専門業務において習得すべき操作等の詳細は

出題しないこととする。

- ・末梢的な事項や、一部の例外的な事項を取り上げるような問題の出題はできるだけ避ける。

② 必須問題及び一般問題における出題の考え方

【必須問題】

- ・必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的な資質を確認するものであることにかんがみ、各科目における基礎的な内容を問うものとする。
- ・五肢択一形式で問うことを基本とする。なお、正しい解答肢の組合せを問う形式や、解答肢の正誤の組合せを問う形式はとらない。

【一般問題】

- ・一般問題は、薬剤師が直面する一般的な課題を解釈・解決するための資質を確認するものであることにかんがみ、一般問題（薬学理論問題）は各科目における技能・態度を含む薬学の理論に基づいた問題となるよう留意する。
- ・一般問題（薬学実践問題）は、医療や公衆衛生等の実務において直面する一般的な課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認するため、症例、事例を挙げる等、実践に則した問題となるよう留意する。

③ 各科目における出題の考え方

【物理・化学・生物】

- ・「物理」は、医薬品を含む化学物質を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な基礎知識及び考え方が身についているかどうかを問うことに重点を置いた問題を中心に出题する。
- ・「化学」は、「医薬品・生体分子の性質を理解すること」を主題とし、有機化合物としての医薬品・生体分子の物性、反応性及び分子レベルでの作用機序等に関する基礎の理解と、基本的な知識を複数組み合わせ合わせた応用力を問う問題を中心に出题する。
- ・「生物」は、生体の構造、機能及び生体成分の代謝等に関する基礎知識を問う問題を中心に出题する。また、感染症の病原体、免疫の仕組み等に関する基礎知識を問う問題を出题する。
- ・物理、化学及び生物それぞれの問題数が偏らないように留意して出题する。
- ・「物理・化学・生物」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出题する。

【衛生】

- ・「衛生」は、薬剤師による健康増進・疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる基礎科学である衛生化学・公衆衛生学、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、疫学及び生態学等の基礎知識について出题する。
- ・衛生関係法規として、食品衛生法、食品表示法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、健康増進法、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、環境基本法その他環境保全に係る法規、及び学校保健安全法については、「衛生」において出题する。
- ・医薬品の体内動態は原則として「薬剤」で出题されるが、薬毒物を含む代表的な有害化学物質の体内動態は「衛生」において出题する。また、栄養化学については、構造等の基本的な知識は原則として「物理・化学・生物」において、その栄養学的内容は「衛生」において出题する。
- ・「衛生」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出题する。

【薬理】

- ・「薬理」は、薬理作用や作用機序に関する基礎知識（総論）及び代表的な治療薬の薬理作用や作用機序（各論）を中心に出題する。
- ・臨床適用時の副作用・相互作用や剤形が問題となる場合を除いて、薬物名は塩等を付さない薬物本体のみを表記することを基本とする。

【薬剤】

- ・「薬剤」は、薬物の体内動態及び製剤に関する基礎知識を問う問題とする。また、これらの問題数が偏らないように留意して出題する。

【病態・薬物治療】

- ・「病態・薬物治療」は、患者の病態生理を理解し、適正かつ安全な薬物治療法の遂行等のために必要な知識を問うこととし、代表的な疾患の病態生理（基本的な臨床検査も含む）、適切な治療薬の選択と使用上の注意、薬物治療に役立つ情報（医薬品情報、患者情報、個別化医療）及び臨床研究デザインや生物統計について出題する。
- ・治療薬の薬理作用や作用機序に関しては「薬理」において出題することを基本とする。

【法規・制度・倫理】

- ・「法規・制度・倫理」は、薬剤師としての業務を遂行するために必要な法的知識及びこれらの関連する各種の制度並びに医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範的知識や態度について問う問題を出題する。
- ・法律等に照らして薬剤師の行動等の適正性を問うような問題も出題する。
- ・法規制の原則又は例外に焦点を当てた問題を出題する場合には、場面設定を行う等、原則を問う問題か、例外を問う問題かが明確になるよう配慮する。
- ・法令、制度の新設や改正内容に関する設問は、当該法令等の改正内容が周知されるまでの間は、原則として出題しないものとする。
- ・法律のうち、衛生科目で出題される法規は原則として出題しないものとする。

【実務】

- ・「実務」は、医療や公衆衛生等に携わる薬剤師の業務に関する基礎的及び実践的な知識、技能及び態度を問う問題を出題する。
- ・「実務」は、薬剤師が、医薬品を一商品としてではなく、生命と関連性が高いものであることを常に意識し、患者を支援し、副作用の早期発見・発生防止に努めることを含め、医薬品の安全性と有効性の確保のために薬の専門家として業務に携わるべきことを理解しているかを問うこととする。
- ・患者の希望に沿った医療に貢献できるよう人間関係の必要性を理解し、薬物の適正使用のための情報提供ができるか等を問う問題を出題することとする。
- ・実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題も出題する。
- ・「実務」は、他科目すべてと関連することから、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要となる。

(4) 適用時期と次回改定

本出題基準については、第106回薬剤師国家試験（平成32年度実施）から適用する。また、出題基準については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね4年を目途に改定する。

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

【別表Ⅰ 物理・化学・生物】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示		
物質の物理的性質	物質の構造	化学結合 ヒトの体及び薬物の基本的性質・特性を理解するために必要な基礎知識を問う	化学結合の様式について説明できる。 分子軌道の基本概念及び軌道の混成について説明できる。 共役や共鳴の概念を説明できる。		
		分子間相互作用 生命現象や薬物の薬効発現を理解するために必要な基礎知識を問う	ファンデルワールス力の概要を説明できる。 静電相互作用について例を挙げて説明できる。 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。 分散力について例を挙げて説明できる。 水素結合について例を挙げて説明できる。 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		
		原子・分子の挙動 臨床で用いられる分析法を理解するために必要な基礎知識を問う	電磁波の性質及び物質との相互作用を説明できる。 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。 光の屈折、偏光及び旋光性について説明できる。 光の散乱及び干渉について説明できる。 結晶構造と回折現象の概要を説明できる。		
		放射線と放射能 臨床で用いられる放射性物質の基本的性質を理解し、安全な取扱いに必要な基礎知識を問う	原子の構造と放射線変について説明できる。 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質及び物質との相互作用について説明できる。 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。 核反応及び放射平衡について説明できる。 放射線測定の方法と利用について概要を説明できる。		
		物質のエネルギーと平衡	ファンデルワールスの状態方程式について概要を説明できる。 気体の分子運動とエネルギーの関係について概要を説明できる。 エネルギーの量子化とボルツマン分布について概要を説明できる。		
	物質のエネルギーと平衡	エネルギー 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的基礎知識を問う	熱力学における系、外界、境界について説明できる。 熱力学第一法則を説明できる。 状態関数と経路関数の違いを説明できる。 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。 定容熱容量及び定圧熱容量について説明できる。 エンタルピーについて説明できる。 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。		
		自発的な変化 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的基礎知識を問う	エントロピーについて説明できる。 熱力学第二法則について説明できる。 熱力学第三法則について説明できる。 ギブズエネルギーについて説明できる。 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		
		化学平衡の原理 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的基礎知識を問う	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。 ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。 平衡定数に及ぼす圧力及び温度の影響について説明できる。 共役反応の原理について説明できる。		
		相平衡 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる相平衡に関する基礎知識を問う	相変化に伴う熱の移動について説明できる。 相平衡と相律について説明できる。 状態図について説明できる。		
		溶液の性質 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる溶液の性質に関する基礎知識を問う	希薄溶液の束一的性質について説明できる。 活量と活量係数について説明できる。 電解質溶液の電気伝導率及びモル伝導率の濃度による変化を説明できる。 イオン強度について説明できる。		
		電気化学 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる電気化学に関する基礎知識を問う	起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。		
		物質の変化	反応速度 医薬品を含む化学物質の変換過程を理解するために必要な基礎知識を問う	反応次数と速度定数について説明できる。 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。 代表的な（擬）一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応等）の特徴について説明できる。 反応速度と温度との関係を説明できる。 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応等）について説明できる。	
			化学物質の分析	分析の基礎	分析に用いる器具の正しい使用法を説明できる。 測定値を適切に取り扱うことができる。 分析法のバリデーションについて説明できる。
				溶液中の化学平衡	酸・塩基平衡 酸・塩基平衡の概念について説明できる。 pH及び解離定数について説明できる。 溶液のpHの測定法を説明できる。 緩衝作用や緩衝液について説明できる。
				各種の化学平衡	錯体・キレート生成平衡について説明できる。 沈殿平衡について説明できる。 酸化還元平衡について説明できる。 分配平衡について説明できる。
化学物質の定性分析・定量分析	定性分析 医薬品を含む化学物質の定性分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う			代表的な無機イオンの定性反応の概要を説明できる。 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容の概要を説明できる。	
定量分析（容量分析・重量分析） 医薬品を含む化学物質の定量分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う	中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法及び応用例を説明できる。 キレート滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。 沈殿滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。				

		酸化還元滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析の内容を説明できる。 日本薬局方記載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。 日本薬局方記載の重量分析法の原理及び操作法を説明できる。 紫外可視吸光度測定法の原理及び応用例を説明できる。 蛍光光度法の原理及び応用例を説明できる。 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理及び応用例を説明できる。 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法及びICP質量分析法の原理及び応用例を説明できる。 旋光度測定法 (旋光分散) の原理及び応用例を説明できる。 分光分析法を用いた日本薬局方記載の代表的な医薬品の分析方法を説明できる。
機器を用いる分析法	分光分析法 医薬品を含む化学物質の分光分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法 医薬品を含む化学物質の核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う
	質量分析法 医薬品を含む化学物質の質量分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	X線分析法 医薬品を含む化学物質のX線分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う
	熱分析 医薬品を含む化学物質の熱分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	分層分析法 クロマトグラフィーによる分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う
	電気泳動法 医薬品を含む化学物質の電気泳動による分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	分析の準備 基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術の正しい実施に必要な適切な準備を選択するための基礎知識を問う
	分析技術 基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	
化学物質の性質と反応	化学物質の基本的性質 基本事項 医薬品等の基本的性質を理解するために必要な基礎知識を問う	有機化合物の立体構造 医薬品等の立体構造を理解するために必要な基礎知識を問う
	有機化合物の基本骨格の構造と反応 アルカン 医薬品等の基本骨格であるアルカンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う	アルケン・アルキン 医薬品等の基本骨格であるアルケン、アルキンの反応性を理解するために必要な基礎知識を問う
	芳香族化合物 医薬品等の基本骨格である芳香族化合物の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	
	官能基の性質と反応 概説 医薬品等に含まれる代表的官能基の性質を理解するために必要な基礎知識を問う	有機ハロゲン化合物 医薬品等に含まれるハロゲンの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う
	アルコール・フェノール・エーテル 医薬品等に含まれるアルコール・フェノール、エーテルの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体 医薬品等に含まれるアルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う
	アミン 医薬品等に含まれるアミンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う	

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

	電子効果 医薬品等に含まれる代表的官能基の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	官能基が及ぼす電子効果について説明できる。
	酸性度・塩基性度 医薬品等の性質・反応性を理解するために必要な官能基の酸性度・塩基性度に関する基礎知識を問う	アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸等の酸性度を比較して説明できる。 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。
化学物質の構造決定	核磁気共鳴 (NMR) 医薬品等の構造を確認するために必要な核磁気共鳴に関する基礎知識を問う	1 13 H及びC NMRスペクトルより得られる情報を説明できる。 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。 1 H NMRの積分値の意味を説明できる。 1 H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。 医薬品等の ¹ H NMRを解析できる。
	赤外吸収 (IR) 医薬品等の官能基を確認するために必要な赤外吸収に関する基礎知識を問う	IRスペクトルより得られる情報を説明できる。 IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。
	質量分析 医薬品等の構造を確認するために必要な質量分析に関する基礎知識を問う	マススペクトルより得られる情報を説明できる。 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。 ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。
	無機化合物・錯体の構造と性質 医薬品と生体内物質に含まれる無機化合物・錯体の性質を理解するために必要な基礎知識を問う	無機化合物・錯体 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。 医薬品として用いられる代表的な無機化合物及び錯体を列挙できる。
生体分子・医薬品の化学による理解	医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質 医薬品が相互作用する生体分子の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品の標的となる生体高分子の化学構造 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチド等)の構造に基づく化学的性質を説明できる。 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸等)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。
	生体内で機能する小分子 医薬品の機能と関連する生体内小分子の構造と性質を理解するために必要な基礎知識を問う	細胞膜受容体及び細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について説明できる。 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。 生体内に存在する代表的な金属イオン及び錯体の機能を化学的に説明できる。
	生体反応の化学による理解 生体内で機能するリン、硫黄化合物 生体内物質・医薬品の部分構造であるリン、硫黄化合物の性質と機能を理解するために必要な基礎知識を問う	リン化合物(リン酸誘導体等)及び硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステル等)の構造と化学的性質を説明できる。 リン化合物(リン酸誘導体等)及び硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステル等)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。 基質アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。 遷移状態アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。
	酵素阻害薬と作用様式 酵素阻害薬の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	基質アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。 遷移状態アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。
	受容体のアゴニスト及びアンタゴニスト 受容体に作用する医薬品の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。
	生体内で起こる有機反応 生体内物質、医薬品等の代謝反応を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロール等)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化等)を有機化学の観点から説明できる。
医薬品の化学構造と性質、作用	医薬品と生体分子の相互作用 医薬品と生体分子の相互作用に影響を及ぼす因子を理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点(電子効果、立体効果等)から説明できる。
	医薬品の化学構造に基づく性質 医薬品の物性、動態に影響を及ぼす化学構造を理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性等)を説明できる。 プロドラッグ等の薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。
	医薬品のコンポーネント 医薬品の薬効に関わる部分構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な医薬品のファーマコフォアについて説明できる。 バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて説明できる。 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。
	酵素に作用する医薬品の構造と性質 酵素を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的理解に必要な基礎知識を問う	スクレオンド及び核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造等をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 酵素に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
	受容体に作用する医薬品の構造と性質 受容体を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的理解に必要な基礎知識を問う	カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 ベンゾジアゼピン骨格及びバルピタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。 受容体に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
	DNAに作用する医薬品の構造と性質 DNAを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。 DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。 DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。
	イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質 イオンチャネルを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジン等)の特徴と作用等を説明できる。
自然が生み出す薬物	薬になる動植物 薬用植物 薬用植物に関して薬剤師に必要な基礎知識を問う	代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効等を挙げるができる。 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。 植物の主な内部形態について説明できる。 法律によって取扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。
	生薬の基原・用途 代表的な生薬に関して必要な基礎知識を問う	代表的な生薬(植物、動物、菌類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。
	生薬の副作用 生薬によって引き起こされる副作用のうち重要なものを問う	代表的な生薬(植物、動物、菌類、菌類由来)の薬効、成分、用途等を説明できる。 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。

	<p>生薬の同定と品質評価 代表的な生薬の品質を担保するために薬師に必要な基礎知識を問う</p>	<p>生薬の同定と品質評価法について説明できる。 日本薬局方の生薬総則及び生薬試験法について説明できる。 代表的な生薬を鑑別できる。 代表的な生薬の確認試験を説明できる。 代表的な生薬の純度試験を説明できる。</p>
	<p>薬の宝庫としての天然物 品質や薬理作用に関連する生薬の成分について基礎知識を問う</p>	<p>生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造と生合成経路に基づいて分類できる。 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</p>
	<p>微生物由来の生物活性物質の構造と作用 微生物由来の代表的医薬品の化学構造と薬理作用に関する基礎知識を問う</p>	<p>微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。</p>
	<p>天然生物活性物質の利用 医薬品として使用されている天然物又はその誘導体を理解するために必要な基礎知識を問う</p>	<p>医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 農業等で使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。</p>
生命現象の基礎	<p>細胞の構造と機能 生命体の最小単位である細胞の構造と機能を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>細胞膜を構成する代表的な生体成分（膜脂質、膜タンパク質等）を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。 エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム等）やリボソームの構造と機能を説明できる。 細胞骨格（微小管、中間径フィラメント、マイクロフィラメント）の構造と機能を説明できる。</p>
	<p>生命現象を担う分子 生命現象を担う主要構成分子の種類、構造、性質、役割を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>生体の主要構成分子 代表的な脂質の種類（リン脂質、糖脂質、コレステロール、脂肪酸、中性脂肪等）の種類、構造、性質、役割を説明できる。 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。 ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、核酸の定性又は定量試験の原理と方法を説明できる。</p>
	<p>生体に必須な微量成分 生命現象を担う必須微量成分に関する基礎知識を問う</p>	<p>ビタミン（補酵素型を含む）の種類、構造、性質、役割を説明できる。 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。</p>
	<p>生命活動を担うタンパク質 種々のタンパク質の機能、成熟・分解を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>タンパク質の基本 多彩な機能を持つタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）のそれぞれの役割を説明できる。 タンパク質の翻訳後の成熟過程（フォールディング、細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。 タンパク質の細胞内での分解（リソソーム、プロテアソーム、オートファジー）について説明できる。 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。 血漿リポタンパク質（キロミクロン、VLDL、LDL、HDL）の構造、機能を説明できる。</p>
	<p>酵素 酵素の機能と調節を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>酵素反応の特性と反応速度論、代表的な可逆的阻害を説明できる。 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 代表的な酵素活性調節機構（アロステリック調節、化学修飾、チモーゲン等）を説明できる。</p>
	<p>生命情報を担う遺伝子 遺伝情報を担う核酸の機能を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメア等）を説明できる。 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロン等）を説明できる。 RNAの種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA、miRNA等）と機能について説明できる。</p>
	<p>複製 DNA複製の過程と調節を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>DNA複製の過程について説明できる。 テロメラーゼの機能について説明できる。 DNA変異に対する代表的な修復について説明できる。</p>
	<p>転写・翻訳 遺伝子発現の過程と調節を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。 エピジェネティックな転写制御について説明できる。 転写因子による転写制御について説明できる。 RNAのプロセッシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖等）について説明できる。 RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。</p>
	<p>組換えDNA 遺伝子組換え技術の基本原理解するするための基礎知識を問う</p>	<p>遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法等）を説明できる。 遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について説明できる。</p>
	<p>生体エネルギーと生命活動を支える代謝系 糖からのエネルギー産生機構を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>ATPの産生と糖質代謝 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。 クエン酸回路（TCAサイクル）について説明できる。 電子伝達系（酸化リン酸化）とATP合成について説明できる。 グリコーゲンの代謝について説明できる。 糖新生について説明できる。</p>
	<p>脂質代謝 脂質の代謝を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。 コレステロールの生合成と代謝について説明できる。</p>
	<p>筋肉状態と飽食状態 エネルギー状態による代謝調節を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>筋肉状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用等）について説明できる。 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。</p>
	<p>その他の代謝系 主要生体構成成分の代謝を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>アミノ酸分子中の炭素及び窒素の代謝（尿素回路等）について説明できる。 ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。 ペントースリン酸回路について説明できる。</p>
	<p>細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達 細胞内情報伝達の過程と調節を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式（内分泌、パラクリン、オートクリン、接触型）を説明できる。 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。 細胞膜受容体からGタンパク質（Gs、Gi、Gq）を介する細胞内情報伝達について説明できる。 細胞膜受容体タンパク質等のリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャー（cAMP、cGMP、DG、IP₃、Ca²⁺、PIP₃）について説明できる。 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。</p>
	<p>細胞間コミュニケーション 細胞間の接着に関する基本的理解を問う</p>	<p>細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。 主な細胞外マトリックス分子の特徴を説明できる。</p>

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

	細胞の分裂と死	細胞増殖の基本 細胞の増殖とその調節を理解するための基礎知識を問う	細胞周期とその制御機構について説明できる。 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。 幹細胞、胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）について説明できる。 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。 がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。
人体の成り立ちと生体機能の調節	人体の成り立ち	遺伝と発生 遺伝と発生を理解するための基礎知識を問う	遺伝のしくみについて説明できる。 遺伝子多型（一塩基多型を含む）について説明できる。 代表的な遺伝疾患を列挙できる。 個体発生について説明できる。 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について説明できる。
	器官系概論	人体に関する基本的理解を問う	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置及び機能を説明できる。 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系等）と形態的及び機能的特徴を説明できる。
	各器官の構造と機能	各器官に関する基本的理解を問う	中枢神経系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 末梢（体性・自律）神経系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 骨、筋肉（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 代表的な骨格筋及び関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 筋収縮の調節機構について説明できる。 皮膚（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 心臓（組織の構造と機能）について説明できる。 血管系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 リンパ管系（組織の構造と機能）について説明できる。 肺、気管支（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 胃、小腸、大腸等の消化管（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 肝臓、膵臓、胆嚢（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 泌尿器系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 生殖系（組織の構造と機能）について説明できる。 内分泌系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。 感覚器系（組織の構造と機能）について説明できる。 血液・造血器系（血液細胞の種類と機能）について説明できる。
生体機能の調節	神経による調節機構	神経細胞と神経伝達を理解するための基礎知識を問う	神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。 代表的な神経伝達物質（アセチルコリン、カテコールアミン、GABA等）を挙げ、生理活性及び作用機構について説明できる。 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙できる。 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。
	生理活性物質による調節機構	生理活性物質とその生理作用を理解するための基礎知識を問う	代表的なホルモンの産生器官、生理活性及び作用機構について説明できる。 代表的なオータロイドの生理活性及び作用機構について説明できる。 代表的なサイトカイン、増殖因子の生理活性及び作用機構について説明できる。
	恒常性の調節機構	恒常性の調節機構を理解するための基礎知識を問う	血圧の調節機構について説明できる。 血糖の調節機構について説明できる。 体液の調節機構について説明できる。 尿の生成機構、尿量の調節機構について説明できる。 体温の調節機構について説明できる。 血液凝固・線溶系の機構について説明できる。 性周期の調節機構について説明できる。
生体防御と微生物	身体をまもる	生体防御反応	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー及び補体の役割について説明できる。 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。 自然免疫と獲得免疫及び両者の関係を説明できる。 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
		免疫を担当する組織・細胞	免疫に関与する組織（脾臓、胸腺、リンパ節、パイエル板）を列挙し、その役割を説明できる。 免疫担当細胞（Th1、Th2、キラーT、B、NK、樹状細胞、マクロファージ等）の種類と役割を説明できる。 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。
		分子レベルで見た免疫のしくみ	自然免疫及び獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。 MHC抗原の構造と機能及び抗原提示での役割について説明できる。 T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。 免疫系に関わる主なサイトカイン（TNF- α 、IL-1、IL-2、IL-4、IL-5、IL-6、IL-10、IL-12、IFN- α 、IFN- β 、IFN- γ 等）の作用を説明できる。
免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	免疫応答の制御と破綻	炎症の一般的症状、担当細胞及び反応機構について説明できる。 アレルギーを4種類に分類し、担当細胞及び反応機構について説明できる。 自己免疫疾患について説明できる。 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制薬等）について説明できる。 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。 腫瘍排除に関する免疫反応について説明できる。	
	免疫反応の利用	ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン等）について説明できる。 モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の違いと作製方法について説明できる。 血清療法と抗体医薬の基礎について説明できる。 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA、ウェスタンブロット法等）について説明できる。	
微生物の基本	細菌	微生物を理解するための基礎知識を問う	原核生物、真核生物、ウイルスの特徴を説明できる。 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌等）を説明できる。 細菌の構造と増殖機構について説明できる。 細菌の異化作用（呼吸と発酵）及び同化作用について説明できる。 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。 薬剤耐性菌及び薬剤耐性化機構について説明できる。 代表的な細菌毒素について説明できる。

			グラム染色について説明できる。
		ウイルス ウイルスを理解するための基礎知識を問う	ウイルスの構造、分類及び代表的なウイルスの増殖機構について説明できる。
		真菌・原虫・蠕虫 真菌・原虫・蠕虫に関する基礎知識を問う	真菌の特徴を説明できる。 原虫及び蠕虫の特徴を説明できる。
		消毒と滅菌 消毒と滅菌に関する基礎知識を問う	滅菌、消毒及び殺菌、消毒の概念を説明できる。 主な滅菌法及び消毒法について説明できる。
病原体としての微生物	感染の成立と共生 感染に関する基礎知識を問う	感染の成立と共生	感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸等）と共生（腸内細菌等）について説明できる。
		代表的な病原体	日和見感染と院内感染について説明できる。 DNAウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルス等）の特徴を説明できる。 RNAウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV等）の特徴を説明できる。 グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌等）及びグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌等）の特徴を説明できる。 グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌等）及びグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルシニア菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピロリ菌、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌等）の特徴を説明できる。 グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ等）及びスピロヘータの特徴を説明できる。 抗酸菌（結核菌、らい菌等）の特徴を説明できる。 マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴を説明できる。 真菌（アスペルギルス、カンジダ、ムーコル、白黴菌等）の特徴を説明できる。 原虫（マラリア原虫、腫トリコモナス、クリプトスポリジウム等）、蠕虫（アニサキス、エキノコックス等）の特徴を説明できる。

【別表Ⅱ 衛生】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示	
健康	社会・集団と健康	健康と疾病の概念	健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	
		保健統計	集団の健康と疾病の現状及びその影響要因を把握する上での人口統計の意義を説明できる。 人口統計及び傷病統計に関する指標について説明できる。 人口動態（死因別死亡率等）の変遷について説明できる。	
		疫学	疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。 疫学の種類（記述疫学、分析疫学等）とその方法について説明できる。 リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度及び信頼区間について説明できる。	
		疾病の予防	疾病の予防とは	疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 健康増進政策（健康日本21等）について説明できる。
		感染症とその予防	現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症等）の特徴について説明できる。 感染症法における感染症とその分類について説明できる。 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 予防接種の意義と方法について説明できる。	
	疾病の予防	生活習慣病とその予防	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 食生活や喫煙等の生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	
		母子保健	新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	
		労働衛生	代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。 労働衛生管理について説明できる。	
		栄養と健康	栄養	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを説明できる。 食品中の三大栄養素の栄養的価値を説明できる。 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質等）の機能について説明できる。 エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 日本人の食事摂取基準について説明できる。 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。
			食品機能と食品衛生	炭水化物、タンパク質が変質する機構について説明できる。 油脂が変質する機構及び油脂の変質試験について説明できる。 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。 食品衛生に関する法的規制について説明できる。
	食中毒と食品汚染		代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品及び予防方法について説明できる。 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。 化学物質（重金属、残留農薬等）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	
	環境		化学物質・放射線の生体への影響	代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 肝臓、腎臓、神経等に特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。 重金属、PCB、ダイオキシン等の代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防衛因子について具体例を挙げて説明できる。 薬物の乱用による健康への影響について説明できる。 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、説明できる。

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

	<p>化学物質の安全性評価と適正使用</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学物質の安全性を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>個々の化学物質の使用目的にかんがみ、適正使用とリスクコミュニケーションの重要性について説明できる。</p> <p>化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、説明できる。</p> <p>毒性試験の結果を評価するために必要な量一反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) 等について説明できる。</p> <p>化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量等) について説明できる。</p> <p>有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法等) を説明できる。</p>
	<p>化学物質による発がん</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学発がんを理解するための基礎知識を問う</p>	<p>発がん性物質等の代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。</p> <p>遺伝毒性試験 (Ames試験等) の原理を説明できる。</p> <p>発がんに至る過程 (イニシエーション、プロモーション等) について説明できる。</p>
	<p>放射線の生体への影響</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる放射線生体影響を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。</p> <p>代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。</p> <p>電離放射線を防御する方法について説明できる。</p> <p>非電離放射線 (紫外線、赤外線等) を列挙し、生体への影響を説明できる。</p>
生活環境と健康	<p>地球環境と生態系</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる地球環境・生態系及びそれらの保全を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。</p> <p>生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。</p> <p>化学物質の環境内動態 (生物濃縮等) について例を挙げて説明できる。</p> <p>地球環境の保全に関する国際的な取組について説明できる。</p> <p>人が生態系の一員であることを踏まえて環境問題を説明できる。</p>
	<p>環境保全と法的規制</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる公害・環境汚染及びそれらを防止する法的規制を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>環境基本法の理念を説明できる。</p> <p>環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等) を防止するための法規制について説明できる。</p>
	<p>水環境</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる水環境や水質汚濁及び水の浄化法を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>尿水の種類を挙げ、特徴を説明できる。</p> <p>水の浄化法、塩素処理について説明できる。</p> <p>水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定法について説明できる。</p> <p>下水処理及び排水処理の主な方法について説明できる。</p> <p>水質汚濁の主な指標を列挙し、測定法について説明できる。</p> <p>富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。</p> <p>主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。</p>
	<p>大気環境</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる大気環境や大気汚染を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>主な大気汚染物質の測定法について説明できる。</p> <p>大気汚染に影響する気象要因 (逆転層等) を説明できる。</p>
	<p>室内環境</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる室内環境の保全及びその評価指標を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定法について説明できる。</p> <p>室内環境と健康との関係について説明できる。</p>
	<p>廃棄物</p> <p>薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる廃棄物及びその取り扱い法を理解するための基礎知識を問う</p>	<p>廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。</p> <p>廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。</p> <p>マニフェスト制度について説明できる。</p>

【別表Ⅲ 薬理】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示	
薬の作用と体の変化	薬の作用機序	用量と作用	薬の用量と作用の関係を説明できる。	
		薬物の標的分子	薬物が作用する仕組みについて、代表的な受容体、酵素、イオンチャネル及びトランスポーターを例に挙げて説明できる。	
		受容体	アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。	
		受容体と情報伝達系	代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。	
		薬効に影響を及ぼす要因	薬物の選択 (禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。	
		薬物相互作用	薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。	
		薬理学実験	薬効や副作用に関する薬理実験の代表的な研究方法とデータの解析について説明できる。	
		医薬品の安全性	薬物依存性・耐性	薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。
		副作用と毒性	薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	
		副作用と有害事象	薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	
薬の働き方	神経系に作用する薬	自律神経系に作用する薬	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	
		交感神経系に作用する薬	副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	
		体性神経系に作用する薬・運動神経系及び骨格筋に作用する薬	神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	
		知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬等) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		
		運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		
		全身麻酔薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
		麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
		睡眠障害治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
		統合失調症治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
		うつ病・双極性障害治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
	神経症治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	てんかん治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	パーキンソン病治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	認知症治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	脳内出血・脳梗塞等に関連する治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	片頭痛治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	中枢興奮薬、その他の中枢神経系に作用する薬物の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
	免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節に作用する薬	抗炎症薬 (ステロイド性及び非ステロイド性) 及び解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
	免疫・アレルギーに作用する薬	アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。		
	免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			
関節リウマチ治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。				
骨・カルシウム代謝に作用する薬	骨粗しょう症治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。			

循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する薬	循環器系に作用する薬	カルシウム代謝異常に関連する治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 不整脈治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 心不全治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 虚血性心疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 高血圧症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 低血圧治療薬・末梢血管拡張薬等の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	血液・造血器系に作用する薬	止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 抗血栓薬、抗凝固薬及び血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 貧血治療薬・白血球減少症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	泌尿器系・生殖器系に作用する薬	利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 排尿障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 妊娠・分娩・避妊に関連する薬物の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
呼吸器系・消化器系に作用する薬	呼吸器系に作用する薬	気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	消化器系に作用する薬	胃・十二指腸潰瘍治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 その他の消化性疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 嘔吐薬・催吐薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 肝疾患・膵臓疾患・胆道疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	代謝系・内分泌系に作用する薬	糖尿病治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 脂質異常症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 高尿酸血症・痛風治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
感覚器系・皮膚に作用する薬	代謝系に作用する薬	副腎皮質ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 甲状腺ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 その他のホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	内分泌系に作用する薬	副腎皮質ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 甲状腺ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 その他のホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	皮膚に作用する薬	緑内障治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 その他の眼疾患（白内障・加齢性黄斑変性等）の治療薬、散瞳薬・縮瞳薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 めまい（動揺病、メニエール病等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 褥瘡・皮膚潰瘍治療薬、その他の皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、尋常性痤瘡等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）に作用する薬	抗菌薬	抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用）を説明できる。
	抗真菌薬	抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	抗ウイルス薬	ウイルス感染症（ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザ、ウイルス性肝炎、HIV）治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	原虫・寄生虫感染症治療薬	原虫感染症・寄生虫感染症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
薬物の基本構造と薬効	抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	化学構造と薬効の関連性	代表的な薬物の基本構造と薬効の関連性を説明できる。

【別表Ⅳ 薬剤】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示	
薬の生体内運命	薬物の体内動態	生体膜透過	薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散及び能動輸送の特徴を説明できる。 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。	
		吸収	経口投与された薬物の吸収について説明できる。 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因等）を列挙し、説明できる。 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げて説明できる。 初回通過効果について説明できる。	
		分布	薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合並びに組織結合との関係を定量的に説明できる。 薬物のタンパク結合及び結合阻害の測定・解析方法を説明できる。 血液－組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。 薬物のリンパ及び乳汁中への移行について説明できる。 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げて説明できる。	
		代謝	代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織並びに細胞内小器官、反応様式について説明できる。 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。 プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。 薬物代謝酵素の阻害及び誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げて説明できる。	
		排泄	薬物の尿中排泄機構について説明できる。 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げて説明できる。	
		薬物動態の解析	薬物速度論	線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能等）を説明できる。 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回及び反復投与〕、定速静注）。
				体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。
				モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。
				組織クリアランス（肝、腎）及び固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。
		TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計	TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計	薬物動態学－薬力学解析 (PK-PD解析) について説明できる。
治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。 TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。 ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について説明できる。				

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

製剤化のサイエンス	製剤の性質	固形材料	<p>粉体の性質について説明できる。</p> <p>結晶（安定形及び準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。</p> <p>固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡等）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。</p> <p>固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度等）について説明できる。</p> <p>固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。</p>
		半固形・液状材料	<p>流動と変形（レオロジー）について説明できる。</p> <p>高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度等）について説明できる。</p>
		分散系材料	<p>界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着等）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。</p> <p>代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤等）を列挙し、その性質について説明できる。</p> <p>分散した粒子の安定性と分離現象（沈降等）について説明できる。</p> <p>分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。</p>
		薬物及び製剤材料の物性	<p>製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。</p> <p>薬物の安定性（反応速度、複合反応等）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度等）について説明できる。</p> <p>薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。</p>
		製剤設計	<p>代表的な製剤（日本薬局方準拠）</p> <p>製剤化の概要と意義について説明できる。</p> <p>経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。</p> <p>粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤等）の種類とその特性について説明できる。</p> <p>注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。</p> <p>皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。</p> <p>その他の製剤（生薬関連製剤、透折に用いる製剤等）の種類と特性について説明できる。</p>
	DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)	DDSの必要性	<p>DDSの概念と有用性について説明できる。</p> <p>代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。</p>
		コントロールドリリース（放出制御）	<p>コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。</p> <p>投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。</p> <p>コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。</p>
		ターゲティング（標的指向化）	<p>ターゲティングの概要と意義について説明できる。</p> <p>投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。</p> <p>ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。</p>
		吸収改善	<p>吸収改善の概要と意義について説明できる。</p> <p>投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。</p> <p>吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。</p>
		製剤化と製剤試験法	<p>代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。</p> <p>製剤化の単位操作、汎用される製剤機械及び代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。</p> <p>汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。</p> <p>製剤に関連する試験法（日本薬局方準拠）を列挙し、説明できる。</p>
	生物学的同等性	<p>製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性等）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。</p>	

【別表Ⅴ 病態・薬物治療】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬の作用と体の変化	身体の病的变化を知る	症候	<p>以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。</p> <p>ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳・痰、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血、下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害</p>
		病態・臨床検査	<p>尿検査及び糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>血液検査、血液凝固機能検査及び脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査及び画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p>
	薬物治療の位置づけ	薬物治療の位置づけ	<p>代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法等）の位置づけを説明できる。</p>
	医薬品の安全性	医薬品の安全性	<p>以下の障害を呈する代表的な副作用について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見及び対処方法の概要を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害</p>
病態・薬物治療	神経系の疾患	体性神経系・筋の疾患の病態、薬物治療	<p>以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。</p> <p>進行性筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症</p>
		中枢神経系の疾患の病態、薬物治療	<p>統合失調症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>神経症、不眠症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>てんかんについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>パーキンソン病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>認知症（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>片頭痛について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。</p> <p>脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、ナルコレプシー、薬物依存症、アルコール依存症</p>
		免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節の疾患	炎症
		免疫・炎症・アレルギー疾患の病態、薬物治療	<p>アナフィラキシーショックについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>関節リウマチについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>以下の全身性自己免疫疾患について、病態と治療の概要を説明できる。</p> <p>全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、ベーチェット病</p>

		臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応及び移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
	骨・関節疾患の病態、薬物治療	骨粗しょう症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の骨・関節疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 変形性関節症、骨軟化症（くる病を含む）
循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患	循環器系疾患の病態、薬物治療	不整脈について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性及び慢性心不全について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 高血圧症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の循環器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、感染性心内膜炎
	血液・造血器系疾患の病態、薬物治療	以下の貧血について、病態と治療の概要を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の血液系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、特発性血小板減少性紫斑病（ITP）、白血球減少症、血栓塞栓症
	泌尿器系・生殖器系疾患の病態、薬物治療	急性及び慢性腎不全、慢性腎臓病（CKD）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ネフローゼ症候群について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 過活動膀胱及び低活動膀胱について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の泌尿器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症、尿路感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎）、尿路結石 前立腺肥大症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の生殖器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 子宮内膜症、子宮筋腫 以下の妊娠・分娩に関連する疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症、性機能不全
呼吸器系・消化器系の疾患	呼吸器系疾患の病態、薬物治療	気管支喘息について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性閉塞性肺疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 間質性肺炎（肺線維症を含む）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の呼吸器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群を含む）、気管支炎、肺炎、インフルエンザ、肺結核、胸膜炎
	消化器系疾患の病態、薬物治療	以下の上部消化器疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 膵炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 機能的消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の消化器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 慢性便秘、感染性腸炎、急性虫垂炎、腹膜炎
代謝系・内分泌系の疾患	代謝系疾患の病態、薬物治療	糖尿病とその合併症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脂質異常症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 高尿酸血症、痛風について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 低血糖症について、病態と治療の概要を説明できる。
	内分泌系疾患の病態、薬物治療	パセドウ病、慢性甲状腺炎（橋本病）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 クッシング症候群について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の内分泌系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、副甲状腺機能亢進症・低下症、粘液水腫、アジソン病、アルドステロン症、尿崩症、褐色細胞腫
感覚器・皮膚の疾患	眼疾患の病態、薬物治療	緑内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 白内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 加齢性黄斑変性について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の眼疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 角膜炎、結膜炎、網膜症、網膜色素変性症
	耳鼻咽喉疾患の病態、薬物治療	めまい（動揺病、メニエール病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の耳鼻咽喉疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎、口内炎・咽頭炎・扁桃炎
	皮膚疾患の病態、薬物治療	アトピー性皮膚炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 白癬について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の皮膚疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 蕁麻疹、接触性皮膚炎、薬疹（ステイブンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症を含む）、尋常性乾癬、光線過敏症、褥瘡、尋常性痤瘡
感染症・悪性新生物（がん）	細菌感染症の病態、薬物治療	以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、百日咳、マイコプラズマ肺炎 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、偽膜性大腸炎、腹膜炎 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

		以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症 髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 伝染性膿痂疹、蜂窩織炎 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 MRSA、緑膿菌等 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 破傷風、敗血症
	ウイルス感染症の病態、薬物治療	ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹、脳炎）について、予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 サイトメガロウイルス感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 インフルエンザについて、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下のウイルス感染症について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 伝染性単核球症、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、上気道炎（かぜ症候群を含む）、気管支炎
	真菌感染症の病態、薬物治療	以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 白癬、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症
	原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療	以下の原虫・寄生虫感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 マラリア、トリコモナス症、アニサキス症
	悪性腫瘍	腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。 悪性腫瘍について、以下の項目の概要を説明できる。 組織型分類及び病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状及びがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスク及び予防要因 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概要を説明できる。
	悪性腫瘍の病態、疾患	抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）とその軽減のための対処法を説明できる。 代表的ながん化学療法レジメンについて、構成薬物及びその役割、副作用、対象疾患の概要を説明できる。 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病 悪性リンパ腫及び多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 大腸癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、胆嚢・胆管癌、膵癌 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の頭頸部の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 脳腫瘍、喉頭・咽頭の悪性腫瘍 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 以下の泌尿器・生殖器・皮膚の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 腎癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮癌、卵巣癌、悪性黒色腫
	がん終末期医療と緩和ケア	がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。 がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択、WHO三段階階梯ラダーを含む）を説明できる。
	医療の中の漢方薬	漢方薬の基礎 漢方薬の応用 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。
	バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	組換え体医薬品 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。 組換え体医薬品の安全性について説明できる。 遺伝子治療 遺伝子治療の原理、現状及び倫理的問題点を説明できる。 細胞、組織を利用した移植医療 移植医療の現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点を説明できる。 臍帯血、末梢血及び骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について説明できる。
	薬物治療に役立つ情報	医薬品情報 情報 薬物治療に必須の医薬品情報を列挙できる。 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験）の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。 医薬品の市販後に行われる調査・試験の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。 情報源 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類法の概要と代表的な二次資料、三次資料の特徴を説明できる。 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業等の発行する資料を列挙し、概要を説明できる。 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけ及び各項目の記載内容・記載方法について説明できる。 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。 収集・評価・加工・提供・管理 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒等）に適した主な情報源を列挙できる。 MEDLINE等の医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索法を説明できる。 各種の医薬品情報（臨床試験等の原著論文を含む）の信頼性、科学的妥当性等を評価する際に必要な基本的項目を説明できる。 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し、管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務等）について説明できる。

	EBM (Evidence-based Medicine)	EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究等）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概要を説明できる。 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概要を説明できる。 メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。
	生物統計	臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間等）の意味と違いを説明できる。 帰無仮説の概念及び検定と推定の違いを説明できる。 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰、Cox比例ハザード回帰等）と相関係数の検定について概要を説明できる。 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線等）について概要を説明できる。
	臨床研究デザインと解析	臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴について概要を説明できる。 臨床研究におけるバイアス・交絡とその回避法について概要を説明できる。 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究等）について概要を説明できる。 副作用の因果関係の評価法（副作用判定アルゴリズム等）について概要を説明できる。 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化等）について概要を説明できる。 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを例を挙げて説明できる。 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク減少、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率等）を説明し、計算できる。
	医薬品の比較・評価	病院や薬局において医薬品を採用選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。 医薬品情報について、代表的な医薬品間（同種同効薬、先発医薬品と後発医薬品等）の有効性や安全性について比較・評価するための項目を列挙できる。
患者情報	情報と情報源	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。
	収集・評価・管理	問題志向型システム（POS）を説明できる。 SOAP形式等の患者情報の記録方法について説明できる。 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概要を説明できる。 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。
個別化医療	遺伝的素因	薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポートの遺伝子変異等）について、例を挙げて説明できる。 コンパニオン診断に基づく薬物治療について、例を挙げて説明できる。
	年齢的要因	低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。 高齢者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。
	臓器機能低下	腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
	その他の要因	薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動等）を列挙できる。 妊娠・長乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水等）における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【別表Ⅵ 法規・制度・倫理】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
プロフェSSIONナリズム	薬剤師の使命	薬剤師の活動分野	薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
		患者安全と薬害の防止	医薬品の役割とリスクについて説明できる。 WHOによる患者安全の基本的な考え方について説明できる。 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。
		薬学の歴史と未来	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 薬物療法史の歴史と人類に与えてきた影響について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について概要を説明できる。
	薬剤師に求められる倫理観	生命倫理	生命の尊厳について説明できる。 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。 生と死に関わる倫理的問題について概要を説明できる。 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概要を説明できる。
		医療倫理	医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について説明できる。 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
		患者の権利	患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 患者の自己決定権とインフォームド・コンセントの意義について説明できる。 知り得た情報の適切な取扱い（守秘義務等）と患者等への情報提供の重要性について説明できる。
	薬学研究	薬学における研究の位置づけ	医薬品の創製における基礎から臨床に至る研究の目的と薬剤師の役割について説明できる。 研究における自立性と独創性の重要性について説明できる。
		研究に必要な法規と倫理	自らが実施する研究に係る法令、指針について説明できる。 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 人を対象とする研究において遵守すべき倫理指針の概要を説明できる。
		研究の実践	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規則を守ることの重要性を説明できる。 研究を実践するプロセスの概要を説明できる。

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

薬学と社会	信頼関係の構築	コミュニケーション	意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションのあり方が異なることを例を挙げて説明できる。 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について説明できる。 相手の心理状態とその変化に配慮した対応の仕方について説明できる。 自分の心理状態を認識して他者と接することの重要性を説明できる。 相手の考えや感情を理解するための適切な聴き方、質問の仕方を説明できる。 自分の考えや感情を相手に伝えるための適切な方法を説明できる。 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決に導くための方法を説明できる。
	自己研鑽と次世代を担う人材の育成	学習のあり方	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともにわかりやすく表現できる。 インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。
		薬学教育の概要	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。
		生涯学習	生涯にわたって継続的に自ら学習する重要性を認識し、その方法と意義について説明できる。
		次世代を担う人材の育成	後輩等への適切な指導方法について概要を説明できる。
	人と社会に関わる薬剤師	人と社会に関わる薬剤師	人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について説明できる。 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について説明できる。 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について説明できる。 倫理規範や法令に則した行動を説明できる。
	薬剤師と医薬品等に係る法規範	薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範	薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について説明できる。 医療提供施設の種類、定義と要件について説明できる。 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 医療の提供体制と安全の確保等に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 個人情報の取扱いについて説明できる。 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について説明できる。
		医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範	「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬品部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。 医薬品等の開発から承認までのプロセスと法規範について説明できる。 治験の意義と仕組みについて説明できる。 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」の規定について説明できる。 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 健康被害救済制度について説明できる。 レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。
		特別な管理を要する薬物等に係る法規範	麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について説明できる。 毒物劇物の取扱いに係る規定について説明できる。
	社会保障制度と医療経済	医療、福祉、介護の制度	日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 医療保険制度（成り立ち、種類、仕組み、現状）について説明できる。 療養担当規程について説明できる。 公費負担医療制度（生活保護等）について説明できる。 介護保険制度の基本的な仕組みについて説明できる。 薬価基準制度の概要を説明できる。 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みの概要を説明できる。
	医薬品と医療の経済性	医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概要を説明できる。 国民医療費の動向について概要を説明できる。 後発医薬品とその役割について説明できる。 薬物療法の経済評価手法について概要を説明できる。	
地域における薬局と薬剤師	地域における薬局の役割	地域における薬局（健康サポート薬局を含む）の機能と役割について説明できる。 医薬分業の意義と動向を説明できる。 かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理の意義について説明できる。 セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 災害時の薬局の役割について説明できる。 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	
	地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師	地域包括ケアの理念、薬局と薬剤師の役割について説明できる。 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 学校薬剤師の役割について説明できる。 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について説明できる。 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について説明できる。	

【別表Ⅶ 実務】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬学臨床基本事項	医療人としての基本	医療人として	患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病状やケアの影響について説明できる。 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮した関わり方について説明できる。 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を説明できる。 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を説明できる。

			<p>様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について個々の場面に合わせて説明できる。</p> <p>常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい行動ができる。</p> <p>自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める行動ができる。</p> <p>チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすことができる。</p> <p>チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚した行動ができる。</p> <p>薬学的管理を実施する際のインフォームド・コンセントについて具体的に説明できる。</p> <p>患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。</p> <p>医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動ができる。</p> <p>一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）について説明できる。</p>
	薬剤師業務の基礎	臨床業務の基礎	<p>医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。</p> <p>保険調剤における薬剤師業務を具体的に説明できる。</p> <p>健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連づけて説明できる。</p> <p>病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を具体的に説明できる。</p> <p>急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。</p> <p>産前産後医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。</p> <p>終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。</p> <p>外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。</p>
薬学臨床実践	処方箋に基づく調剤	処方箋と疑義照会	<p>処方箋の記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。</p> <p>注射薬処方箋の記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。</p> <p>処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。</p> <p>薬歴、診療録、患者の状態等から処方箋が妥当であるか判断できる。</p> <p>薬歴、診療録、患者の状態等から判断して適切に疑義照会ができる。</p>
		処方箋に基づく医薬品の調製	<p>薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。</p> <p>適切な手順で後発医薬品を選択できる。</p> <p>処方箋に従って計数・計量調剤ができる。</p> <p>錠剤の粉砕及びカプセル剤の開封の可否を判断できる。</p> <p>一回量（一包化）調剤の必要性を判断できる。</p> <p>注射薬処方箋に従って注射薬調剤ができる。</p> <p>皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。</p> <p>代表的な輸液の種類と適応を説明できる。</p> <p>注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。</p> <p>無菌操作の原理とその基本的な操作について具体的に説明できる。</p> <p>注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作について具体的に説明できる。</p> <p>抗悪性腫瘍薬等の取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を具体的に説明できる。</p> <p>特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。</p> <p>調製された薬剤の適切な鑑査について具体的に説明できる。</p>
		服薬指導	<p>患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。</p> <p>代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。</p> <p>患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。</p> <p>医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施できる。</p> <p>妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。</p> <p>お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。</p> <p>収集した患者情報を薬歴や診療録等に適切に記録することができる。</p>
		医薬品の供給と管理	<p>医薬品管理の流れを説明できる。</p> <p>医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。</p> <p>医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。</p> <p>医薬品の適切な在庫管理を実施できる。</p> <p>医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。</p> <p>劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚せい剤原料の適切な管理と取扱いができる。</p> <p>特定生物由来製品の適切な管理と取扱いができる。</p> <p>代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。</p> <p>院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理等について説明できる。</p> <p>薬局製剤（漢方製剤を含む）の取扱いについて説明できる。</p>
		安全管理	<p>特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用期限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。</p> <p>調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。</p> <p>インシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を実施することができる。</p> <p>感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。</p> <p>施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。</p> <p>代表的な消毒薬の用途、使用濃度及び調製時の注意点を説明できる。</p> <p>臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。</p> <p>施設内での感染対策（予防、蔓延防止等）について具体的に説明できる。</p>
	薬物療法の実践	患者情報の把握	<p>患者・来局者及び種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。</p> <p>患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。</p> <p>基本的な身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。</p> <p>患者の基本的な身体所見を観察・測定・評価し、薬学的管理に活かすことができる。</p>
		医薬品情報の収集と活用	<p>医療スタッフ及び患者のニーズに合った医薬品情報が提供できる。</p> <p>緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止等の緊急情報を適切に取り扱うことができる。</p>

Ⅶ. 薬剤師国家試験出題基準

	<p>処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）</p>	<p>患者の診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。</p> <p>患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、妊婦・授乳婦、小児、高齢者等の生理的特性、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。</p> <p>治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。</p> <p>処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。</p> <p>患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。</p> <p>アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。</p> <p>患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足等が評価できる。</p> <p>入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。</p> <p>処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。</p> <p>処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）</p> <p>医薬品の効果と副作用について、モニタリングすべき症状と検査所見等を説明できる。</p> <p>治療薬物モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを説明できる。</p> <p>薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果、副作用及び相互作用について予測できる。</p> <p>臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。</p> <p>薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見等から評価できる。</p> <p>副作用の発現について、患者の症状や検査所見等から評価できる。</p> <p>薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。</p> <p>患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録できる。</p> <p>医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に必要事項を記載し、報告できる。</p>
<p>チーム医療への参画</p>	<p>多職種連携協働とチーム医療</p> <p>医療機関におけるチーム医療</p> <p>地域におけるチーム医療</p>	<p>保健、医療における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。</p> <p>多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。</p> <p>チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。</p> <p>医療機関における多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の目的と構成、構成員の役割、そのうちの薬剤師の重要性を説明できる。</p> <p>病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。</p> <p>他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）について情報共有の重要性を説明できる。</p> <p>他職種と連携・協力して、患者の最善の治療・ケアが提案できる。</p> <p>地域の保健、医療、介護、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明できる。</p> <p>地域住民への情報提供・健康教育の重要性を説明できる。</p> <p>地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有ができる。</p> <p>かかりつけ薬剤師・薬局の業務を具体的に説明できる。</p> <p>健康サポート薬局の具体的な業務を説明できる。</p>
<p>地域の保健・医療・福祉への参画</p>	<p>在宅（訪問）医療・介護への参画</p> <p>地域保健への参画</p> <p>プライマリケア・セルフメディケーション</p> <p>災害時医療と薬剤師</p>	<p>在宅医療・介護の目的、仕組み、関わる職種、支援の内容を説明できる。</p> <p>在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。</p> <p>在宅医療・介護に関する薬剤師の役割と管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務、医療廃棄物の取扱い等）について説明できる。</p> <p>在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集の方法、他職種との情報共有について説明できる。</p> <p>在宅患者の終末期医療について説明できる。</p> <p>学校薬剤師が行う業務内容とその意義を説明できる。</p> <p>地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。</p> <p>地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品を使用する場合の危険行為等に対する対処法）における薬剤師活動を説明できる。</p> <p>現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を説明できる。</p> <p>薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等のリスクに応じた適切な取扱い、管理ができる。</p> <p>薬局から収集した情報や身体所見等に基づき、薬局の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。</p> <p>薬局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品、一般用医薬品及び検査薬等の推奨、生活指導等）を選択できる。</p> <p>選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点（副作用・相互作用等含む）等を薬局者に適切にわかりやすく説明できる。</p> <p>疾病予防及び健康管理について適切な生活指導やアドバイスができる。</p> <p>災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。</p> <p>災害発生時における病院・薬局の役割と薬剤師の活動について説明できる。</p> <p>災害時に派遣される医療チームと薬剤師の関わりを説明できる。</p>

モデル・コア・カリキュラム対応表

薬学教育モデル・コア・カリキュラム

(令和6年度以降入学生対象)

B 社会と薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B-1 薬剤師の責務						
B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム						
(1)プロフェッショナリズムの概念【1】、2】、3】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ				
(2)職業観の形成【1】、2】、3】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ				
(3)生命倫理及び研究倫理の歴史や諸原則(ヘルシンキ宣言等)【1】	早期臨床体験Ⅰ			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)医療や研究における患者及び研究対象者の自律尊重【1】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)医療行為に伴う倫理的課題【1】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門					
(7)倫理的感性の涵養と葛藤の解決【1】	早期臨床体験Ⅰ					
(8)成人学習理論を活用し、同僚や後輩との協働やフィードバックを実践する。【4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(9)倫理的課題に直面した際の適切な対応について、文脈を踏まえて討議する。【1】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(10)自らの言動を客観的に捉えた学びや経験を省察し、メタ認知能力を高める。【2】、3】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
B-1-2 患者中心の医療						
(1)患者の基本的権利【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)患者・患者家族の心理【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(3)全人的医療【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)患者のナラティブ【1】、2】、3】						
(5)インフォームド・コンセント、情報共有、共同意思決定(SDM)【1】	腫瘍感染症薬学入門					薬事行政論
(6)守秘義務、個人情報保護、情報開示、説明責任【1】、2】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(7)医療者・患者関係が治療に及ぼす影響【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			薬事行政論
(8)ヘルスリテラシー、健康行動理論【4】						薬事行政論
(9)ライフサイクル理論【4】						
(10)人生の最終段階におけるケア(エンド・オブ・ライフケア)【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(11)生まれ持った個性や価値観、信条、宗教等の多様性や人間性を尊重する意義について、真摯に討議する。【2】、3】						
B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任						
(1)薬学・薬剤師に関わる歴史的・社会的背景【1】、2】、3】	薬剤師入門					薬事行政論
(2)薬剤師の社会的使命【1】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)薬剤師が遵守すべき行動規範【1】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)薬剤師の任務に関わる法令【1】、2】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)薬剤師の業務に関わる民事責任、刑事責任【1】、2】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)医薬品等によって生じた健康被害(薬害、医療事故、重篤な副作用等)について調べ、再発防止策を提案する。【3】						薬事行政論
B-2 薬剤師に求められる社会性						
B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション						
(1)医療コミュニケーションの技法(傾聴、受容、共感、質問法、伝え方、解釈モデル等)【1】、2】、3】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(2)全人的な評価【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)対人関係に関わる心理的要因【2】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(4)患者の意思決定支援に役立つナラティブコミュニケーションの実践【1】、2】、3】						
(5)患者・生活者に悪い知らせを伝える際のコミュニケーション(SPIKESモデル等)の実践【3】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
B-2-2 多職種連携						
(1)多職種によるチーム・ビルディング【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)他の医療、保健、介護、福祉関係者の職能の理解【1】、2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのアサーティブコミュニケーション(DESC等)【2】、3】			コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(4)多職種連携におけるリスクコミュニケーション(リスクマネジメント、コミュニケーションエラー防止策等)について、自らの考えを述べる。【2】、3】	腫瘍感染症薬学入門					
B-3 社会・地域における薬剤師の活動						
B-3-1 地域の保健・医療						
(1)健康・障害・疾病の概念【1】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(2)生活習慣病・健康増進に係る施策【1】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(3)地域における薬局の機能(健康サポート機能、災害時対応を含む)【1】、2】、3】、4】、5】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(4)地域の保健・医療に関わる機関・組織【3】、4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(5)医療提供の理念、医療安全の確保、医療提供体制の確保(医療計画を含む)【3】、4】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ		薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)地域包括ケアシステムの概要【1】、2】、3】、4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(7)ライフステージに応じた健康管理、環境・生活習慣の改善に向けた薬剤師の役割【1】、2】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(8)学校保健、学校薬剤師の役割【1】、2】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(9)医薬品適正使用における薬剤師の役割(適正使用の推進、アンチ・ドーピング等)【1】、2】、3】、4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(10)地域住民のセルフケア、セルフメディケーションにおける薬剤師の役割【1】、2】、3】、4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(11)都市部、山間部(へき地)、離島等の地域の特性と保健・医療のニーズ【2】、4】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(12)早期からの体験学習に基づく薬剤師の役割と責務の理解【1】、2】、3】、4】、5】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(13)国内外における薬剤師の業務範囲や活動【5】	早期臨床体験Ⅰ					薬事行政論

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

B 社会と薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B-3-2 医療・介護・福祉の制度							
(1) 社会保障制度の概念、仕組み、財源と使途・その推移【1】	薬剤師入門				薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(2) 医療保険制度の役割、成り立ち、仕組み【2】	腫瘍感染症薬学入門				薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 保険医療機関、保険薬局、保険薬剤師の役割(療養担当規則を含む)【2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(4) 公費負担医療制度の概要【2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(5) 介護保険制度の概要【2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(6) 薬剤師業務に関わる診療報酬、調剤報酬、介護報酬【2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(7) 社会保障改革の動向【1、2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
B-3-3 医療資源の有効利用							
(1) 医療費の内訳と動向【1】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(2) 国内外の医薬品市場の規模と動向【1】	薬剤師入門			医薬品開発・経済学			薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 医薬品の価格決定方法【2】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(4) 薬物療法の適正化と医療費との関係性【2】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(5) 公的医療保険における医療技術評価【2、3】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(6) 薬物療法の経済評価手法【3】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(7) 社会保障制度の維持に薬剤師が果たす役割【3】							薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
B-4 医薬品等の規制							
B-4-1 医薬品開発を取り巻く環境							
(1) 医薬品開発の過程【1】	薬剤師入門			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(2) 医薬品開発に関わる法規制・ガイドライン【1、2】	薬剤師入門			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 新薬の開発における化合物やモダリティ(創薬技術や治療手段)の探索及び有効利用等【2、3】							
(4) 医薬品に係る臨床研究、治験の意義と仕組み【2】	薬剤師入門			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(5) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義【1、2】							薬事行政論
B-4-2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止							
(1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)とその関連法令の規定と意義(歴史的背景を含む)【1】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(2) 医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品等の定義とその取扱い【1】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策【1、2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(4) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業【1、2】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(5) 薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)の原因、社会的背景、その後の対応【2、3】				医薬品開発・経済学 医薬品安全性学			薬事行政論
(6) 薬害を回避するため、医薬品開発から使用に至るまでの全過程に薬剤師が関わる意義と薬剤師に求められる行動【1、2、3】				医薬品開発・経済学 医薬品安全性学			薬事行政論
(7) 健康被害救済制度と製造物責任【3】					薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(8) 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保のために必要な薬剤師の行動【2、3】							薬事行政論
B-4-3 医薬品等の供給							
(1) 医薬品流通の仕組み【1】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(2) 医薬品供給に関わる医薬品の製造販売業・製造業・卸売販売業、医療機関、薬局の役割と責務【1、2】				医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 医薬品の個人輸入、偽造品等の流通問題における課題と対応策の提案【2】							薬事行政論
(4) 災害時等の医薬品流通・供給の在り方についての提案【2】	薬剤師入門						薬事行政論
B-4-4 特別な管理を要する医薬品等							
(1) 特別な管理を要する医薬品・薬物等について、不適切な取扱いや不適切使用による健康及び公衆衛生への影響【1】	腫瘍感染症薬学入門				環境衛生学		薬事行政論
(2) 特別な管理を要する医薬品・薬物等に係る規制【2】	腫瘍感染症薬学入門				薬事医事関係法規総論Ⅰ		薬事医事関係法規総論Ⅱ 薬事行政論
(3) 特別な管理を要する医薬品・薬物等における薬剤師の役割【2】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門						薬事行政論
B-5 情報・科学技術の活用							
B-5-1 保健医療統計							
(1) 保健医療統計の種類(人口動態、人口動態、受療状況、医療施設数、医療従事者数等)、特徴、意義【1、2】							薬事行政論
(2) 保健医療統計に用いられるデータの種類や尺度、データ収集の方法、記述統計及び推測統計【1、2】							薬事行政論
(3) 国際的に取り組む必要がある医療・健康課題【3】							薬事行政論
(4) 国内外の医療・健康課題に対する薬剤師の活動【3】							薬事行政論
B-5-2 デジタル技術・データサイエンス							
(1) 情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観、デジタルリテラシー【1、2、3】	薬学情報処理リテラシー演習				疫学研究演習		
(2) 医療、保健、介護、福祉におけるデジタル技術・ビッグデータに関連する法規制【2、3】	薬学情報処理リテラシー演習				疫学研究演習		
(3) 医療、保健、介護、福祉におけるデジタル技術の活用例【3】	薬学情報処理リテラシー演習				疫学研究演習		
(4) 医療、保健、介護、福祉におけるビッグデータの活用例【3】	薬学情報処理リテラシー演習				疫学研究演習		
(5) 人々の健康に関する課題の抽出とデジタル技術及びビッグデータを活用した解決策を提案する。【2、3】					疫学研究演習		
B-5-3 アウトカムの可視化							
(1) 薬剤師の活動が社会・地域にもたらす成果(アウトカム)を説明する。【1、2】	早期臨床体験Ⅰ 薬学情報処理リテラシー演習 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ					
(2) 薬剤師の活動の成果を可視化するための測定・評価方法を説明する。【2】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ					
(3) 薬剤師の職能に対する患者・生活者・他職種を理解を促すための行動や活動を提案する。【2】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ					

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-1 化学物質の物理化学的性質						
C-1-1 化学結合と化学物質・生体高分子間相互作用						
(1)化学結合、混成軌道、共役と共鳴、分子軌道【1】	薬学化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)静電相互作用【2】	薬学化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)双極子間相互作用と水素結合【2】	薬学化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)ファンデルワールス力【2】	薬学化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)疎水性相互作用【2】	薬学化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)医薬品・生体高分子間相互作用【3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-1-2 電磁波、放射線						
(1)電磁波の性質、電磁波と物質との相互作用【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)電子遷移、分子の振動と回転【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)スピンと磁気共鳴【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)屈折、旋光性、回折【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)放射線核種と放射壊変【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)電離放射線による化学物質及びヒトをはじめとする生体への影響【3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-1-3 エネルギーと熱力学						
(1)熱力学第一法則とエンタルピー【1】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)熱力学第二法則とエントロピー、熱力学第三法則【1】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)ギブズエネルギー【1】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)気体の分子運動論【1】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)化学ポテンシャルと化学平衡【2】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)平衡と圧力、温度【2】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)酵素反応とギブズエネルギー【2】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)相平衡と相律、相転移【2】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)物理的配位変化と相平衡【2】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10)束一的性質と食塩価法【2】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(11)活量と活量係数【2】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(12)電解質溶液の伝導率とイオン強度【2】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(13)電池と電極電位【3】	薬学化学入門	薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(14)細胞膜電位【3】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(15)人工透析の原理と透析膜【4】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-1-4 反応速度						
(1)反応次数と速度定数【1】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)複合反応【1】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)反応速度と温度【2】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)酵素反応と阻害様式【2】		薬学物理化学基礎 生化学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2 医薬品及び化学物質の分析法と医療現場における分析法						
C-2-1 分析方法の基礎						
(1)分析器具【1】	薬学情報処理リテラシー演習	薬品分析学実習	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)測定値の取扱い【1】	薬学情報処理リテラシー演習	薬品分析学実習	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)分析法のバリデーション【1】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-2-2 溶液の化学平衡と容量分析法						
(1)水素イオン濃度(pH)、pHメーター【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)pHの調節、緩衝作用、緩衝液【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)可逆反応、化学平衡【3】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)分配平衡【3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)酸・塩基平衡【3】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)中和滴定、非水滴定【4】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)化学平衡(錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡)【3】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)容量分析法(キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)の原理【4】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)容量分析法の代表例【4】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-3 定性分析、日本薬局方試験法						
(1)日本薬局方の通則、一般試験法、医薬品各条【1】		薬品分析学実習 日本薬局方	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)日本薬局方で規定される代表的な医薬品の確認試験、純度試験、定量法【2】		薬品分析学実習 日本薬局方	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)代表的な無機イオンの分析法【3】		日本薬局方		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-4 電磁波を用いる分析法						
(1)ランベルト・ベールの法則【1】	薬学情報処理リテラシー演習	生化学実習	機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)紫外可視吸光度測定法【2】、4】	薬学情報処理リテラシー演習		機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)蛍光光度法【2】、4】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル)測定法【2】、4】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)代表的な電磁波を用いる分析法【2】、4】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)原子吸光光度法【3】、4】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-5 有機化合物の特性に基づく構造解析-原理-						
(1)核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法、ゼーマン分裂【1】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル)測定法【1】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)質量分析法、質量電荷比【2】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-6 分離分析法						
(1)分離分析法の原理【1】			機器分析学実習 分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)液体クロマトグラフィー、薄層クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー【1】、3】、4】			機器分析学実習 分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)電気泳動法【2】、3】、4】		生化学実習	分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)代表的な検出器【3】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-7 医療現場における分析法						
(1)検体試料の前処理法【1】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)精度管理【2】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)代表的な免疫学的測定法【3】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)酵素を用いた代表的な分析法【3】		生化学実習	分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)代表的なドライケミストリー、センサー【3】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)Point of Care Testing(POCT)【4】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-8 生体に用いる分析技術・医療機器						
(1)X線検査、コンピュータ断層撮影(X線CT)、透過【1】、2】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)磁気共鳴画像診断(MRI)、緩和【1】、2】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)陽電子放出断層撮影法(PET)、単光子放射型コンピュータ断層撮影法(SPECT)【1】、2】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)超音波診断、内視鏡検査【1】、2】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)正常画像と代表的な疾患画像【2】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)治療用放射性医薬品、診断用医薬品【3】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-3 薬学の中の有機化学						
C-3-1 物質の基本的性質						
(1)有機化合物の名前【1】	薬学化学入門 有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)有機化合物の化学構造【1】	薬学化学入門	有機薬学Ⅱ 有機薬学Ⅲ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)共鳴・電子の動き【1、2】	薬学化学入門	有機薬学Ⅱ 有機薬学Ⅲ	薬学化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)反応機構・化学種【1、2】	薬学化学入門	有機薬学Ⅱ 有機薬学Ⅲ	薬学化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)酸・塩基【1、2】	薬学化学入門	有機薬学Ⅲ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)基本的な有機化学反応【2】	薬学化学入門	有機薬学Ⅱ 有機薬学Ⅲ	薬学化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-3-2 有機化合物の立体化学						
(1)異性体・立体配置・立体配座【1、2、3】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)キラリティー【1、2、3】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-3-3 有機化合物の基本構造と反応性						
(1)アルカン・シクロアルカン【1、2】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)アルケンとその反応【1、2】	有機薬学Ⅰ	有機薬学Ⅱ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)アルキンとその反応【1、2】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)芳香族化合物とその反応【1、2】		有機薬学Ⅱ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)複素環化合物とその反応【1、2】		有機薬学Ⅱ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)有機ハロゲン化合物とその反応【1、2】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)アルコール・フェノールとその反応【1、2】	有機薬学Ⅰ		薬学化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)エーテルとその反応【1、2】	有機薬学Ⅰ			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)アルデヒド・ケトンとその反応【1、2】		有機薬学Ⅱ	薬学化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10)カルボン酸及び誘導体とその反応【1、2】		有機薬学Ⅲ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(11)アミンとその反応【1、2】		有機薬学Ⅲ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(12)硫黄・リンを含む化合物とその反応【1、2】		有機薬学Ⅱ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-3-4 有機化合物の特性に基づく構造解析						
(1)核磁気共鳴(NMR)スペクトル【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル)【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)マススペクトル(MS)【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-3-5 無機化合物・錯体						
(1)医薬品及び生体内の無機化合物【1】	無機薬学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)無機化合物の酸化物【1】	無機薬学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)金属錯体【1】	無機薬学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-4 薬学の中の医薬品化学						
C-4-1 医薬品に含まれる官能基の特性						
(1)電子的効果・立体的効果【1】		医薬品化学Ⅰ	医薬品化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)酸性・塩基性【1】		医薬品化学Ⅰ	医薬品化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)親水性・疎水性【1】		医薬品化学Ⅰ	医薬品化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)医薬品と標的分子の基本的な相互作用【1】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-4-2 生体分子とその反応						
(1)生体分子(タンパク質、核酸、糖、脂質、内因性リガンド)【1】		医薬品化学Ⅰ 生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)補酵素【1、2】		医薬品化学Ⅰ 生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)酵素反応・代謝反応【1、2】		医薬品化学Ⅰ 生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)生体分子の生合成【1、2】		医薬品化学Ⅰ 生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-4-3 医薬品のコンポーネント						
(1)ファーマコフォア【1】		医薬品化学Ⅰ	医薬品化学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)バイオアインスター【1、2】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)プロドラッグ【1、2】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)モダリティ(低分子、ペプチド、核酸医薬、抗体医薬等)と有機化学の接点【1、2】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)ドラッグキャリアと有機化学の接点【2】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-4-4 標的分子に基づく医薬品の分類						
(1)酵素に作用する医薬品【1】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)受容体に作用する医薬品【1】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)核酸に作用する医薬品【1】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)イオンチャネル、トランスポーターに作用する医薬品【1】		医薬品化学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-4-5 代表的疾患の治療薬とその作用機序						
(1)抗悪性腫瘍薬【1】	腫瘍感染症薬学入門		医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)代謝系・内分泌系疾患(糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ 内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)循環器系疾患(脳血管障害・心疾患・高血圧症)の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)精神・神経系疾患の医薬品【1】			薬理・薬物治療学Ⅱ 医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)消化器系疾患の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)免疫・炎症・アレルギー系疾患の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)感染症の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ 感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)その他の疾患の医薬品【1】			医薬品化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-5 薬学の中の生薬学・天然物化学						
C-5-1 生薬学・天然物化学の基礎						
(1)薬用植物に関する基本的知識【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)生薬の種類、基原、成分、薬効・用途【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)生薬の同定と品質評価【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-5-2 天然由来医薬品各論						
(1)天然有機化合物の生合成経路別分類【1】			天然物化学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)天然有機化合物を基に開発された医薬品【2】			天然物化学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)天然有機化合物を基に開発された機能性食品、農薬、化粧品【2】			天然物化学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)生薬を利用した医薬品、天然物を利用した機能性を示す食品【2】			天然物化学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6 生命現象の基礎						
C-6-1 生命の最小単位としての細胞						
(1)生物体の基本的な構造と機能【1】	薬学生物学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)細胞を構成する種質、脂質、タンパク質、核酸等の構造や性質等の特徴【1】	薬学生物学入門			薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)細胞の基本構造、細胞小器官及び細胞骨格【1】	薬学生物学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6-2 生命情報を担う遺伝子						
(1)染色体と遺伝子の構造【1】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)遺伝情報の伝達と発現【1】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)体細胞分裂と減数分裂による遺伝情報の伝達【1】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)遺伝子変異と遺伝子型【1】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6-3 微生物の分類、構造、生活環						
(1)微生物(ウイルス、細菌、真菌)の生物学的系統の相違【1、4】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)細菌のグラム染色性と系統分類【1】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学 微生物学実習	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)細菌細胞の構造と増殖【2】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)増殖と必要な栄養素【2】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)エネルギー産生と酸素に対する挙動【1、2】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)細菌ゲノムの複製と発現【2】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)変異と遺伝子伝達現象【3】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)ウイルス粒子の構造と複製【2、3、4】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)真菌細胞の構造と増殖【2、3、4】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10)無菌操作、分離培養、純培養【1、2】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学 微生物学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(11)遺伝子工学技術【3】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-6-4 生命活動を担うタンパク質						
(1)タンパク質の構造と機能【1】	腫瘍感染症薬学入門	生化学 生化学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)酵素反応の特性、補酵素、微量金属【2】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)酵素活性調節機構【2】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)タンパク質の細胞内分解【3】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6-5 生体エネルギーと代謝						
(1)エネルギー代謝の全体像【1、2】		生化学		臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)解糖系・乳酸生成【1、2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)クエン酸回路【1、2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)電子伝達系【1、2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)グリコーゲン代謝【2】		生化学		薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)糖新生【2】		生化学		薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)脂肪酸の生合成とβ酸化【2】		生化学		薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)コレステロール生合成と代謝【2】		生化学		薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)飢餓状態と飽食状態のエネルギー代謝【2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10)アミノ酸の代謝【2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(11)ヌクレオチドの代謝【2】		生化学		薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(12)ペントースリン酸回路【2】		生化学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6-6 細胞内情報伝達及び細胞間コミュニケーション						
(1)イオンチャネル内蔵型受容体を介する情報伝達【1、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ	内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)Gタンパク質共役型受容体を介する情報伝達【1、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ	内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)酵素内蔵型受容体を介する情報伝達【1、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ	内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)核内受容体を介する情報伝達【1、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ	内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)細胞間コミュニケーション【1、2】	腫瘍感染症薬学入門		内分泌薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)細胞接着分子【1】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)細胞外マトリックス【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-6-7 細胞周期と細胞死						
(1)細胞周期と制御機構【1】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)細胞死【1】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)がん細胞【1】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7 人体の構造と機能及びその調節						
C-7-1 器官系概論						
(1)人体を観察する際の基準となる体位、方向及び断面【1】	解剖学演習			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)人体の階層構造(細胞・組織・器官・器官系)【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)人体を構成する各器官系と相互の連携の概要【1、2】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)主要な器官の名称と解剖学的位置を確認する方法【1】	解剖学演習			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)主要な組織を構成する細胞やそれらの特徴的配列を確認する方法【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-2 神経系						
(1)神経系を構成する細胞【1】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)神経細胞における興奮の伝導と伝達【2】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)中枢神経系の構造と機能【1】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)血液脳関門と脳室周囲器官(化学受容器引き金帯(CTZ))【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)末梢神経系の解剖学的分類と生理学的分類【1】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)自律神経系による不随意的調節【2】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-3 内分泌系						
(1)ホルモンの分泌様式【1】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)各内分泌器官の構造と産生されるホルモン及びその作用【1】	解剖学演習		内分泌薬学	臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)血糖の調節等、ホルモンによる生体機能の調節【2】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

C 基礎薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-7-4 外皮系							
	(1)皮膚及びその付属器の構造と機能【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)皮膚から受容される感覚とそれらの伝導路【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-5 感覚器系							
	(1)5つの特殊感覚(視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚)【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)視覚器(眼球)の構造と光の受容、視覚の伝導路【2】	機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-6 骨格系							
	(1)骨、及び軟骨の構造・関節の構造【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)主な骨の名称と位置【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)骨代謝と血中カルシウム濃度の調節機構【1】	機能形態学			薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-7 筋系							
	(1)主な骨格筋の名称と位置【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)3種類の筋(骨格筋、心筋、平滑筋)の特徴、及びその収縮機構と神経支配【1】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)骨格筋におけるグルコース代謝と乳酸の蓄積と疲労の発生【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(4)運動の伝導路(維体路、維体外路系及び下位運動ニューロン)【1】	機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-8 循環器系							
	(1)心臓・血管系と体液循環【1】、2】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)心臓の構造と機能、及び興奮と心電図【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)主な血管の名称と位置【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(4)腹部血管系とその循環経路(門脈循環)【1】、2】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(5)血圧とその調節機構、及び血圧の測定法【1】	機能形態学	医療体験実習		臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(6)血液の組成及び造血【3】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(7)血液型とその不適合【3】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(8)血液凝固・線溶系【3】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-9 リンパ系と免疫							
	(1)一次及び二次リンパ器官【1】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)主なリンパ管の名称と位置【1】	解剖学演習	免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)自然免疫と獲得免疫【2】		免疫学		臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(4)主なサイトカインと関与する細胞間ネットワーク【2】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(5)抗体分子及びT細胞抗原受容体の多様性【2】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(6)抗原認識と免疫寛容及び自己免疫【2】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(7)免疫担当細胞の体内循環【2】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-10 消化器系							
	(1)消化管と主要な付属器官(肝臓・胆のう・膵臓)【1】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)消化・吸収・排泄とその調節【1】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)肝臓の栄養代謝調節【1】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-11 呼吸器系							
	(1)気道を構成する器官と肺【1】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)呼吸の仕組みとその調節機構【1】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)酸素・二酸化炭素の運搬と酸・塩基平衡【1】、2】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-12 泌尿器系							
	(1)腎臓と尿路を構成する器官【1】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(2)尿生成の仕組みと体液の恒常性維持機構【1】、2】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(3)腎臓に関連したホルモンによる体液調節【1】、2】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
	(4)排尿の仕組みとその調節機構【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-7-13 体液						
(1)体液の種類とその組成及び生理的食塩水【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)体液の浸透圧の調節機構【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)体液の酸・塩基平衡の調節機構【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)体液量及び血圧の調節機構【1】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-14 生殖系						
(1)男性生殖系を構成する器官【1】	解剖学演習			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)精子形成(減数分裂)とホルモン調節【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)女性生殖系を構成する器官【1】	解剖学演習			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)女性の性周期及び妊娠とホルモン調節【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-15 ヒトの発生						
(1)受精～出産【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)胚子(3つの胚葉)形成【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)器官形成期【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)胎盤の構造と通過する分子【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-1 薬物の作用と生体の変化						
D-1-1 薬物の作用のメカニズム						
(1)神経系による生体の恒常性【1】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)代表的な構造活性相関【2】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)薬の用量と作用の関連性【2】	薬物治療学入門 腫瘍感染症薬学入門	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)【2】	薬物治療学入門	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)薬効評価法(動物実験を含む)【1】、2)、3】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)動物実験指針【3】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-1-2 身体の病的変化						
(1)代表的な臨床症状の発症するメカニズムとその特異性【1】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)代表的な症候と関連する病態【1】、2】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)代表的な臨床検査値と症状の関連性と臨床的意義【2】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-1-3 医薬品の安全性						
(1)代表的な薬物の有害反応(副作用)、相互作用、薬物中毒、臨床検査値の異常とその対策、対応【1】	薬物治療学入門		医薬品安全性学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)薬害の原因と被害の実態、事例解析と防止策【2】			医薬品安全性学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)薬物中毒、薬物依存、アルコール依存、薬物乱用の病態、事例解析と防止策【3】	薬物治療学入門		医薬品安全性学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)治療の適切性の評価に基づくポリファーマシーによる有害反応事例解析と防止策【4】			医薬品安全性学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2 薬物治療につながる薬理・病態						
D-2-1 自律神経系に作用する薬						
(1)代表的な自律神経系の異常による病態【1】		薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)代表的な交感神経に作用する薬、副交感神経に作用する薬【2】、3)、4】		薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-2 鎮痛作用を有する薬物						
(1)痛みの発生メカニズム【1】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)代表的な消炎鎮痛に用いられる薬【2】、3)、4】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-3 麻酔薬						
(1)代表的な局所麻酔薬、全身麻酔薬【1】、2)、3】		薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-4 運動神経系や骨格筋に作用する薬						
(1)代表的な末梢性筋弛緩疾患、重症筋無力症【1】、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)筋弛緩薬と筋系疾患の主な治療薬【2】、3)、4】		薬理・薬物治療学Ⅰ	薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-5 中枢神経系、精神系の疾患と治療薬						
(1)脳血管疾患、認知症、てんかん、パーキンソン症候群【1】、2】			薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)統合失調症、うつ病、双極性障害、睡眠障害、不安障害、片頭痛【1】、2】			薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2】、3)、4】			薬理・薬物治療学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-6 代謝系・内分泌系及び骨の疾患と治療薬						
(1)糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、甲状腺機能障害、副腎機能障害、骨粗鬆症【1】、2】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)電解質代謝異常【1】、2】				薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)アンドロース、アルカロース【1】、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)栄養障害【1】、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)主な治療薬【2】、3)、4】				薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-7 皮膚・感覚器系の疾患と治療薬						
(1)アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、褥瘡【1】、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)緑内障、白内障、加齢黄斑変性症、メニエール症候群、めまい【1】、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2】、3)、4】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-8 循環器系の疾患と治療薬						
(1)心不全、不整脈、高血圧症・低血圧症、虚血性心疾患【1】、2】				臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2】、3)、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-9 血液・造血器系の疾患と治療薬						
(1)貧血、播種性血管内凝固症候群、紫斑病、血友病【1】、2】				臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬(凝固線溶系のメカニズム及び止血薬を含む)【2】、3)、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-2-10 免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬						
(1)花粉症、アナフィラキシー【1、2】				臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、拒絶反応、移植片対宿主病【1、2】				臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2、3、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-11 消化器系の疾患と治療薬						
(1)消化性潰瘍、機能的消化管障害、炎症性腸疾患、肝炎・肝硬変(ウイルス性・薬剤性等)、膵炎、胆道疾患【1、2】			薬理・薬物治療学Ⅳ	臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)悪心・嘔吐、下痢、便秘【1、2】			薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2、3、4】			薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-12 呼吸器系の疾患と治療薬						
(1)気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、かぜ症候群、肺炎【1、2】			薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2、3、4】			薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-13 泌尿器系の疾患と治療薬						
(1)慢性腎臓病、腎不全、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、排尿障害、尿路結石【1、2】				臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2、3、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-14 生殖器系の疾患と治療薬						
(1)前立腺肥大症、子宮内膜症【1、2】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2、3、4、5、6】		薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)妊娠と分娩、切迫早・流産、不妊症、避妊【5】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-15 感染症と治療薬						
(1)ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、寄生虫病【1、2】			感染症薬学	臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)呼吸器感染症、消化器感染症、尿路感染症、性感染症、皮膚感染症、神経系感染症、感覚器感染症、全身性感染症【1、2】			感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)抗感染症薬耐性の獲得と出現の抑制策【3】			感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)主な治療薬【2、3、4、5】			感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)消毒薬、滅菌法【3、4、5】			感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-16 悪性腫瘍(がん)と治療薬						
(1)「血液・造血器・リンパ系」「神経系」「呼吸器系」「消化器系」「腎・尿路系」「生殖機能」「乳房」「内分泌・栄養・代謝系」「頭頸部」における悪性腫瘍(がん)【1、5】	腫瘍感染症薬学入門			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)治療薬に対する耐性獲得メカニズム、耐性出現防止方策、耐性出現時の対応【3、4、5】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2、3、4】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)支持療法の対象と利用する医薬品【1、2、3、4】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-17 緩和医療と治療薬						
(1)がん性疼痛、慢性疼痛、神経因性疼痛、がん悪液質【1、2、5】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2、3、4、5】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-18 遺伝子治療、移植医療、遺伝子組換え医薬品						
(1)遺伝子治療、移植医療【1、2】				バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)遺伝子組換え医薬品【2、3】				バイオ医薬品学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-19 漢方療法						
(1)漢方薬の適応となる証、症状、疾患【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-2-20 セルフケア、セルフメディケーション						
(1)セルフケア、セルフメディケーションの対象となる代表的な症状と関連する疾患【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)要指導医薬品、一般用医薬品、薬局製造販売医薬品【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)特別用途食品、保健機能食品、いわゆる健康食品等【2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)食事、運動等の影響【1、2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-3 医療における意思決定に必要な医薬品情報						
D-3-1 医薬品のライフサイクルと医薬品情報						
(1)医薬品のライフサイクル【1】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)医薬品の有効性・安全性を確保するための制度とその過程で発生する情報【1】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-3-2 医薬品情報の情報源と収集						
(1)代表的な一次資料、二次資料、三次資料【1】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)添付文書、医薬品インタビューフォーム【2、3、8】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)ガイドライン、医薬品医療機器総合機構より入手可能な情報【4、5、8】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)代表的なウェブサイトを利用した情報収集【6、8】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)代表的な医学・薬学文献データベースと文献検索【7、8】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-3-3 医薬品情報の解析と評価						
(1)情報評価の意味と方法【1】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)研究デザインと使用目的、エビデンスの質【2】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)EBMのプロセス【3】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)臨床研究論文の批判的吟味【4】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)医薬品の有効性評価、安全性評価【1、2、3、4、5、6】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)医薬品以外の医療に関わる情報の評価【1、2、3、4、7】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-3-4 医薬品情報の応用と創生						
(1)医薬品情報の加工・提供・発信【1】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)情報を取り扱う上での注意点(知的所有権、守秘義務など)【1、2】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)医薬品の比較評価(同種同効薬、先発・後発医薬品など)【1、2】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)医療ビッグデータの例と特徴【3】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)不足している情報の創生や課題解決を目指した研究計画【3】		医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-3-5 患者情報						
(1)薬物治療の効果・副作用評価に必要な患者情報(基本的情報、遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能、生理的要因等)【1、2、3】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)問題指向型システム(POS、SOAP)【2】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)患者情報の媒体(調剤録、薬剤服用歴、処方箋、診療録など)【1、2、3】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)守秘義務、個人情報保護【4】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)医療における情報通信技術(ICT)の進展【5】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-4 薬の生体内運命						
D-4-1 薬物の体内動態						
(1)生体膜透過、吸収、分布、代謝、排泄【1、2】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)薬物体内動態に起因する薬物相互作用【2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)年齢、生理状態、臓器機能の変化、遺伝的素因が薬物体内動態に及ぼす影響【1、2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)個々の患者に適切な薬物の投与経路・投与方法の立案【1、2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-4-2 薬物動態の解析						
(1)薬物速度論的解析法(コンパートメントモデル(線形・非線形モデル)、生理学的薬物速度論、モーメント解析法)【1、2、3、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)薬物動態パラメータを利用した薬物投与計画【2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)治療薬物モニタリング(TDM)の意義・測定法【3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)ポピュレーションファーマコキネティクス(母集団薬物速度論)【3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)薬物動態学/薬力学解析(PK/PD解析)【3、4】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-5 製剤化のサイエンス						
D-5-1 薬物と製剤の性質						
(1)固形材料の物性と関連する基本的理論【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)半固形材料、液状材料の物性と製剤化に関連する基本的理論【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)分散系材料の物性と製剤化に関連する基本的理論【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)薬物の安定性と安定化に関連する基本的理論【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-5-2 製剤設計						
(1)製剤の種類と特性及び取扱い【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)医薬品添加物、製剤機械及び製造工程、及び製剤試験法【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)医薬品の容器、包装【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)異なる製剤の生物学的同等性【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-5-3 Drug Delivery System(DDS：薬物送達システム)						
(1)DDSの概念と技術【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)DDSが応用されている代表的な医薬品製剤と適用疾患【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
D-6 個別最適化の基本となる調剤						
D-6-1 処方箋に基づいた調剤						
(1)処方箋に記載すべき事項・内容と調剤に関する基本的事項【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)適正な投与量、投与方法、投与剤形の評価と疑義照会【1、2】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)内用剤の調剤(計数調剤、計量調剤)と服薬指導【1、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)注射剤と輸液の調剤と服薬指導【1、3】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)外用剤の調剤と服薬指導【1、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)無菌調製、抗悪性腫瘍(がん)薬調製、調剤薬監査【1、3】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

E 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E-1 健康の維持・増進をはかる公衆衛生						
E-1-1 環境要因によって起こる疾病の予防と健康被害の防止						
(1) 社会や集団における有害事象の発生とリスク因子との因果関係を解析する疫学【1】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 環境要因によって起こる疾病や健康被害【2】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 環境要因によって起こる疾病や健康被害の基本的な予防法・防止法【2】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 保健統計及び疫学的手法を用いた疾病や健康被害の背景や原因の解析【2、3】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 疾病や健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【3】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 疾病や健康被害の予防・防止に係る規制・制度や関連法規【3】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 社会的要因によって起こる職業病やストレス関連障害等に対する予防策・防止策【3】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 環境要因によって起こる疾病や健康被害に関するリスクコミュニケーション【4】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-1-2 人の健康を脅かす感染症の予防とまん延防止						
(1) 感染症の病原体とその感染経路【1】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 感染症に対する基本的な予防法【1】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 保健統計及び疫学的手法を用いた感染症発生の背景や原因の解析【1、2】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 感染症の発生・まん延に関する社会的な影響・国際的な動向【2】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 感染症の予防・まん延防止に係る規制・制度や関連法規【2】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) ワクチンにより感染症を予防する意義と課題、副反応への対応【2】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 発生した感染症に対する予防策・まん延防止策【2】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 薬剤師によるワクチン接種のコーディネート【2、3】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9) 感染症に関するリスクコミュニケーション【3】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-2 健康の維持・増進につながる栄養と食品衛生						
E-2-1 食品機能と疾病の予防・治療における栄養						
(1) 健康の維持・増進における栄養の役割・機能【1】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 栄養素の過不足によって起こる疾病や健康障害【1、2、3】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 食薬区分【1、2、3】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 疾病の予防や治療における栄養管理【1、2、3】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 特別用途食品と保健機能食品【1、2】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 保健統計及び疫学的手法を用いた国民健康・栄養調査と解析【1、2、3】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-2-2 健康をまもる食品衛生						
(1) 食品の変質や食品汚染による健康被害と食中毒【1】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 食品の変質、食品汚染による健康被害や食中毒に対する基本的な対処法【1、2】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 食品添加物の働きと安全性【1】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 食物アレルギーによる健康被害と安全性管理【1】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 遺伝子組換え食品の安全性管理【1】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 食品の安全性確保のためのリスク分析の意義【1、2】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 食品の安全性管理に係る規制・制度や関連法規【2】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 食品に起因する健康被害に関する社会的な影響の解析【2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9) 食品に起因する健康被害に対する防止策【2】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10) 食品の安全性に関するリスクコミュニケーション【3】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

E 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E-3 化学物質の管理と環境衛生						
E-3-1 人の健康に影響を及ぼす化学物質の管理と使用						
(1) 健康に影響を及ぼす様々な化学物質の体内動態と毒性【1】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 保健統計及び疫学的手法を用いた化学物質による健康被害の背景や原因の解析【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 化学物質の適正な管理・使用、保管・廃棄方法及び安全性評価【1】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 化学物質による健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【2】				環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 化学物質の管理・使用・廃棄や、薬物乱用、死因究明に係る規制・制度や関連法規【2】				環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 化学物質による健康被害に対する防止策【2】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 死因究明における毒性学・法中毒学的アプローチ【3】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 化学物質による健康被害に関するリスクコミュニケーション【4】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-3-2 生活環境・自然環境の保全						
(1) 環境汚染や生活環境の悪化による人の健康や生態系に対する影響【1】			薬毒物代謝学 衛生化学実習	環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 電離放射線・電磁波の健康に対する影響【1】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 保健統計及び疫学的手法を用いた環境汚染や環境の悪化による健康被害の背景や原因の解析【1、2】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【2】				環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 環境保全に係る規制・制度や関連法規【2】				環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害に対する防止策・対応策【2】			衛生化学実習	環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害や生態系に対する有害な影響に関するリスクコミュニケーション【3】			薬毒物代謝学	環境衛生学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

F 臨床薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
F-1 薬物治療の実践						
F-1-1 薬物治療の個別最適化						
(1)適正使用のサイクル、個別最適化、有効性モニタリング、安全性モニタリング、疑義照会・処方提案【1】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(2)薬物治療を個別最適化するために必要な身体的、心理的、社会的患者背景【2、7】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(3)薬学的管理に必要な身体所見の観察・測定・評価(フィジカルアセスメント)【2、5、7】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(4)診療ガイドライン・治療ガイドや医薬品リスク管理計画(RMP)等適切な情報の収集と評価【3、7】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(5)主な疾患における薬物治療の計画、立案(薬剤選択、用量設定、剤形選択、投与経路、服薬指導・配慮すべき点、薬物血中濃度モニタリング、有効性・安全性モニタリング等)【2、3、4、5、6、7、8】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(6)患者背景と医療安全を踏まえた処方監査・解析と疑義照会・処方提案【6】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(7)患者背景と製剤の特性を踏まえた計数・計量調剤及び注射薬無菌調製と調剤薬(注射薬含む)監査【6】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(8)患者の状態と背景及び薬剤の特徴(製剤の性質等)を考慮した調剤上の工夫【7、8】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(9)問題指向型システム(POS)とSOAP形式等による適切な記録【5、6】				個別化医療薬学演習		
(10)患者情報に基づく薬物治療上の問題点の抽出とその適切な評価及び薬学的管理の実践【7、8】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(11)患者の状態を考慮した栄養管理、口腔ケア、生活指導【7、8】				個別化医療薬学演習		
(12)患者の継続的なフォローアップ、薬物治療開始後からの継続的なモニタリングの実施、薬物治療の効果と副作用の評価【7、8】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(13)様々な背景を有する患者の薬物治療の個別最適化【7、8、9】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(14)複数の疾患が併存する場合の適切な薬物治療への対応【7、8、10】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(15)多数の併用薬が混在する(ポリファーマシー)患者の薬物治療の再検討、改善【7、8、10】				個別化医療薬学演習		
(16)在宅医療やチーム医療等の多職種連携の現場における薬物治療【7、8、11】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(17)プロトコールに基づく薬物治療マネジメント【9、10、11】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
F-2 多職種連携における薬剤師の貢献						
F-2-1 多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮						
(1)多様な医療チームの目的と構成する各職種の役割と責務【1、8】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)周術期、救急、集中治療等における医療チームでの薬学的管理の実践【1、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)病院と地域の医療連携における具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)【1、2、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)地域包括ケアシステムにおける医療、保健、介護、福祉に関わる各職種の役割と責務【1、2、3、8】						
(5)施設間連携や地域の医療、保健、介護、福祉における連携に必要な関連制度とその実施【2、3】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)在宅療養支援における薬学的指導と関連多職種との情報共有【2、3、4】						
(7)薬局(地域連携薬局、専門医療機関連携薬局、健康サポート薬局等)と医療機関、地域の介護・福祉関連施設との連携【1、2、3、4】						
(8)多職種の視点を踏まえた患者の全人的評価【3、4】						
(9)連携する職種間の相互尊重に基づくコミュニケーション【4、5、6、7】	腫瘍感染症薬学入門					
(10)チームの目標達成のために薬剤師の果たす役割の理解と実践【4、5、6、7、8】	腫瘍感染症薬学入門					
F-3 医療マネジメント・医療安全の実践						
F-3-1 医薬品の供給と管理						
(1)医薬品の発注、供給、保管、廃棄、記録及びその手続きと在庫管理【1】						
(2)特別な注意を要する医薬品(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤原料、ハイリスク薬、抗悪性腫瘍薬、特定生物由来製品、放射性医薬品等)の管理と取扱い【1】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)院内製剤、薬局製造販売医薬品等の品質管理と取扱い【2】						
F-3-2 医薬品情報の管理と活用						
(1)医療機関や地域の特性等を考慮した医薬品の情報源・情報媒体の選択と利用【1】		医療情報学				
(2)医療環境に応じた医薬品情報の伝達と周知、その方法【1】		医療情報学				
(3)医薬品の安全性情報の収集と報告及び緊急情報(安全性情報、回収・製造中止情報等)への対応【2】		医療情報学				
(4)医療現場における根拠に基づく医療(EBM)の実践、ビッグデータの活用【3、4】		医療情報学				
(5)有効かつ安全で経済的な医薬品の使用方針と、医薬品の適正な採用、採用中止等の流れ【3】		医療情報学				
(6)医薬品適正使用の推進と安全対策の立案【4】		医療情報学				
(7)医療機関等における標準的な薬剤選択の方針(フォーミュラリ)【5】						
F-3-3 医療安全の実践						
(1)ヒューマンエラーと組織的なリスク【1、2】						
(2)医療安全確保のための改善を目的とした報告・事例(インシデント・アクシデント事例等)の把握【1、3】						
(3)医療安全管理者(リスクマネージャー)の役割と、医療安全対策に関するマニュアル・指針の把握【1、2】						
(4)医療事故発生時の対応(報告・連絡・相談等)と記録の方法【1、3】						
(5)医薬品の安全管理体制(未承認・禁忌・適応外医薬品の使用に関するモニタリングを含む医薬品安全管理責任者等の役割)【1、2】						
(6)多職種連携における各職種の医療安全業務内容と役割【1、2】						

F 臨床薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
F-3-4 医療現場での感染制御						
(1)標準予防策(手指衛生、個人防護具(手袋・マスク等)の適切な使用)【1】、【2】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(2)代表的な感染症の予防策の把握と適切な消毒薬の選択と使用【1】、【2】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(3)感染症発生時及び針刺し事故等の事例発生時における初期対応【1】、【3】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(4)施設内の感染症発生時の報告ルート、感染症法等を踏まえた保健所等への報告【1】、【3】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(5)施設内の感染制御管理体制と感染制御における多職種連携【1】、【2】、【3】、【4】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(6)新興・再興感染症等に対する対応【4】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
F-4 地域医療・公衆衛生への貢献						
F-4-1 地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献						
(1)健康相談、介護・生活相談等のファーストアクセスと薬局の役割【1】						
(2)食生活(栄養管理・健康食品等)や運動等(基本的な生活要因及び精神的要因)の評価・改善【1】		疾患食品衛生学				
(3)健康相談での情報収集・臨床判断とそれに対応するプライマリケアの地域住民への実践(受診勧奨、救急対応、一般用医薬品等の推奨、生活指導等)【1】						
(4)要指導医薬品・一般用医薬品、薬局製造販売医薬品、医療機器、衛生材料、特別用途食品、保健機能食品等を活用したセルフケア、セルフメディケーションの指導の実践【1】						
(5)地域住民個々の健康維持・増進に寄与する活動(禁煙指導、口腔ケア、生活習慣病予防、プレコンセプションケア等)への参画【1】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)地域包括ケアを推進する介護予防・福祉に関する相談や地域連携活動への参画【2】						
(7)健康に関する科学的データ及び地域における医療、保健、介護、福祉等の疫学データの評価と活用【3】	腫瘍感染症薬学入門					
F-4-2 地域での公衆衛生、災害対応への貢献						
(1)地域住民の衛生管理(食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質・農業等の曝露や誤飲・誤食による中毒への対応、環境有害物質や有害生物の駆除等)【1】	腫瘍感染症薬学入門	疾患食品衛生学				
(2)地域における感染症予防、拡大防止等の対策と発生時の対応(感染症予防の啓発、消毒薬や衛生用品の供給確保と使用法の指導、ワクチン接種への主体的参画・貢献等)【1】、【2】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(3)学校薬剤師による学内環境の評価と指導【2】				環境衛生学		
(4)住民・児童生徒に向けた薬の正しい使い方や薬物乱用防止、アンチ・ドーピング活動、禁煙指導等に向けた教育・啓発活動や相談対応【2】						
(5)災害時を想定した業務継続計画(BCP)に基づく準備・災害時の初期対応(医薬品や衛生材料等の備蓄・供給等)、医療救済活動の心構え【3】						
(6)災害時を想定した、地域医薬品等供給体制の整備や指導(災害薬事コーディネーター等)の重要性と具体的役割【3】						
F-5 臨床で求められる基本的な能力						
F-5-1 医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢						
(1)患者・生活者の生活全般を広く観察・評価し、その人らしい人生を支える医療の観点からその人に薬剤師として何が出来るかに考える。【1】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)自らの健康管理に十分留意し、時間管理を徹底し、必要な業務に支障のないような生活態度への配慮を常に心がける。【2】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)医療人として守らなければならない法令を遵守し、法令の遵守ができていない事例などを見逃さず、その適切な解決に積極的に参画する。【2】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)患者・生活者、その家族、連携する多職種などで共有する個人情報、その保護と管理に十分留意する。【2】	腫瘍感染症薬学入門					
(5)薬剤師が臨床現場で担っている責務をよく観察し、考察し、自覚を深める。【2】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)生と死の現場で薬剤師として何が出来るかを考察する。【2】	腫瘍感染症薬学入門					
(7)医療・介護・福祉関係者及び患者・生活者、家族とコミュニケーションをとる機会を得て、ニーズを把握し、わかりやすく効果的に情報共有する。【3】	腫瘍感染症薬学入門					
(8)多職種連携の現場で薬剤師の担っている活動に参画する。【4】	腫瘍感染症薬学入門					
(9)自分が行った活動、調査、研修などは必ず記録を取り、振り返って、より有益な活動に結び付けるとともに、必要な時にすぐにその記録を提示する。【5】	腫瘍感染症薬学入門					
(10)進化する社会のコミュニケーションや情報関連ツールを適切に活用して、社会の変化に確実に即応するよう努力する。【5】	腫瘍感染症薬学入門					
(11)地域で必要だと考えられる情報、社会に公表した方が良いと考えられる情報を主体的に発信する。【6】	腫瘍感染症薬学入門					

Ⅶ. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム (24台)

G 薬学研究	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
G-1 薬学的課題の探究と薬学研究に取り組む姿勢						
G-1-1 薬学的課題発見に向けた批判的思考と俯瞰的思考						
(1) 薬学や医療に関する研究の学術的重要性や成果の社会的意義【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 科学的な推論と論証【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 科学的根拠に基づいた批判的思考と俯瞰的思考【1】、【2】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-1-2 薬学研究に取り組む姿勢						
(1) 学術研究を通して社会に貢献することの意義【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 研究に対する知的好奇心と新たな課題解決に向けたチャレンジ精神【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 研究に対する使命感・責任感【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 研究における不正行為(捏造、改ざん、盗用・剽窃等)の熟知【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(5) 研究の遂行における行動規範と研究倫理【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(6) 研究において遵守すべき法令や指針【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-2 研究の実践						
G-2-1 研究課題の設定と研究計画の立案						
(1) 薬学的課題に関する文献調査等の情報の収集・解析・評価【1】	薬学情報処理リテラシー演習			薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 研究課題の設定に向けた作業仮説の立案【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 作業仮説に基づいた研究課題の設定と推論・論証方法の考究【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 研究計画の立案による研究成果に至る科学的アプローチの考究【1】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-2-2 研究の実施と成果の解析・考察						
(1) 研究計画に沿った研究の実施【1】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 創造的思考による研究成果の解析と考察【2】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 研究成果の独創性、新規性、普遍性等の学術的意義と社会的波及効果の評価【2】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 自らの研究に関する卒業論文、学術論文等の作成と発表【2】、3】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(5) 研究成果に関する他者との討論【3】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ

薬学教育モデル・コアカリキュラム

(平成27年度～入学生対象)

A 基本事項		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)薬剤師の使命							
①医療人として							
1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学概論 早期臨床体験 I		コミュニケーション学			
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学概論		コミュニケーション学			
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学概論		コミュニケーション学			
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		薬学概論		コミュニケーション学			
②薬剤師が果たすべき役割							
1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)		薬学概論					
2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。		薬学概論					
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。		薬学概論					
4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。		薬学概論			薬事関係法規論		
5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。		薬学概論		医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。		薬学概論			薬学健康管理学		薬事・医事関係法規 総合講義
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。		薬学概論					
8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)		薬学概論					
③患者安全と薬害の防止							
1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)					実務実習事前学習 薬学演習		
2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。		薬学概論			薬事関係法規論 実務実習事前学習		
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。		薬学概論		医薬品開発・経済学 医療情報学	薬学疾患管理学 実務実習事前学習		
4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。		薬学概論			実務実習事前学習		
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)		薬学概論		医薬品安全性学			
6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。		薬学概論		医薬品安全性学			

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

A 基本事項	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
7 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品安全性学			
④薬学の歴史と未来						
1 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論		創薬化学I			
2 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論		創薬化学I			
3 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論			薬学健康管理学		
4 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論					
(2)薬剤師に求められる倫理観						
①生命倫理						
1 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
2 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
3 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
4 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学概論					
②医療倫理						
1 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学概論			薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
2 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
3 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学	調剤学総論		薬事・医事関係法規総合講義
③患者の権利						
1 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学概論		コミュニケーション学		実務実習	
2 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論	実務実習	
3 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学概論		医療情報学	薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	
4 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学概論		医療情報学	薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	
④研究倫理						
1 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論 薬学演習	薬学研究 I	薬事・医事関係法規総合講義 薬学研究 II
2 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論			薬学演習	薬学研究 I	薬事・医事関係法規総合講義 薬学研究 II
3 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学概論			薬学演習	薬学研究 I	薬学研究 II

A 基本事項		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3)信頼関係の構築							
①コミュニケーション							
1 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		薬学概論		コミュニケーション学			
2 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。		薬学概論		コミュニケーション学			
3 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。		薬学概論		コミュニケーション学			
4 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		薬学概論		コミュニケーション学			
5 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
6 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
7 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
8 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
9 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
②患者・生活者と薬剤師							
1 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。		薬学概論			実務実習事前学習	実務実習	
2 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)				コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
(4)多職種連携協働とチーム医療							
1 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
2 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
3 チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。		薬学概論 早期臨床体験 I			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
4 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)		早期臨床体験 I			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
5 チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)		早期臨床体験 I			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成							
①学習の在り方							
1 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)		薬学概論		感染症治療薬概論	薬学演習	薬学研究 I	総合薬学演習 薬学研究 II
2 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)		薬学概論		物理系実習 II	薬学演習	薬学研究 I	総合薬学演習 薬学研究 II
3 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)		薬学概論		物理系実習 II	薬学演習	薬学研究 I	総合薬学演習 薬学研究 II

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

A 基本事項		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
5 インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
②薬学教育の概要							
1 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
2 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
③生涯学習							
1 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論			調剤学総論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
2 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学概論			調剤学総論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
④次世代を担う人材の育成							
1 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学概論				薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	
2 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	薬学概論				薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ	

B 薬学と社会	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)人と社会に関わる薬剤師						
1人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。			コミュニケーション学			
2人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
3人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
4薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)				薬事関係法規論 実務実習事前学習	実務実習	
5倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)				薬事関係法規論 実務実習事前学習	実務実習 薬学研究 I	薬学研究 II
(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範						
①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範						
1 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
2 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
3 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
4 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
5 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
6 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
7 個人情報の取扱いについて概説できる	早期臨床体験 I					薬事・医事関係法規 総合講義
8 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる						薬事・医事関係法規 総合講義
②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範						
1 医薬品・医療機器法(現 薬事法)の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器)の定義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
2 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
3 治験の意義と仕組みについて概説できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
4 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
5 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
6 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
7 医薬品等の取扱いに関する医薬品・医療機器法(現 薬事法)の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
8 日本薬局方の意義と構成について説明できる			日本薬局方 I 日本薬局方 II	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

B 薬学と社会	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
9 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
10 健康被害救済制度について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
11レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
③特別な管理を要する薬物等に係る法規範						
1 麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
2 覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
3 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
(3)社会保障制度と医療経済						
①医療、福祉、介護の制度						
1 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
2 医療保険制度について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
3 療養担当規則について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
4 公費負担医療制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
5 介護保険制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
6 薬価基準制度について概説できる。			医薬品開発・経済学	薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
7 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			医薬品開発・経済学	薬物健康管理学 薬事関係法規論		臨床薬学総合講義 I
②医薬品と医療の経済性						
1 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
2 国民医療費の動向について概説できる。				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
3 後発医薬品とその役割について説明できる。			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
4 薬療法の経済評価手法について概説できる。			医薬品開発・経済学			臨床薬学総合講義 I
(4)地域における薬局と薬剤師						
①地域における薬局の役割						
1 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
2 医薬分業の意義と動向を説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義

B 薬学と社会		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3	かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義
4	セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	早期臨床体験 I			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
5	災害時の薬局の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義
6	医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義
②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師							
1	地域包括ケアの理念について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
2	在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
3	学校薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
4	地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I
5	地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規 総合講義 臨床薬学総合講義 I

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C1 物質の物理的性質	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)物質の構造						
①化学結合						
1 化学結合の様式について説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 共役や共鳴の概念を説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②分子間相互作用						
1 ファンデルワールス力について説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 静電相互作用について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 分散力について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 水素結合について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③原子・分子の挙動						
1 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる		薬学物理化学Ⅱ	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5 光の散乱および干渉について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6 結晶構造と回折現象について概説できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④放射線と放射能						
1 原子の構造と放射壊変について説明できる	薬学計算法	同位体化学		実務実習事前学習		
2 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
3 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
4 核反応および放射平衡について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		

		講義科目名					
C1 物質の物理的性質		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
5	放射線測定の原理と利用について概説できる		同位体化学		実務実習事前学習		
(2) 物質のエネルギーと平衡							
① 気体の微視的状態と巨視的状態							
1	ファンデルワールスの状態方程式について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2	気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3	エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
② エネルギー							
1	熱力学における系、外界、境界について説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2	熱力学第一法則を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3	状態関数と経路関数の違いを説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4	定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5	定容熱容量および定圧熱容量について説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6	エンタルピーについて説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③ 自発的な変化							
1	エントロピーについて説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2	熱力学第二法則を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3	熱力学第三法則を説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4	ギブズエネルギーについて説明できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5	熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる		薬学物理化学 I		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④ 化学平衡の原理							
1	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2	ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3	平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4	共役反応の原理について説明できる			薬学物理化学IV	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C1 物質の物理的性質	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑤相平衡						
1 相変化に伴う熱の移動について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 相平衡と相律について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 状態図について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
⑥溶液の性質						
1 希薄溶液の束一的性質について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 活量と活量係数について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4 イオン強度について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
⑦電気化学						
1 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2 電極電位(酸化還元電位)について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(3)物質の変化						
①反応速度						
1 反応次数と速度定数について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
2 微分型速度式を積分型速度式に変換できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
3 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
4 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
5 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
6 反応速度と温度との関係を説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
7 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
C2 化学物質の分析		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 分析の基礎							
①分析の基本							
1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ	物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		臨床検査学 物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ		臨床検査学 物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
(2) 溶液中の化学平衡							
①酸・塩基平衡							
1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
2. pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
3. 溶液のpHを測定できる。(技能)	薬学計算法	分析化学Ⅰ					
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
②各種の化学平衡							
1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
2. 沈殿平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
3. 酸化還元平衡について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
4. 分配平衡について説明できる。			日本薬局方Ⅱ 物理系実習Ⅱ	物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
(3) 化学物質の定性分析・定量分析							
①定性分析							
1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。			日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
2. 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
②定量分析(容量分析・重量分析)							
1. 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義
5. 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義			物理系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C2 化学物質の分析	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅰ	日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅰ	日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(4) 機器を用いる分析法						
①分光分析法						
1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法およびICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ			
②核磁気共鳴スペクトル測定法						
1. 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析法						
1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④X線分析法						
1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
⑤熱分析						
1. 熱重量測定法の原理を説明できる。			薬学物理化学Ⅳ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。			薬学物理化学Ⅳ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
(5) 分離分析法						
①クロマトグラフィー						
1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

		講義科目名					
C2 化学物質の分析		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)			日本薬局方Ⅱ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②電気泳動法						
	1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		生物系実習Ⅰ	日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(6) 臨床現場で用いる分析技術							
	①分析の準備						
	1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②分析技術						
	1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		同位体医療薬学	日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5. 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		同位体医療薬学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C3 化学物質の性質と反応	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 化学物質の基本的性質						
①基本事項						
1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	薬学化学入門 有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 基本的な有機反応(置換、付加、脱離)の特徴を理解し、分類できる。	有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。	薬学化学入門 有機薬化学I		化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②有機化合物の立体構造						
1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, trans)ならびにE, Z異性)について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
①アルカン						
1. アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルカンの構造異性体を図示することができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

C3 化学物質の性質と反応	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②アルケン・アルキン						
1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③芳香族化合物						
1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 芳香族性の概念を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(3) 官能基の性質と反応						
①概説						
1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機薬化学II		創薬化学I 創薬化学II 化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。			化学系実習I			
②有機ハロゲン化合物						
1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 脱離反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③アルコール・フェノール・エーテル						
1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II					化学系薬学総合講義
④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体						
1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学III 有機薬化学IV	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学IV	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C3 化学物質の性質と反応	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3. カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学Ⅳ	化学系実習Ⅲ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑤アミン						
1. アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学Ⅳ	創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑥電子効果						
1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅳ				化学系薬学総合講義
⑦酸性度・塩基性度						
1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅳ	化学系実習Ⅲ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。		有機薬化学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4) 化学物質の構造決定						
①核磁気共鳴 (NMR)						
1. ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②赤外吸収 (IR)						
1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析 (MS)						
1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) 説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④総合演習						
1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

		講義科目名					
C3 化学物質の性質と反応		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質							
①無機化合物・錯体							
1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	化学				化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		化学系実習I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 活性酸素と窒素化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		創薬化学I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	化学		創薬化学I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	化学				化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C4 生体分子・医薬品の化学による理解	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
① 医薬品の標的となる生体高分子の化学構造						
1. 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づく科学的な性質を説明できる。	生体機能分子学 I 生体機能分子学 II		創薬化学 I			化学系薬学総合講義
2. 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生体機能分子学 I 生体機能分子学 II		創薬化学 I			化学系薬学総合講義
② 生体内で機能する小分子						
1. 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2) 生体反応の化学による理解						
① 生体内で機能するリン、硫黄化合物						
1. リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。			創薬化学 I			化学系薬学総合講義
2. リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			創薬化学 I			化学系薬学総合講義
② 酵素阻害剤と作用様式						
1. 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学 I	化学系薬学特別講義		
2. 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学 I	化学系薬学特別講義		
3. 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学 I	化学系薬学特別講義		
③ 受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト						
1. 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学 I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④ 生体内で起こる有機反応						
1. 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			創薬化学 I			化学系薬学総合講義
2. 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。						化学系薬学総合講義
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
① 医薬品と生体分子の相互作用						
1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。			創薬化学 I	創薬化学 III		化学系薬学総合講義

		講義科目名					
C4 生体分子・医薬品の化学による理解		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	②医薬品の化学構造に基づく性質						
	1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親和性など）を説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	③医薬品のコンポーネント						
	1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	④酵素に作用する医薬品の構造と性質						
	1. ヌクレオチドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			化学系実習III	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	5. β-ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	6. ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質						
	1. カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I 創薬化学II	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	5. オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑥DNAに作用する医薬品の構造と性質						
	1. DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質						
	1. イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。		疾患薬理学 I		創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C5 自然が生み出す薬物	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)薬になる動植物						
①薬用植物						
1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)				化学系薬学特別講義		
3. 植物の主な内部形態について説明できる。	天然医薬資源学			化学系薬学特別講義		
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		
②生薬の基原						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③生薬の用途						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④生薬の同定と品質評価						
1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。			化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。			化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			化学系実習Ⅱ			
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ	化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2)薬の宝庫としての天然物						
①生薬由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②微生物由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C5 自然が生み出す薬物	2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③天然生物活性物質の取扱い						
	1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			化学系実習Ⅱ			
C5 自然が生み出す薬物	④天然生物活性物質の利用						
	1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

		講義科目名					
C6 生命現象の基礎		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)細胞の構造と機能						
	①細胞膜						
	1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生体機能分子学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	②細胞小器官						
	1. 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③細胞骨格						
	1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	(2)生命現象を担う分子						
	①脂質						
	1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	②糖質						
	1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③アミノ酸						
	1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ 食品栄養学	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	④タンパク質						
	1. タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑤ヌクレオチドと核酸						
	1. ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅰ	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑥ビタミン						
	1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ 食品栄養学		生物系薬学特別講義 衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑦微量元素						
	1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ 食品栄養学		衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑧生体分子の定性、定量						
	1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物系実習Ⅱ				

		講義科目名					
C6 生命現象の基礎		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3) 生命活動を担うタンパク質							
① タンパク質の構造と機能							
1. 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、肝臓タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。		生体機能分子学 I	人体生化学 I 人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
② タンパク質の成熟と分解							
1. タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。			人体生化学 II	創薬化学 I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。			人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ 酵素							
1. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		生体機能分子学 I	人体生化学 I 生物系実習 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。		生体機能分子学 I	人体生化学 I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		生体機能分子学 I	人体生化学 I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)			人体生化学 I 生物系実習 II				
④ 酵素以外のタンパク質							
1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。			人体生化学 I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。			人体生化学 I		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(4) 生命情報を担う遺伝子							
① 概論							
1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。			人体生化学 II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。			人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
② 遺伝情報を担う分子							
1. 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。		生体機能分子学 II	人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。		生体機能分子学 II	人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. RNA の種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など)と機能について説明できる。			人体生化学 II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ 遺伝子の複製							
1. DNA の複製の過程について説明できる。		生体機能分子学 II	人体生化学 II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C6 生命現象の基礎	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
④転写・翻訳の過程と調節						
1. DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 転写因子による転写制御について説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤遺伝子の変異・修復						
1. DNAの変異と修復について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥組換えDNA						
1. 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。	生体機能分子学Ⅱ	生物系実習Ⅰ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子改変生物(遺伝子導入次損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。		生物系実習Ⅰ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
①概論						
1. エネルギー代謝の概要を説明できる。		人体生化学Ⅰ 食品栄養学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②ATPの産生と糖質代謝						
1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. ケエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 糖新生について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③脂質代謝						
1. 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④飢餓状態と飽食状態						
1. 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
C6 生命現象の基礎		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑤その他の代謝系							
1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。			人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。			人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. ペントースリン酸回路について説明できる。			人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達							
①概論							
1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。			人体生化学II	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞内情報伝達							
1. 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。			人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。			人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞間コミュニケーション							
1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(7)細胞の分裂と死							
①細胞分裂							
1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。				人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。					生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞死							
1. 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。				人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③がん細胞							
1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。				人体機能調節学	疾患薬理学IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。				人体機能調節学 環境衛生学I	疾患薬理学IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)人体の成り立ち						
①遺伝						
1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子多型について概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②発生						
1. 個体発生について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③器官系概論						
1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④神経系						
1. 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ 人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤骨格系・筋肉系						
1. 骨、筋肉について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床検査学 病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥皮膚						
1. 皮膚について概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦循環器系						
1. 心臓について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. リンパ管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧呼吸器系						
1. 肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑨消化器系							
1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学 I			病態・薬物治療学 II	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学 I			病態・薬物治療学 II	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑩泌尿器系							
1. 泌尿器系について概説できる。		機能形態学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑪生殖器系							
1. 生殖器系について概説できる。	機能形態学 I				生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑫内分泌系							
1. 内分泌系について概説できる。	機能形態学 I		人体機能調節学		臨床検査学 病態・薬物治療学 IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑬感覚器系							
1. 感覚器系について概説できる。		機能形態学 II			病態・薬物治療学 IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑭血液・造血器系							
1. 血液・造血器系について概説できる。		機能形態学 II			臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2) 生体機能の調節							
①神経による調節機構							
1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 I			疾患薬理学 II	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 I			疾患薬理学 II	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 I			疾患薬理学 II	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		機能形態学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②ホルモン・内分泌系による調節機構							
1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 I		人体機能調節学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③オータコイドによる調節機構							
1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 I				生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④サイトカイン・増殖因子による調節機構							
1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学 II	人体機能調節学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤血圧の調節機構							
1. 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥血糖の調節機構							

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

G7 人体の成り立ちと生体機能の調節		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
1.	血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ		人体機能調節学	臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦体液の調節							
1.	体液の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2.	尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧体温の調節							
1.	体温の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑨血液凝固・線溶系							
1.	血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑩性周期の調節							
1.	性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

G8 生体防御と微生物	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 身体をまもる						
① 生体防御反応						
1 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
② 免疫を担当する組織・細胞						
1 免疫に関する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ 分子レベルで見た免疫のしくみ						
1 自然免疫および獲得免疫における異物認識を比較して説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2 MHC抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3 T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
① 免疫応答の制御と破綻						
1 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2 アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4 臓器移植と免疫応答との関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学特別講義
(3) 微生物の基本						
① 総論						

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

C8 生体防御と微生物	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細菌						
1. 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物学 生物系実習 I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学 生物系実習 I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③ウイルス						
1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④真菌・原虫・蠕虫						
1. 真菌の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤消毒と滅菌						
1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		同位体化学 微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		同位体化学 微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥検出方法						
1. グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
2. 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習 I				
(4) 病原体としての微生物						
①感染の成立と共生						
1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②代表的な病原体						
1. DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
C8 生体防御と微生物		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	2. RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジエジュニコリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D1	健康						
	(1) 社会・集団と健康						
	①健康と疾病の概念						
	1 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	②保健統計						
	1 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	③疫学						
	1 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4 リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	(2) 疾病の予防						
	①疾病の予防とは						
	1 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	②感染症とその予防						
	1 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4 予防接種の意義と方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	③生活習慣病とその予防						
	1 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義	
	2 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義	
	3 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）	食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義	

		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D1	健康						
	④母子保健						
	1新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	⑤労働衛生						
	1代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2労働衛生管理について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	(3) 栄養と健康						
	①栄養						
	1五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	5エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	6日本人の食事摂取基準について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	7栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	8疾病治療における栄養の重要性を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	②食品機能と食品衛生						
	1炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。				衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	5代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	6特別用途食品と保健機能食品について説明できる。		食品衛生学 食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	7食品衛生に関する法的規制について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

D1 健康		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
③食中毒と食品汚染							
1代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

D2 環境	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
①化学物質の毒性						
1 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			環境衛生学I 生物系実習Ⅲ	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
6 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
7 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
②化学物質の安全性評価と適正使用						
1 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			環境衛生学I			
2 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
③化学物質による発がん						
1 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
④放射線の生体への影響						
1 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
2 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。		同位体化学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
3 電離放射線を防御する方法について概説できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
4 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体化学		環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

D2 環境	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(2) 生活環境と健康						
①地球環境と生態系						
1地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
②環境保全と法的規制						
1典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2環境基本法の理念を説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
③水環境						
1原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
水の浄化法、塩素処理について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習Ⅲ	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習Ⅲ	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
6富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
④大気環境						
1 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
⑤室内環境						
1 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習Ⅲ	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 室内環境と健康との関係について説明できる。			生物系実習Ⅲ	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

		講義科目名					
D2 環境		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	⑥廃棄物						
	1 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	2 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	3 マニフェスト制度について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

		講義科目名					
E 医療薬学、E1 薬の作用と体の変化		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E1 薬の作用と体の変化							
(1) 薬の作用							
①薬の作用							
1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。			疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
2. アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。			疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。			疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。			疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【2細胞内情報伝達】1.~5.参照)			疾患薬理学 I		医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I
6. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。				薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
7. 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。				薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		薬科処方解析 臨床薬学総合講義 I
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)				薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		薬科処方解析 臨床薬学総合講義 I
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。			疾患薬理学 I				
②動物実験							
1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)				生物系実習 IV			
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				生物系実習 IV			
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)				生物系実習 IV			
③日本薬局方							
1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			疾患薬理学 I				
(2) 身体の病的変化を知る							
①症候							
1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害				医薬品安全性学 病態・薬物治療学 I 病態・薬物治療学 II	病態・薬物治療学 III 病態・薬物治療学 IV 疾患薬理学 IV 医療薬学特別講義 II		薬科処方解析学 医療薬学総合講義 I

E 医療薬学、E1 薬の作用と体の変化	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
②病態・臨床検査						
1尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
6. 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
(3)薬物治療の位置づけ						
1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学
(4)医薬品の安全性						
1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)					実務実習	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
①自律神経系に作用する薬						
1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 神経筋に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療						
1. 知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
4. 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療						
1. 全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		
4. 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
10. 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11. 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物実習Ⅳ			
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論
14. 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ			
(2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
①抗炎症薬						
1. 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 創傷治癒の過程について説明できる。				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬・病態・治療						
1. アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。Stevens-Johnson (ステイブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6. 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、Ⅰ型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）シェーグレン症候群			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③骨・関節・カルシウム代謝の疾患薬、病態、治療						
1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
①循環器系疾患の薬、病態、治療						
1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（VF）、房室ブロック、QT 延長症候群			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

		講義科目名					
E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	5. 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系実習Ⅳ			
②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療							
	1. 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）【E2 (7)】【②悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療							
	1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6. 以下の生殖系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の生殖系疾患について説明できる。異常妊娠、異常分娩、不妊症				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 循環系・泌尿器系・生殖系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4)呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
①呼吸器系疾患の薬、病態、治療						
1. 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②消化器系疾患の薬、病態、治療						
1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 機能的消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

講義科目名						
E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③化学構造と薬効						
1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
①代謝系疾患の薬、病態、治療						
1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②内分泌系疾患の薬、病態、治療						
1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について説明できる。先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③化学構造と薬効						
1. 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
①眼疾患の薬、病態、治療						
1. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4. 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		疾患薬理学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②耳鼻咽喉の疾患の薬、病態、治療						
1. めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③皮膚疾患の薬、病態、治療						
1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。[E2(7)】【⑤アレルギー疾患の薬、病態、治療】				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。[E2(7)】【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の疾患について概説できる。 尋麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(7)病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
①抗菌薬						
1. 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST 合剤を含む)、その他の抗菌薬			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	衛生薬学特別講義 生物系薬学特別講義		衛生薬学総合講義 生物系薬学総合講義
②抗菌薬の耐性						
1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細菌感染症の薬、病態、治療						
1. 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎)			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

		講義科目名					
E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4. 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等				病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癬、毛嚢炎、ハンセン病					医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)					医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等				感染症治療薬概論	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症					医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療							
1. ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)				感染症治療薬概論 病態・薬物治療学Ⅱ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クローンフェルトーヤコブ)病				病態・薬物治療学Ⅱ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑤真菌感染症の薬、病態、治療							
1. 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		
2. 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症				病態・薬物治療学Ⅰ	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療							
1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢				病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。回虫症、蛔虫症、アニサキス症			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑦悪性腫瘍						
1. 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			病態・薬物治療学Ⅰ	臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			病態・薬物治療学Ⅰ			医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療						
1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			人体機能調節学 病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 代表的ながん化学療法レジメン(FOLFFOX 等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				創薬化学Ⅲ 疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病(ATL)				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12. 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
13. 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑨がん終末期医療と緩和ケア						
1. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。			病態・薬物治療学 I	疾患薬理学IV		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
2. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学 I	疾患薬理学IV		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
⑩化学構造と薬効						
1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
①組換え体医薬品						
1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②遺伝子治療						
1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞、組織を利用した移植医療						
1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品・セルフメディケーション						
1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
2. 一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類(第一類、第二類、第三類)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
4. 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				薬学健康管理学	実務実習	
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
6. 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
7. 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E 医療薬学、E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
8. 一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義 I
(10) 医療の中の漢方薬						
① 漢方薬の基礎						
1. 漢方の特徴について概説できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保険機能食品などの相違について説明できる。	天然医薬資源学			漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
② 漢方薬の応用						
1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		生薬学I		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③ 漢方薬の注意点						
1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		生薬学I 生薬学II		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(11) 薬物療法の最適化						
① 総合演習						
1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習		実務実習事後学習
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習		実務実習事後学習
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習		実務実習事後学習

		講義科目名					
E3 薬物治療に役立つ情報		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1) 医薬品情報						
	①情報						
	1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	3. 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	②情報源						
	1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	4. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	5. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	6. 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	③収集・評価・加工・提供・管理						
	1. 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	2. MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	④EBM(Evidence-Based Medicine)						
	1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
	2. 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E3 薬物治療に役立つ情報	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3(1)【3収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑤生物統計						
1. 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
6. 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
7. 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑥臨床研究デザインと解析						
1. 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
4. 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
6. 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
7. 統計解析時の注意点について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
8. 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用的エンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
⑦医薬品の比較・評価						
1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II

E3 薬物治療に役立つ情報	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義 I		医療薬学総合講義 II 臨床薬学総合講義 II
(2) 患者情報						
①情報と情報源						
1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
②収集・評価・管理						
1. 問題志向型システム(POS)を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. SOAP 形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A(2)【3患者の権利】参照)			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
(3) 個別化医療						
①遺伝的素因						
1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など)について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
②年齢的要因						
1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
③臓器機能低下						
1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
④その他の要因						
1. 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E3 薬物治療に役立つ情報	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3. 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
⑤個別化医療の計画・立案						
1. 個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II
2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 II

E4 薬の生体内運命	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)薬物の体内動態						
①生体膜透過						
1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
②吸収						
1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 初回通過効果について説明できる。			薬物動態理論			臨床薬学総合講義 I
③分布						
1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I 医療薬学総合講義 II
6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
④代謝						
1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	薬物送達学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
⑤排泄						
1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E4 薬の生体内運命		講義科目名				
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
(2) 薬物動態の解析						
①薬物速度論						
1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
5. 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義 I		臨床薬学総合講義 I
6. 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD 解析)について概説できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計						
1. 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
2. TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I
4. ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義 I

		講義科目名					
E5 製剤化のサイエンス		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 製剤の性質							
① 固形材料							
1 粉体の性質について説明できる。				物理薬剤学 製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解度について説明できる。【C2(2)【1酸・塩基平衡】1.及び【2各種の化学平衡】2.参照】	薬学計算法			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
5 固形材料の溶解度や溶解度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
② 半固形・液状材料							
1 流動と変形(レオロジー)について説明できる。				物理製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。				物理製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
③ 分散系材料							
1 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。【C2(2)【2各種の化学平衡】4.参照】				物理薬剤学 物理系実習II	医療薬学特別講義I		
2 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
3 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
4 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
④ 薬物及び製剤材料の物性							
1 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。				物理薬剤学 製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 薬物の安定性(反応速度、複合反応などの)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。【C1(3)【1反応速度】1.7.参照】	薬学計算法			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
(2) 製剤設計							
① 代表的な製剤							
1 製剤化の概要と意義について説明できる。				製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。				製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

E5 製剤化のサイエンス	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
5 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
6 その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②製剤化と製剤試験法						
1 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
2 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I 医療薬学総合講義II
③生物学的同等性						
1 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
①DDSの必要性						
1 DDS の概念と有用性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
2 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。【プロドラッグについては、E4(1)【4代謝】4.も参照】				薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②コントロールドリリース(放出制御)						
1 コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
3 コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
③ターゲティング(標的指向化)						
1 ターゲティングの概要と意義について説明できる				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
3 ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
④吸収改善						
1 吸収改善の概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
3 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1) 薬学臨床の基礎							
① 早期臨床体験							
1 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する	早期臨床体験 I						
2 地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。	早期臨床体験 I						
3 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。		早期臨床体験 II			実務実習事前学習		
② 臨床における心構え							
1 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。					実務実習事前学習	実務実習	
2 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる					実務実習事前学習	実務実習	
3 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する					実務実習事前学習	実務実習	
4 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する						実務実習	臨床薬学総合講義 II
5 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する						実務実習	臨床薬学総合講義 II 実務実習事後学習
6 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。						実務実習	臨床薬学総合講義 II 実務実習事後学習
7 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する						実務実習	臨床薬学総合講義 II 実務実習事後学習
③ 臨床実習の基礎							
1 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	薬学概論				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義 II
2 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。					薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義 II
3 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	薬学概論				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義 II
4 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	薬学概論				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義 II
5 前) 薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。					薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義 II
6 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
7 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					薬学疾患管理学	実務実習	実務実習事後学習
8 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。						実務実習	実務実習事後学習
9 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						実務実習	実務実習事後学習
10 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。						実務実習	実務実習事後学習
11 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。						実務実習	実務実習事後学習

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
12	外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
13	保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
14	薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
15	来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。					実務実習	実務実習事後学習
(2) 処方せんに基づく調剤							
①法令・規則等の理解と遵守							
1 前)	調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前)	法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前)	保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
②処方せんと疑義照会							
1 前)	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前)	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				薬学疾患管理学 実務実習事前学習 調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前)	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				薬学疾患管理学 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前)	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前)	処方せん等に基づき疑義照会ができる。				薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前)	処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前)	注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
9 前)	処方せんの正しい記載方法を例示できる				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
10 前)	薬歴、診療録、患者の状態から処方妥当であるか判断できる					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
11 前)	薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
③処方せんに基づく医薬品の調製							
1 前)	薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。	薬学計算法			実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	薬学計算法			薬学疾患管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。	薬学計算法				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。	薬学計算法				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	薬学計算法				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	薬学計算法				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。	薬学計算法				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる	薬学計算法				薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
9 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。	薬学計算法					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
10 適切な手順で後発医薬品を選択できる	薬学計算法					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
11 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。	薬学計算法					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
12 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる	薬学計算法					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
13 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。	薬学計算法					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
14 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる	薬学計算法				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
15 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	薬学計算法				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
16 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。	薬学計算法				調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
17 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる	薬学計算法					実務実習	実務実習事後学習
18 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。	薬学計算法					実務実習	実務実習事後学習
19 調製された薬剤に対して、監査が実施できる	薬学計算法					実務実習	実務実習事後学習
④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育							
1 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。					実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。					実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。					実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。					実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。					実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

F 薬学臨床	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる				実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる				調剤学総論 薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
9 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
10 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
11 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
12 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
13 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
14 お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
15 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
⑤医薬品の供給と管理						
1 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。		同位体医療薬学		調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		同位体医療薬学		調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
9 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。					実務実習	実務実習事後学習
10 医薬品の適切な在庫管理を実施する					実務実習	
11 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
12 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の適切な管理と取り扱いができる。					実務実習	実務実習事後学習
13 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する					実務実習	

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑥安全管理							
1 前)	処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前)	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前)	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前)	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前)	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前)	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。					実務実習	
9	調剤ミス防止のために工夫されている事項を具体的に説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
10	施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる					実務実習	実務実習事後学習
11	施設内の安全管理指針を遵守する					実務実習	実務実習事後学習
12	施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する					実務実習	実務実習事後学習
13	臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる					実務実習	実務実習事後学習
14	院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる					実務実習	実務実習事後学習
(3)薬物療法の実践							
①患者情報の把握							
1 前)	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前)	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前)	基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5	基本的な医療用語、略語を適切に使用できる				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6	患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
7	患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
②医薬品情報の収集と活用							
前)	薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2	施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3	薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4	医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5	安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6	緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)							
1 前)	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				疾患薬理学Ⅳ 臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前)	病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				疾患薬理学Ⅳ 臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前)	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前)	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前)	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前)	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				疾患薬理学Ⅳ 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7	代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
8	治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
9	患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
10	処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
11	入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
12	アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
13	処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
14	処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)							

F 薬学臨床	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
1 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学
2 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	薬科処方解析学
3 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学
4 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
5 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案ができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
6 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
7 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
8 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
9 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
10 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
11 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
12 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
13 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
(4) チーム医療への参画						
① 医療機関におけるチーム医療						
1 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				薬学疾患管理 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる					実務実習	実務実習事後学習
5 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL 等)の情報を共有する。					実務実習	実務実習事後学習
6 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する					実務実習	実務実習事後学習
7 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する					実務実習	実務実習事後学習

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

F 薬学臨床	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
8 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。					実務実習	実務実習事後学習
9 病院内の多様な医療チーム (IGT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。					実務実習	実務実習事後学習
②地域におけるチーム医療						
1前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
4 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画						
①在宅 (訪問) 医療・介護への参画						
1 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
5 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。					実務実習	実務実習事後学習
6 在宅患者の病状 (症状、疾患と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への						
1 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等) について説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 学校薬剤師の業務を体験する。					実務実習	
4 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等) における薬剤師活動を体験する。					実務実習	
③プライマリケア、セルフメディケーションの実践						
1 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前) 代表的な症候に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
5	薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる					実務実習	実務実習事後学習
6	来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。					実務実習	実務実習事後学習
7	来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる					実務実習	実務実習事後学習
8	選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる					実務実習	実務実習事後学習
9	疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。					実務実習	
④災害時医療と薬剤師							
1 前)	災害時医療について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	
2	災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
3	災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する					実務実習	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表 (23台以前)

		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
G 薬学研究							
(1) 薬学における研究の位置づけ							
	1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究 II
	2. 研究には自立性と独創性が求められることを知る。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究 II
	3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究 II
	4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究 II
(2) 研究に必要な法規範と倫理							
	1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)-4-3 再掲	薬学概論			総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
(3) 研究の実践							
	1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II
	6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				総合薬学演習 (含む薬学研究基礎)	薬学研究 I	薬学特別研究 薬学研究 II

実務実習モデル・コアカリキュラム

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>教育目標(一般目標・到達目標)</p> <p>(I) 実務実習事前学習 一般目標： 卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 事前学習を始めるにあたって 一般目標： 事前学習に積極的に取り組むために、病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解する。</p> <p>《薬剤師業務に注目する》 到達目標： 1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。 2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。 3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)</p> <p>《チーム医療に注目する》 到達目標： 4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。 5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。 △6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)</p> <p>《医薬分業に注目する》 到達目標： 7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。</p> <p>(2) 処方せんと調剤 一般目標： 医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《処方せんの基礎》 到達目標： 1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。 2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。 3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。 4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。 5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能) 6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。</p> <p>《医薬品の用法・用量》 到達目標： 7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。 8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能) 9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。 △10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能) 11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。</p> <p>《服薬指導の基礎》 到達目標： 12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。</p> <p>《調剤室業務入門》 到達目標： △13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能) △14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能) △15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能) △16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能) △17. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)</p>				実務実習事前学習			
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>(3) 疑義照会 一般目標： 処方せん上の問題点が指摘できるようになるために、用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき事項に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《疑義照会の意義と根拠》 到達目標： 1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。 2. 代表的な配合変化の組み合わせとその理由を説明できる。 △3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能) 4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。</p> <p>《疑義照会入門》 到達目標： △5. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を認識する。(態度) 6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。 7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。 8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。 9. 疑義照会の流れを説明できる。 △10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)</p> <p>(4) 医薬品の管理と供給 一般目標： 病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射剤などの取扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>《医薬品の安定性に注目する》 到達目標： 1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。 2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。</p> <p>《特別な配慮を要する医薬品》 到達目標： 3. 毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。 4. 麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。 5. 血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。 6. 輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。 7. 代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。 8. 生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。 △9. 麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能) △10. 代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。 △11. 放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。</p> <p>《製剤化の基礎》 到達目標： △12. 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 △13. 薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 △14. 代表的な院内製剤を調製できる。(技能) △15. 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能) △16. 抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)</p> <p>《注射剤と輸液》 到達目標： 17. 注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。 △18. 代表的な配合変化を検出できる。(技能) 19. 代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。 △20. 体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)</p> <p>《消毒薬》 到達目標： 21. 代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。 22. 消毒薬調製時の注意点を説明できる。</p>				実務実習事前学習			
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>(5) リスクマネジメント 一般目標： 薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようになるために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《安全管理に注目する》 到達目標 1. 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。 2. 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。 3. 院内感染の回避方法について説明できる。</p> <p>《副作用に注目する》 到達目標： 4. 代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。</p> <p>《リスクマネジメント入門》 到達目標： 5. 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。 △6. リスクを回避するための具体策を提案する。(態度) △7. 事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)</p> <p>(6) 服薬指導と患者情報 一般目標： 患者の安全確保とQOL向上に貢献できるようになるために、服薬指導などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《服薬指導に必要な技能と態度》 到達目標： 1. 患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。 2. 代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。 3. 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。 △4. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度) △5. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度) △6. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度) 7. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。</p> <p>《患者情報の重要性に注目する》 到達目標： 8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。 △9. 患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。</p> <p>《服薬指導入門》 到達目標： △11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能) △12. 共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度) △13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能) △14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)</p> <p>(7) 事前学習のまとめ 一般目標： 病院実務実習、薬局実務実習に先立って大学内で行った事前学習の効果を高めるために、調剤および服薬指導などの薬剤師職務を総合的に実習する。</p>				実務実習事前学習			
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		
					実務実習事前学習		

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
<p>(Ⅱ) 病院実習</p> <p>一般目標： 病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 病院調剤を実践する 一般目標： 病院において調剤を通して患者に最善の医療を提供するために、調剤、医薬品の適正な使用ならびにリスクマネージメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《病院調剤業務の全体の流れ》 到達目標： 1. 患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。 2. 病院内での患者情報の流れを図式化できる。 3. 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 4. 薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。 5. 処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。 6. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。</p> <p>《計数・計量調剤》 到達目標： 7. 処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる。 8. 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる。 9. 代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。 10. 薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。 11. 適切な疑義照会の実務を体験する。 12. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。 13. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) 14. 錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。(技能) 15. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 16. 代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。(技能) 17. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 18. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 19. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 20. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。(技能) 21. 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能) 22. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) 23. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的な取扱いができる。(技能) 24. 細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 25. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能) 26. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) 27. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)</p> <p>《服薬指導》 到達目標： 28. 患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。(知識・技能) 29. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。 30. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。 31. お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。 32. 期待する効果が十分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における対処法について提案する。(知識・態度)</p>					実務実習	
					実務実習	
					実務実習	

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>《注射剤調剤》 到達目標： 33. 注射剤調剤の流れを概説できる。 34. 注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能） 35. 代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技能） 36. 処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能） 37. 注射剤（高カロリー栄養輸液など）の混合操作を実施できる。（技能） 38. 注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。 39. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技能） 40. 細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。 41. 特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能） 42. 調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）</p> <p>《安全対策》 到達目標： 43△. リスクマネジメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。 44△. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 45△. 商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。 46△. 医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度） 47△. インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネジメントについて討議する。（態度） 48△. 職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度） 49△. 実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）</p> <p>(2) 医薬品を動かす・確保する 一般目標： 医薬品を正確かつ円滑に供給し、その品質を確保するために、医薬品の管理、供給、保存に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《医薬品の管理・供給・保存》 到達目標： 1. 医薬品管理の流れを概説できる。 2△. 医薬品の適正在庫の意義を説明できる。 3. 納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。 4. 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。 5△. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。 6△. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 7. 院内における医薬品の供給方法について説明できる。 8. 請求のあった医薬品を取り揃えることができる。（技能）</p> <p>《特別な配慮を要する医薬品》 到達目標： 9△. 麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。（技能） 10△. 毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。（技能） 11. 血漿分画製剤の取扱いを体験する。（技能） 12△. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）</p> <p>《医薬品の採用・使用中止》 到達目標： 13. 医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。 14. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。</p> <p>(3) 情報を正しく使う 一般目標： 医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬剤部門における医薬品情報管理（DI）業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《病院での医薬品情報》 到達目標： 1. 医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。 2. 院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。 3△. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。 4. 患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。</p>					実務実習		
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>《情報の入手・評価・加工》 到達目標： 5.1. 医薬品の基本的な情報を、文献、MR（医薬情報担当者）などの様々な情報源から収集できる。（技能） 6. DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。（技能） 7.1. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）</p> <p>《情報提供》 到達目標： 8. 医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。（知識・技能） 9. 医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。（技能・態度） 10. 患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。（技能・態度） 11. 情報提供内容が適切か否かを追跡できる。（技能）</p> <p>（4）ベッドサイドで学ぶ 一般目標： 入院患者に有効性と安全性の高い薬物治療を提供するために、薬剤師病棟業務の基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《病棟業務の概説》 到達目標： 1. 病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネジメント、供給管理など）を概説できる。 2. 薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。 3. 病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度）</p> <p>《医療チームへの参加》 到達目標： 4. 医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能） 5. 病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケーションする。（技能・態度）</p> <p>《薬剤管理指導業務》 到達目標： 6. 診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能） 7. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能） 8. 収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能） 9. 患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能） 10. 使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。 11. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。 12. 医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度） 13. 患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度） 14. 薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度） 15. 患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能） 16. 代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能） 17. 代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能） 18. 患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニケーションを実施できる。（技能・態度） 19. 患者に共感的態度で接する。（態度） 20. 患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。（技能） 21. 期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。（知識・技能） 22. 副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。（知識・態度）</p>					実務実習	薬剤師の職能について	
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習
							実務実習

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>《処方支援への関与》 到達目標： 23. 治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。(態度) 24. 適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。(態度)</p> <p>(5) 薬剤を造る・調べる 一般目標： 患者個々の状況に応じた適切な剤形の医薬品を提供するため、院内製剤の必要性を認識し、院内製剤の調製ならびにそれらの試験に必要とされる基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《院内で調製する製剤》 到達目標： 1. 院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(軟膏、坐剤、散剤、液状製剤(消毒薬を含む)など) 2. 無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。(点眼液、注射液など) (技能)</p> <p>《薬物モニタリング》 到達目標： 3. 実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。(技能・態度)</p> <p>《中毒医療への貢献》 到達目標： 4. 薬物中毒患者の中毒原因物質の検出方法及び解毒方法について討議する。(知識、態度)</p> <p>(6) 医療人としての薬剤師 一般目標： 常に患者の存在を念頭におき、倫理観を持ち、かつ責任感のある薬剤師となるために、医療の担い手としてふさわしい態度を修得する。</p> <p>到達目標： 1. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。(態度) 2. 患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。(態度) 3. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。(態度) 6. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。(態度)</p> <p>(Ⅲ) 薬局実習 一般目標： 薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画できるようになるために、保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度を修得する。</p> <p>(1) 薬局アイテムと管理 一般目標： 薬局で取り扱うアイテム(品目)の医療、保健・衛生における役割を理解し、それらの管理と保存に関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>《薬局アイテムの流れ》 到達目標： 1. 薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。 2. 薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。 3. 薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。</p> <p>《薬局製剤》 到達目標： 4. 代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 5. 代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。</p> <p>《薬局アイテムの管理と保存》 到達目標： 6. 医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。 7. 納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目(使用期限、ロットなど)を列挙できる。 8. 薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。(知識・技能)</p>					実務実習		
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>《特別な配慮を要する医薬品》 到達目標： 9△. 麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。 10△. 毒物、劇物の取扱いについて説明できる。 11△. 法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）</p> <p>(2) 情報のアクセスと活用 一般目標： 医薬品の適正使用に必要な情報を提供できるようになるために、薬局における医薬品情報管理業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《薬剤師の心構え》 到達目標： 1. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度） 2. 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）</p> <p>《情報の入手と加工》 到達目標： 3△. 医薬品の基本的な情報源（厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など）の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。（知識・技能） 4△. 基本的な医薬品情報（警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など）を収集できる。（技能） 5. 処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能） 6. 薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能） 7△. 緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。 8△. 問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。（知識・技能） 9△. 医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。（知識・技能）</p> <p>《情報の提供》 到達目標： 10. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度） 11. 入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。（技能・態度） 12△. 患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度）</p> <p>(3) 薬局調剤を実践する 一般目標： 薬局調剤を適切に行うために、調剤、医薬品の適正な使用、リスクマネジメントに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>《保険調剤業務の全体の流れ》 到達目標： 1. 保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 2. 保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。</p> <p>《処方せんの受付》 到達目標： 3. 処方せん(麻薬を含む)の形式および記載事項について説明できる。 4. 処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。 5. 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。 6. 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。 7△. 処方せん受付時の対応ができる。（技能・態度） 8△. 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） 9△. 患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度） 10△. 患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能）</p> <p>《処方せんの鑑査と疑義照会》 到達目標： 11△. 処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能） 12△. 処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能） 13. 薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能） 14. 疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度） 15. 疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）</p>					実務実習		
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>【安全対策】 到達目標： 57. 代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。(知識・態度) 58. 名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。 59. 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など)を列挙できる。 60. 調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 61. 調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。(態度) 62. 過誤が生じたときの対応策を討議する。(態度) 63. インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。</p> <p>(4) 薬局カウンターで学ぶ 一般目標： 地域社会での健康管理における薬局と薬剤師の役割を理解するために、薬局カウンターでの患者、顧客の接遇に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【患者・顧客との接遇】 到達目標： 1. かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。(態度) 2. 患者、顧客に対して適切な態度で接する。(態度) 3. 疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。(技能・態度) 4. 医師への受診勧告を適切に行うことができる。(技能・態度)</p> <p>【一般用医薬品・医療用具・健康食品】 到達目標： 5. セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。(技能) 6. 顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。</p> <p>【カウンター実習】 到達目標： 7. 顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。(技能・態度) 8. 顧客が必要とする情報を的確に把握する。(技能・態度) 9. 顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。(技能・態度) 10. 入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)</p> <p>(5) 地域で活躍する薬剤師 一般目標： 地域に密着した薬剤師として活躍できるようになるために、在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【在宅医療】 到達目標： 1. 訪問薬剤管理指導業務について説明できる。 2. 在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。 3. 薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度)</p> <p>【地域医療・地域福祉】 到達目標： 4. 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。 5. 当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。 6. 当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能)</p> <p>【災害時医療と薬剤師】 到達目標： 7. 緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。</p> <p>【地域保健】 到達目標： 8. 学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。 9. 地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。 10. 麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。 11. 日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。 12. 日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。 13. 誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能) 14. 生活環境における消毒の概念について説明できる。 15. 話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。</p>					実務実習		
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	薬剤師の職能について
						実務実習	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>【計数・計量調剤】 到達目標： 16△. 薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。 17△. 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) 18△. 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能) 19△. 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 20△. 医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 21△. 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 22△. 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 23△. 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 24△. 代表的な同種・同効薬を列挙できる。 25△. 代表的な医薬品を色・形・識別コードから識別できる。(技能) 26△. 一回量(一包化)調剤を必要とするケースについて説明できる。 27△. 一回量(一包化)調剤を実施できる。(技能) 28△. 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) 29△. 散剤、液剤などの計量調剤ができる。(技能) 30△. 調剤機器(秤量器、分包機など)の基本的取扱いができる。(技能) 31△. 毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。(技能) 32△. 特別な注意を要する医薬品(抗悪性腫瘍薬など)の取扱いを体験する。(技能)</p> <p>【計数・計量調剤の鑑査】 到達目標： 33△. 調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。(技能)</p> <p>【服薬指導の基礎】 到達目標： 34△. 適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。(知識・技能) 35. 薬歴管理の意義と重要性を説明できる。 36. 薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。(知識・技能) 37. 薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 38△. 妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。 39△. 患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。(技能) 40△. 自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。</p> <p>【服薬指導入門実習】 到達目標： 41△. 指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。(技能) 42. 薬歴簿を活用した服薬指導ができる。(技能) 43△. 患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。(技能) 44. お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。(技能)</p> <p>【服薬指導実践実習】 到達目標： 45△. 患者に共感的態度で接する。(態度) 46△. 患者との会話を通じて病態、服薬状況(コンプライアンス)、服薬上の問題点などを把握できる。(技能) 47△. 患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。(技能・態度) 48△. 患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。(技能・態度) 49△. 入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。(技能・態度)</p> <p>【調剤録と処方せんの保管・管理】 到達目標： 50. 調剤録の法的規制について説明できる。 51. 調剤録への記入事項について説明できる。 52. 調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 53. 調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。 54. 処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。</p> <p>【調剤報酬】 到達目標： 55. 調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書(レセプト)を作成できる。(技能) 56. 薬剤師の技術評価の対象について説明できる。</p>					実務実習		
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	
						実務実習	

教育目標(一般目標・到達目標)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
<p>(6) 薬局業務を総合的に学ぶ</p> <p>一般目標： 調剤、服薬指導、患者・顧客接遇などの薬局薬剤師の職務を総合的に実習する。</p> <p>《総合実習》 到達目標： 1. 薬局業務を総合的に実践する。 2. 患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度) 3. 薬が病気の治療、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)</p>						
					実務実習	

卒業実習モデル・コアカリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>E 卒業実習教育</p> <p style="text-align: center;">【問題解決能力の醸成】</p> <p>E1 総合薬学研究 一般目標： 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。</p> <p>(1) 研究活動に求められる態度 一般目標： 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。</p> <p>到達目標： 1.課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2.問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3.課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4.課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5.研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6.環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7.チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度)</p> <p>(2) 研究活動を学ぶ 一般目標： 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>到達目標： 1.課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2.課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3.課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4.実験計画を立案できる。(知識・技能) 5.実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6.実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7.研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8.研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9.研究の結果をまとめることができる。(技能) 10.研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11.研究の結果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12.研究の結果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13.自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能)</p> <p>(3) 未知との遭遇 一般目標： 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。</p> <p>到達目標： 1.研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2.新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3.科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)</p>							
					薬学演習	特別実習	アドバンスト特別実習
					薬学演習	特別実習	アドバンスト特別実習
					薬学演習	特別実習	今日の薬学研究、アドバンスト特別実習

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B2 総合薬学演習 一般目標： 新しい医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいか に貢献してきたかを理解するために、代表的な疾患あるいは画 期的な現代医薬品を取り上げて調査し、考察する。その過程 を通して医薬品を多面的に評価する能力を身につける。 到達目標： 以下に例示した医薬品から選択し、探索、合成、構造活性 相関、薬理作用、臨床応用、体内動態、副作用、相互作用な どについて調査し、発表する。 1.心臓・血管系疾患治療薬（ジルチアゼム、カプトプリル、 ロサルタン、プロプラノロールなど） 2.消化器系疾患治療薬（シメチジン、オメプラゾールなど） 3.神経疾患治療薬（ジアゼパム、レボドパ、ドネペジルなど） 4.代謝疾患治療薬（インスリン、プラバスタチンなど） 5.抗炎症薬（アスピリン、インドメタシンなど） 6.免疫抑制薬（タクロリムスなど） 7.抗悪性腫瘍薬（シスプラチン、ドセタキセルなど） 8.抗菌薬（レボフロキサシンなど） 9.抗ウイルス薬（ジドブジン、インターフェロンなど）						
						総合薬学演習

薬学準備教育ガイドライン

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>(5) 薬学の基礎としての生物</p> <p>一般目標： 薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体、集団レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【生体の基本的な構造と機能】 到達目標： 1. 多細胞生物である高等動物の成り立ちを、生体高分子、細胞、組織、器官、個体に関係つけて概説できる。 2. 動物、植物、微生物の細胞について、それらの構造の違いを説明できる。 3. 細胞内小器官の構造と働きについて概説できる。 4. 細胞膜の構造と性質について概説できる。</p> <p>【生体の調節機構】 到達目標： 1. 生体の持つホメオスタシス（恒常性）について概説できる。 2. 生体の情報伝達系、防御機構（神経系、内分泌系、免疫系）について概説できる。</p> <p>【代謝】 到達目標： 1. 代謝（異化、同化）について説明できる。 2. 独立栄養生物と従属栄養生物について説明できる。 3. 嫌気呼吸および酸素呼吸について概説できる。 4. 光合成について概説できる。</p> <p>【細胞分裂・遺伝・進化】 到達目標： 1. 細胞の増殖、死について概説できる。 2. 遺伝とDNAについて概説できる。 3. 遺伝の基本法則（メンデルの法則など）を説明できる。 4. 減数分裂について概説できる。 5. 性染色体による性の決定と伴性遺伝を説明できる。 6. 進化の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>【発生・分化】 到達目標： 1. 個体と器官が形成される発生過程を概説できる。 2. 細胞の分化の機構について概説できる。 3. 多細胞生物における、細胞の多様性と幹細胞の性質について概説できる。</p> <p>【誕生・成長・老化】 到達目標： 1. 生殖の過程（性周期、妊娠、出産など）を概説できる。 2. ヒトの成長、老化に関する基本的現象を説明できる。</p> <p>【生態系】 到達目標： 1. 個体群の変動と環境変化との関係について例示できる。 2. 生態系の構成について概説できる。</p> <p>【総合演習】 到達目標： 1. 植物組織の切片を作製し、顕微鏡で観察しながら構造を説明できる。（知識・技能） 2. 動物の組織標本を顕微鏡で観察し、構造を説明できる。（知識・技能） 3. 倫理に配慮して実験動物を取扱う。（技能・態度） 4. 実験動物を解剖し、臓器の配置および形態を観察する。（知識・技能）</p>							
	薬学生物学入門、人体生理学						
	薬学生物学入門、人体生理学	人体生化学 I・II		人体機能調節学			
	薬学生物学入門			環境衛生学 I			
	薬学生物学入門						
	薬学生物学入門						
	薬学生物学入門						
	薬学生物学入門						
	薬学生物学入門				環境衛生学 I	環境衛生学 II	
	薬学生物学入門、生物学実験						
					生物系実習 IV		

薬学アドバンスト教育ガイドライン

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>G 薬学アドバンスト教育ガイドライン (例示)</p> <p>(1) 実用薬学英語 一般目標： 薬学に関連した学術誌、雑誌、新聞の読解、および医療現場、研究室、学術会議などで必要とされる実用的英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。</p> <p>【読解・作文】 到達目標： 1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を列記できる。(知識・技能) 2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。(知識・技能) 3. 薬学関連分野でよく用いられる英単語を正確に記述できる。(知識・技能) 4. 英語で論文を書くために必要な基本構文を使用できる。(知識・技能)</p> <p>【会話・ヒアリング】 到達目標： 1. 平易な英語を用いた専門分野のプレゼンテーションを理解し、概要を述べることができる。(知識・技能) 2. 薬学関連の研究やビジネスで用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能) 3. 医療の現場で用いられる基本的な会話を英語で行うことができる。(知識・技能)</p> <p>【情報収集】 到達目標： 1. 薬の基礎的情報(合成、分析、化学的性質、薬効評価など)を英文で収集し、内容を日本語で記述できる。(知識・技能) 2. 情報交換に必要な英文の手紙が書ける。(知識・技能) 3. 英語で書かれた医薬品の添付文書の内容を説明できる。(知識・技能) 4. 薬の服用法と注意事項に関する情報を英語で伝達できる。(知識・技能)</p> <p>【総合演習】 到達目標： 1. 専門分野または興味ある分野の研究内容を英語で紹介できる。(知識・技能) 2. 専門分野または興味ある分野の研究内容を英文に要約できる。(知識・技能)</p> <p>(2) グローバリゼーション 一般目標： 将来、国際化の流れに対応できる薬剤師、創薬専門家となるために必要な基本的知識と技能を修得し、それらを通して国際的視野に立ったものの見方を身につける。</p> <p>【国際的なコンセンサス】 到達目標： 1. ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。 2. 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。 3. 地球環境の諸問題を国際的視点で説明できる。</p> <p>【国際化と法律・制度】 到達目標： 1. 医薬品の創製に関する法律や知的財産権が、国家間でのどのように異なるかを概説できる。 2. 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) の必要性を説明できる。 3. 国際標準化機構 (ISO) について概説できる。</p> <p>【国際的な医薬品市場】 到達目標： 1. 世界市場で必要とされている医薬品について概説できる。 2. 国際的な医薬品企業の規模と企業展開について概説できる。</p> <p>【国際的に見た医療制度の違い】 到達目標： 1. 日本と諸外国における医療制度の違いを概説できる。 2. 日本と諸外国における医療保険制度の違いを概説できる。</p> <p>【コミュニケーション】 到達目標： 1. 医療現場での基本的な日常会話を英語で行うことができる。(技能) 2. 薬の服用法と注意事項に関する基礎的情報を英語で伝達できる。(技能)</p>							
					薬学演習	特別実習	総合薬学演習
				医療情報学			
					薬学演習	特別実習	総合薬学演習
					薬学演習	特別実習	総合薬学演習
				医療情報学			
				医療情報学、 公衆衛生学			薬事・医事関係法規特別講義
					環境衛生学Ⅱ		
				医療情報学			薬事・医事関係法規特別講義
						薬事・医事関係法規特別講義	

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>(3) 定量的構造活性相関 一般目標： ドラッグデザインの実践方法を理解するために、構造活性相関の基本的知識と技能を修得し、併せて具体例に基づいた最適化に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【基盤となる技術】 到達目標： 1. ランダム、およびエクステンシブスクリーニングについて説明できる。 2. ハイスループットスクリーニングについて説明できる。 3. コンビナトリアルケミストリーについて説明できる。 4. ケミカルライブラリーについて説明できる。</p> <p>【コンピューターの利用】 到達目標： 1. ドラッグデザインにおけるコンピューターの利用法を概説できる。 2. 代表的な医薬品と標的分子との相互作用を、コンピューターを用いてシミュレートできる。(技能)</p> <p>【生物学的等価性】 到達目標： 1. 生物学的等価性(バイオアイソスター)について具体例を挙げて説明できる。 2. 非ペプチド化の方法と、その医薬品開発における意義について説明できる。</p> <p>【構造活性相関】 到達目標： 1. 薬理活性に及ぼす置換基などの電子効果について説明できる。 2. 薬理活性に及ぼす水溶性、脂溶性の効果について説明できる。 3. 薬理活性に及ぼす酸性・塩基性の効果について説明できる。 4. 薬理活性に及ぼす立体因子、原子間距離の効果について説明できる。 5. 薬理活性に及ぼす双極子モーメント、水素結合の効果について説明できる。 6. 分子の構造に基づいて基本的パラメーターの計算ができる。(技能)</p> <p>【薬物動態・副作用を考慮したドラッグデザイン】 到達目標： 1. 生体膜透過、分布、排泄を考慮したドラッグデザインについて説明できる。 2. 薬物代謝を考慮したドラッグデザインについて説明できる。 3. 副作用、毒性の軽減を目的としたドラッグデザインについて具体例を挙げて説明できる。</p> <p>以下に示す論理的に設計された医薬品の具体例のうち、複数ものについて、「リード化合物の創製」および「リード化合物の最適化」両ユニットの学習中に理解すること。</p> 1. 生理活性ペプチドをもとに創製された医薬品の具体例(カプトプリル、リユープロレリンなど) 2. 薬物-受容体相互作用に基づいて創製された医薬品の具体例(シメチジン、プロプラノロールなど) 3. 酵素との相互作用に基づいて創製された医薬品の具体例(ドネベジルなど) 4. 内因性物質を標的として創製された医薬品の具体例(レボドパなど) 5. 抗菌作用に基づいて創製された医薬品の具体例(β -ラクタム系、ピリドンカルボン酸系、マクロライド系、サルファ薬系抗菌薬) 6. 天然物(モルヒネ、パクリタキセルなど)の構造をもとに創製された医薬品の具体例 7. コンピューターによるドラッグデザインによって創製された医薬品の具体例(インジナビルなど)							
				創薬化学Ⅰ・Ⅱ			
					創薬化学Ⅰ・Ⅱ		
						創薬化学Ⅰ・Ⅱ	
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
							創薬化学Ⅰ・Ⅱ
<p>(4) マーケティング 一般目標： どのような医薬品の開発が望まれているかを知るために、疾病統計、市場調査などに関する基本的知識と技能を修得する。</p> <p>【医薬品開発の対象となる疾病】 到達目標： 1. 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。 2. 疾病統計により示される先進国の疾病の特徴について説明できる。 3. 疾病統計により示される開発途上国の疾病の特徴について説明できる。</p> <p>【医薬品市場】 到達目標： 1. 医療用医薬品で日本市場での売上額上位の医薬品を挙げ、その理由を説明できる。 2. 医療用医薬品で世界市場での売上額上位の医薬品を挙げ、その理由を説明できる。 3. 新規医薬品の価格を決定する要因について説明できる。 4. 薬価基準について説明できる。 5. ジェネリック医薬品について説明できる。</p>							
					医療情報学、公衆衛生学		
						医療情報学	
							医薬品開発・経済学
							医薬品開発・経済学、医療情報学

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>【開発すべき医薬品】 到達目標： 1. 既存治療薬の有無およびその満足度と疾病統計を基に、医薬品の開発が望まれる疾病を挙げるができる。 2. 既存医薬品の治療薬としての満足度を、特定の疾病を例にとり調べる。(技能) 3. 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の現状と問題点について説明できる。 4. 上記で挙げた疾病のうち一つを選び、現在使用されている医薬品の問題点をあげ、新規に開発されるべき医薬品ならびに剤形の特性を説明できる。</p> <p>(5) 医薬品の製造プロセス 一般目標： 医薬品の製造プロセスを理解するために、品質、安全性、毒性、環境保全、経済性に関する基本的知識を修得し、工業規模の生産が環境に及ぼす影響に配慮する態度を身につける。</p> <p>【工場見学】 到達目標： 1. 医薬品の生産工場を見学し、各生産工程の特色と品質管理、環境保全の重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)</p> <p>【プロセスケミストリー】 到達目標： 1. 医薬品製造に用いられる試薬、溶媒、反応装置が持つべき条件を列挙できる。 2. 工業的生産における精製法を列挙し、その特徴を説明できる。 3. 廃棄物の適切な処理方法を列挙し、概説できる。 4. 医薬品製造における原子経済(原子効率)について説明できる。 5. 医薬品製造におけるE-ファクターについて説明できる。</p> <p>【生産規模の製剤】 到達目標： 1. 工業的規模で製剤化する際に留意すべき点を列挙し、説明できる。</p> <p>【生産規模のバイオテクノロジー】 到達目標： 1. 生物由来の医薬品の無菌化製造工程について説明できる。 2. 利用される細胞株の維持と保存について説明できる。</p> <p>【品質管理】 到達目標： 1. 医薬品の品質管理の意義について説明できる。 2. 医薬品製造過程で管理すべき不純物を列挙できる。 3. パリテーション項目を列挙し、その内容を説明できる。</p> <p>【医薬品製造と安全性】 到達目標： 1. 代表的な化学合成法について安全性、危険性を予測できる。 2. 毒性の高い化合物を取り扱う設備について説明できる。 3. バイオハザードおよびその対策について説明できる。</p> <p>【環境保全】 到達目標： 1. 医薬品製造において環境保全に配慮することの重要性を討議する。(態度) 2. PRTR法について説明できる。</p> <p>(6) ゲノム情報の利用を目指して 一般目標： ゲノム情報に基づいた創薬ターゲットの探索と合理的なドラッグデザインを理解するために、標的遺伝子発現情報の解析やプロテオーム解析に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【ゲノム情報】 到達目標： 1. ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。 2. バイオインフォマティクスについて概説できる。 3. トランスクリプトームについて概説できる。 4. プロテオームについて概説できる。</p> <p>【ゲノム情報の解析技術】 到達目標： 1. 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサザンプロット法など)について概説できる。 2. 遺伝子多型(SNPs)の解析に用いられる方法(RFLP、SSCP法など)について概説できる。 3. 遺伝子発現プロファイルを解析するための技術(DNAマイクロアレイ)の原理と方法を概説できる。 4. タンパク質発現プロファイルを解析するための技術(2次元電気泳動法、ペプチド質量分析に基づくタンパク質の同定方法など)を概説できる。 5. タンパク質間相互作用の解析に用いられる主な方法(免疫沈降、two-hybrid法など)について概説できる。</p>						今日の薬学研究	
				医療情報学			今日の薬学研究
							今日の薬学研究
					環境衛生学Ⅱ		総合基礎薬学特別講義Ⅰ
							総合基礎薬学特別講義Ⅱ
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ
							総合基礎薬学特別講義Ⅱ
							総合基礎薬学特別講義Ⅰ
						総合基礎薬学特別講義Ⅱ	
						総合基礎薬学特別講義Ⅱ	

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
<p>【ゲノム情報の創薬への利用】 到達目標： 1.ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。 2. 遺伝子改変動物を用いた医薬品の評価について説明できる。 3.ゲノムの生物種間多様性とその創薬での重要性を説明できる。</p> <p>【疾患関連遺伝子】 到達目標： 1. 代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。 2. 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を列挙し、説明できる。</p> <p>(7) 企業インターンシップ 一般目標： 企業の社会的役割と責任を理解し、企業を通して社会に貢献できるようになるために、企業における業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <p>【全体像】 到達目標： 1. 研修企業の組織、活動内容を説明できる。</p> <p>下記のいずれかの部門においてインターンシップを体験する。</p> <p>【研究所・臨床開発部門】 到達目標： 1. 医薬品シーズ探索から非臨床試験、臨床試験、承認許可までの新薬創製過程を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度） 2. GLP、GCPの実施状況を見聞し、その重要性について討議する。（知識・態度）</p> <p>【医薬情報担当（MR）部門】 到達目標： 1. 医療現場における「薬物療法のパートナー」としてのMRの業務を見聞し、その重要性について討議する。（知識・態度） 2. 医薬品の流通過程の現状を見聞し、MRの果たすべき役割について説明できる。 3. 医薬品の市販後調査の基準（GPMSP）の実施状況を見聞し、その重要性を討議する。（知識・態度）</p> <p>【製造部門】 到達目標： 1. 医薬品の製造工程を見聞し、品質管理、安全性、環境保全、経済性などと関連づけて、コスト管理をシミュレートできる。（知識・技能） 2. GMPの実施状況を見聞し、その重要性について討議する。（知識・態度）</p> <p>【まとめ】 到達目標： 1. 体験した業務を簡略にまとめた報告書を作成できる。（技能） 2. 体験した業務を基にして、理想とする企業勤務者の姿について討議する。（態度）</p>						総合基礎薬学特別講義Ⅱ、今日の薬学研究	
					臨床薬物動態学		総合基礎薬学特別講義Ⅱ、今日の薬学研究

IV

学籍について

- 学籍について

学籍について

1 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得するものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味します。また、卒業・退学・除籍となった場合は、離籍となります。

2 休学

病気、その他やむを得ない事情で長期にわたり欠席しようとする場合は、下の【休学届出期間】内に届け出ることにより1年単位（通年）または各学期単位（前期・後期）で休学することができます（医学部医学科および薬学部は原則1年単位）。

休学を届け出る場合は、「休学に必要な費用」の納入、および本学所定の「休学届」の提出が必要です。（学則第25条）

【休学届提出までの流れ】

- ① 所属学部の事務部署に申し出て、休学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
- ② 面談後に、「休学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で受け取り、記入してください。「休学に必要な費用」の納入、保証人（父母等）の署名が必要です。
- ③ 「休学届」を下の【休学届出期間】内に、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）へ提出してください。

【休学届出期間】

学部(学科)	制度	休学期間	休学届出期間 (※1)	休学に必要な費用 (※2)
人文 法 経済 商 商二部 理 工 医(看護) スポーツ科	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2024年2月1日 ～	在籍料 委託徴収金
	前期休学	2024年4月1日 ～ 2024年9月13日	2024年5月31日	在籍料（半期分） 委託徴収金
	後期休学	2024年9月14日 ～ 2025年3月31日	2024年7月1日 ～ 2024年10月31日	在籍料（半期分）
医(医)	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2024年2月1日 ～	在籍料 委託徴収金 医学部医学科における特別教育充実費
薬			2024年10月31日	在籍料 委託徴収金

※1 休学届出期間の最終日が土日祝にあたる場合は、その直前の事務窓口対応日までに提出してください。

※2 「休学に必要な費用」に関しては、p. 215、p. 217～223を参照。
入学年度で異なりますが、およそ学費の1/3程度の金額となります。

【注意事項】

- ・提出した「休学届」は撤回できません。
- ・入学年度の前期については原則として休学をすることができません。
- ・休学できる期間は、学部に関係なく通算して4年を超えることができません。

休学期間は、在学期間への算入、単位の認定や卒業はできません。大学を卒業するには休学期間以外に4年以上の在学期間が必要となります（医学部医学科および薬学部は6年以上）。なお、半期休学期間終了後において、卒業をするために必要な科目が履修できない場合は、半期以上卒業が延期される可能性があります。（学則第25条、第38条）

3 復学

休学期間終了に際し、休学の理由が解消された場合または引き続き休学する場合は、下の【復学届出期間】内に、教務一課に「復学届」または「休学届」を提出してください。「復学届」、「休学届」は下の【復学届出期間】内に保証人（父母）宛に郵送します。万が一、届かない場合は早急に教務一課に連絡してください。

休学後に退学する場合は、まず所属学部の事務部署に申し出てください。面談後、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で「退学届」をお渡しします。

なお、下の【復学届出期間】内に「復学届」「休学届」「退学届」のいずれも提出しない場合は除籍になりますので注意してください。（学則第27条、第28条、第29条）

【復学届出期間】

学部(学科)	制度	休学期間	復学届出期間	復学日
人文 法 経済 商 商二部 理 工 医(看護) スポーツ科	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2025年2月1日 ～ 2025年2月下旬	2025年4月1日
	前期休学	2024年4月1日 ～ 2024年9月13日	2024年7月下旬 ～ 2024年8月下旬	
	後期休学	2024年9月14日 ～ 2025年3月31日	2025年2月1日 ～ 2025年2月下旬	2025年4月1日
医(医) 薬	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日			

4 退学

諸事情で大学を退学する場合は、本学所定の「退学届」の提出が必要です。(学則第28条)

【退学届提出までの流れ】

- ① 所属学部の事務部署に申し出て、退学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
- ② 面談後に、「退学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で受け取り、記入してください。保証人（父母等）の署名が必要です。
- ③ 「退学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）へ提出してください。

【注意事項】

- ・提出した「退学届」は撤回できません。
- ・退学時の学期の学費または休学に必要な費用が未納の場合は、退学できません。

【退学届出期間】

退学届出期間	納入が必要な学費		退学日
	第1期(前期)	第2期(後期)	
4月1日～4月下旬(※)	× (新入生は必要)	×	前年度後期末日付（前年度3月31日付） *新入生は、前期末日付（9月13日付） または受理月末付
5月1日～8月31日	必要	×	前期末日付（9月13日付）または受理月末付
9月1日～9月下旬(※)	必要	×	前期末日付（9月13日付）
10月1日～翌年3月31日	必要	必要	後期末日付（3月31日付）または受理月末付

※退学届出期間は年度によって異なりますので、早めに教務一課にお問い合わせください。

退学を考えるその前に

- 学費を支払うことができない
⇒学生課で奨学金や提携教育ローンについての相談ができます。
- 学部、学科を変更したい⇒転部・転科の制度があります。p.424「転部・転科」を参照してください。
- 退学か休学か迷っている
⇒所属学部の事務部署や学生課、学生心理相談室など、あなたが話しやすい窓口へ相談してください。休学や退学を回避するためのサポートができるかもしれません。

ひとりで悩まず相談を！

5 除籍

除籍とは、本人の意思にかかわらず離籍することです。次に該当する者に対して除籍を行います。(学則第29条)

- ・授業料等納入金を納入しない者
- ・成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
- ・休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続も行わない者

6 再入学

本学を退学した、または除籍となった学生が再び本学で学業を継続することができるように、「再入学」の制度を設けています。入学時から起算して8年（医学部医学科および薬学部は12年）を超えない限り、退学した、または除籍となった時点において所属していた学部学科に再入学を願い出ることができます。

再入学の可否は、必要に応じて、学力検査および面接を行い決定します。

出願資格など詳細については、教務一課にお問い合わせください。

7 転部・転科

本学の学生が、学生生活を通して、自分の進路に変化が生じた場合、ある一定の条件を満たせば、進路変更の機会が与えられる制度です。

所属している学部から別の学部へ転部を希望する、あるいは同学部内で別の学科へ転科を希望する場合、欠員のあるときに限り、希望する学部学科が提示する条件を満たした上で、毎年3月初旬に行われる転部・転科試験において、在学中の成績や試験の結果を総合的に選考し、これを許可することがあります。

なお、第2年次以上の法学部内の転科、医学部医学科・看護学科、薬学部への転部・転科制度はありません。

出願資格や選考方法等については、11月中旬に転部・転科試験説明会を開催しますので、希望する学生は必ず出席してください（9月上旬からオンデマンド配信型の事前説明会も実施します）。

説明会の開催については、FUポータルにてお知らせします。詳細については、教務一課にお問い合わせください。

8 氏名・性別・国籍等の学籍情報変更

学籍情報（氏名・性別・国籍等）の変更には、本学所定の「学籍情報変更届」の提出が必要です。

「学籍情報変更届」は、教務一課で配付します。提出する際には、変更の事実が確認できる公的書類（運転免許証、戸籍抄本、住民票等）を添付してください。

学生証の氏名変更は、教務一課で「学籍情報変更届」の写しを受け取り、学生課で手続をしてください。

9 住所変更・保証人変更

本人および父母や保証人（学費負担者）の住所などの情報に変更が生じた場合は、速やかに学生本人がFUポータルのカテゴリ「共通」にある「プロフィール情報修正」で修正してください。事務室での変更はできませんので注意してください。

Webプロフィールは、大学から皆さんに連絡をとる際や、郵送物を送る際に使用する情報です。常に最新の情報を登録してください。

2024

履修登録の手引

FUKUOKA UNIVERSITY

〔履修登録を行う前に必ず実施すること〕

大学から学生一人ひとりに割り当てるメールアドレスは、履修登録の確認、修正等の連絡手段の一つとなっています。履修登録を行う前に必ず設定を確認しましょう。

〔メールについて〕

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大 ID のアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

アカウント名 @cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号(小文字): 例 ee240001

◆ 「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook



目 次

1	履修登録について	1
1-1	履修登録スケジュール表	2
1-2	履修登録用紙(下書き用)	3
1-3	Web プロフィール(下書き用)	4
2	履修登録の流れ	5
3	「FU ポータル」にログイン	6
4	履修登録の開始	8
5	履修登録の画面説明	10
6	制限科目(抽選・先着順)の申請	12
7	履修科目の選択	14
7-1	曜日・時限から履修科目を選択	14
7-2	科目群から履修科目を選択	15
7-3	集中講義科目等を選択	16
8	履修科目の申請	17
9	その他の操作	18
10	登録科目の詳細の表示	19
11	卒業(進級)見込予測チェックの実行・結果参照	20
12	授業科目確認表作成・印刷	22
13	時間割表(教室割)照会	25
	付録① 履修申請時エラー一覧表	27
	付録② Web プロフィールを事前登録する方法	28
	付録③ シラバスの閲覧方法について	30
	付録④ 休講・補講情報の確認方法	32
	付録⑤ よくある質問Q&A	34

1 履修登録について

(1) 履修登録

履修登録は、FUポータルで行いますが、これには以下のような利点があります。

- ・インターネット環境があれば、自宅など学外からも登録手続きを行うことができます。
- ・登録しながら、卒業(進級)見込予測、登録エラーを確認することができます。
- ・シラバスで授業内容を参照、またスタートアップ授業を視聴してから履修登録が行えます。

(2) 履修登録の期間

履修登録は、学部学科(年台)別に履修登録できる日時が決められています。必ずP.2の「履修登録スケジュール表」を確認してください。

(3) 制限科目の申請

制限科目の申請期間は、科目毎に異なります。『学修ガイド』(Ⅳ.履修の手引)を確認の上、申請してください。選考結果は履修画面に表示されます(一部の制限科目を除く)。

(4) 事前準備について

必修科目・選択必修科目をP.3の「履修登録用紙(下書き用)」に記入し、時間割上で埋めた後、授業時間割とシラバスを参照して自分が受講する科目を決めてください。科目区分等の説明やシラバスを見るポイントなどは、別冊「福大生のための学習ナビ」を参照してください。

(5) FUプラスアップ授業について

FUプラスアップ授業には、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」の2種類があり、授業は、オンデマンドの動画形式で実施されます。その授業のFUプラスアップ授業が「スタートアップ授業」なのか、「中間フォローアップ授業」なのかは、シラバスの「授業計画」の欄で確認できます。

「スタートアップ授業」は、第1回目の授業となり、履修登録期間前の3月上旬から1年間、いつでも視聴可能で、履修登録をしていない授業でも閲覧できます。また、その授業がどのような授業なのかについての説明も含んだ内容になっているので、履修科目を選ぶ際に、自分が受けたい授業の内容について深く知るために活用することができます。

(6) 課程科目の履修登録

教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程履修の手引』を参照の上、履修登録を行ってください。日本語教員課程についてはFUポータルのお知らせで登録方法を確認してください。

(7) アカウントとパスワード

「FUポータル」にログインするには、『福大ID』と呼ばれる「アカウント名」と「パスワード」が必要です。

(8) 漢字の表示について

履修登録における氏名等の漢字表記について、JIS第1水準・第2水準文字が適用されます。

授業科目履修表

※あらかじめ記入して履修登録に臨んでください。

1-2

履修登録用紙(下書き用)

事前準備

重要

①既得単位数	
②今年度登録単位数	
①+② 合計	

※課程科目・随意科目の単位は除く

	月		火		水		木		金	
	授業科目		授業科目		授業科目		授業科目		授業科目	
1 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
2 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
3 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
4 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
5 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
6 二部1限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
二部2限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
集中講義	期別()、期間(月 日～ 月 日)	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
その他	期別()、期間(月 日～ 月 日)	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	期別()、期間(月 日～ 月 日)	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()

※履修登録は、「Webプロフィール」の入力を完了しなければ、履修科目の登録ができません。

あらかじめ、下記のWebプロフィール下書き用紙を作成し、事前に入力をしてください。あなたの住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することができます。

プロフィール情報入力項目(下書き用)

- ◆ 必須項目(※)は必ず入力してください。未記入の項目を残した場合は、後日必ず訂正してください。
- ◆ この他に、本人の生活情報(課外活動、技能、資格など)や就労に関する情報を入力する画面があります。

【緊急連絡先】

連絡先 ※

電話番号(携帯電話) ※ - (内線)

【学生本人に関する情報】

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

通学手段 ※

※「父母・保証人情報」、「学費負担者に関する情報」は大学からの案内・連絡等に使用しますので正確に記載し入力してください。

【父母・保証人に関する情報】

※留学生は入学時に提出した日本の保証人を記入してください。

氏名 ※ 姓 名

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

【学費負担者に関する情報】

※「父母・保証人」「本人情報」と同じ場合は入力不要

氏名 姓 名

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

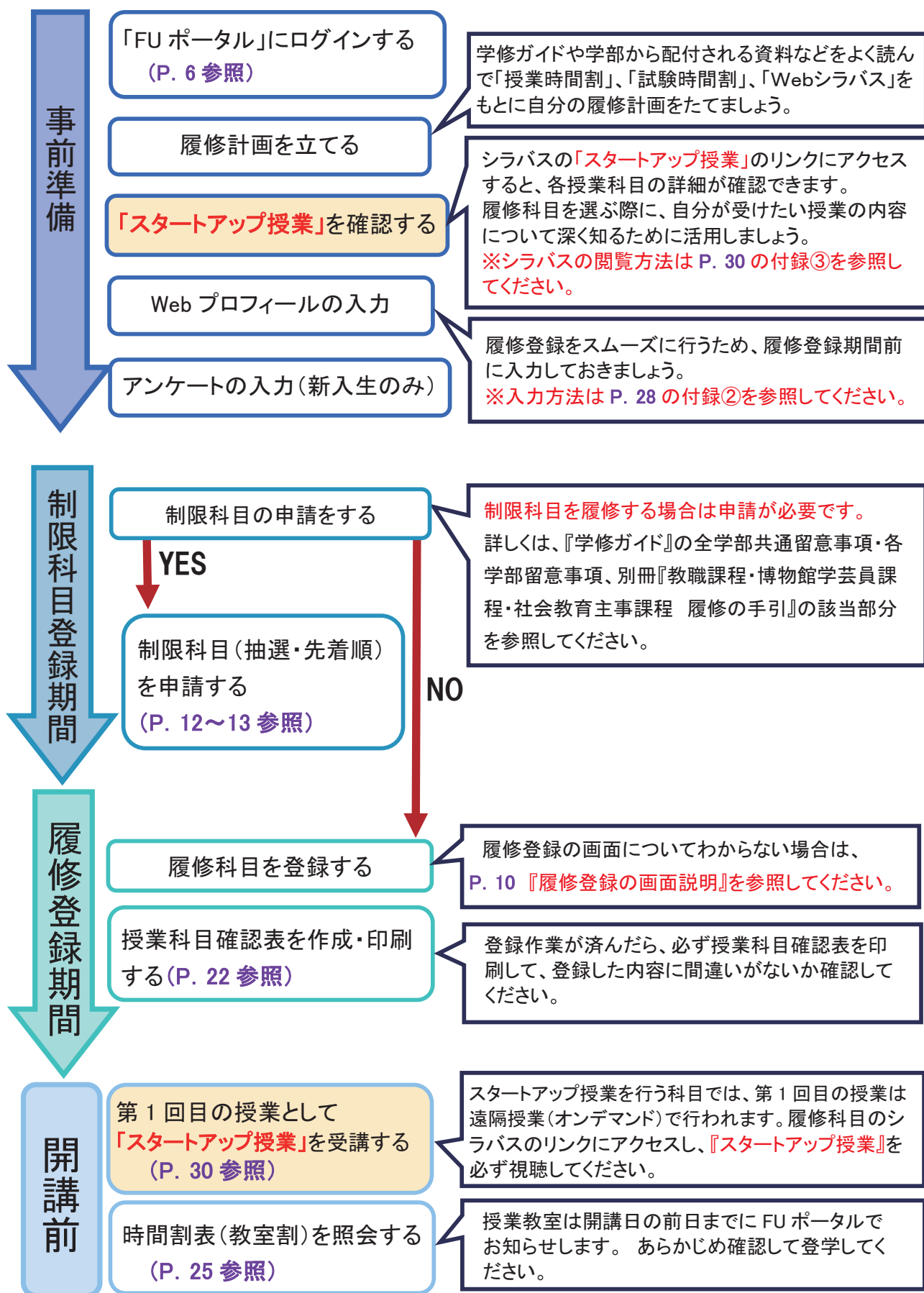
町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

2 履修登録の流れ



3 「FU ポータル」にログイン

履修登録申請をするには、まず福岡大学「FUポータル」システムにログインします。「FUポータル」は、福岡大学がWeb上で提供している様々なサービスを受ける入口となるページです。インターネットブラウザを起動し、「アドレス」欄に、次のアドレスを入力して接続してください。

<https://portal.fukuoka-u.ac.jp/>

アカウント名:学籍番号(小文字)
(例:ee220001)

入学時(4月)に配付される仮パスワードの有効期限は、その年の5月末です。直ちにパスワードの変更を行ってください。

【重要!】

学外から福岡大学の情報システム『FU ポータル』および『FU_box』にアクセスする際は、アカウント名とパスワードの入力に加えて「ワンタイムパスワード」の入力が求められます。

入学式後に履修関係書類と一緒に配付される情報基盤センター発行の「福岡大学情報処理システム USERS' GUIDE 利用の心得 編」にパスワードの変更方法やワンタイムパスワードの設定方法が記載されていますので、履修登録が始まる前までに、必ず確認してください。

ワンタイムパスワードの発行は「メール認証」と「トークン」の2種類があります。



ワンタイムパスワード入力画面です。発行されるワンタイムパスワードは6桁の数字となっています。

「FUポータル」画面にある「履修登録」を選択するとメニューに「Web履修登録」が表示されます。



項目	概要
履修申請	<p>Web プロフィールの入力およびアンケートの回答後、履修登録ができます。 (アンケートは新入生と3年生のみ表示されます。)</p> <p>※制限科目申請期間は、「Web プロフィール」入力画面は表示されません。 ※登録したら、即座に卒業(進級)見込予測のチェックが可能です。 (卒業・進級の判定が必要ない人には、予測ボタンは表示されません。)</p>
授業科目確認表作成	<p>授業科目確認表(PDF形式)のダウンロードと印刷ができます。</p>
時間割表(教室割)照会	<p>自分が登録した時間割表(教室割)の表示とPDF形式でのダウンロード・印刷ができます。</p>

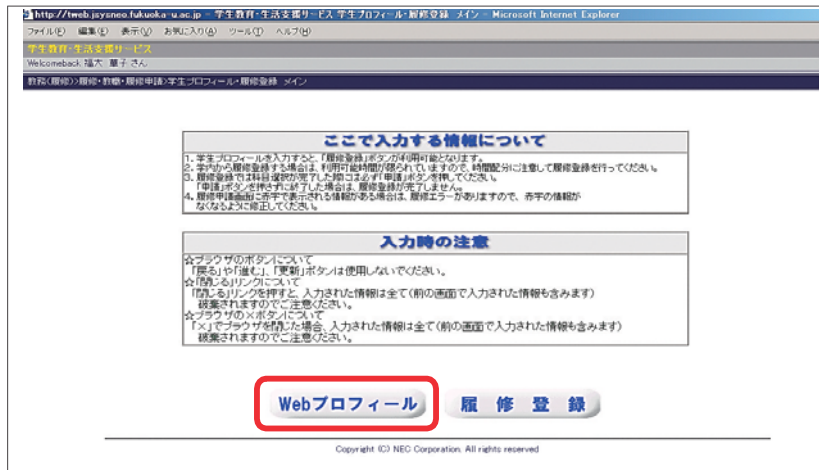
4 履修登録の開始

重要

必ずP.3、4の事前準備を行ったうえで、履修登録に臨んでください。

Webプロフィールの入力をしなければ、履修登録を行うことができません。

履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめWebプロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。（P.28参照）



Webプロフィールを入力してください。

※ここで入力する情報は、大学からの連絡や資料発送、事件・事故発生時の緊急連絡などに利用しますので、正確に登録してください。

※住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することもできます。

※住居区分の「自宅（親と同居）」を選択すると、保証人の住所など自動的に入力されます。

※メールアドレスは、確認用も入力が必要です。

連絡先(必須)	学校法人 福岡大学 福大 一部 (父)	例：〇〇株式会社〇〇支店 福大入部 (父)
電話番号(必須)	010-1234-5678	例：090-1234-5678
あなたの住居区分を選択してください。		
住居区分(必須)	自宅(親と同居)	「自宅(親と同居)」を選択した場合は、父母・保証人情報の住所を入力する必要はありません。
居住する寮 ※寮(前寮室・指定寮)に 居住の場合はこちらから 選択してください。	選択する	居住する寮(前寮室・指定寮)を選択した場合、居住する寮の住所が表示されます。
個人生活		
あなたの生活に関する情報を入力してください。		
郵便番号(必須)	816-0807	例：814-0133 住所変換 「住所変換」ボタンを押すと、入力した郵便番号から住所変換を行います。
郵便行先(必須)	福岡県	
現住所	市区町村(必須)	春日市
住所をクリア	町名番地(必須)	七層6-8-8
	マンション名	
連絡先(必須) ご自身の番号を入力	電話番号	092-888-1234
	携帯番号	020-1234-5678
通学手段(必須)	地下鉄	福岡大学までの主な通学手段を選択してください。
車(バイク)の車種	例：トヨタクラウン、ヤマハジョグ	通学手段で車またはバイクを選択した場合、必須の入力項目です。
車(バイク)のナンバー	例：福岡333号1234、博多区55U15678	通学手段で車またはバイクを選択した場合、必須の入力項目です。
メールアドレス (携帯上またはPC)		メールアドレス(携帯上またはPC)(確認)
課外活動(学内)		課外活動(学外)
技能及び資格(必須)		資格一覧
特技・趣味		本学で親しい友人 例：L3999088福岡 花子

確認用のメールアドレスも忘れずに入力してください。

「Webプロフィール」の画面は、表示された項目の登録が終わると、確認画面へ進みますので、入力内容の確認を行ってください。全て完了したら最後に「登録する」ボタンをクリックしてください。

[新入生のみ]

Webプロフィールの入力終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。

アンケートは後日回答することもできます。その場合は「回答しない」ボタンを押して履修登録に進んでください。

プロフィール情報更新完了

Welcomeback 福大 太郎さん 閉じる

プロフィール情報更新完了

プロフィール情報の更新が完了しました。
連絡を取る際に必要な情報なので、定期的に確認・更新を行うようにしてください。
引き続き、アンケートの入力にご協力ください。

アンケートの入力はこちら

Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

表示されたアンケートに回答し、全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

〇〇年度の新入生を対象として、本学に対する印象や姿勢、大学教育や将来に対する学生のニーズなどを把握し、本学の教育プログラムの改善・検討を行うことを目的にアンケートを実施します。
回答いただいた内容は、統計的に処理をします。個人としての回答が公表されることはありません。
また、本学での履修関係に不利益を被ることはありません。
調査結果は、上記の目的以外に使用することはありませんので、ご協力お願いします。

※この活動には、教学上の意思決定、情報共有、教育改善、学修支援、広報活動、学術活用
その他教育に関する活動を含みます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下のとおりです。
【実施主体】 福岡大学 教育開発支援機構 教学IR室
【問い合わせ先】 e-mail: kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

後で回答する、または回答しない場合はこちら

問.01
入学までに、自分が所属する学部もしくは学科の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を知っていましたか。
 1. 知っていた 2. 知らなかった

問.02
大学に入学するまでの生活もしくは大学入学前を振り返って見たとき、全般的に充実した生活を送っていたと思いますか。以下の項目の中から、あてはまる番号1つにチェックを付けてください。
 1. 充実していた 2. やや充実していた 3. あまり充実していなかった 4. 充実していなかった

以下の項目は、大学で学んでいくうえで身につけてほしい能力です。現時点での自分自身には、どの程度あてはまりますか。

問.10
1. とてもよくあてはまる
2. ややあてはまる
3. どちらかというとあてはまる
4. どちらかというとあてはまらない
5. あまりあてはまらない
6. まったくあてはまらない

大学4年（6年間）の学習を支える基礎を身につけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
困難な課題にもチャレンジでき、簡単にはあきらめない志の強さを発揮できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の関をつないで成長に貢献することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>


提出する

後で回答する、または回答しない場合はこちら

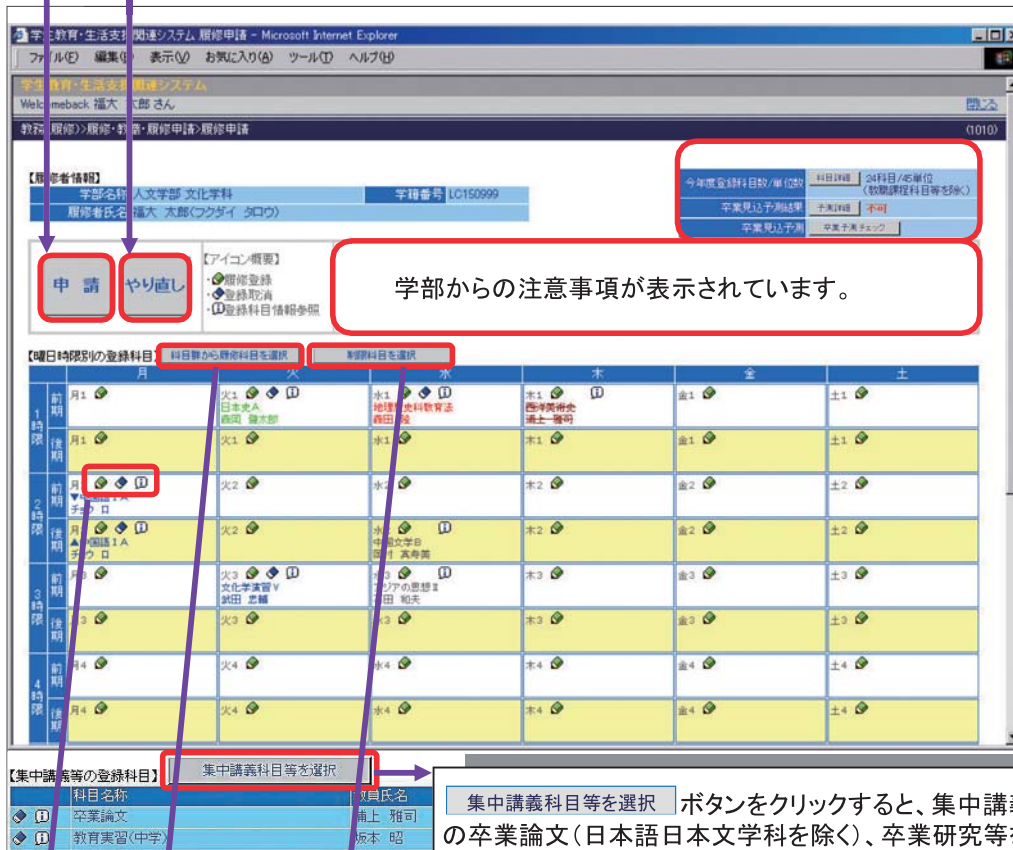
次に履修登録を進めてください。

5 履修登録の画面説明

「Web履修登録」メニューの「履修申請」をクリックします。P.8の画面が表示されますので「履修登録」をクリックします。履修登録の初期画面の詳細は次のとおりです。

申請 ボタンをクリックすると選択(緑色で表示)した科目が登録され青色で表示されます。また、 で取消をした科目(茶色く取消線付き)は再度 **申請** ボタンをクリックすることで完全に取消されます。

やり直し ボタンをクリックすると、前回「申請」ボタンをクリックした直後の状態に戻ります。










学部からの注意事項が表示されています。

集中講義科目等を選択 ボタンをクリックすると、集中講義科目・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究等を申請することができます。(P. 16 参照)

制限科目を選択 ボタンをクリックすると制限科目を申請することができます。(P. 12 参照)

科目群から履修科目を選択 ボタンをクリックすると曜日時限に限らず科目一覧から科目を選択できます。(P. 15 参照)

アイコン	説明
 履修登録(鉛筆)	曜日時限から履修科目を選択します。  をクリックすると、その曜日時限での履修登録ができます。
 登録取消(消しゴム)	選択(緑色で表示)状態で  をクリックすると削除されます。申請(青色で表示)状態で  をクリックすると(茶色く取消線付き)で表示されます。その場合、 申請 ボタンをクリックしないと削除は完了できませんので注意してください。
 登録科目情報参照	 をクリックすると、科目の科目区分(分野)名、単位、曜日時限、担当者を表示します。

画面説明の続き（前ページ画面右上の説明です）

通常の場合（登録科目数／単位数） **科目詳細** ボタンのみ表示されます。

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	25科目/44単位 (教職課程科目等を除く)
--------------	-------------	---------------------------

卒業見込判定対象者の場合

進級見込判定対象者の場合

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	16科目/40単位 (教職課程科目等を除く)
卒業見込予測結果	予測詳細	
卒業見込予測	卒業予測チェック	

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	25科目/48単位 (教職課程科目等を除く)
進級見込予測結果	予測詳細	
進級見込予測	進級予測チェック	

ボタン等の説明

ボタン等	説明
今年度登録科目数/単位数	申請科目（画面上に表示している科目）の科目数/単位数を表示します。（教職課程科目等を除く）
科目詳細	「既得科目一覧」および「単位集計一覧」を表示します。 (P. 19参照)
卒業予測チェック 進級予測チェック	卒業（進級）見込予測チェックを実行します。(P. 20参照)
予測詳細	卒業（進級）見込予測チェックの結果を見ることができます。 「卒業見込予測」もしくは「進級見込予測」が「可」の場合は「見込」とボタンの横に表示されます。（予測実行後クリック可能となります）「不可」の場合は「不可」と表示されます。(P. 20参照)

科目の画面上の表示について

登録状態により、科目名称および担当者の文字色がかわります。

文字色	登録科目の状態	
青	申請中	履修申請が完了しています。制限科目の場合は、抽選結果によって文字色が変わります。(P. 13参照)
赤	登録エラー	登録に何らかの問題があります。やり直してください。
茶(取消線付き)	取消	登録を一時取り消した状態です。(まだ削除されていません) ⇒「申請」ボタンをクリックすると完全に削除します。
緑	選択中	科目を選択した状態です。(まだ決定ではありません) ⇒「申請」ボタンをクリックすると申請(決定)します。
灰	登録確定	履修申請期間が終了しているか、事前登録されています。 登録科目は履修取消できません。

〔注意〕 申請画面において、画面を複数立ち上げたり、ブラウザの「戻る」ボタンで操作しないでください。

6

制限科目(抽選・先着順)の申請

制限科目受講者の選考

抽選、先着順の取り扱いや選考結果の発表等は科目によって異なりますので、必ず学修ガイドの「IV. 履修の手引」を参照してください。

- 先着順: 定員になり次第締め切ります。登録エラーの表示(赤色で表示)が出なければ、登録は完了となります。
- 抽選: 結果発表日は学修ガイドの「IV. 履修の手引」を参照して必ず結果を確認してください。抽選が外れた場合は、その科目を削除する必要があります。

「Web履修登録」メニューの **履修申請** をクリックします。

※登録制限を実施する科目については、決められた期間に登録画面で申請をする必要があります。各学部の履修可能な制限科目については、学修ガイドの「IV.履修の手引」を参照してください。

制限科目を選択する場合

画面の **制限科目を選択** をクリックすると、申請可能な科目の一覧が表示されます。

		申請		やり直し		【アイコン概要】		申請処理を実行しました。	
						<ul style="list-style-type: none"> ● 履修登録 ● 登録取消 ① 登録科目情報参照 			
【曜日時限別の登録科目】		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択					
		月	火	水	木	金	土		
1時限	前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1		
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1		
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2		
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2		
3時限	前期	月3	火3	水3	木3	金3	土3		
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3		
4時限	前期	月4	火4	水4	木4	金4	土4		
	後期	月4	火4	水4	木4	金4	土4		
5時限	前期	月5	火5	水5	木5	金5	土5		
	後期	月5	火5	水5	木5	金5	土5		

科目一覧より履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、**▼選択** ボタンをクリックすると同との画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中(緑色で表示)となります。その後、**申請** ボタンをクリックすると、科目名称・担当者名が申請中(青色で表示)、またはエラー(赤色で表示)となります。

教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請>制限科目選択

戻る 選択せよに戻る場合は[戻る]ボタンを押下して下さい。

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下して下さい。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	定員	選考方法	申込期間
<input checked="" type="checkbox"/>	外書講読ⅡA(英語)	後期	火(5時限) 水(5時限)	永江 真夫	20	抽選	2018-01-31 00:00:00~ 2018-01-31 22:40:00
<input type="checkbox"/>	経済史概論	後期	火(3時限) 金(2時限)	松原 建彦	223	抽選	2018-01-31 00:00:00~ 2018-01-31 23:00:00

全2件中 1件目~2件目を表示

申請 **やり直し** **【アイコン概要】**
 ●履修登録
 ●登録取消
 ●登録科目情報参照
 申請処理を実行しました。

【曜日時限別の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
	後期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
4時限	前期 月4	火4	水4	木4	金4	土4
	後期 月4	火4	水4	木4	金4	土4
5時限	前期 月5	火5	水5	木5	金5	土5
	後期 月5	火5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	木5	金5	土5

制限科目の選考結果を確認する場合

科目毎に指定された結果発表期間に応募した科目の **i** をクリックしてください。当選した場合「当選しました。」と表示されます。抽選が外れた場合「抽選が外れました。」と赤字で表示されます。

【当選の場合】

5時限	前期 月5	火5	水5
	後期 月5	火5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫

当選しました。

【履修科目の詳細情報】

履修科目名	外書講読ⅡA(英語)
科目区分名称	専門教育科目
単位数	4
学期-曜日(時限)	後期-火(5時限) 後期-水(5時限)
担当教員名	永江 真夫
履修登録	新規履修 抽選登録

【現在の状態】
当選しました。

【抽選が外れた場合】

5時限	前期 月5	火5	水5
	後期 月5	火5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫

落選しましたので、**❖** をクリックし科目を削除してください。


【履修科目の詳細情報】

履修科目名	外書講読ⅡA(英語)
科目区分名称	専門教育科目
単位数	4
学期-曜日(時限)	後期-火(5時限) 後期-水(5時限)
担当教員名	永江 真夫
履修登録	新規履修 抽選登録

【現在の状態】
抽選が外れました。

7 履修科目の選択

7-1 曜日・時限から履修科目を選択

曜日・時限から履修科目を選択する場合は、受講したい曜日・時限枠内の  をクリックします。
 ※この例では月曜日、1時限の「東洋史A」を登録します



【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 科目区別 〇科目/〇単位 (教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し

【アイコン概要】

- 履修登録
- 登録取消
- ①登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
2時限	前期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
3時限	前期 月3 <input checked="" type="checkbox"/>	火3 <input checked="" type="checkbox"/>	水3 <input checked="" type="checkbox"/>	木3 <input checked="" type="checkbox"/>	金3 <input checked="" type="checkbox"/>	土3 <input checked="" type="checkbox"/>

履修可能な科目の一覧が画面に表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、**▼選択** ボタンをクリックします。クリックするとその画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中 (緑色で表示) となります。

教務(履修)・履修・教職・履修申請・履修申請)曜日時限別科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。

学期 前期 曜日 月曜日 時限 1時限

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input checked="" type="checkbox"/>	東洋史A	前期	月(1時限)	福大 花子	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	西洋史A	前期	月(1時限)	丹後 亨	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	日本文学A	前期	月(1時限)	山縣 浩	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	心理学A	前期	月(1時限)	佐藤 基治	共通教育科目	2




【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 科目区別 〇科目/〇単位 (教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し

【アイコン概要】

- 履修登録
- 登録取消
- ①登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1 <input checked="" type="checkbox"/> 東洋史A 福大 花子	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
2時限	前期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>

7-2 科目群から履修科目を選択

画面の **科目群から履修科目を選択** ボタンをクリックします。

教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請

【履修者情報】
 学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999
 履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目/O単位** (教職課程科目等を除く)
 卒業見込予測結果 予測詳細
 卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し 【アイコン/概要】
 ・履修登録
 ・登録取消
 ・登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】 **科目群から履修科目を選択** 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2

次の画面が表示されますので、左上の「検索指示」画面に検索条件を入力し「検索」ボタンをクリックします。「科目名」は必ず入力してください(あいまい検索可能)。検索条件にあった科目の一覧が表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、**▼選択** ボタンをクリックします。クリックするとその画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中(緑色で表示)となります。

教務(履修)・履修・教職・履修申請>履修申請>曜日時限別科目選択

検索指示
 【科目群】 専門教育科目
 【科目名】 基礎
 検索

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。
▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	学期	曜日(時限)	科目名称	科目区分名称	単位	担当教員氏名
<input checked="" type="checkbox"/>	前期	水(3)	文化学基礎論	専門教育科目	2	福大 花子
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	丹後 亨
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	山縣 浩
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	佐藤 基治



教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請

【履修者情報】
 学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999
 履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目/O単位** (教職課程科目等を除く)
 卒業見込予測結果 予測詳細
 卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し 【アイコン/概要】
 ・履修登録
 ・登録取消
 ・登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
	後期 月3	火3	水3	木3	金3	土3

東洋史A
 福大 花子

文化学基礎論
 福大 花子

7-3 集中講義科目等を選択

画面の最下部にある「【集中講義等の登録科目】」の **集中講義科目等を選択** ボタンをクリックします。
 ※この例では「教育実習（中学）」を登録します。

6 時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
7 時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7

【集中講義等の登録科目】 **集中講義科目等を選択**

科目名称	教員氏名
その他の登録科目はありません	

履修を希望する科目の「チェックボックス」（「選択」の枠）をクリックし、 **▼選択** ボタンをクリックします。クリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者が選択中（**緑色**で表示）となります。

教務<履修>>履修・教職・履修申請>履修申請>その他科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを押下して下さい。

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下して下さい。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	関口 浩喜	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	高下 保幸	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	平井 靖史	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	平谷 元章	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	藤田 隆	専門教育科目	4
<input checked="" type="checkbox"/>	教育実習(中学)	集中前期	集(その他・集中屋)	坂本 昭	教職課程科目	4
<input type="checkbox"/>	教育実習(高校)	集中前期	集(その他・集中屋)	坂本 昭	教職課程科目	2

全22件中 16件目～22件目を表示
前の15件



6 時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
7 時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7

【集中講義等の登録科目】 **集中講義科目等を選択**

科目名称	教員氏名
教育実習(中学)	坂本 昭

「データサイエンス・AI 入門」について
 学修基盤科目「データサイエンス・AI 入門」は、集中講義科目と同様の方法で登録してください。

人文学部の科目について
 人文学部の卒業論文(日本語日文学科を除く)、卒業研究は、集中講義科目と同様の方法で登録してください。

8 履修科目の申請

選択した科目は**緑色**で表示となり、科目を登録するには **申請** ボタンをクリックします。
エラーがなければ、科目名称・担当者名が申請中（**青色**で表示）で表示となります。

曜日時限別の登録科目		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択			
	月	火	水	木	金	土	
1時限	前期	月1 東洋史A 福大 花子	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期	月3	火3	水3 化学基礎論 福大 花子	木3	金3	土3
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3



曜日時限別の登録科目		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択			
	月	火	水	木	金	土	
1時限	前期	月1 東洋史A 福大 花子	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期	月3	火3	水3 化学基礎論 福大 花子	木3	金3	土3
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3

全ての科目の選択が終わったら！

必ず **申請** ボタンをクリックしてください。

申請 ボタンをクリックすることで登録科目のチェックが自動的に行われます。

- エラーがない場合 選択中(**緑色**で表示)から申請中(**青色**で表示)に変わります。
- エラーがある場合 選択中(**緑色**で表示)からエラー(**赤色**で表示)に変わります。

一度登録した後、修正して何度でもクリックすることが可能です。

※履修申請時のエラーの内容はP. 27付録①の「履修申請時エラー一覧表」に説明がありますので参照してください。

※エラーが出た場合は科目の選択をやり直し、再度「申請」ボタンをクリックしてください。
全てのエラー(赤色)がなくなるまで繰り返してください。

9 その他の操作

科目のシラバスを見る時

科目選択の画面で **▼選択** ボタンをクリックする前に「科目名称」をクリックするとシラバスが表示されます。

教務(履修)・履修・教職・履修申請) 履修申請) 曜日時限別科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。

学期 前期 曜日 月曜日 時限 1時限

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input checked="" type="checkbox"/>	東洋史A	前期	月(1時限)	福大 花子	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	西洋史A	前期	月(1時限)	丹後 亨	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	日本文学A	前期	月(1時限)	山縣 浩	共通教育科目	2

授業シラバス

詳細情報

科目名「クラス名」(サブタイトル)	授業形態	期別	単位数	開講年次
東洋史A	講義	前期	2	1
担当教員	福大 花子	科目水準	入門	試験実施 有り
実務経験	無し	授業の種類	対面授業科目	
授業時間割	前期:月・1時限	試験時間割	2020/07/30 4時限	

概要 テキスト

2019年における世界の人口は、およそ77億1500万人で、最も人口の テキストは使用しない。講義に際しては、資料プ

申請した科目の詳細を見る時

① をクリックすると次の画面が表示され、選択中または申請中の科目の詳細を見ることができます。この画面からシラバスを参照するには、「履修科目名」をクリックします。

【曜日時限別の登録科目】	科目別から履修科目を選択	登録科目を選択
月1 東洋史A 福大 花子	月1	月1
月2	月2	月2
月2	月2	月2

【履修科目の詳細情報】

履修科目名	東洋史A
科目区分名称	共通教育科目
単位数	2
学期一曜日(時限)	前期一月(1時限)
担当教員名	福大 花子
履修登録	新規履修 前期・通年科目履修登録

【現在の状態】
申請中です。

表示上で注意すること

履修科目の表示

- ・通年科目は、前期枠の科目名の前に「▼」、後期枠に「▲」を付けて前・後期とも表示します。
- ・週2コマの科目は、いずれかの1コマ選択すると2コマとも選択されます。

申請した科目を削除する時

② をクリックすると、科目名称・担当者名が茶色(取消線付き)で表示されます。

申請 ボタンを押して、科目が削除されたことを確認してください。

10 登録科目の詳細の表示

【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC170001

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目詳細** 14科目/30単位
(教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請
決定

やり直し

【アイコン(概要)】

- 履修登録
- 登録取消
- ① 登録科目情報参照

制限科目は登録が確定すると取り消しできません。必修科目等との授業 期間割、試験科目等の重複には十分注意してください。

履修登録をする際は、学修ガイドの学部留意事項等を確認し、登録漏れや登録不備がないよう注意してください。

履修申請を終了する前に、右上の「卒業予測チェック」をクリックし、履修登録状況を再度確認してください。

【曜日(時限別)の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

		月	火	水	木	金	土
1時限	前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期	月2	火2	水2 社会心理学 縄田 健悟	木2	金2	土2
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
前期	月3	火3 文化学実習V	水3 文化人類学特講	木3	金3	土3	

今年度登録科目数/単位数 **科目詳細** 14科目/30単位
(教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 ボタンをクリックする毎に、「科目数/単位数」が再計算されます。

画面右上の「科目詳細」ボタンをクリックすると、下図のとおり、左側に「既得科目一覧」、右側に「単位集計一覧」が表示されます。

【既得科目一覧】		【単位集計一覧】						
科目区分名称	科目名称	単位数	分野	要件	合計	卒業	不足	履修
共通教育科目	倫理学B	2	総合教養科目	24	26	26		
	日本史A	2	人文科学	4	16	16		
	日本史通論A	2	社会科学	4	12	12		
	日本史通論B	2	自然科学	4	6	6		
	外国史通論A	2	総合科目	0	2	2		
	外国史通論B	2	外国語科目	0	16	16		
	日本教育史	2	第1外国語	8	8	8		
	西洋教育史	2	第2外国語	8	8	8		
	日本国憲法	2	保健体育科目	4	4	4		
	法律学概論	2	専門教育科目	28	22	22	-6	4
	政治学B	2	必修	44	30	30	-14	26
	社会学A	2	選択	16	14	14	-2	10
	社会学B	2	思想史	16	12	12	-4	12
	教育原論	2	比較文化	4	4	4		4
	地球科学入門	2	文化学共通	0	22	22		
	新しい地球観	2	関連教育科目	128	130	130		30
	ミクロの生物科学	2	卒業要件単位	0	0	0		
	基礎的植物学	2	日本語教員*	0	0	0		
	フレッシュマン・イングリッシュ I	1	社会教育主事*	0	4	0		2
	フレッシュマン・イングリッシュ II	1	博物館学主事*	0	24	0		8
	フレッシュマン・イングリッシュ III	1	教職課程科目*	0	0	0		
	フレッシュマン・イングリッシュ IV	1	随意科目	0	0	0		
	インターミディエイト・イングリッシュ I	1						
	インターミディエイト・イングリッシュ II	1						
インターミディエイト・イングリッシュ III	1							
インターミディエイト・イングリッシュ IV	1							
フランス語 I A	2							
フランス語 I B	2							
フランス語 II A	2							
フランス語 II B	2							
生涯スポーツ実習 I	1							
生涯スポーツ実習 II	1							
生涯スポーツ論	2							
専門教育科目	文化学基礎論	2						

*合計「履修」欄は単純集計単位数です。
*各種課程科目の要件単位数は学修ガイドの履修の手引で確認してください。

※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「卒業」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されるとは限りません。

「既得科目一覧」

科目区分(分野)毎に、前年度までに単位を取得した科目名および単位数が表示されます。

「単位集計一覧」

科目区分(分野)毎の単位集計を表示します。卒業(進級)における「必要単位数(要件)」、「既得単位数(卒業)」、「不足単位数(不足)」および「今年度登録申請する単位数(履修)」を表示します。

11 卒業(進級)見込予測チェックの実行・結果参照

(※対象学部・学科・年台のみ)

科目申請が完了したら、次に、卒業（進級）見込予測チェックを行います。

卒業対象年次の場合、 **卒業予測チェック** ボタンが表示されます。

進級対象年次の場合、 **進級予測チェック** ボタンが表示されます。

この例では、卒業見込予測チェックを実行します。

1 時 限	曜日					
	月	火	水	木	金	土
前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
後期	月1	火1	水1	木1 西洋美術講 講上 猶可	金1	土1
前	月2	火2	水2	木2	金2	土2

画面右上の **卒業予測チェック** または **進級予測チェック** ボタンをクリックすると、今回登録した科目の単位を全て取得したと仮定した卒業（進級）見込予測を行います。

《例1》卒業見込予測が「可」の場合

《例1》卒業見込予測が「不可」の場合

卒業見込予測を実行すると **予測詳細** ボタンをクリック可能になります。クリックすると「卒業見込予測結果・不足科目情報」が表示されます。

【卒業見込予測結果・不足科目情報】

科目区分名称	単位数		
	必要	修得	不足
総合教養科目	24	40	
人文科学	4	22	
社会科学	4	12	
自然科学	4	4	
外国語科目	16	16	
第1外国語	8	8	
第1外必修	8	8	
第2外国語	8	8	
保健体育科目	4	4	
必修	28	26	-2
選択	44	44	
思想史	16	22	
比較文化	16	16	
文化学共通	4	6	
卒業見込必要単位	128	132	
科目縛条件(第2外国語 同一言語で8単位)	1	1	

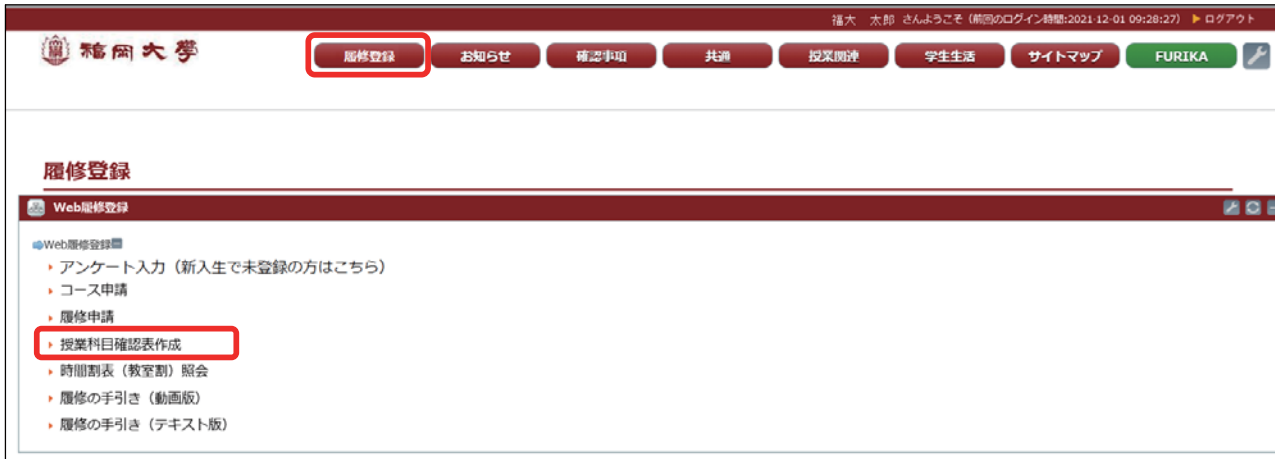
Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

科目区分（分野）毎に卒業（進級）見込予測チェック後の、必要単位数、修得予定単位数、不足している単位数を表示します。不足している科目区分（分野）を確認した上で、履修申請をやり直してください。
 ※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「修得」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されとは限りません。

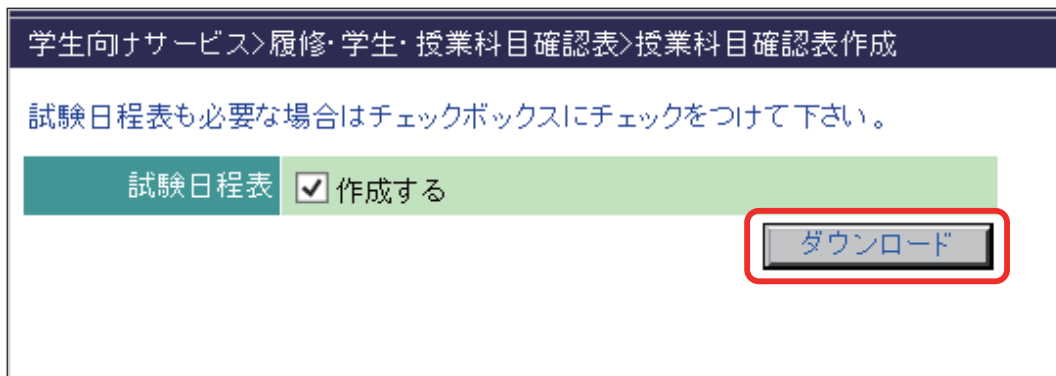
12 授業科目確認表作成・印刷

「履修申請」で登録した科目の授業科目確認表（PDF形式）を表示・印刷します。

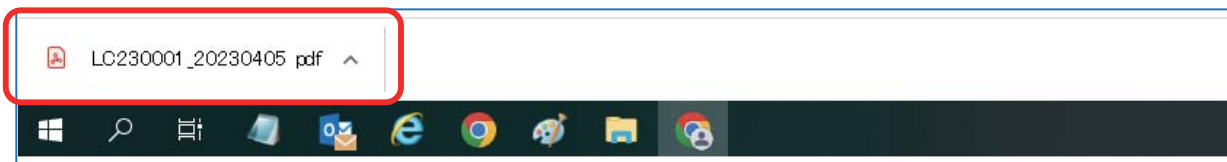
「Web履修登録」メニューより、「授業科目確認表作成」をクリックします。



次の画面が表示されますので、試験日程表も必要な場合はチェックボックスをクリックしてダウンロードボタンを押してください。



授業科目確認表が画面左下にダウンロードされますので、表示する時は、クリックしてください。



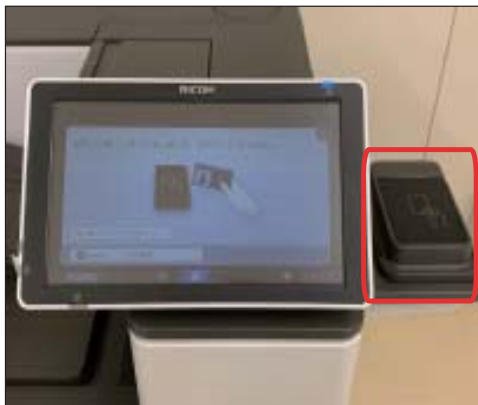
授業科目確認表を印刷する場合はプリンターのアイコンをクリックしてください。



		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史A 【共通教育科目 単位:2】 福元 健之 前期・過年科目履修登録 S00000941401		プレジデント・イングリッシュⅠ(L(E除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 齋藤 恵菜子 事前登録 S00000960105	生進スポーツ演習Ⅰフィット A 【共通教育科目 単位:1】 村川 誠 事前登録 S00000935165	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村 未幸 前期・過年科目履修登録 101000043801	
	後期			プレジデント・イングリッシュⅡ(L(E除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 豊嶋 崇 事前登録 S00000960205	芸術B 【共通教育科目 単位:2】 植野 健浩 後期科目履修登録 S00000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村 秀 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史A 【関連教育科目 単位:2】 岡崎 道貴 前期・過年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 森合 穂子 前期・過年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川 裕之 抽選登録 S00000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷 賢輔 抽選登録 S00000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多 康生 事前登録 101000043506	西洋史B 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森 丈夫 抽選登録 S00000942008	日本文学B 【共通教育科目 単位:2】 大木 穂子 後期科目履修登録 S00000942805		
3	前期	政治学A 【共通教育科目 単位:2】 廣澤 孝之 抽選登録 S00000945404	ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ ヤクボバ 前期・過年科目履修登録 S00000978201			プレジデント・イングリッシュⅢ(L(E除く)A-1 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン トマス H 事前登録 S00000960308	
	後期		ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ ヤクボバ 前期・過年科目履修登録 S00000978201		日本史B 【共通教育科目 単位:2】 柳嶋 花輔 後期科目履修登録 S00000941605	プレジデント・イングリッシュⅣ(L(E除く)ESP-5 【共通教育科目 単位:1】 鶴田 学 事前登録 S00000960404	
前期						社会学A 【共通教育科目 単位:2】 花野 裕康 前期・過年科目履修登録	

教室または廊下などに設置されているプリンターの端末横のリーダーに学生証をかざします。

オンデマンド端末画面に印刷ジョブの一覧が表示されますので、印刷したいジョブのチェックボックスをチェックして「印刷」ボタンをタッチしてください。



【授業科目確認表の説明】

右上部分に最終履修登録の日付と確認表出力の日付を表示します。

		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史A 【共通教育科目 単位:2】 福元 健之 前期・過年科目履修登録 S00000941401		フレッシュマン・イングリッシュⅠ【(LE除く)R&L-2】 【共通教育科目 単位:1】 鎌倉 悠実子 事前登録 SJ0000960105	生涯スポーツ演習ⅠフィットA 【共通教育科目 単位:1】 村川 誠 事前登録 S00000935165	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村 未実 前期・過年科目履修登録 101000043801	
	後期			フレッシュマン・イングリッシュⅡ【(LE除く)R&L-2】 【共通教育科目 単位:1】 豊崎 帆 事前登録 SJ0000960205	芸術B 【共通教育科目 単位:2】 植野 徳彦 後期科目履修登録 S00000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村 亮 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史A 【関連教育科目 単位:2】 園越 浩貴 前期・過年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 落合 悠子 前期・過年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川 裕之 抽選登録 S00000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷 賢輔 抽選登録 S00000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多 康生 事前登録 101000043506	西洋史B 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森 文夫 抽選登録 S00000942008	日本文学B 【共通教育科目 単位:2】 大木 裕子 後期科目履修登録 S00000942805		
3	前期	政治学A 【共通教育科目 単位:2】 藤澤 孝之 抽選登録 S00000945404	ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 グエラ ヤゴボバ 前期・過年科目履修登録 SJ0000978201			フレッシュマン・イングリッシュⅢ【(LE除く)IA-1】 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン トマス H 事前登録 SJ0000960308	
	後期		ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 グエラ ヤゴボバ 前期・過年科目履修登録 SJ0000978201		日本史B 【共通教育科目 単位:2】 徳邊 花緒 後期科目履修登録 S00000941605	フレッシュマン・イングリッシュⅣ【(LE除く)ESP-5】 【共通教育科目 単位:1】 園田 学 事前登録 SJ0000960404	
前期						社会学A 【共通教育科目 単位:2】 花数 知康 前期・過年科目履修登録	

今年度履修科目の登録状況を表示します。

科目名称	【科目区分名称 単位】教員氏名	登録種別	提出科目キー	登録科目キー	本年度履修科目登録状況			
					科目数	単位数	算入単位数	
集中講義等の登録科目	教育実習(中学)	【教職課程科目 4】高妻 紳二郎	事前登録	SW0000Y20901				
履修					前期	11	19	19
					後期	11	19	19
					過年	2	4	4
					合計	24	42	42

登録状況・エラー内容	学期	曜	時間	科目名称	届出科目キー	登録状況・エラー内容	学期	曜	時間	科目名称	届出科目キー
登録エラー状況											

集中講義等の登録科目の表示

集中講義科目・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究を履修登録している場合にその情報を表示します。

登録エラーの状況

登録エラー科目のエラー内容と履修科目情報を表示します。

13 時間割表(教室割)照会

開講日の前日以降、「Web履修登録」メニューの「時間割表(教室割)照会」をクリックすると、今年度の時間割表(教室割)を画面で参照・印刷することができます。

なお、その際は通年科目、前期完結科目の教室のみ表示します。後期完結科目の教室については、後期開講前に再度、確認してください。

Web履修登録

- ▶ Web履修登録
- ▶ アンケート入力 (新生で未登録の方はこちら)
- ▶ コース申請
- ▶ 履修申請
- ▶ 授業科目確認表作成
- ▶ 時間割表(教室割)照会
- ▶ 履修の手引き

時間割表の作成

[出力]ボタンをクリックすると、「時間割表(教室割)を作成しました。ダウンロードはこちらから。」とメッセージが表示され、時間割表(教室割)(PDF形式)が作成されます。

時間割表(教室割)のダウンロード

[こちら]リンクをクリックすると、時間割表(教室割)をダウンロードできます。

教務(履修)>履修・教職>時間割表(教室割)照会>時間割表(教室割)照会							
学部名称		人文学部 文化学科		[出力] 下記時間割情報を印刷用に出力します。		[こちら]から。	
学籍番号		LD180999		時間割表(教室割)を作成しました。ダウンロード			
氏名		福大 大朗					
【曜日時間別】							
		月	火	水	木	金	土
1時限	前期	月1	火1	水1 文化地理学 鶴川 武文 1033	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1 西洋美術論 浦上 雅司	金1	土1
2時限	前期	月2 比較文化論 片多 順 832	火2	水2 教育実習事前・事後指導 地歴 藤田 隆	木2	金2	土2
	後期	月2 異文化理解 片多 順	火2	水2	木2	金2 応用社会学 小林 淳一	土2
3時限	前期	月3	火3 文化学特講II 岩隈 敏 ゼ6A	水3 文化学演習V 柏田 康史 ゼ6B	木3 社会原論 小林 信行 1013	金3 社会調査入門 平田 暢 815	土3
	後期	月3	火3 行為の理論 岩隈 敏	水3 文化学演習VI 柏田 康史	木3 集団心理学 武田 忠輔	金3	土3
4時限	前期	月4 文化学演習III 藤田 隆 ゼ6B	火4	水4	木4 教育演習 田村 隆一	金4	土4
	後期	月4	火4	水4 社会人類学 白川 琢磨	木4	金4	土4
5時限	前期	月5 博物館実習II 高岡 美央子	火5 近代ヨーロッパ思想 平井 謙史 1032	水5	木5 20世紀の哲学 関口 浩香 1034	金5	土5
	後期	月5	火5	水5	木5 現代思想 関口 浩香	金5	土5
6時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
7時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
【集中講義等】							
学期・曜日・時限	科目名称		教員氏名				
前期・集・その他	教育実習(中学)		坂本 昭				

集中講義等の登録科目の表示

集中講義・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究の履修科目を表示します。

時間割表（教室割）（PDF形式）を確認します。

時間割表(教室割)						
学部名称：人文学部 文化学科		2024年度			2024/03/25	
学籍番号：LC231001					1	
氏名：福大 太郎						
	月	火	水	木	金	土
1限	前期	自然科学入門 林 辰弥 A203		フレッシュマン・イングリッ シュI L(LE除<)R&L-2 西村 恵 A711		文化学科で学ぶI 浦上 雅司 A101
	後期		フレッシュマン・イングリッ シュII L(LE除<)R&L-2 石井 和仁 A717		文化学科で学ぶII 縄田 健悟 AB02	
2限	前期		基礎演習I 本多 康生 24L			
	後期		基礎演習II 落合 桃子 1015	社会学B 開田 奈穂美 A402	心理学B 教養ゼミ 縄田 健悟 A711	
3限	前期		朝鮮語I A LC1・LJ1・LH 申 鎬 821			フレッシュマン・イングリッ シュIII L(LE除<)IA-1 ダタール、ニティン A616
	後期	数学入門 臼比野 雄嗣 A202	朝鮮語I A LC1・LJ1・LH 申 鎬 821	生活と環境の化学 中津 可道 845		フレッシュマン・イングリッ シュIV L(LE除<)ESP-5 ペヴァン、グレッグ A616
4限	前期		社会学A 本多 康生 823		生涯スポーツ演習I フィット A 築山 泰典	
	後期	統計入門 臼比野 雄嗣 A202	西洋史B 山本 達夫 A403		生涯スポーツ演習II バド/卓 球 川面 剛	自然科学と人間 柴田 智郎 A203
5限	前期		西洋文学A 野田 康文		哲学A 大西 克智 A201	朝鮮語I B LC1・LJ1・LH 姜 姫銀 A610
	後期					朝鮮語I B LC1・LJ1・LH 姜 姫銀 A610
6限 ・ 夜間 1	前期					
	後期					
7限 ・ 夜間 2	前期					
	後期					
集中講義等		学期 曜日 時限 科目名 前期 集 その他 データサイエンス・AI入門		教員氏名 瀬川 波子		教室

※授業教室の公開は、開講日の前日以降を予定しています。

FU ポータルでお知らせしますので、事前に授業教室を確認したうえで
登学してください。

FU ポータル <https://portal.fukuoka-u.ac.jp/>



付録① 履修申請時エラー一覧表

- ・登録内容にエラーがあった場合に表示されるエラーメッセージとその説明です。
- ・登録科目を変更し、[申請] ボタンを押して、登録エラーが無い状態にしてください。

No.	メッセージ	説明
1	同一科目クラス違いを申請しているエラー	登録した科目と同一科目のクラス違いを履修登録している為、登録できません。 クラス違いの同一科目を削除してください。
2	登録科目が修得済または登録済	登録した科目は既に修得済または登録済です。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
3	登録科目において曜日・時限で重複しているエラー	登録した科目の曜日・時限が重複しています。 重複している科目を削除してください。
4	登録科目において試験日・時限間で重複しているエラー	登録した科目の試験日程が重複しています。 重複している科目を削除してください。
5	登録科目において前提科目が未履修もしくは未修得であるエラー	前提科目を履修もしくは修得していません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、前提科目を確認して、科目を登録または削除してください。
6	登録科目において前提科目が履修済もしくは修得済であるエラー	前提科目を履修もしくは修得しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、履修条件を確認して、科目を削除してください。
7	登録科目において並行履修不可であるエラー	同時に履修できない科目を履修登録しています。 科目を削除してください。
8	登録制限単位数超過エラー	制限単位数を超えて履修登録しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、制限単位数を確認して超過分を削除してください。
9	登録制限単位数不足エラー	登録単位数が制限単位数を満たしていません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、最低単位数を確認して不足分を登録してください。
10	必修科目未履修エラー	必修科目（外国語科目等）が未登録です。 『学修ガイド』（履修の手引）で、必修科目を確認して登録してください。
11	抽選が外れました。	制限科目が抽選で外れました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
12	定員オーバーのため、登録できません。	制限科目（先着順）が定員オーバーとなりました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。

制限科目のエラーについて

制限科目がエラーになった時は、制限科目の申請期間内に削除してください。制限科目の申請期間を過ぎると削除や修正ができません。申請期間が過ぎて削除等ができなくなった時は、所属学部の事務部署へ申し出てください。

付録② Webプロフィールを事前登録する方法

履修登録は、Webプロフィールの入力をしなければ、履修科目の登録ができません。在学中に住所等に変更があれば修正してください。

履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめWebプロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。

〔履修申請メニュー以外から、Webプロフィールを登録・修正する方法〕

履修申請メニューは、あなたの所属する学部学科の時間帯しか表示されませんので、履修登録時以外に事前に「Webプロフィール」を登録・修正する場合、以下の方法で実施してください。

「FUポータル」の「共通」メニューを選択すると、左下に「Webプロフィール」が表示されます。

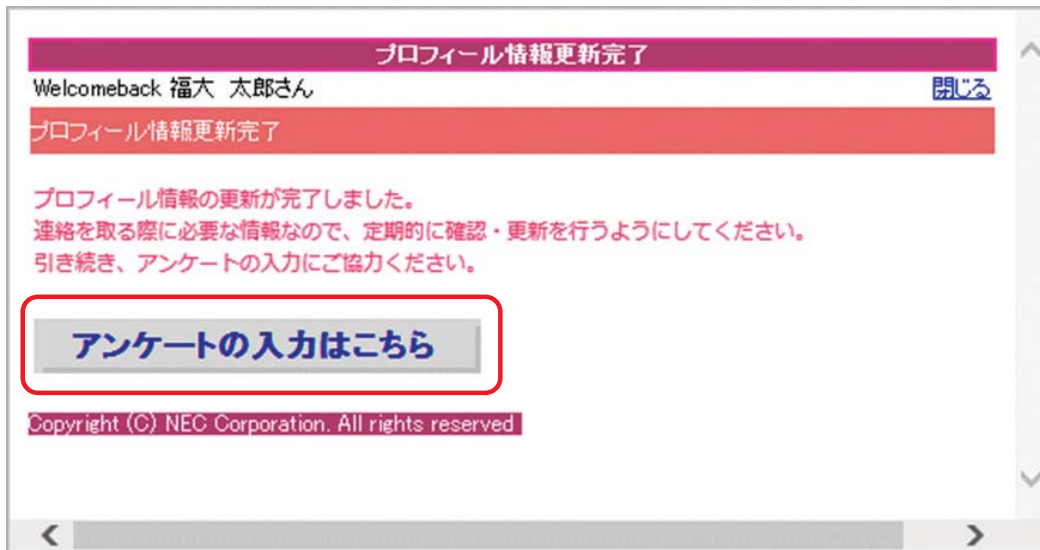


「プロフィール情報修正」を選択すると、履修登録時以外にも「Webプロフィール」を登録・修正することができます。※プロフィールに変更があった場合は、必ずプロフィール情報修正を行ってください。



※Webプロフィール情報の入力方法の詳細は入力マニュアルで確認してください。

Web プロフィール終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。



表示されたアンケートに回答してください。

〇〇年度の新入生を対象として、本学に対する印象や姿勢、大学教育や将来に対する学生のニーズなどを把握し、本学の教育プログラムの改善・検討を行うことを目的にアンケートを実施します。回答いただいた内容は、統計的に処理をします。個人としての回答が公表されることはありません。また、本学での履修関係に不利益を被ることはございません。調査結果は、上記の目的以外に使用することはありませんので、ご協力をお願いします。

※この活動には、教学上の意思決定、情報共有、教育改善、学修支援、広報活動、学術活用
その他教育に関する活動を含みます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下のとおりです。
【実施主体】 福岡大学 教育開発支援機構 教学IR室
【問い合わせ先】 e-mail: kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

後で回答する、または回答しない場合はこちら

問.01
入学までに、自分が所属する学部もしくは学科の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を知っていましたか。 1. 知っていた 2. 知らなかった

問.02
大学に入学するまでの生活もしくは大学入学前を振り返って見たとき、全般的に充実した生活を送っていたと思いますか。以下の項目の中から、あてはまる番号1つにのをつけて 1. 充実していた 2. やや充実していた 3. あまり充実していなかった 4. 充実していなかった

以下の項目は、大学で学んでいくうえで身につけてほしい能力です。現時点で、自身には、どの程度あてはまりますか。

問.10
1. とてもよくあてはまる
2. ややあてはまる
3. どちらかというとはまる
4. どちらかというとはまらない
5. あまりあてはまらない
6. まったくあてはまらない

大学4年間（6年間）の学習を支える基礎を身につけている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
さまざまな他者の考え方や価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
困難な課題にもチャレンジでき、簡単にはあきらめない志の強さを発揮できる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
身についた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の糧をつないで成長に貢献することができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6

提出する 後で回答する、または回答しない場合はこちら

全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

以上で事前登録は終了です。

付録③ シラバスの閲覧方法について

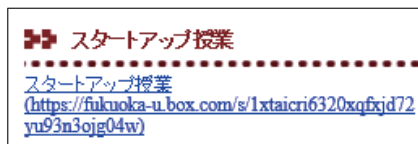
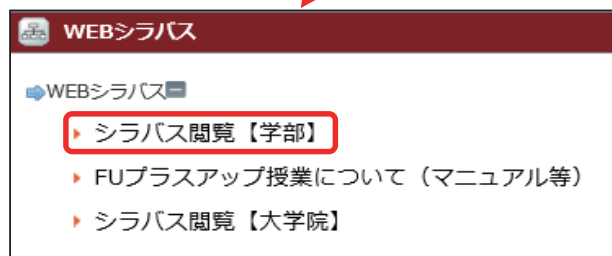
シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。活用方法等については、本書「第IV章 履修の手引」の「シラバス」の項目を参照してください。

〔閲覧方法〕

「授業関連」メニュー から「WEB シラバス」の「シラバス閲覧(学部)」をクリックすると、シラバスの検索画面が表示されます。検索画面から教員名、科目名、学科等から検索し、閲覧することができます。



シラバス検索で科目を選択後、このように表示されます。



スタートアップ授業について

URLをクリックすると、スタートアップ授業の動画を閲覧することができます。

スタートアップ授業とは、第1回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生は全てのスタートアップ授業を3月上旬から1年間、いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、より主体的な履修選択ができます。

※スタートアップ授業を行う科目では、第1回目の授業はスタートアップ授業で行われます。

必ず第1週目の授業開始までに視聴してください。

〔シラバス閲覧検索画面〕

授業シラバス

検索方法を選択してください ①

2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 **2024**
 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

その他の項目で検索

+ **教員名で検索** ②
※苗字、もしくは名前の一部でも検索可。

+ **科目名で検索** ③
※科目名の一部でも検索可。

+ **キーワード検索** ④

+ **時間割コードで検索**
※時間割コードを半角英数字で入力。

+ **科目水準** - ⑤

+ **実務経験** ⑥

+ **検索実行**

学部・学科で検索

+ **学部または学科を選択してください** ⑦

■ **共通教育科目** >> 人文科学 >> 社会科学 >> 自然科学
■ **(外国語科目を除く)** >> 総合系列科目 >> 学修基盤科目 >> 保健体育科目

■ **外国語** >> 英語 >> ドイツ語 >> フランス語
 >> 中国語 >> スペイン語 >> 朝鮮語
 >> ロシア語 >> 日本語

① 閲覧したい年度をクリックしてください。

② 教員名で検索 ▶ 苗字、または名前の一部でも検索が可能です。

③ 科目名で検索 ▶ 科目名の一部でも検索が可能です。

④ キーワードで検索 ▶ 入力したキーワードを元に検索します。

⑤ 科目水準で検索 ▶ 科目水準(1: 入門、2: 初級、3: 中級、4: 上級)ごとに検索します。

⑥ 実務経験で検索 ▶ 実務経験を有する教員による、実務経験を活かした授業科目を検索することができます。

⑦ 学部・学科で検索 ▶ 選択した学部・学科に開講している科目が表示されます。

付録④ 休講・補講情報の確認方法

休講や補講は、FUポータルで確認できます。なお、補講については原則として、補講日の一週間前にFUポータルで、日時・教室等をお知らせします。また、休講・補講の情報は大学から入学時に付与されたメールアドレスにお知らせが届きます。

〔休講・補講情報の確認〕

- ◆ 「FUポータル」画面にある「授業関連」メニューを選択すると「休講・補講」が表示されます。休講および補講の情報はこちらのメニューから確認することができます。

The screenshot shows the FU Portal interface. At the top, there are navigation buttons: 'コロナ対策', 'お知らせ', '履修登録', '共通', '授業関連', and '学生生活'. The '授業関連' button is highlighted with a red box. Below it, the '授業関連' section is expanded, and the '休講・補講' sub-menu is highlighted with a red box. The '休講・補講' sub-menu contains the following items: '休講・補講 (学生)', '休講情報照会', '補講情報照会', and '操作マニュアル (学生用)'. Other visible items include '授業アンケート', '授業支援', '教務', '教員プロフィール', and 'オフィスアワー'.

◆ 休講情報照会

The screenshot shows the '休講情報照会' screen. The '学部' (Faculty) is set to '指定無し'. The '期間' (Period) is set to '2020年04月23日 ~ 2020年07月13日', which is highlighted with a red box. Below the date range, there is a red text prompt: '表示したい休講期間を入力'. A table below shows the search results for absence information.

休講日付	曜日	休講時限	科目	期別	教員	連絡
2020/04/23	火	2時限	倫理学A	前期	広川 明	—

◆ 補講情報照会

The screenshot shows the '補講情報照会' screen. The '区分' (Category) is set to '指定無し'. The '期間' (Period) is set to '2020年07月14日 ~ 2020年07月14日', which is highlighted with a red box. Below the date range, there is a red text prompt: '表示したい補講期間を入力'. A table below shows the search results for makeup information.

補講日付	曜日	補講時限	補講教室	科目	教員	連絡
2020/07/14	火	6時限	遠隔授業を行います。	倫理学A前期・火2時限	広川 明	FUポータルの授業管理等で授業実施方法を必ず確認してください。

Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

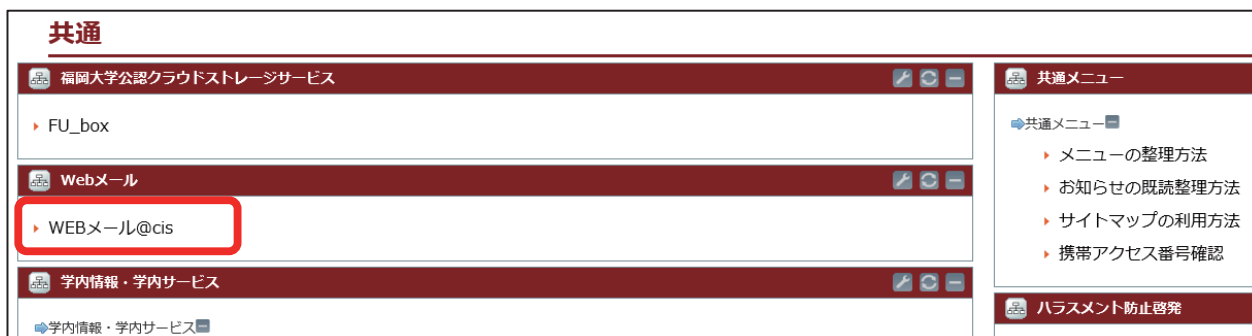
【メールについて】

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大IDのアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

アカウント名 @cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号(小文字):例 ee210001

◆ 「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。



【休講の通知メール】



【補講の通知メール】



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook



個人情報の取扱いについて

本学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき、「学校法人福岡大学個人情報保護規程」を定め個人情報の保護に努めています。「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づく、「個人番号」および「特定個人情報」に関しても同様です。本学学生の個人情報に関する基本的な姿勢と取扱いについてご説明いたします。

1. 法令の遵守と学内規程の整備

本学は、「個人情報の保護に関する法律」その他法令の規定を遵守すると共に、個人情報の取得、保管、利用など取扱いに関する必要な事項を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

2. 個人情報の取得

本学は、本学の学生から個人情報を取得する際には、あらかじめ利用目的を特定し、その利用目的の達成に必要な範囲内において、公正な手段により取得します。また、思想、信条及び宗教に関する個人情報は取得しません。

〈主な利用目的〉

- 学生募集、入学試験に関する業務
- 履修・成績管理に関する業務
- 入学、卒業、退学、休学等の学籍管理に関する業務
- 課外活動、健康管理に関する業務
- 奨学金に関する業務
- 授業料その他納付金等の収納・督促に関する業務
- 就職・進路支援に関する業務
- 教育改善のための教学情報の活用に関する業務
- 個人番号関係業務
- 一般社団法人福岡大学同窓会有信会の運営に関する業務
- 福岡大学父母後援会の運営に関する業務
- その他学生生活、修学指導に関する業務

※詳しくは、大学ホームページに掲載している「学校法人福岡大学個人情報保護規程別表」等をご覧ください。

3. 個人情報の利用

本学が保有する個人情報を本人の同意を得ないで、定められた利用目的以外の利用や、第三者への提供は行いません。ただし、法令等に基づくもののほか、次の場合は当該個人データを提供するものとします。

- ①在学生の父母及び学費負担者に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、課外活動情報の提供
- ②一般社団法人福岡大学同窓会有信会に対して卒業後の住所、進路・就職先情報の提供
- ③福岡大学父母後援会に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、家族情報の提供

4. 個人情報の管理

本学は、個人情報の管理体制を整備し、個人データについては利用目的の達成に必要な範囲内において正確かつ最新の内容に保ち、漏えい、滅失又は毀損の防止など安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

なお、個人情報の取扱いを外部に委託する場合は、委託先が個人情報の安全管理のために適切な措置を講じるよう監督し、その内容を委託契約に明記します。

5. 個人情報の開示等

本学は、本人からの当該保有個人データの開示、訂正（追加、削除含む）、利用停止の請求を受け付けます。

6. 個人情報に関する問合せ先

本学の個人情報に関する苦情やご質問は、個人情報の内容によって受付窓口が異なります。大学公式ホームページの個人情報関連のページをご覧ください。下記あてにお問い合わせください。

【問合せ先】 福岡大学 総務課

P

Faculty of Pharmaceutical Sciences